

妻 ノブ 明二七、二二生、東京、小泉信三妹
 男 春雄 大七、四生、同前
 君は東京府人佐々木勇之助の二男にして同謙一郎の弟
 同興一の従弟なり明治二十年七月を以て生れ大正十
 三分家して一家を創立す先是明治四十四年東京帝國大
 學法科大學法科を卒業し現時第一銀行副支配人たり
 家族は尙長女千代子(大八、九生)二女美代子(同一〇、
 七生)二男信雄(同一三、九生)あり(東京、芝、三田綱
 町九電高輪六七八)
 參照 佐々木謙一郎、佐々木勇一、佐々木勇之助
 岡實 鈴木重道 藤原忠三 立石信郎 藤原松本
 滋治 滋原山長次郎の項

佐々木重兵衛

妻 きよ 明三四、二生、宮城、菱沼清吉四女
 君は宮城縣人先代重兵衛の長男にして明治三十一年九
 月を以て生れ大正十年家督を相続し前名豊治郎を改む
 佐々木重と稱し味噌油醸造業を営み前記各銀行の重役
 たり家族は尙妻(明三二、一一生)及其二子の外弟
 子之吉(同三三、一一生)同仁之助(同三五、九生)あり
 (仙臺、大町五ノ二)
 參照 菱沼清吉 葛西萬司の項

佐々木正藏

妻 ヒサノ 安政五、一一生、養父謙吉長女
 男 正太 明一〇、九生
 男 幸能 明一五、五生、長男正太妻、福岡、
 婦 幸能 佐藤武長女
 孫 敏 明一六、四生
 孫 敏 明三四、三三、長男正太二男
 孫 敏 明四〇、六生、長男正太三男
 君は福岡縣人佐藤才吉の二男にして安政二年十月を以
 て生れ先代謙吉の養子となり明治十六年家督を相続す
 現時十銀行取締役たり家族は尙孫菊丸(明四四、一
 一生、長男正太五男)同弟十雄(大八、一〇生)同弟
 秋之助(同六、一〇生)同弟八郎(同一、一一生、
 同八男)あり三男高(明一九、四生)は福岡縣人河原嘉助
 に四男丈四郎(同一、一一生)は同縣人柳町正九郎養
 子五十吉に各養子となり長女アイ(同二五、四生)は同

縣人岡武喜次郎三男源作に養子トツク(慶應三、二二
 生)は同縣人佐藤武に嫁せり(福岡、三井、味坂村)
 參照 河原高、佐々木茂枝の項

佐々木祥一

妻 くら 明三六、一一生、兵庫、田中萬乘
 君は徳島縣土佐佐々木剛太郎の四男にして明治二十
 年十一月を以て生れ大正十二年家督を相続す同十年東
 京商科大学商工經營科を卒業し農業を営み縣下の多額
 納税者にして現時阿波農工銀行監査役たり家族は尙長
 女まつ子(大一二、一一生)二女しげ子(昭二、三三)の
 外弟三五(明三五、一一生)妹敏子(同三九、四生)弟眞
 吾(同四〇、六生)あり同良次(同三一、七生)は徳島縣
 人工藤秀雄の養子となり妹ハル(同三三、八生)は分家
 し同ミナ子(同三七、五生)は兵庫縣人馬詰哲郎に嫁せり
 マキ(同一五、一一生)は徳島縣人磯部昌雄に嫁せり
 (徳島、勝浦、勝古村)
 參照 磯部昌雄、田中萬乘 藤田善九郎の項

佐々木信次郎

妻 楠 萬延元、八生、大阪、土、舟木誠
 一長女
 君は大坂府土佐佐々木政明の弟にして明治二十一年十
 二月を以て生れ現時五十一銀行監査役にして義に服部
 商店取締役たりし事あり家族は尙弟六郎(明二七、一〇
 生)同七郎(同三〇、五生)同弟三郎(同三八、六生)同弟秋子
 (大二、九生)亡兄政明長女、現戸主あり妹壽嘉(明
 三三、一一生)は和歌山縣人大江幾太郎二男清に嫁せ
 り(岸和田、岸城町一八七)
 參照 三子傳渡邊英綱の項

佐々木新助

妻 やし 安政三、一〇生、祖父平兵衛長女
 母 明一、一一生、宮城、米谷榮之助
 女 長女 明三五、一一生

かる、や推されて市會議長となり又代議士に選ばれる後
 市民其徳を欣慕し碑を建て之を如才父仙一實業に専心
 し佐々木同族より成る吳商工銀行頭取となり選ばれて
 衆議院議員となり君は其二男にして明治二十八年八
 月を以て生れ大正十年家督を相続す現時廣島縣多額納
 税者たり現時吳商工銀行頭取にして廣島縣多額納税者たり家
 族は尙妻フサ(明三七、八生)あり姉タカ(同一、一五
 生)は熊本縣人荒尾文雄に同(同二三、三三)は大
 分縣人武藤一彦に同(同二四、一一生)は長野縣人
 小川修平弟に同(同二三、一一生)は廣島縣人
 佐々木正に同(同二八、四生)は愛媛縣人村
 上吉子に同(同二八、四生)は同縣人柳町正九郎養
 子五十吉に各養子となり長女アイ(同二五、四生)は同
 參照 小川修平、村上仙造、矢野通保 佐野新平 滋
 八木龜三郎の項

佐々木清吉

妻 ツナ 文久三、一一生、新潟、中川多市妹
 長女 明二〇、九生、福岡、石田治三郎

佐々木齊治

妻 カヲ 慶應二、八生、新潟、久保田一
 伯母
 君は富山縣人佐々木茂吉の長男にして明治十四年二月
 を以て生れ同十四年家督を相続す同三十五年東京高
 等工業學校機械科を卒業し現時明治製糖會社取締役た
 り家族は尙三男登(大三、九生)二女清江(同六、三三)
 あり(東京、麻布、笹筒町五四電番山二九九七)
 參照 新潟縣多額納税者、農業
 新潟縣在籍

佐々木仙助

妻 ミツ 明一四、八生、養父卯太郎三女

佐々木惣一

妻 操 明二一、四生、京都、大島弘義妹
 君は鳥取縣人佐々木惣三郎の長男にして明治十一年三
 月を以て生れ同十四年家督を相続す同三十六年京都
 帝國大學法科大學法科を卒業し同三十九年京都帝國
 大學法科大學助教授となり同四十二年行政法研究の爲
 獨逸英三國に留學し大正二年京都帝國大學法科大學教
 授となり同年法學博士の學位を受く大正十年同大學法
 學部長に補せられ同十二年依願同部長を免ぜらる同年
 官命に依り歐米に派遣せられ同十三年歸朝現に同大學
 教授にして法學部勤務たり家族は尙二女潔子(大一一、
 一一生)あり(京都、上京、田中大堰町電上三五〇七)
 參照 大島弘義 大島義倫の項

佐々木隆興

妻 政吉 安政三、一一生、現戸主
 養父 洋興 明一七、五生、故貴族院議員法學
 博士渡邊廉吉二女
 男 京子 明二二、五生

佐々木忠作

妻 きよし 明六、四生、東京、河原田磯次郎妹

養子 丹治郎 明三四、七生、三女との夫、宮
 城、鈴木孫三郎二男
 女 英雄 明四〇、三三
 女 や(子) 明四一、一〇生
 君は宮城縣人佐々木忠治の長男にして明治七年四月を
 以て生れ同二十九年家督を相続す金融業を営み宮城縣
 多額納税者にして現時前記銀行會社の重役として知らる
 茲に宮城縣會議員同參事會員に擧げらる家族は尙四男
 詮(明四四、一〇生)五男武夫(大二、五生)五女みどり
 (同五、二生)六男孝之(同七、一一生)六女壽子(同一〇、
 三三)七男章(昭二、八生)孫ちえ子(大一一、八生、養
 子丹治郎長女)あり長女きよ(明二八、一〇生)は宮城
 縣人伊藤祐一に二女チトリ(同三三、一〇生)は同縣人
 菅原正に嫁し妹はなよ(同一六、四生)は其子女を伴ひ
 叔父皆造(文久元、八生)同妻たきの(元治元、九生)宮
 城、岩本潤織(二女)も亦其子女を伴ひ各分家し妹いよ
 (明二七、一〇生)は宮城縣人濁沼彌治郎の養子となれ
 り(宮城、栗原、岩ヶ崎町)

佐々木新造

妻 フサ 明二九、九生、養父吉郎右衛門長女
 君は秋田縣人石田豊三郎の二男にして加賀谷園右衛門
 の男なり明治十九年十二月を以て生れ佐々木吉郎右
 衛門の養子となり昭和元年分れて一家を創立す金融業
 を営み現に仙北銀行取締役にして秋田縣多額納税者た
 り家族は尙長女セイ(大四、七生)二女イク(同七、八
 生)あり(秋田、仙北、大曲町)
 參照 加賀谷園右衛門、佐々木吉郎右衛門 庄司兵
 藏の項

佐々木成二

妻 リエ 安政元、八生、廣島、住廣門兵衛
 女 廣子 明三〇、六生、愛媛、矢野通保妹
 當家は舊くより呉に住し農を業とせし曾祖父仙三
 門に至り實業に志し克く貨殖し且つ公共に盡し佐々木
 家今日の基礎を爲せり祖父高榮文村政に盡すし市制布

佐々木千秀

妻 眞 大一一、二生
 君は廣島縣人佐々木仙次郎の三男にして明治十四年十
 月を以て生れ同二十四年分家して一家を創立す現に實
 業界に入り現時銀行取締役頭取にして縣下の多額納
 税者たり現に衆議院議員吳商會會議所特別議員たりし
 ことあり家族は尙長女昌子(大六、九生)二女淑子(同
 一〇、二生)妹サト(明一八、六生)あり(吳、清水通
 一ノ一三)
 參照 滋坂井善兵衛の項

佐々木忠右衛門

妻 きつ 明四、一一生、佐藤長作四女
 女 通忠 大一一、九生
 君は宮城縣人佐々木忠治郎の長男にして明治二十五年
 四月を以て生れ同四十四年家督を相続す大正七年東京
 帝國大學法科大學法科を卒業し鳥根縣屬となり後ち
 朝鮮總督府警察官講習所教授同府事務官に歴任し現時
 朝鮮總督府事務官にして黃海道警察部長たり家族は
 尙長女京子(大一一、一一生)の外弟正輔(明二七、三
 生)同妻こはる(同三四、一一生、宮城、三浦直治二女)
 及び其三女妹な(同三〇、三三)弟正吉(同三四、三三)
 同忠之助(同三六、四生)同忠七(同四〇、三三)あり
 (朝鮮、黃海道、海州中町官舎)
 參照 鈴木重兵衛の項

佐々木直三郎 静岡縣多額納稅者、東海演藝株
 取締役、静岡縣在籍
 妻 明元、八生、養父久左衛門長女
 孫 みつき 大二、一三、亡長男隆一長女
 君は静岡縣人白鳥左衛門の四男にして萬延元年二月
 を以て生れ先代久左衛門の養子となり明治十一年家督
 を相続す現時東海演藝株取締役に於て静岡縣多額納
 稅者たり三女ひさ(明二四、一三)は同夫誠吉(同二
 ○、一三)静岡、大井啓次郎(孫)と共に其一女を伴ひ
 分家し二女きぬ(同二〇、一三)は静岡縣人青木總一に
 嫁せり(静岡市傳馬町)

佐々木仁兵衛 味醂醸造業
 大阪府在籍
 妻 直江 慶應三、一三、大阪、島津佐助二女
 男 一夫 大六、五生
 君は大阪府人先代仁兵衛の長男にして明治二十五年一
 月を以て生れ大正二年家督を相続し名譽味醂醸造業
 造業を營む家族は尙二男仙二(大八、五生)三男光三(同
 九、一三)四男成(同二二、五生)あり姉チエ(明三三、
 四五)は大阪府人田中藤九郎に嫁せり(同三三、一三)
 四女は同府人河野庄太郎に嫁せり(同二九、一三)同
 妻孝(同三三、一三)兵庫、谷垣松次郎二女は共に分
 家せり(大阪、西淀川、傳法町北一三六電土佐堀二四
 九七)

佐々木信綱 文學博士、歌人、東京帝國大學文
 學部講師、東京府在籍
 妻 文 雪 明七、一三、熊本、土、藤島正健長女
 男 文 綱 明四〇、八生、經濟學士、三菱銀行員
 女 文 綱 明四〇、八生、二男文綱妻、理學
 博士土佐次郎長女
 君は歌人佐々木弘綱の長男にして明治五年六月伊勢鈴
 鹿郡石薬師村に生れ同二十二年家督を相続す現に東京
 帝國大學文科大學古典科を卒業し同三十八年より東京
 帝國大學に講師として和歌史を講じ今日及び同四十
 四年文學博士の學位を受け大正六年帝國學士院より恩
 賜賞を授けられ同年明治天皇御集福委員と爲る家
 下を才幹ならす日本歌學史和歌史の研究新調萬葉
 集思草常盤木等著書多し家族は尙四男治綱(明四二二
 參照)田中藤九郎次郎長女に嫁せり

佐々木春作 從七位勳四等、陸軍一等軍醫、山
 形縣製造所(株)代表取締役、山
 形市醫師會會長、佐々木病院長、
 醫師、山形縣在籍
 妻 美代 明一五、七生、山形、風間良吉叔
 母 ふみ 嘉永二、一〇、生、山形、佐藤平吉
 男 仁 一大二、二生
 君は山形縣人佐々木完元の長男にして明治五年三月を
 以て生れ大正七年家督を相続す第二高等學校醫學部
 等軍醫に任ぜらるる退官後佐々木病院長として一般診療
 に従事し山形市醫師會會長に擧げられ前記會社の重
 役を兼ね兼に山形市會議員山形縣會議員同參事會會員衆
 議院議員等に擧げらるる家族は尙長女初代(大五、七生)男
 三男高政(同八、八生)四男國之(同一一、五生)五男濱
 夫(同一一、九生)六男政武(同一一、五生)弟菊之助
 (明七、九生)同妻キツ(同九、一三)山形、結城庄三
 郎長女との間に二子あり同保次郎(同二五、一三)一
 女同妻カツ(同二八、八生)東京、石田定治長女及び
 其二子を伴ひ分家し短しん(同三三、二生)は朝鮮人姜
 泰勳に嫁せり(山形市八丁町)

佐々木彦太郎 青森縣多額納稅者、石炭セメント
 商、青森縣在籍
 妻 義満 明二九、二生、長男義満妻、大阪、
 男 君 南條隆雄長女
 男 三郎 明三二、七生
 弟作次郎(明七、四生)は同妻とら(同三一、三三)三生、岐
 阜、佐々木嘉三郎(姉)及其一女を伴ひ分家し姉あき(慶
 應二、八生)は岐阜縣人伊佐地兼次郎に嫁せり(東京、
 麻布、我善坊町二五電青山三五〇七)

佐々木秀一 醫學博士、醫師
 東京府在籍
 妻 フミ 明一八、四生、東京、永野昇太郎
 男 秀興 明四四、二生
 君は青森縣人佐々木津藏の長男にして明治七年三月を
 以て生れ同四十五年家督を相続す同三十五年東京高等
 師範學校文科を卒業し現時東京高等師範學校教授にして
 兼に文部省在外研究員として海外に出張す家族は尙
 四女福(大五、一三)五女成(同八、五生)の外妹つぐ
 (明二七、二生)同夫愛太郎(同二二、三三)九生、青森、佐
 田長次郎三男との間に子女及妹きた(同二二、七生)あ
 り(東京、小石川、賀館町一二二)

佐々木政吉 從五位勳六等、醫學博士、杏雲堂
 醫院顧問、東京府在籍
 妻 三子 嘉永六、一〇、生、石川、士、三宅
 復一妹
 養子 隆興 明一一、五生
 君は代々醫學に従事せり先代長男は現に醫學を修め
 杏雲堂醫院を開設せり君は其長男にして安政三年十一
 月を以て生れ明治三十年家督を相続す先是同十二年東
 京大學醫學部を卒業し同年獨逸に留學し居る事五年に
 して歸朝す時で醫學博士學位となり現時杏雲堂醫院顧
 問たり(東京市外入新井町新井宿二三三三)
 參照)佐々木隆興、須田卓爾、内田孝藏、土橋源藏
 參照)佐々木隆興、須田卓爾、内田孝藏、土橋源藏

佐々木政二郎 泉尾土地(株)取締役
 和歌山縣在籍
 妻 トミ 明一七、六生、大阪、小今井ヨネ
 長女
 男 重三 明三九、一三
 男 三三 明四一、七生
 女 ミチ 明四三、二生
 君は大坂府人佐々木太郎の弟にして明治七年四月を
 以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十一年慶
 應義塾を卒業し現時泉尾土地會社取締役たり家族は尙
 三女ウタ(大四、一三)四男豊彦(同六、九生)四女福
 (同九、五生)あり長女幸(明三三、一三)は大坂府人乾
 吉治郎長男に嫁し二男洋吉(同四〇、七生)は和歌山

佐々木秀司 從四位勳四等、共済生命保險(株)
 東京府在籍
 妻 ムメ 明一四、三三、福島、士、金田貞
 幹長女
 君は福島縣人佐々木一二の二男にして明治十三年十一
 月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す先是明治
 四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官
 高等試験に合格す爾來警視廳警視廳長官各官署長官
 事務官石川群馬新編各縣警察部長山形形神奈川各縣
 内務部長香川知事等に歴任す大正十二年退官と同時に
 實業界に入り現時安田保壽社參事として安田家の事業に
 參事主として共済生命の經營に従事す
 (東京、芝、三田小山町一ノ二號電話四三二七)
 參照)泉神尾茂の項

佐々木平次郎 勳四等、衆議院議員、北海道選出
 日華貿易、樺太漁業、佐々木倉庫
 (株)社長、佐々木汽船、佐々木
 各業、青森縣、北海道、露
 領水産各業、取締役、日本毛皮、
 大北火災保險、北海道各業(株)
 監査役、漁業、北海道在籍
 妻 小一 明三九、一〇、生
 男 一 明二六、五生、二女ソノ夫、高知、
 女 子 須藤直吉妻
 女 スズ 明三二、六生、養子玄吉妻
 女 ノノ 明三七、九生
 君は秋田縣人北能喜吉の二男同喜市郎の弟にして佐藤
 平吉の兄なり明治六年四月を以て生れ佐々木直次郎の
 養子となり同三十六年分れて一家を創立す樺太及び露
 領沿海州の漁業に従事し並に米穀海産物委託問屋を營
 み傍ら前掲諸會社の重役として北海道實業界に重きを
 なす大正六年以來衆議院議員に當選する事四回現に其
 任に在り兼に函館區會議員函館商業會議所常議員同特
 別議員に擧げられ又西伯利亞に派遣せられ尋いで日露
 別議員に擧げられ又西伯利亞に派遣せられ尋いで日露
 遺せる家族は尙三男賢次郎(明四二、二生)四男雄三
 (同四四、四生)五男四郎(大元、一三)六男五郎(同
 三、一三)七男次郎(同四、七生)四女信子(同五、九
 生)孫欣一(同二〇、一三)養子玄吉長男(同二、一三)
 二、八生、同長女、同正子(同二五、二生)同二女あ
 り長女キヨ(明三〇、三三)は北海道人佐々木小治郎の
 養子となれり(函館、辨天町一七)
 參照)北能喜市郎、佐藤平吉の項

佐々木政一 醫學博士、醫師
 東京府在籍
 妻 フミ 明一八、四生、東京、永野昇太郎
 男 秀興 明四四、二生
 君は青森縣人佐々木津藏の長男にして明治七年三月を
 以て生れ同四十五年家督を相続す同三十五年東京高等
 師範學校文科を卒業し現時東京高等師範學校教授にして
 兼に文部省在外研究員として海外に出張す家族は尙
 四女福(大五、一三)五女成(同八、五生)の外妹つぐ
 (明二七、二生)同夫愛太郎(同二二、三三)九生、青森、佐
 田長次郎三男との間に子女及妹きた(同二二、七生)あ
 り(東京、小石川、賀館町一二二)

佐々木文一 勳四等、神中鐵道、東北起業各
 監査役、日本大學理事、辯護士
 岐阜縣在籍
 妻 マキ 明二二、七生、東京、西村藤吉二
 女、神田高等女學校出身
 男 公一 明四三、七生
 女 千鶴子 明四一、七生、府立第三高等女出身
 女 候子 大元、一〇、生
 君は岐阜縣人佐々木喜左衛門の長男にして明治元年十
 二月を以て生れ同十六年家督を相続す同二十六年日本
 大學を卒業し辯護士を開業し傍ら前記諸會社の重役及
 日本大學理事に擧げらるる明治四十一年以來衆議院議員
 に當選せし事四回に及ぶ家族は尙四女晃子(大元、一三
 生)二男元一(同七、八生)五女愛子(同九、八生)あり

佐々木平之丞 宮城縣多額納稅者、酒造業
 宮城縣在籍
 妻 平太郎 明二七、五生
 男 三郎 明三三、七生、長男平太郎妻、宮
 城、高橋長七郎養子
 男 善右衛門 明三五、三三
 男 小五郎 明三七、一〇、生

佐々木政二 泉尾土地(株)取締役
 和歌山縣在籍
 妻 トミ 明一七、六生、大阪、小今井ヨネ
 長女
 男 重三 明三九、一三
 男 三三 明四一、七生
 女 ミチ 明四三、二生
 君は大坂府人佐々木太郎の弟にして明治七年四月を
 以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十一年慶
 應義塾を卒業し現時泉尾土地會社取締役たり家族は尙
 三女ウタ(大元、一三)四男豊彦(同六、九生)四女福
 (同九、五生)あり長女幸(明三三、一三)は大坂府人乾
 吉治郎長男に嫁し二男洋吉(同四〇、七生)は和歌山

佐竹敬治郎 正五位、男爵
 當家は舊秋田藩の一門にして一萬石を領し代々藩政に參與し佐竹河内に至る河内茂辰の役に皇軍に従ひ各地に轉戦して功あり先々代義尚其後を承け明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は義尚の男にして明治三十四年九月を以て生れ同四十二年先代兄義敬の家督を相繼し男爵を授けらる家督は尙庶子彌生(大二三、三生、生母、柴田セツ)同孝(同一五、一生、生母同上)あり姉テル(明二四、一〇生)は分家せり(秋田、仙北、角館町)

佐竹三吾 從四位勳三等、法學博士、貴族院議員、岐阜縣在籍
 養父 鐵治郎 安政五、九生
 妻 秀 明二五、七生、兵庫、久保田貫一

君は岐阜縣人佐竹三郎の長男にして明治十三年三月を以て生れ同三十五年叔父佐竹鐵治郎の養子となる同三十八年東京帝國大學法學部を卒業し文官高等試験に合格す同年農商務省法制局參事官となり同四十年在官の儘南滿洲鐵道會社理事に招聘せらる同四十五年鐵道院參事となり大正八年法學博士の學位を授けらる爾來鐵道省監督局長大阪府電氣鐵道部長同電氣局長法制局長官鐵道省次官等に歴任し現時貴族院議員たり家族は尙二男浩(大四、九生)長女和子(同七、一生)二女明子(同九、八生)三女良子(同一〇、九生)三男恭三(同一三、八生)四女敏子(同一四、九生)あり妹あり(明一七、九生、亡伯父柳三郎長女)は愛知縣人瀧藤治三郎に嫁せり(東京、小石川、都立町二一九電大塚一〇一)

佐竹庄七 衆議院議員(大阪府選出)、大阪府多額納稅者、大阪府在籍
 妻 基子 明四二、八生、養父林藤長女
 女 靜子 明四四、五生

君は大阪府人木村平八郎の六男にして明治十三年三月を以て生れ同四十二年先代タネの入夫となり家督を相繼し大正三年前名辭造を改む夙に大阪府立師範學校を卒業し初等教育に従事すること多年大阪府北區濟美聯合區會同學務委員淀川左岸水防議員に選ばれる金融社長に就任し衆議院議員に當選すること既に三回夫人は茶生花長唄に非常の趣味を持って家族は尙四女婿久子(大四、二生)五女尚子(同六、三生)あり(大阪、北、天神橋筋五ノ二〇電堀川九三)

佐竹甚藏 煙草元賣捌業
 大阪府在籍
 妻 弘 明三六、五生、大坂、菅野利七長女
 男 道江 明四〇、一生、二男弘壽妻、大坂、大西由三郎二女
 女 とめ子 明三九、二生
 女 壽枝子 明四三、二生

君は大阪府人佐竹三郎の四男にして慶應元年三月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す煙草元賣捌業を營む(大阪、此花、上福島南通三ノ一五五)

佐竹藤三郎 招慶堂、樂器商
 京都府在籍
 母 タミ 明一四、一生、京都、佐竹常次郎二女

君は京都府人佐竹藤三郎の二男にして大正二年六月を以て生れ同十五年家督を相繼し前名博を改め名目招慶堂と稱し樂器商を繼ぐ父藤三郎は開業以來樂器の製作に苦心し長くも御大御調度品を謹製すること三度御大禮御調度品謹製の御下命を蒙る其他各宮家社寺等の御用多かりし事あり家族は尙庶子(明四三、三生)弟孝(大七、七生)同純(同七、一〇生)同五(同九、一生)妹律子(同一二、二生)あり(京都、下京、寺町通佛光寺上ル電一九一〇)

佐竹直一 名古屋貯蓄銀行株監査役
 愛知縣在籍
 妻 さい 明一五、一〇生、愛知、大島徳造二女
 男 英一 明四二、九生
 女 菊 明三八、一〇生

佐竹直太郎 衆議院議員(岐阜縣選出)、農業
 岐阜縣在籍
 妻 信 明七、二生
 養子 行 明四〇、五生、岐阜、成瀬助十郎孫

君は岐阜縣人にして明治四年四月を以て生れ同二十八年分家して一家を創立す夙に岐阜中學校を卒業し農業を營み昭和三年岐阜縣より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり農に縣會議員養老郡會議員高田町會議員等に擧げらる二女あり(明三二、五生)は岐阜縣人中島峰範に嫁せり(岐阜、養老、高田町)

佐竹房夫 横濱鐵道製造(株)常務取締役
 東京府在籍
 妻 直 明二六、七生、東京、川島忠之助二女

君は長野縣人宮入利の弟にして明治十六年八月を以て生れ同三十九年先代直利の養子となり同四十四年家督を相繼す同三十五年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役として知らる家族は尙長女正江(大三、五生)三女祥子(同八、一生)四女常子(同一〇、三生)二男安(同一二、六生)五女文子(同一四、一生)六女俊子(同一五、九生)あり(東京、赤坂、青山高樹町二電青山一九七九)

佐竹彌八郎 石川縣銀行株取締役
 石川縣在籍
 妻 みる 嘉永四、三生、石川、杉森要之助妹

君は石川縣人佐竹佐一郎の長男にして明治五年八月を以て生れ大正十五年家督を相繼す現時米谷銀行取締役たり會て七尾銀行重役たりし事あり家族は尙庶子三郎

(明二八、四生)同妻よし(同三〇、八生、石川、雄谷藤次郎長女)及び其四男あり(石川、鹿島、徳田村)
 參照 杉森要之助の項

佐竹義勝 從五位、子爵、陸軍騎兵中尉
 舊羽後藩藩主

當家は秋田藩主佐竹修理大夫義隆の次男彦岐守義長の後なり義長新田二萬石を分與せられ別一家をなすそれより五世を経て播磨守義謙に至る世々羽後藩藩主たり先々々代義理相馬子爵家より入りて當家を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる司法省法學校に學び貴族院議員國光生命保險社長等に擧げられ四男義輔其後を繼ぎ嗣なし先代義通宗家佐竹侯爵家より入りて其死跡を相繼し君に至る君實は侯爵佐竹義春の弟にして明治三十六年一月を以て生れ昭和二年八月先代兄義通の死跡を相繼し男爵を授けらる大正十二年陸軍騎兵少尉に任ぜられ後同中尉に進む家族は尙叔母孀子(萬延元、一生)あり從姉秀子(明一二、五生)は子爵奥田直恭に同總子(同一二、一生)は子爵松平乘承二男義統に嫁し從兄義立(同一八、七生)は男爵佐竹義倫の養子となり當主たり(東京市外高田町上り屋敷三六〇一)

佐竹義輔 從五位、男爵
 佐竹侯爵家一門

當家は舊秋田藩主佐竹家の一門にして世々藩政に參與し義輔に至り戊辰の役勤王の功あり先々代義雄其後を繼ぎ明治三十三年義輔の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は義雄の三男にして明治三十五年八月を以て生れ大正八年先代兄義實の後を相繼し前名義宏を改め男爵を授けらる家族は尙弟庸(明三七、一〇生)同直人(同四五、六生)あり(秋田、雄勝、湯澤町内廓町三二)

佐竹義立 從四位、男爵、秋田木工拓殖(株)社長、國光生命保險(五)副社長
 佐竹子爵家分家

當家は舊羽後藩藩主佐竹播磨守義謙の長男陸軍歩兵

大尉義倫の立つところなり義倫明治二十二年一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を承く君實は本家子爵佐竹義勝先々代義輔の兄にして明治十八年七月を以て生れ先代義倫の養子となり同二十六年家督を相繼し男爵を授けらる同三十九年學習院中等科を卒業し現時秋田木工拓殖會社社長國光生命保險會社副社長たり家族は尙長女三恵子(大五、九生)三男義昭(同八、七生)あり(東京市外高田町東鴨三六〇一電牛込三五六一)

佐竹義利 從五位、男爵
 佐竹侯爵家一門

當家は舊秋田藩主佐竹家の一門にして先々代義輔に至り維新の際勤王の功あり先代義準は伯耆松浦厚の弟にして入りて當家を繼ぎ明治三十九年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる夙に東京帝國大學法科を卒業し韓國統監秘書官朝鮮總督府事務官に歴任し貴族院議員に當選すること二回に及ぶ君は其長男にして子爵松浦侯爵大隈信子爵本多正復子爵井上勝純の甥子爵稻葉正弘の從弟子爵稻葉正凱の從兄に當る明治三十七年十月を以て生れ大正十三年家督を相繼し學習院中等科を卒業し現に東京帝國大學工學部に在學す妹操子(明四二、一生、女子學習院出身)は男爵岩崎久彌長男源彌太に嫁せり(東京、芝、三田三ノ三)

佐竹義春 從四位勳三等、侯爵、貴族院議員
 舊秋田藩

當家は源義光の孫佐竹冠者昌義の後なり昌義常陸佐竹の郷に住し依て氏とす十數世を経て常陸介義重に至り武威を關東に振ふ其子左大夫義實豊臣氏に従ひ三十三館の地を併せ八十萬石を領し六大名の一たりしも關

ヶ原の役石田三成に黨し羽後藩主佐竹修理大夫義隆の功あり十一世を経て從二位義隆に至り戊辰の役勤王に屬して偉功あり明治十七年侯爵を授けらる君は義隆の孫にして先代義生(長男)なり明治二十三年七月を以て生れ大正四年男爵を授けらる同年東京帝國大學文科大學國史科を卒業し貴族院議員たり家族は尙長女則子(大五、一生)二女照子(同一〇、六生)弟義行(明二六、一生、國學院大學出身)同義心(同三七、三生)妹涼子(同三九、一生)同靜子(同四二、三生)女學習院出身)あり弟義勝(同三六、一生)は兄子爵佐竹義通の死亡跡を相繼し同義安(同四五、四生)は子爵松平忠正の養子となり忠安と改名し伯母孀子(萬延元、一生)は子爵佐竹義勝先々代義理に從姉英子(明一三、七生)は男爵津島忠彦先代義理に從姉(東京、麹町、富士見町一ノ三九電九段四〇八)

佐竹義履 從五位、男爵
 佐竹侯爵家一門

當家は舊秋田藩主佐竹家の一門にして義通に至り家督を揚ぐ義通戊辰の役自ら藩主に代りて藩の兵事を操縦す後秋田藩常備兵大隊長大藏省出仕となり明治三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらるそれより正一義度を経て君に至る君實は秋田縣士族竹田富之助の二男にして明治二十九年一月を以て生れ先代兄義度の死跡を相繼し大正三年男爵を授けられ前名良治を改む再從兄正一長女ハル(明三九、二生)は長野縣人大澤宮代長男忠雄に嫁せり(東京市外澁谷町大山一七)

佐竹利市 廣島縣在籍(株)専務取締役
 佐竹鐵工所

當家は舊秋田藩主佐竹家の一門にして義通に至り家督を揚ぐ義通戊辰の役自ら藩主に代りて藩の兵事を操縦す後秋田藩常備兵大隊長大藏省出仕となり明治三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらるそれより正一義度を経て君に至る君實は秋田縣士族竹田富之助の二男にして明治二十九年一月を以て生れ先代兄義度の死跡を相繼し大正三年男爵を授けられ前名良治を改む再從兄正一長女ハル(明三九、二生)は長野縣人大澤宮代長男忠雄に嫁せり(東京市外澁谷町大山一七)

光 明四五、三生
君は山形縣人佐藤金作の長男にして明治二年八月を以て生れ大正元年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し司法官試補となり同三十四年檢事に任じ山形縣江差各區裁判所檢事木浦理事廳副理事官統監府檢事等に歴補し大正九年檢事に任じ札幌地方同區廣域毛區各裁判所檢事を經て現職に至る家族は尙四女(大、三、六)あり(北海道、宗谷、稚内町區裁判所官舎)

佐藤九平治 靜岡縣多額納稅者 農業
妻 千重子 明四〇、六生
君は靜岡縣人佐藤保之助の長男にして明治十五年三月を以て生れ同四十二年家督を相続し後舊名彌十郎を改む農業を業とし現に靜岡縣多額納稅者たり弟己巳(明二〇、一)生は分家し妹(同二三、一)生は靜岡縣人狩野四郎長男幸之助に同職(同二九、九)生は東京府人板倉安兵衛に嫁せり(清水、江尻一八)

佐藤邦藏 岩代屋、玩具商
妻 基治 明三六、六生
君は千葉縣人高木計太郎の弟にして明治元年五月を以て生れ同四十一年先代シツの入夫となり家督を相続す岩代屋と稱し玩具商を營む家族は尙孫富子(大、一)生、養子喜治郎(長女)同職(同二四、二)生、同長男あり(東京、神田、東區南町二電濱花一九五四)

佐藤熊治郎 正五位勳五等、廣島高等師範學校教授、附屬小學校主事、宮城縣在籍
妻 明三九、九生
君は山形縣人佐藤里治の長男にして明治元年二月を以て生れ後先代長八の養子となり同三十七年家督を相続す現に山形縣立第一高等師範學校校長に任じ同三十九年東京高等師範學校校長に任じ長野縣師範學校校長となり同四十四年廣島高等師範學校校長に任じ同四十六年教育學研究の爲獨逸米各國に留學す現時前記の教職に在り(廣島市鐵砲町七四)

佐藤敬治郎 宮城縣多額納稅者、酒造業
妻 ますよ 明一〇、一
君は宮城縣人二瓶泰吉の二男にして明治二十五年九月を以て生れ大正十一年先代シツの入夫となり家督を相続す酒造業を營む宮城縣多額納稅者たり(宮城、登米、米谷町)

佐藤源治 青森縣在籍
妻 美知子 明三九、九生
君は青森縣人佐藤源治の長男にして安政四年十月を以て生れ明治三十八年家督を相続す代々農業を業として現立誠銀行取締役として知られ縣下の富豪たり現に貴族院議員に互選せられたることあり家族は尙孫誠治(大、四)九生、亡二男亮治(同二一、一)生、一三男、亡六男實造(長女)あり三男義一(明二二、一)生、一青森縣人佐藤仁兵衛の養子となり四男芳衛(同二五、一)生は分家し五男義平(同二九、四)生、亦其妻フミ(同三五、一)生、青森、竹内富三郎(長女)及び其一子を伴ひ分家し二女リエ(同三六、五)生は青森縣人清藤盛治に嫁せり(青森、南津輕、田舎前村)

佐藤源藏 青森縣在籍
妻 源司 明二六、一〇生
君は山形縣人佐藤嘉保の二男にして明治五年五月を以て生れ昭和二年明由松方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し和歌山縣立第一尋常中學校東京府立第三中學校各教諭を経て現に奈良女子高等師範學校教授たり家族は尙三男清高(明四三、二)生、四男貞夫(大、五)生あり(奈良市高畑一〇七〇)

佐藤小次郎 正四位勳二等功三級、豫備陸軍中將、三重縣在籍
妻 慶次 明一四、一
君は山形縣人佐藤嘉保の二男にして明治五年五月を以て生れ昭和二年明由松方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し和歌山縣立第一尋常中學校東京府立第三中學校各教諭を経て現に奈良女子高等師範學校教授たり家族は尙三男清高(明四三、二)生、四男貞夫(大、五)生あり(奈良市高畑一〇七〇)

佐藤源助 藤崎吳服店、宮城縣林各株、取締役、仙臺平機業、株、監査役、宮城縣在籍
妻 隆二 明一九、九生
君は宮城縣人佐藤源助の二男にして明治五年八月を以て生れ先代よねの養子となり明治三十五年家督を相続す現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫雅夫(大、九)九生、養子隆二(長男)同貞男(同、一、八)生、同二男あり(仙臺、良覺院町一七)

可壽賀 明三七、三生
君は宮城縣人佐藤佐吉の二男にして明治六年一月を以て生れ大正十一年兄馬之助方より分れて一家を創立す明治三十四年高等師範學校文科教育學部を卒業し同三十九年東京高等師範學校校長に任じ長野縣師範學校校長となり同四十四年廣島高等師範學校校長に任じ同四十六年教育學研究の爲獨逸米各國に留學す現時前記の教職に在り(廣島市鐵砲町七四)

佐藤啓 勳五等、衆議院議員、山形縣選出、左澤銀行、三山電氣鐵道各(株)取締役、農業、山形縣在籍
妻 隆二 明三九、二生
君は山形縣人佐藤里治の長男にして明治元年二月を以て生れ後先代長八の養子となり同三十七年家督を相続す現に山形縣立第一高等師範學校校長に任じ同三十九年東京高等師範學校校長に任じ長野縣師範學校校長となり同四十四年廣島高等師範學校校長に任じ同四十六年教育學研究の爲獨逸米各國に留學す現時前記の教職に在り(廣島市鐵砲町七四)

佐藤慶助 浪江銀行(株)頭取、宮城縣士族
妻 久太郎 明一、二生
君は宮城縣人佐藤宗彌の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年家督を相続す同二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙長女キエ(大、三)生、三男二男寬三(同九、一)生

佐藤謙之輔 新潟商業銀行(株)常務取締役、新野村、新野縣土地建物各(株)取締役、新潟縣在籍、監査役
妻 貞子 明二五、九生
君は新潟縣人佐藤宗彌の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年家督を相続す同二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙長女キエ(大、三)生、三男二男寬三(同九、一)生

佐藤五八郎 靜岡縣多額納稅者、日本製糖器製造(株)取締役、割葉業、靜岡縣在籍
妻 政吉 明三六、一〇生
君は靜岡縣人佐藤三郎の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す割葉業を營み現時靜岡縣多額納稅者にして傍ら日本製糖器製造會社取締役たり家族は尙四女(大、四)生、三男庄次郎(同六、九)生、同九、二生あり長女千恵(明三〇、一)生は長野縣人横尾一に嫁し二男文男(明三三、一)生は靜岡縣人佐藤良吉の養子となり(濱松、肴町)

佐藤功一 工學博士、早稻田大學教授、建築事務所長、東京府在籍
妻 茂 明三八、五生
君は栃木縣人佐藤東七郎の二男にして同大藏の弟なり明治十一年七月を以て生れ後先代茂八の養子となり同四十二年家督を相続す同三十六年東京帝國大學工學科大學を卒業し大正八年工學博士の學位を受く現時早稻田大學教授にして佐藤建築事務所長たり家族は尙三男鐵夫(明四四、七)生、四男正男(大、二)生、長女京(同三、一)生、二女菊代(同五、一)生あり(東京、小石川、指ヶ谷町七三電小石川一三三六)

佐藤小次郎 正四位勳二等功三級、豫備陸軍中將、三重縣在籍
妻 慶次 明一四、一
君は山形縣人佐藤嘉保の二男にして明治五年五月を以て生れ昭和二年明由松方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し和歌山縣立第一尋常中學校東京府立第三中學校各教諭を経て現に奈良女子高等師範學校教授たり家族は尙三男清高(明四三、二)生、四男貞夫(大、五)生あり(奈良市高畑一〇七〇)

佐藤孝三郎

從四位勳三等、函館市長。從四位勳三等、函館市長。...

佐藤剛藏

正五位勳四等、醫學博士、朝鮮總督府京城醫學專門學校校長。...

佐藤衛治

佐藤製糖所(株)專務取締役。東京府在籍。...

佐藤三平

松坂屋(株)取締役、東京染織(株)監査役。東京府在籍。...

佐藤三郎

中外商業新報社(株)取締役兼編輯局長、東京府在籍。...

佐藤山三郎

秋田縣多額納稅者、農業。秋田縣在籍。...

督府技師等に歴任し現に前記の職に在り。大正十年醫學博士の學位を授與さる。...

佐藤權右衛門

信達銀行(株)頭取、信達製糖(株)社長。福島縣在籍。...

佐藤權次郎

ライト商店、藥種商。大阪府在籍。...

佐藤三吉

正三位勳一等、醫學博士、貴族院議員、帝國大學醫學部第二部長。...

佐藤重遠

從五位、中央生命保險(五)、京橋ビルディング(株)各專務取締役。...

佐藤重益

住友信託(株)代表取締役。岐阜縣在籍。...

庶子 藤三 明三九、四生、生母、愛知、太田
 孫 かな 明四五、四生、養子横次長女
 君は三重縣人佐藤宗七の弟にして安政六年十月を以て
 生れ明治二十四年先代いとりの養子となり家督を相続す
 養種商を営む家族は尙孫いと(大三、六生、養子横次
 二女)同き(同九、一一生、同三女)あり(名古屋、中、
 正木町四七五)

佐藤莊右衛門

山形縣多額納稅者、農業
 慶應元、一一生、祖父庄右衛門長
 母 山形 慶應元、一一生、祖父庄右衛門長
 妻 やよ 明一六、四生、山形、佐藤庄三郎

君は山形縣人先代莊右衛門の長男にして明治十四年九
 月を以て生れ大正五年家督を相続す農業を営み山形縣
 多額納稅者たり家族は尙弟直哉(明二六、六生)同妻み
 つ(同三〇、一一生、山形、佐藤兵三右衛門長女)及子女同
 莊吾(同三四、二生)同妻よね(同三九、一一生)山形、佐
 藤兵三右衛門二女)同妻よね(同三九、一一生)同妻よね(同
 一、一一生)あり妹はな(同二三、三生)同夫精三郎(同
 八、五生、山形、相澤貞吉養子)は子女を伴ひ弟盛憲
 (同二八、一一生)は同妻より(同二二、七生、山形、岡
 崎經也二女)及子女を伴ひ同妻介(同三一、九生)は同
 妻わか(同三四、四生、山形、岡崎彌平治五女)及一子
 を伴ひ各分家し同莊吾(同二八、七生)同妻介(同三五、
 一一生)も亦各分家し妹な(同二九、一一生)は山形
 縣人荻野哲太郎に同す(同三三、一〇生)は同縣人岡
 崎彌平治長男也に嫁せり(山形、東村山、高橋村)
 參照 岡崎彌平治山下又兵衛横尾彌門の項

佐藤惣七

大分縣多額納稅者、農業
 弘分二、七生、大分、江戸嘉十郎
 養母 イチ 長女
 養父 甚八 元治元、二生
 妻 ラタ 明一、一一生、大分、平野丈太
 男 幸 明三五、五生
 女 フジ 明三八、六生
 フジ 明四一、一一生

君は大分縣人佐藤甚八の弟にして明治五年九月を以て
 生れ兄甚八の養子となり大正九年家督を相続す農業を
 營み大分縣多額納稅者たり家族は尙三男安文(明四四、
 九生)四男文明(大三、二生)五女治子(同五、一〇生)の
 外養妹サダ(明一三、三三)あり(大分、阿南村)

佐藤惣之助

從七位、商工技師、商務局勤務
 宮城縣在籍
 父 龜八郎 明四、一〇生、現戸主
 妻 しげ 明三三、一一生、宮城、角田七右衛

佐藤太三郎

佐藤太三郎商店、佐藤貿易各(株)
 社長、毛織物洋服商、東京府在籍
 妻 ため 明八、一〇生、愛知、岩本齊長女
 養子 嘉三郎 明二七、七生

佐藤泰造

從七位勲八等、新潟縣多額納稅者
 村上水電(株)社長、村上銀行(株)
 取締役、農業、新潟縣在籍
 妻 シゲ 明一、七生、新潟、吉田吉次郎
 男 又助 明三二、七生、慶應義塾大學出身
 男 勝麻呂 明三七、八生、慶應義塾大學出身
 女 八千代 明四一、一一生、新發田高等女學校
 女 みよし 明四四、一一生、新發田高等女學

君は新潟縣人渡邊三左衛門の弟にして明治五年四月を

以て生れ先代玄信の養子となり大正四年家督を相続す
 農業を營み縣下の多額納稅者として知られ尙前記銀
 行會社の重役たり家族は尙三男泰彦(大三、五生)五女
 春枝(同六、四生)あり(新潟、岩船、關谷村)
 參照 渡邊三左衛門の項

佐藤忠雄

從五位勲五等、檢事、仙臺地方裁
 判所檢事兼仙臺區裁判所檢事
 群馬縣在籍
 父 泰吉 安政四、一一生、現戸主
 母 まつ 文久二、一一生、埼玉、引間常右衛
 妻 ふみよ 明四五、六生
 男 一雄 明四五、六生

佐藤立次郎

熊本縣多額納稅者、鏡軌道(株)社
 長、熊本縣士族
 妻 ヌイ 慶應三、七生、熊本、士、伊藤好
 男 包武 明三一、四生
 女 エイ 明四二、一一生、二男包武妻、熊本
 浮池勇妹

君は群馬縣人佐藤泰吉の長男にして明治十二年八月を

女 ムメ 明四一、二生
 須磨子 明三九、一一生、亡三男秀夫妻、熊
 本、二神淳良長女
 君は熊本縣士族佐藤立平の長男にして萬延元年九月を
 以て生れ大正元年家督を相続す現時鏡軌道會社社長に
 して同縣多額納稅者たり家族は尙四男平四郎(大二、一
 二生)孫包英昭二、四生、二男包武長男)の外弟盛憲
 (明一〇、一一生)及其二男七弟又二妻カエ(同二〇、五
 生、熊本、二神恒徳二女)同節事妻(同二九、一一生、
 熊本、長尾俊民長女)及其二男三女同節事妻(同二二、
 八、五生、熊本、山城壽七長女)及び其二男一女あり
 長女ソノヲ(同二〇、一一生)は熊本縣人宮島安太長男保
 長女ツノヲ(同二四、三生)は同縣人柏原利夫に四女ツジ
 (同二九、一一生)は同縣人佐藤蔵に五女トメ(同三六、三
 生)は同縣人白石嘉之弟安哉に嫁し弟量三(文久三、一
 〇生)は同妻定(明六、五生、熊本、士、伊藤好生妹)
 及其一男を伴ひ分家せり(熊本、八代、鏡町)
 參照 柏原利夫、白石嘉之、宮島安太の項

佐藤辰吉

福島縣多額納稅者、海産物肥料商
 福島縣在籍
 繼母 コン 女 安政六、五生、福島、池田與平四
 妻 キク 明二八、一〇生、福島、山口榮吾
 養子 健二郎 明三七、一一生、福島、佐藤佐吉二

君は福島縣人山口忠蔵の三男にして明治十六年三月を
 以て生れ後先代辰吉の養子となり大正三年家督を相続
 し前名政吉を改む海産物肥料商を営み福島縣多額納稅
 者たり(福島縣若松市桂林寺町)

佐藤達次郎

正五位、男爵、醫學博士、貴族院
 議員、順天堂醫院長、東京醫學專
 門學校長、東京府華族
 妻 操 明一、五生、千葉、大野傳兵衛
 養子 忠雄 明三五、二生、養子八千代夫、男
 爵黒田善治二男、從五位
 養子 八千代 明四一、四生、養子忠雄妻、醫學
 士三宅秀養子、養父進孫、女子
 當家は出羽莊内藩士佐藤藤佐の後にして其子泰然齋を

君は兵庫縣人原原文太郎の弟にして文久三年五月を以

佐藤種吉

明石實業銀行(株)專務取締役
 兵庫縣在籍
 妻 ゆき 慶應元、四生、佐藤慶慶四女
 養子 宗治郎 明一〇、二生、現戸主
 養子 リウ 明一八、五生、養子宗治郎妻

佐藤長左衛門

秋田縣多額納稅者、農業
 秋田縣在籍
 妻 ナツ 安政元、一一生、秋田、小西久三
 妻 イク 明二五、四生、秋田、長江八兵衛
 男 良太郎 大七、五生

君は秋田縣人中山忠助の長男にして明治二十四年二月
 を以て生れ天保七年以來永苗宇永帯刀居屋敷地租免許
 の舊家たる先代長左衛門の養子となり大正十一年家督
 を相続し前名耕蔵を改め養子三(大三、四生)二男耕治郎
 (同二〇、五生)三女セイ(同二二、五生)あり(秋田、仙
 北、金澤西根村)
 參照 長沼潤平の項

佐藤長四郎

佐藤長商店(株)社長、旭倉庫(株)
 專務取締役、藥種染料香料輸入
 商、東京府在籍
 妻 かね 明一七、九生、東京、高橋房吉四女
 男 正三 大三、四生
 女 さき 明四〇、一一生

君は東京府人佐藤長吉の二男にして明治十五年七月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す...

佐藤 長祐

醫學博士、日本橋區會議員、内閣石村工業(株)監査役、佐藤病院院長、醫師、東京府在籍

佐藤 長太郎

君は山口縣土族常時常定の二男にして明治十一年十二月を以て生れ同二十八年先代佐藤久吉の養子となり...

佐藤 長之助

尾張屋土地(株)取締役、日本セメント(株)監査役、茨城縣在籍

君は茨城縣人佐藤米次郎の長男にして慶應元年二月を以て生れ明治十六年家督を相続し...

佐藤 綱征

君は栃木縣人福田代議の長男にして文久元年三月を以て生れ明治二十四年先代綱征の養子となり...

佐藤 調平

君は栃木縣人福田代議の長男にして文久元年三月を以て生れ明治二十四年先代調平の養子となり...

佐藤 網征

君は山形縣人佐藤傳助の長男にして明治二十年十月を以て生れ同十四年祖父傳吉の後を襲ひ...

佐藤 鐵藏

君は山形縣人佐藤傳助の長男にして明治二十年十月を以て生れ同十四年祖父傳吉の後を襲ひ...

佐藤 鐵郎

君は宮城縣人佐藤胸吉の二男にして明治十五年五月を以て生れ同十四年家督を相続す...

佐藤 傳藏

君は東京府土族佐藤源次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同十一年家督を相続す...

君は山口縣土族常時常定の二男にして明治十一年十二月を以て生れ同二十八年先代佐藤久吉の養子となり...

佐藤 恒雄

君は大分縣人佐藤孫三郎の二男にして明治六年三月を以て生れ大正八年家督を相続す...

佐藤 恒丸

君は愛知縣土族佐藤以成の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十九年家督を相続す...

佐藤 展成

君は愛知縣土族佐藤以成の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十九年家督を相続す...

佐藤 傳吉

君は山形縣人佐藤傳助の長男にして明治二十年十月を以て生れ同十四年祖父傳吉の後を襲ひ...

佐藤 傳藏

君は東京府土族佐藤源次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同十一年家督を相続す...

佐藤 傳藏

君は東京府土族佐藤源次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同十一年家督を相続す...

佐藤 尚武

從四位勳二等、特命全權公使、國...

君は沖繩縣人田中坤六の二男にして...

佐藤 尚義

大分縣多額納稅者、實業監督銀行...

君は福岡縣人佐藤與平の二男にして...

佐藤 永孝

大日本生絲販賣組合聯合會事務理...

佐藤 仁吉

出羽銀行(株)取締役、莊内貯蓄銀...

君は山形縣人佐藤久作の長男にして...

佐藤 信友

熊本縣多額納稅者、小國銀行(株)...

君は熊本縣人佐藤信治の長男にして...

佐藤 信哉

從五位勳六等、地方農林技師、東...

佐藤 信安

從五位、新潟縣書記官、内務部長...

君は島根縣人佐藤伸雄の弟にして...

佐藤 一

渡邊殖産(株)監査役、三重縣土族...

君は三重縣土族佐藤隆之の長男にして...

佐藤 甫

内外汽船、内外倉庫運輸各(株)專...

君は三重縣人後藤啓四郎の弟にして...

佐藤 久

從七位、好生館(株)取締役、宮内...

君は醫學博士佐藤勳也の三男にして...

佐藤 信

從四位勳二等功五級、陸軍中將、...

君は兵庫縣人佐藤勝長の三男にして...

佐藤 信友

熊本縣多額納稅者、小國銀行(株)...

君は熊本縣人佐藤信治の長男にして...

佐藤 信哉

從五位勳六等、地方農林技師、東...

佐藤 秀松

鐵道材料社、四國水電各(株)社長、...

君は長野縣下素封家佐藤治郎の二男...

佐藤 秀六郎

岩手縣多額納稅者、箱崎庄吉商店...

君は岩手縣人佐藤庄兵衛の長男にして...

佐藤 兵太郎

日本郵船(株)會計課長、北海道在籍...

君は岩手縣人佐藤協三の長男にして...

男 秀一 明二九、一〇生
女 千代 明四一、六生
君は北海道人佐藤兵吉の長男にして明治九年十月を以て生れ大正四年家督を相続す先は明治三十六年東京高等商業学校を卒業し日本郵船会社に入り現時同社會計課長たり家族は尙第一(明二六、二二生)同中人(同三一、三三)あり同貞吉(同二一、一五)は分家し妹ハル(同二二、五五)は北海道人針山茂兵衛に嫁せり(同二五、一〇生)は同道人常各辰之助長男春松に嫁せり(東京市外大久保町百人町二一四四谷六八)

佐藤 廣吉 西野工業(株)専務取締役、二國商店(株)取締役、新潟縣在籍
妻 タカ 長女、一〇生、栃木、三五治助
男 祝一 大九、三三
女 フミ 明四五、二二

君は新潟縣人佐藤俊二の弟にして明治二十年五月を以て生る現時前記會社の重役たり家族は尙二女アキ(大九、九生)三女節子(同一一、一五)四女幸子(同二一、三三)二男俊三(同二五、二二)亡兄俊二妻ツタ(明一三、三三)新潟、三五房五郎長女、現戸主(明二二、四四)一(生)同妻キヨ(同三一、一五)新潟、佐藤翁藏孫及其二子あり(足利、足利二五三)

佐藤 廣太 山形縣人、秋田縣山形專門學校教授
母 仲江 萬延元、三三、山形、鈴木與七長女
妻 錦 明二四、一五、新潟、新井太郎二女
男 廣行 大〇、二二

君は山形縣土佐佐藤辰の孫にして明治十九年二月を以て生れ大正三年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工科大学を卒業し九州帝國大學工科大学助教授を経て大正六年現職秋田縣山形專門學校教授に任ず同年英米佛(留學)を命ぜらるる家族は尙長女和子(大七、三三)二女悦子(同四、一〇生)あり(秋田市手形谷地町下丁官舎)

佐藤 文造 米子銀行(株)取締役
妻 トモ 明二、七生、養父嘉兵衛長女
養子 清次郎 明一六、二二、養子タマ夫、島根、森山富藏

養子 タマ 明二、二生、養子清次郎妻、島根、布野武四郎二女
君は島根縣人原瀧助の長男にして安政五年五月を以て生れ後先代嘉兵衛の養子となり明治三十二年家督を相続す現に米子銀行取締役たり家族は尙孫嘉子(大九、三三)養子清次郎長女あり養子清吉(明二一、一五)島根、上野善造弟(同妻マユ(同二九、六六)生、島根、八百市繼子)は其一子を伴ひ分家せり(島根、簸川、今市町)

佐藤 文藏 名古屋米穀取引所取引員、金融業
妻 しやう 明一七、二生、愛知、佐藤金藏三女
女 鈴子 明四四、一〇生
女 鈴子 明四四、一〇生

君は愛知縣人伊藤健治の弟にして明治十三年二月を以て生れ先代しやうの夫となり同三十九年家督を相続す金融業を営み名古屋米穀取引所取引員たり(名古屋、東、杉村町二四二)

佐藤 平右衛門 鹿兒島縣多額納稅者、加治木電氣(株)取締役、佐藤商事(名)代表社員
妻 七キ 明二〇、一〇生
女 清 明二六、五五

君は鹿兒島縣人佐藤彦左衛門の三男にして安政元年一月を以て生れ明治二十八年家督を相続し舊名太兵衛を改む鹿兒島縣下の大地主にして現時前記各會社の重役に就任し鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尙孫彦次郎(大元、一〇生、長男彦藏長男)同久榮(同八、一〇生)同長女同澄榮(同二五、七生、同二女)同衛(同七、一〇生)同長女同澄榮(同二五、七生、同二女)同衛(同七、一〇生)

粉會社監査役を経て現時前記各會社の重役たり(廣島市職町一四〇)
佐藤 孫七 愛知縣多額納稅者、酒造業
妻 てい 嘉永六、二生、愛知、加藤善八叔母
妻 しやう 明二、一〇生、愛知、小野彌三郎
男 政一 明四二、一〇生

君は愛知縣人先代孫七の長男にして明治七年十一月を以て生れ同三十八年家督を相続し現に前名を改む酒造業を営み現に愛知縣多額納稅者たり家族は尙二男正(明四五、七五)三男郁三(大六、四生)長女千代子(昭二、二生)弟俊治郎(明一三、七生)同妻もと(同二三、一〇生、三重、市川利吉妹)あり妹秀子(同二七、八生)は愛知縣人瀧正雄に嫁せり(同二四、三三)は同縣人織田了に嫁し弟三郎(同二〇、五五)は同縣人西脇吉右衛門の養子となり(愛知、海部、蟹江町)

佐藤 誠 千葉縣多額納稅者、瀬尾信託(株)取締役、農業、千葉縣在籍
妻 キン 明二五、六生、神奈川、小瀬村定次郎姪

君は千葉縣人佐藤萬太郎の長男にして明治十九年十一月を以て生れ同二十年家督を相続す農を業とし瀬尾信託會社重役にして千葉縣多額納稅者たり家族は尙二男陸男(大九、四生)長女鎮江(同二一、四生)三男慶三(同三一、一〇生)四男邦彦(同二四、一〇生)五男昭昭(同二五、一〇生)あり姉しげ(明一六、一〇生)は千葉縣人木内剛弟幹に嫁し伯父婿(同九、一〇生)は同妻はな(萬延元、二生、千葉、藤原春太郎妹)及其子女を伴ひ分家せり(千葉、香取、神代村)

佐藤 正男 佐藤商會(資)代表社員
妻 代世 明三三、九生、北海道、齊藤文雄

君は北海道人佐藤松太郎の長男にして明治二十八年六月を以て生れ大正七年家督を相続す現時佐藤商會代表社員たり家族は尙長女よし(大八、三三)二女喜代子(同一一、一〇生)弟廣志(明三四、九生)同格(同三五、一二)生、亡弟廣志妻タミ(同三三、五五)生、青森、中田兼吉三女及其一子あり妹マサ(同二九、八生)は同夫兼吉三女(同二九、七五)生、青森、野村逸民弟及其一子と共ニ弟正志(同三一、四生)は同妻安喜(同三五、九生)生、神奈川、八幡安兵衛二女)と共に各分家せり(北海道、厚田、厚田村)

佐藤 正男 資産家
妻 千代 慶應三、九生、福島、土、進藤進長女

生、二男清治長男)同千枝(同二〇、二生、同二女)同三女(同二一、一〇生、同二男)同三枝(同二四、五生、同三女)同四(同二一、一〇生、長女タツ二男)庶子さか(大四、一〇生、生母、鹿兒島、河内タイ)亡兄半左衛門妻ナヲ(安政元、二生、鹿兒島、森山善左衛門長女)亡弟女樹妻佐登(明一四、一〇生、鹿兒島、田中陽一妹)及其一子あり(鹿兒島、始良、加治木町)
參照 田中陽一(※吉田得藏の項)

佐藤 平吉 三春鐵業(株)常務取締役、佐々木汽船、日華貿易、男鹿鐵造、佐々木倉庫、樺太漁業各種取締役、海陸物産委託販賣直轄人、商秋田縣在籍
妻 スマ 安政元、六生、秋田、鈴木喜左衛門二女
妻 アサヨ 明一二、二生、養父萬藏長女
妻 文五郎 明三三、六生
妻 オトミ 明三七、三三、長男文五郎妻、秋田、伊藤敬三郎二女

君は秋田縣人北能喜吉の三男にして同喜市郎佐々木平次郎の弟なり明治十年八月を以て生れ先代萬藏の養子となり同三十九年家督を相続す海陸物産委託販賣直轄人入商を営み傍ら前記各會社の重役たり佐藤商店代表社員に就任せり家族は尙孫文一(大一一、一〇生)長男文五郎長男あり長女タカ(明三五、一〇生)は北海道人菅谷勝司弟英司に嫁し妹妹ヤエ(同二五、四生、秋田、渡會又平二女)は分家せり(函館、仲濱町一五)
參照 北能喜市郎、佐々木平次郎の項

佐藤 平次郎 福岡縣多額納稅者、酒造業
妻 タカ 安政四、九生
妻 フミ 明三九、一〇生、福岡、岩隈久兵衛長女
妻 明三六、五五
妻 フミ 明三九、一〇生

君は福岡縣人先代平次郎の長男にして明治七年一月を以て生れ同十六年家督を相続し前名萬太郎を改め號名す酒造業を営み福岡縣多額納稅者たり家族は尙三男平三(明四四、一〇生)四男太吉郎(大二、一〇生)五男太三(明四四、一〇生)六男平一(同九、八生)三女テイ(同二五、一〇生)一(生)六男平一(同九、八生)三女テイ(同二五、一〇生)

月を以て生れ大正七年家督を相続す現時佐藤商會代表社員たり家族は尙長女よし(大八、三三)二女喜代子(同一一、一〇生)弟廣志(明三四、九生)同格(同三五、一二)生、亡弟廣志妻タミ(同三三、五五)生、青森、中田兼吉三女及其一子あり妹マサ(同二九、八生)は同夫兼吉三女(同二九、七五)生、青森、野村逸民弟及其一子と共ニ弟正志(同三一、四生)は同妻安喜(同三五、九生)生、神奈川、八幡安兵衛二女)と共に各分家せり(北海道、厚田、厚田村)

佐藤 正男 資産家
妻 千代 慶應三、九生、福島、土、進藤進長女

君は福岡縣人佐藤登之進の長男にして明治十九年九月を以て生れ大正二年家督を相続す同年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試験に合格す福井縣足羽教習各部部長山梨縣理事官臺灣總督府事務官成徳學院長復興局事務官兵庫縣書記官視學官學務課長等に歴任し昭和二年長崎縣書記官同學務部長となり現在に至る家族は尙長女園子(大五、九生)二女楠緒子(同二〇、八生)三女禮子(同二五、四生)弟正浩(明二四、九〇)同妻トキ(同三〇、七生、福島、愛澤兵治三女)及其子女あり弟亨(明二八、六生)は分家せり(長崎市、縣學務部長官舎)

佐藤 正美 東京興信所(株)取締役所長
妻 ハマ 明六、一二生、東京、川島半兵衛

君は舊大坂藩士佐藤只五郎の四男にして同三吉の弟米

君は舊大坂藩士佐藤只五郎の四男にして同三吉の弟米

一、一(生)あり長女セツ(明三七、五五)は福岡縣人中村憲次郎に嫁しマキ(慶應二、一〇生)は同縣人橋本次七に嫁し弟英三郎(明一三、二二)は同縣人劉清七の養子となり同順吉(同九、一〇生)は同妻トミ(同二二、一〇生)生、福岡、岩隈久兵衛二女)と共に同女四郎(同二五、一〇生)は同妻トモ(同二六、一〇生)生、福岡、上原直次郎二女)と共に各其子女を従(分家せり(福岡市本町三八電一〇)

佐藤 平治 秋田縣多額納稅者、農業
妻 トミ 明元、四生、養父久五郎長女
男 弟助 明一八、六生
男 フミ 明二五、二二、長男弟助妻、秋田、荒川勘之助五女
男 清之助 明二〇、一〇生
男 勝 明三六、一〇生、二男清之助妻、神奈川、佐藤正規姉
男 久米治 明三三、八生
男 信一 明三六、一〇生

君は秋田縣人佐藤長右衛門の三男にして萬延元年七月を以て生れ先代久五郎の養子となり明治三十三年家督を相続す農を業を営み秋田縣多額納稅者たり家族は尙孫英一(明四四、二二)生、長男弟助長男(同アツ子(大六、一〇生)同長女)同珍(同二〇、九生)同二男(同良子(同三一、五五)同二女)同百合子(同二四、三三)二男清之助長女)あり長女タメ(明二二、一〇生)は秋田縣人瀧谷傳一に嫁し(同三〇、三三)は同縣人村山金十郎孫金之助に嫁し養弟富之助(同二八、一〇生)は分家し同正(同二〇、一〇生)も亦其妻マツ(同二六、三三)生、秋田、服部源太郎孫)を伴ひ分家せり(秋田、仙北、金澤西根村)

參照 瀧谷傳一(※佐藤維一郎の項)

佐藤 法潤 從六位、帝國人遺緒(株)社長、太田川水電(株)取締役、朝鮮鐵山(株)監査役、大分縣在籍
妻 ナツ 明一七、七生、大阪、村越直治五女
君は大分縣人佐藤法爾の三男にして慶應元年一月を以て生れ大正元年時平方より分れて一家を創立す義に臺灣總督府專務局事務官に任ぜられ同總督府勸務課長同神戸支局長となる退官後日本クレーン會社社長阪神豆

佐藤 芳平

佐藤 芳平 銀行(株)取締役 新潟縣在籍
妻 ムツ 慶應三、四生、新潟、中原佐吉二女
男 嘉七郎 明三三、五生、新潟、中野七郎妻、新

佐藤 義長

佐藤 義長 三位勲二等、農學博士、宇都宮
高等農林學校長、東京府在籍
妻 るい 明治元、一、二生、東京、原清三郎姉

佐藤 利助

佐藤 利助 宮城縣多額納税者、吳服商
宮城縣在籍
妻 もと 明四、五生、宮城、中村當吉長女

佐藤 龍市

佐藤 龍市 大分縣多額納税者、農業
大分縣在籍
父 力造 嘉永四、八生
母 イキ 安政元、三、大分、和庄藏二女

佐藤 龍治

佐藤 龍治 秋田鐵道(株)社長
宮城縣土族
父 嘉東治 弘化二、四生
妻 龍子 明三、六、四生、東京、後藤平二男

佐藤 江平

佐藤 江平 群馬縣多額納税者、吳服商
群馬縣在籍
妻 てつ 明一、九、五生、長男守妻、群馬、

佐藤 良治

佐藤 良治 鐵道作業(株)取締役、運送業
神奈川縣在籍
妻 ひろ 明一〇、七生、静岡、野田久七二女

佐藤 良平

佐藤 良平 岩手縣多額納税者、大樋水力電氣
(株)取締役、製絲業、岩手縣在籍
父 秀藏 嘉永四、三、生
妻 セイ 明一四、四生、岩手、加藤全兵衛

佐藤 量平

佐藤 量平 下仁田銀行、上毛貯蓄銀行各(株)
頭取、上信電氣鐵道、下仁田倉庫
各(株)取締役、群馬縣在籍
妻 けさ 明二、六生、東京帝國大學農學

佐野 伊平

佐野 伊平 運送業
兵庫縣在籍
妻 ひさ 明二、一、生、兵庫、山中龜吉長女
男 忠平 大九、一、生

佐野 猪之助

佐野 猪之助 岐阜縣多額納税者、高須貯蓄銀
(株)取締役、農業、岐阜縣在籍
妻 はる 明三、三、生、愛知、水野長一三女

佐野市右衛門

佐野市右衛門 神奈川縣多額納税者、農業
神奈川縣在籍
妻 トク 慶應元、一、生、神奈川、土屋勘兵

佐藤 林七

佐藤 林七 新潟縣多額納税者、金融業
新潟縣在籍
妻 チイ 元治元、八生、新潟、清水榮五郎姉

佐藤 辰治郎

佐藤 辰治郎 金澤紡績、浪速紡績各(株)取締役
静岡縣在籍
妻 源市 嘉永五、八生、現戸主

佐藤 近助

佐藤 近助 佐藤金屬製作所(株)専務取締役
大阪府在籍
妻 正一 明三、九、二生、愛媛、佐藤政助長男

佐藤 花子

佐藤 花子 明四、六生
君は静岡縣人山下善吉の二男にして明治六年七月を以て

佐藤 源一

佐藤 源一 明一、九、三、生、兵庫、土、小森純
東京府土族
妻 やゑ 明一、九、三、生、兵庫、土、小森純

佐藤 辰治郎

佐藤 辰治郎 金澤紡績、浪速紡績各(株)取締役
静岡縣在籍
妻 源市 嘉永五、八生、現戸主

君は神奈川縣人佐野市郎の長男にして元治元年六月を以て生れ明治三十七年家督を相続し前名元太郎を改む...

佐野 榮治

從五位勳六等、東京高等商船學校教授、東京府在籍

妻 稻子 明二六、一〇生、東京、飯田甲子

女 英太郎 大二三、一〇生

君は福岡縣人佐野藤吉の弟にして明治十四年一月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す明治四十三年東...

佐野 會輔

正五位勳三等功五級、陸軍主計監、陸軍經理學校長、静岡縣在籍

妻 ちせ 安政三、一〇生、静岡、穴倉儀十

男 一 明一七、五生、東京、渡邊悠妹

女 喜美子 明四〇、一〇生

女 芳子 明四四、一〇生

君は静岡縣人佐野孫七の長男にして明治七年四月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十五年東京帝國大...

養子となり妹とみ(同三二、六生)は同縣人半田敏治に嫁せり(東京市外野町桃園三三三〇電中野五六四)

佐野 龜雄

東京府士族

妻 亮太郎 明四、一〇生、神奈川、名澤名平女

男 亮太郎 大二、一〇生

君は東京府士族佐野卓の長男にして明治十一年二月を以て生れ同四十年家督を相続す鐵工業を営む家族は尙...

佐野 喜久藏

静岡縣多額納稅者、原田製紙(株)監査役、紙類商、静岡縣在籍

妻 喜一郎 明二〇、一〇生、長男喜一郎妻、静岡

男 喜一郎 明二〇、一〇生、長男喜一郎妻、静岡

女 喜一郎 明二〇、一〇生、長男喜一郎妻、静岡

君は静岡縣人佐野次兵衛の長男にして安政六年九月を以て生れ後家督を相続す紙類商を営み尙前記會社の重役にして現に縣下の多額納稅者たり家族は尙孫と...

佐野 菊次郎

鐵業銀行(株)取締役、佐野商店(資)代表社員、京屋、金物商、東京府在籍

妻 千代子 明四〇、五生、長男育造妻、東京、新堀徳次郎二女

女 芳子 明三九、一〇生

佐野 作次郎

武藏銀行(株)頭取、飯能倉庫運輸(株)取締役、埼玉縣在籍

妻 徳次郎 明二七、一〇生、長男徳次郎妻、埼玉、藤田愛助長女

女 芳子 明二七、一〇生、長男徳次郎妻、埼玉、藤田愛助長女

君は埼玉縣人佐野龜藏の四男にして文久二年十月を以て生れ明治二十七年分家して一家を創立す現時武藏銀行頭取たる外前記會社の重役たり家族は尙五男忠五郎(大行)五男孫恒太郎(同六、九生、長男徳次郎長男)同竹次郎(同九、一〇生、同秀三郎(同二〇、一〇生、同三男)同順四郎(同二二、一〇生、同四男)あり三女は(明三四、五生)三男卯三郎(同三六、一〇生)四男三四郎(同三八、一〇生)は各分家し長女てう(同二七、一〇生)も亦同夫萬次郎(同二七、一〇生)と共に分家し四女ハナ(同四二、五生)は埼玉縣人金子金太郎の養子となれり(埼玉、八間、飯能町)

佐野 俊一

大阪市産業部員、兵庫縣在籍

妻 ます江 明一、一〇生、大阪、曾根田吉兵衛長女

君は大阪府人佐野寅藏の長男にして明治三十三年三月を以て生れ大正十三年家督を相続す同年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時大阪市産業部に勤務す家族は尙妹頼子(明四二、九生)あり同瑞子(同三七、四生)は愛知縣人高森貞太郎二男安夫に嫁せり(兵庫、武庫、大社村森具二六五ノ七電西宮三〇六)

佐野 新平

香川縣多額納稅者、大内銀行、大阪手袋、帝國製藥、四國紡績、日本花菱各(株)取締役、香川縣在籍

妻 イクノ 明二一、五生、愛媛、矢野通保妹

男 貞子 明三六、一〇生、三男易妻、香川、漆原文五郎長女

男 寛 明四一、一〇生

君は香川縣人漆原長次郎の二男にして明治元年四月を以て生れ後先代新三郎の養子となり明治十六年家督を相続す現時大内銀行取締役を始め前記各會社の重役にして

東京と稱し金物商を営み現に前記銀行會社の重役たり家族は尙三男英三郎(明四三、五生)あり長女は(同三三、二生)二男秀吉(同三五、一〇生)は各分家せり(東京、日本橋、横山町二ノ一六電浪花三〇六〇)

佐野 吉之助

明治冷蔵(株)社長、中央亭(株)取締役、兵庫縣在籍

妻 なみ 明一三、四生、兵庫、八坂角治長女

君は兵庫縣人小倉たけの兄にして安政六年八月を以て生れ明治十三年先代しかの養子となり後家督を相続す現に明治冷蔵會社社長にして中央亭取締役たり(神戸、岩本町四ノ一四〇電葎舎二六八九)

佐野 久太郎

石川縣多額納稅者、金融業、石川縣在籍

妻 悦 明一三、一〇生、石川、佐野久平二女

君は石川縣人先代久太郎の四男にして明治七年三月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名小三郎を改め現に石川縣多額納稅者として知らる(慶應元、七生)は其一女と共に分家せり(金澤、裏吉寺町一)

佐野 惠三郎

横濱銀行、共信銀行各(株)取締役、相武電力(株)監査役、神奈川縣在籍

妻 サヤ 明二二、一〇生、神奈川、内山敬

女 綾子 明四四、五生

女 衣子 大二、三三

君は神奈川縣人佐野準三の弟にして明治九年七月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙三女澄子(大三、一〇生)あり(東京、赤坂、青山高樹町一電青山三七〇)

佐野 幸助

石崎(株)常務取締役、南福崎土地(株)取締役、大阪府在籍

妻 サタ 明四二、二生、京都、川北儀三郎妹

男 幸一 明二四、九生、工學士、三井物産會社員

女 榮子 明三一、八生、長男幸一妻、東京、平賀敏五女

同縣多額納稅者たり家族は尙六男坦(明四四、八生)孫淳子(大五一、一〇生、三男易長女)あり(香川、大川、引田町)

佐野 成太郎

從五位、朝鮮道立醫院醫官、平安北道義州醫院長、東京府士族

妻 フサ 明二四、五生、神奈川、山崎惠吉妹

君は東京府人佐野直助の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學醫學科を卒業し副手として同大學に留り後私立淺草病院に皮膚科泌尿器科部長として迎へられ大正五年獨立して開業す同十二年朝鮮總督府道醫官に任じ全羅南道順天慈惠醫院長を経て現に平安北道義州醫院長たり家族は尙長女啓子(大六、三三)二女幸子(同二〇、一〇生)二男教(同二二、九生)弟保(明二九、一〇生)從七位、醫學士、金澤醫科大學助教授、同妻忍(同三八、九生、高知、岡元徳姫)ある外伯母てつ(弘化三、八生)あり弟實(明一四、九生、仙臺高等工業學校出身)は分家し妹きみ(同二七、一〇生)は海軍少將宇土兵衛に同つる(同一九、七生)は陸軍大學校教官歩兵大佐香月清司に同つる(同二二、五生)は法學士北尾直樹に嫁せり(朝鮮、平安北道、義州醫院内)

佐野 精一

信越電力(株)取締役、飯山鐵道(株)監査役、三重縣士族

妻 嘉 弘化四、二生

男 鶴 明三、九生、三重、東口嘉兵衛二女

女 千代 明四〇、一〇生、府立第三高等女學校出身

君は三重縣士族佐野嘉衛の二男にして明治十五年二月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十三年同大學より東京帝國大學法科大學に轉じ同四十九年同大學政治科を卒業し現に前記諸會社の重役たり家族は尙二男健兒(大三、一〇生)あり(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇電青山四四六)

養子 岸子 門四五、三三、大阪、殿村平右衛門郎(門四五、三三、大阪、殿村平右衛門郎)に仕へたる家柄にして先々代幸助の支配人に擧げられ先代幸助に至る君は大阪府人飛谷伊助の三男にして文久元年十月を以て生れ後先代幸助の養子となり明治二十二年家督を相続し尙名して前名松之助を改むに殿村家の支配人として奮勵し殿村家及用人一派を以て創立されたる石崎合名會社に入りて業務擔當社員となり後同社の株式組織變更と共にその業務取締役となり尙南福崎土地會社重役として現時に至る(天滿織物會社其他三四會社の重役たり二女静(明二八、一〇生、アール女學校出身)は大阪府人金井六郎に三女幸(同二九、九生、出身學校同上)は東京帝國大學教授工學博士佐野秀之助に嫁せり(大阪、東、淡路町二ノ一電本局三三三八)

佐野 幸太郎

鹿兒島縣多額納稅者、砂糖乾物商、鹿兒島縣在籍

父 伸左衛門 天保一三、七生

妻 マサ 明三、一〇生、鹿兒島、永田直市

養子 榮吉 明三九、一〇生、鹿兒島、佐野三之助三男

養子 ハナ 明三五、六生、鹿兒島、佐野三之助二女

君は鹿兒島縣人佐野伸左衛門の長男にして明治三年十一月を以て生れ昭和二年家督を相続す砂糖乾物商を営み鹿兒島縣多額納稅者として知らる(鹿兒島市中町九八)

佐野 佐門

兵庫縣在籍

母 し 明九、五生、祖父松左衛門女

君は兵庫縣人佐野松左衛門の長男にして明治三十五年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す養家として知られ佐野會社社員たり姉に子(明三三、五生)は兵庫縣人武田武光に嫁し弟一男(同四一、二生)は分家姉の死跡を相続し叔母アイ(同一一、五生)は同夫政次(同八、一〇生、兵庫、入江十郎男)及其子と共に分家せり(神戸、兵庫西出町一八三電兵庫二二九八)

佐野 善作 正四位勳二等、法學博士、東京商科大学長兼教授、商工審議會委員

妻 一彦 明三六、一、二生 東京女子高等師範學校出身

男 英彦 明三九、六生

女 篤 大二、二生

君は東京府人佐野忠次郎の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十年家督を相続す同二十八年東京高等商業學校を卒業し同三十年商業經濟學研究の爲英米各國に留學し同四十三年更に獨逸に留學す東京高等商業學校助教同教授同校長等に歴任し現に東京商科大学長兼教授たり銀行論貨幣論取引論商學提要等の著書あり家族は尙四男武彦(明四三、七生)二女信(明四一、二生)六男泰彦(明一五、一一生)三男昌彦(明四一、七生)は大府人草野キンの養子となり妹は(同二七、一〇生)は名古屋高等商業學校教授高島佐一郎に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町八三四四四谷一〇〇六)

佐野 長兵衛 島根縣多額納稅者、吳服太物商

妻 敬三 嘉永三、四生

男 俊司 明四三、一一生

女 正一 多島要助四男

君は廣島縣人郡川猪之助の弟にして慶應元年二月を以て生れ後先代敬三の養子となり明治四十三年家督を相続す吳服太物商を營み現に島根縣多額納稅者たり家族は尙孫千鶴子(昭二、六生、養子正一長女)あり養妹イタ(明三三、五生)は岡山縣人山成弘禪に同アイ(同三四、一一生)は島根縣人小川孝祐に嫁せり(島根、那賀、濱田町)

佐野 長松 富國農具具(株)代表取締役

妻 一 明四一、一一生

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月を以て生れ同四十年兄好松方より分れて一家を創立す現時富國農具具會社代表取締役たり家族は尙三男長二(明四三、一一生)五女菊江(大三、一〇生)四男長三(同五、二生)五男富久松(同七、二生)あり三女まき(明四〇、一一生)は山梨縣人望月國治に嫁せり(茨城、新治、土浦町)

佐野 常羽 正三位勳三等功四級、伯爵、海軍少將、東京府華族

妻 尚子 明九、九生、子爵保科正昭姉

養子 常光 明三九、五生、公爵一條實孝養弟

當家は藤原秀郷の末葉佐野源左衛門常世の後に於て十世の孫常貞に至り佐野藩に仕へ相傳へて先代常民に至りて家名を揚ぐ常民嘉永五年藩命に依りて海軍創立汽船製造の事を管理し後海外に航し商工業を視察す歸朝後兵部少輔工部大丞伊藤兩國在勤理官使大藏卿元老院議長農商務大臣樞密顧問官等に歴任し日本赤十字社長に擧げらる明治十七年華族に列し子爵を授けられ同二十八年伯爵に陞せらる君は其三男にして明治四年七月を以て生れ同三十五年家督を継ぎ襲爵す夙に海軍に入り果進して海軍少將に陞り大正九年豫備役に編入せらる獨逸大使館附武官長等に歴補し日露戰役の功に依り功四級を賜ふ家族は尙弟常成(明八、一一生)あり同常尾(同二〇、一一生)は分家し姪米子(同二五、一一生)、亡兄常樹長女(明二二)は男爵小野亮長男正正に同仲子(同一九、五生、同二女)は愛知縣士族加藤景太郎養子秀一に嫁し同茂子(同二四、六生、同四女)は東京府人近藤利兵衛の養子となり(東京市外馬込村寺郷二九九五電高橋二六一)

佐野 徹治 清水商事(株)常務取締役

妻 ミヨ 明二八、一〇生、北海道、清水彌吉二女

君は北海道人佐野繁吉の弟にして明治二十三年七月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す同二年早稲田

大學商科を卒業し現に清水商事會社常務取締役たり家族は尙長女富子(大六、一〇生)二女榮子(同九、四生)三女良子(同一一、一一生)四女光子(同一一、二生)あり(小樽、鶴岡町二、一六)

佐野 藤次郎 從七位、工學博士、日本水道衛生工業(株)社長、神戸、前橋各都市水道顧問、愛知縣士族

妻 春 明八、四生、東京、士、義澤長女

男 堤 明三三、一〇生

男 京三 明四〇、一〇生

君は愛知縣士族佐野孝則の長男にして明治二年六月を以て生れ同三十一年家督を相続す先是同二十四年帝國大學工科大学土木科を卒業し大正四年工學博士の學位を受く義に神戸市技師長岩屋興業濃飛電氣各會社の重役たりし事あり現に日本水道衛生工業會社社長たる外神戸前橋各都市水道顧問富山縣電氣局顧問朝鮮水電會社顧問たり家族は尙四男隆則(明四二、二生)あり長女(同二七、八生)は茨城縣人鈴木本之助長男軍蔵に嫁せり(名古屋、東、大曾根町一九〇電東三六四五)

佐野 督明 辛酉工業(株)代表取締役

妻 英 明二四、九生、香川、多田千吉三女

男 數太郎 大三、一〇生

女 愛子 大二、二生

君は香川縣人佐野安太郎の長男にして明治十九年十二月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時辛酉工業會社代表取締役たり家族は尙二男功(大五、一一生)二女公子(同八、一一生)三女妙子(同二〇、二生)三男友三(同二二、四生)弟運平(明二七、一一生)あり妹クニ(同三二、五生)は香川縣人寺坂宗園に同サダ(同三五、二生)は同縣人阿野宗一に嫁せり(大阪、東、寺山町四九〇)

佐野 利器 從四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部助務、山形縣士族

妻 誠一郎 安政六、一一生

養母 タイ 明二六、六生、山形、泰繼弘二女

男 啓一 大八、一一生

女 政清 三十四銀行(株)取締役、共同信託(株)監査役、兵庫縣在籍

妻 貞女 明二一、九生、滋賀、士、永元恩三女

君は兵庫縣人佐野眞次郎の弟にして明治十四年二月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す現に三十四銀行取締役たり前記會社の重役たり家族は尙二男政(大一一、四生)二女芳子(同一一、二生)養子二三子(同六一、六生、兵庫、櫻井七右衛門四女)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋山角一〇九七電蘆屋六四一)

佐野 萬次郎 武藏銀行(株)常務取締役

妻 てう 明二七、一一生、養父次郎長女

君は埼玉縣人佐野清八の二男にして明治二十三年三月を以て生れ後佐野作次郎の養子となり大正三年分家して一家を創立す現時武藏銀行常務取締役たり家族は尙長女せい(大四、一一生)二女い(同九、一一生)三女あい(同一一、七生)四女梅子(同一一、二生)あり(埼玉、入間、飯能町)

佐野 彌助 金龍堂、鐵瓶商

養母 ふく 明六、一一生、先々代鐵瓶長女

妻 リヨ 明三三、一一生、大阪、小松磯五郎三女

男 鐵男 大一一、三生

君は大阪府人先々代鐵瓶の二男にして明治二十四年十二月を以て生れ後先代彌助の養子となり大正十四年家督を相続し前名實を改め彌名す家業鐵瓶商を繼ぎ金龍堂

女 芳 明四三、一〇生

君は山形縣人山口文吾の弟にして明治十三年四月を以て生れ後先代誠一郎の養子となり大正九年家督を相続す明治三十六年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し大學院に入る同三十九年同大學助教に任ぜられ同四十二年建築學鐵骨法研究の爲英米獨逸各國に留學し大正四年工學博士の學位を得同七年東京帝國大學工學部大學教授に進み同十年宮内技術師を兼任す尙二女千代(大四、一〇生)三女舞(同六一、一〇生)四女正(同六一、一〇生)あり(東京、小石川、駕籠町一六〇電大塚一〇二六)

佐野 智勝 從四位、男爵

妻 キセ 慶應三、七生、山口、士、穴道恒樹二女

當家は先代延壽より家名を揚ぐ延壽は舊幕臣にして明治四年陸軍少尉に任じ果進して陸軍中將に陞る其間東京鐵道局長長官局長騎兵局長騎兵監等に歴補し同二十九年華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして明治十二年六月を以て生れ大正四年襲爵す明治三十九年學府高等科別科を卒業し京都帝國大學法科大學法科に學び義に豐國銀行員たりしも現時閑地に在り妹常子は埼玉縣人齋藤周一郎の養子となり(東京市外代々幡町代々木山谷三二〇)

佐野 秀之助 從五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部助務、東京府在籍

妻 明三 明二九、九生、大阪、佐野幸助三女

君は大阪府人佐野純之助の長男にして明治二十年十二月を以て生れ同三十三年家督を相続す同四十五年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し大正二年獨逸に留學し同四年明治專門學校教授となり同十一年東京帝國大學教授に任じ現時工學部助務たり同十五年工學博士の學位を授けらる家族は尙長女鈴子(大六、九生)弟榮次郎(明二九、二生)同妻みね子(同三五、九生)長男、春日藤吉(二女)あり(東京、本郷、向ヶ岡彌生町三三、二九電小石川二八九)

佐野 正次 正五位勳四等、大藏書記官兼管轄

妻 富貴 明二三、一一生、東京、佐野正一姉

君は東京府人山本乙五郎の養子となり(神戸、北長狹通四ノ三三電合三〇九三)

佐野 彌助 從五位、工學博士、東京帝國大學教授、工學部助務、東京府在籍

妻 明三 明二九、九生、大阪、佐野幸助三女

君は大阪府人佐野純之助の長男にして明治二十年十二月を以て生れ同三十三年家督を相続す同四十五年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し大正二年獨逸に留學し同四年明治專門學校教授となり同十一年東京帝國大學教授に任じ現時工學部助務たり同十五年工學博士の學位を授けらる家族は尙長女鈴子(大六、九生)弟榮次郎(明二九、二生)同妻みね子(同三五、九生)長男、春日藤吉(二女)あり(東京、本郷、向ヶ岡彌生町三三、二九電小石川二八九)

堂と稱す家族は尙二男則漢(大一一、三三)あり(大阪、東、博野町二ノ三三三三三三三三三三)

佐野勇次郎

徳島縣多額納稅者、工業
妻 ヨシエ 長女、四生、徳島、佐藤莊三郎
男 芳二 明三六、一
女 マツ子 明四二、九

佐野雄治

正四位勳二等功四級、豫備海軍主計中將、東京府士族
妻 フミ 明一五、三三、佐賀、白石伴一郎
男 元 明二九、三三
女 壽子 明四一、一〇

佐野隆太郎

廣島縣多額納稅者、紙商
妻 キヨ 明一、五五、廣島、竹野内直太
男 武三 明二九、四生
女 サダコ 竹野内英夫

佐原敬二

正五位勳三等功五級、豫備陸軍騎兵大佐、種馬育成所技師、種馬育成所長、東京府在籍
妻 コナミ 明二三、四生、栃木、峰岸彌伊茂
男 一郎 明四二、七生
女 百合子 明四五、五生

佐原憲次

從五位、鐵道書記官、運輸局配車課長、東京府在籍
妻 とく 明二九、一五、兵庫、吉阪恩藏
男 元 明二七、一五

佐原忠次郎

佐原忠次郎(名代表社員、香水香油製造業、大阪府在籍)
妻 マス 慶應三、六生、大阪、山崎助二
男 睦夫 明三三、一五、兵庫、助野長次
女 睦子 明三三、一五

佐原慎藏

帝國キネマ演藝、帝國キネマ俱樂部各(株)取締役、大阪府在籍
妻 菊 明二一、一五、大阪、伊藤義藏
男 養子 明三三、三三、兄小治郎二男
女 養子 明三三、三三、弟小治郎一男

佐分眞

東京府在籍
妻 純 明一一、九生
男 眞 明一一、九生

佐分利貞男

從四位勳二等、大使館參事官、英國在勤、東京府士族
妻 眞 明一一、九生

佐和秀桂

日本ハイドロウエア(株)社長、東京府在籍
妻 しげ 明二八、七生、東京、田島勝次郎
男 桂太郎 明二七、五生

佐本清左衛門

和歌山縣多額納稅者、農業
妻 トラエ 和歌山縣在籍
男 清秀 明四三、一五

佐橋信一

從五位勳六等、鐵道技師、監督局技術課勤務、東京府士族
妻 信一 明三三、一五

佐橋信一

從五位勳六等、鐵道技師、監督局技術課勤務、東京府士族
妻 信一 明三三、一五

佐橋信一

從五位勳六等、鐵道技師、監督局技術課勤務、東京府士族
妻 信一 明三三、一五

佐橋信一

從五位勳六等、鐵道技師、監督局技術課勤務、東京府士族
妻 信一 明三三、一五

佐橋信一

從五位勳六等、鐵道技師、監督局技術課勤務、東京府士族
妻 信一 明三三、一五

克巳 明三七、一〇生、慶應義塾大學在學
女 信子 明四一、五生
女 周子 明四三、三三

佐野亮

北海道多額納稅者、地主
妻 ノブ 明六、一一生、北海道、小松久壽
君は北海道佐藤亮の長男にして明治四年十月を以て生れ前名徹三を改め昭和二年先代妹トクの後を承け家督を相続す地主にして北海道多額納稅者として知らる妹トク(明一五、一一生)は北海道人佐野正次に嫁せり(小樽、緑町)

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

佐野令三

輸出入業
妻 セイ 文久三、三三、静岡、土、岡本廣太郎
男 謙 明二〇、七生
女 富 明三六、一〇生

林田止に姉政子(同九年生)は故公使館書記官原政に妹榮子(同二八、五生)は福岡縣士族故平岡良助に同...

西郷 健雄 朝野農林、南和公司、日本夏帽各(株)代表取締役、日本カネボウ、大和鉛筆、松尾製菓各(株)取締役、(原)代表社員、長野縣在籍...

西郷 健雄 妻 春子 長女 明二七、一、生、神奈川、原富太郎...

西郷 豊二 古河銀行(株)取締役 妻 登志 明二八、一、生、東京、高羽惣兵衛...

生る同三十七年學問院高等科を卒業し古河銀行總務部長となり取締役に進み今日に至る家族は尚ほ二男遺治(大二三、八生)長女瑠子(昭二、一、生)あり(東京市外...

西郷 陽 從四位勳三等、判事、大審院判事 妻 いね 叔母 明一六、五、生、東京、山崎喜一郎...

西郷 健雄 妻 春子 長女 明二七、一、生、神奈川、原富太郎...

西郷 豊二 古河銀行(株)取締役 妻 登志 明二八、一、生、東京、高羽惣兵衛...

西郷 健雄 妻 春子 長女 明二七、一、生、神奈川、原富太郎...

西條軍之助 地主 妻 千代 明二九、二、生、養父己之助三女...

西條清兵衛 妻 千代 明二九、二、生、養父己之助三女...

西條峯三郎 妻 千代 明二九、二、生、養父己之助三女...

西郷 健雄 妻 春子 長女 明二七、一、生、神奈川、原富太郎...

西郷 豊二 古河銀行(株)取締役 妻 登志 明二八、一、生、東京、高羽惣兵衛...

祭原源治郎 祭原商店(株)取締役 妻 ちよ 明一五、一、生、養父伊太郎二女...

祭原彌三郎 祭原商店、臺灣鳳梨栽培各(株)取締役、東京在籍...

祭原彌三郎 妻 ちよ 明一五、一、生、養父伊太郎二女...

最賀亮輔 東京府多額納稅者、地主 妻 ちよ 明一六、一、二、生、東京、松本清太郎...

最所文二 從四位勳三等、逓信省經理局長 妻 千代 明二二、一、生、東京、松本清太郎...

最所文二 妻 千代 明二二、一、生、東京、松本清太郎...

最所文二 妻 千代 明二二、一、生、東京、松本清太郎...

最賀亮輔 東京府多額納稅者、地主 妻 ちよ 明一六、一、二、生、東京、松本清太郎...

稅所篤秀 從四位、子爵、貴族院議員 妻 文 明二四、九、生、山口、村井福二郎...

稅所篤秀 妻 文 明二四、九、生、山口、村井福二郎...

稅所篤秀 妻 文 明二四、九、生、山口、村井福二郎...

稅田末次郎 彌壽銀行(株)取締役 妻 八郎次 明四四、一〇、生...

サ之部 祭原(最、稅、齋)

(捺印は姻族關係)

始まる君は東京府人井元京一郎の長男にして萬延元年七月を以て生れ先代チエの養子となり明治二十九年家督を相続し前名信助を改む現時營業を合名組織として其代表社員たり長女富貴子(明二五、一)は實家井元家を継ぎ二女つや(同二八、一)は東京府人石森宗三に三女喜久(同三一、七)生、跡見女學校出身)は同府人笠尾二郎に四女貴代子(同三六、八)生、日本橋高等女學校出身)は同府人川合晋に嫁し五女種子(同四四、六)生)は前記井元富貴子の養子となり(東京、日本橋、新大阪町一〇電通花四五〇三)

齋藤嘉兵衛 大日本漆器(株)社長、漆商
大阪府在籍

妻 ちか 明八、五生、京都、小田佐兵衛妹
養子 榮造 明二〇、三三、長女いち夫、養兄
正太郎長男
女 いち 明三一、五生、養子榮造妻

君は京都府人先代嘉兵衛の弟にして明治七年十二月を以て生れ大正三年養兄嘉兵衛の死跡を襲ひ家督を相続し襲名して前名嘉造を改む漆商を営み大日本漆器會社社長たり家族は尙孫嘉一郎(大一〇、五)生、養子榮造長男(七)兄嘉兵衛妻シマ(元治元、正生、大阪、齋藤利右衛門二女)あり姉い(明二、五)は同夫正太郎(文久二、八)生、大阪、山崎芝老四男)と共に大阪府人齋藤三の家督を相続せり(大阪、南、鹽町通二ノ九二電船場二六六二)

齋藤一雄 資産家
東京府在籍

妻 まん 明一七、八生、埼玉、栗原平治郎
母 明二〇、三三、三重、吉田喜七長女
明四二、二生

君は東京府人齋藤一郎の長男にして明治四十二年三月を以て生れ大正八年家督を相続し襲名して運送業を営みしも現時之を廢し資産家たり家族は尙姉初枝(明四〇、四)生、妹二三(大元、八)生)あり(東京市外堀橋町角宮三)

齋藤固 正五位勳四等、朝鮮總督府鐵道局
技術、工務課長、山形縣在籍

妻 みき 明二〇、三三、三重、吉田喜七長女
明四二、二生

齋藤紀一 青山病院院長、日本開業(株)社長
東京府在籍

妻 ひさ 慶應二、三三、埼玉、青木定八姉
男 西洋 明一五、七生、二女てる子夫、山形、守谷傳右衛門三男、醫學博士
養子 茂吉 明二八、一〇生、養子茂吉妻、學
院女學部出身
女 てる子 明二八、一〇生、養子茂吉妻、學
院女學部出身
養子 爲助 明二八、一〇生、養子茂吉妻、學
院女學部出身
女 あい子 明四〇、一〇生、養子爲助妻、女
子學習院出身
養子 たつ子 明四二、七生、山形、齋藤喜廣三
女

君は山形縣人齋藤文三郎の長男にして文久元年八月を以て生れ明治二十一年分家して一家を創立す夙に山形縣立醫學校を卒業し後醫學科大學巴里伯林各大學に學ぶ大正六年推されて衆議院議員に當選す現時青山病院院長にして日本開業會社社長たり家族は尙二男山形(明四二、二)生、庶子紀一(大三、四)生、生母、宮崎水野(孫茂太(同五、三)生、養子茂吉長男)同百子(同四、二)生、同長女)同博(同四、五)生、養子爲助長男)あり四女きよ子(明三二、六)生、女子學習院出身)は静岡縣人影山千萬樹に養子ワカ(同二九、六)生、北海道、釧路(二)治妹)は宮城縣人佐々徳重に嫁せり(東京、赤坂、青山南町五ノ八一電通山六五二)

齋藤喜十郎 勳四等、貴族院議員、新潟縣多額
納税者、新潟銀行、新潟貯蓄銀行、
新潟興業貯蓄銀行、新潟貯蓄銀行、
新潟信託貯蓄銀行、新潟各(株)取締
役、新潟水方電氣、越後鐵道各(株)
監査役、倉庫業、新潟縣在籍

君は新潟縣人齋藤次郎の長男にして元治元年七月を以て生れ後先代伯父喜十郎の養子となり明治三十七年家督を相続し前名庫吉を改め襲名す倉庫業を営み傍ら新潟銀行取締役其他前記諸銀行會社の重役にして新潟縣多額納税者に列し貴族院議員に互選せらるる又義に新潟商業會議所特別議員に擧げられ同地實業界に重きを

同三十八年京都帝國大學理工科大學士木工學科を卒業し鐵道技手帝國鐵道技手青島守備軍民政務鐵道技師を経て大正十二年朝鮮總督府技師に任じ次で同府鐵道局技師に轉じ清津出張所長を経て現時鐵道局工務課長たり家族は尙長女和子(大三、四)生、二女尚子(同五、二)生、三女知子(同六、九)生、五女幸子(同二〇、一〇)生、二男喜(同三、五)生)の外姪淑(明二七、七)生)あり(京城、總督府鐵道局官舎)

齋藤勝藏 從五位勳四等、地方技師、滋賀縣
内務部森林課長、静岡縣在籍

妻 ふさ 明一三、九生、静岡、手塚富太郎
長女

君は静岡縣人齋藤卯左衛門の二男にして明治七年六月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し同年御料局技師となり爾來群馬縣農務部立寄妻農務學校教諭東京府林業技師京都府立農務學校教諭同府林業技師滋賀縣技師農務技師を経て現時地方技師にして滋賀縣内務部森林課長たり家族は尙弟定藏(明二二、八)生、同妻操(同二七、二)生、貴族院議員登井信一(長女)及其一男あり(大津、縣廳官舎)

齋藤兼吉 齋藤(直吉商店)取締役兼支配人
東京府在籍

妻 兼子 明一三、三三、新潟、秋山作太郎妹
明四〇、一〇生
女 トシ 明四一、一二生
女 ユリ 明四四、一〇生

君は埼玉縣人山崎義次郎の四男にして明治十六年十二月を以て生れ後先代義一の入夫となり同四十二年家督を相続す現に齋藤直吉商店取締役兼支配人たり家族は尙長女久江(大五、一〇)生、二男五朝(同二〇、四)生)あり(東京、京橋、本八丁堀北橋河津七號)

齋藤鎌治 正五位勳四等、鐵道監督局長、札
幌鐵道監督局長、新潟縣在籍

妻 兼子 明一三、三三、新潟、秋山作太郎妹
明四〇、一〇生
女 トシ 明四一、一二生
女 ユリ 明四四、一〇生

齋藤義一 小石川區會議員、東京精米(株)常
務取締役、栃木縣在籍

妻 義子 明一七、六生、栃木、三浦治助長女
明四一、四生
女 眞佐子 明四三、一〇生
女 久子 明四五、七生

君は栃木縣人村上角治の三男にして明治八年九月を以て生れ後先代柳平の養子となり前名八十吉を改め同三十二年家督を相続す同三十四年早稻田大學行政科を卒業し日本鐵道會社に入り同三十八年清國鐵道會社の招聘に應じ顧問兼浙江鐵路學校教授となり同四十二年滿期歸朝す同四十五年東京精米會社常務取締役に擧げられ今日に至る又小石川區會議員たり家族は尙五男五郎(大二、一〇)生、五女充子(同五、八)生)あり二女きく(明二九、五)生、三女玉子(同二九、五)生)あり(同二五、四)生)は栃木縣人早川村二に養妹キヨ(小石川、久堅町六九電小石川五七〇)

齋藤義一 埼玉縣在籍

妻 孝 明三二、二生、埼玉、細沼貞之助
明四一、二生

君は埼玉縣人齋藤益太郎の長男にして明治二十九年一月を以て生れ昭和二年家督を相続す農業を営む家族は尙二男直樹(大一一、一)生、二女洋子(昭二、三)生)姉もと(明二六、二)生)あり妹しげ(同三〇、七)生)は埼玉縣人田中四一郎長男仁承郎に嫁せり(埼玉、南埼玉、大相模村)
參照 田中四一郎の項

齋藤儀助 齋藤儀商店(資)代表社員、京都取
引所取引員、京都府在籍

月を以て生れ同十七年家督を相続す同三十五年明治法律學校を卒業し文官高等試驗判事登用第一回試驗及辯護士試驗に及第す同年司法官試補となり山林局書記山林事務官補同事務官林務官林務官林務官林務官林務官任し大正十三年鐵道監督局長となり現時滋賀縣監督局長たり家族は尙二男正雄(大三、四)生、三男秀夫(同五、九)生、四男道夫(同八、四)生、五女セツ(同二〇、九)生、六女ノブ(同二二、一)生)あり弟周治(明一〇、二)生)は新潟縣人齋藤フヂの入夫となり妹キク(同三、八)生)は同縣人梅澤與三右衛門長男孫三郎に嫁せり(札幌、北一條西十二ノ一鐵道監督局官舎)

齋藤龜作 福島縣農工銀行(株)監査役
福島縣在籍

妻 サタ 明一五、五生、福島、加藤市治叔母
明二六、九生
男 九十九 明二六、五生、二男九十九妻、千
葉、伊藤礦次郎長女

君は福島縣人渡邊登助の弟にして慶應二十一年十一月を以て生れ先代龜一郎の養子となり明治三十年家督を相続す現時福島縣農工銀行監査役として知らるる家族は尙孫一郎(大三、六)生、二男九十九長男)同龜次郎(同五、三)生、同二男)同幸子(同二〇、一)生、同長女)同千枝子(同二四、五)生、同二女)同外養妹チヨウ(明五、四)生、福島、青木久左衛門妹)同タモ(同五、五)生、早川六郎姉)及其三子あり(福島、双葉、木戸村)

齋藤龜三郎 從五位、東洋拓殖(株)理事、南洋
興發(株)取締役、山形縣、露領
林業、朝鮮電氣興業各(株)監査役
神奈川縣在籍

妻 良 明二六、一〇生、鹿兒島、黒田清健
長女
明二六、一〇、三三

君は神奈川縣人齋藤安平の二男にして明治十五年十二月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直に農商務省に入り山林事務官農務書記官等を歴任大正九年退職東洋拓殖會社に入社し現時同社理事にして南洋興發會社取締役外數社の監査役を兼ねるる家族は尙長女雅子(大五、八)生)あり(神奈川、三浦、逗子町櫻山二二五〇)參照 齋藤木茂太郎の項

齋藤岸平 静岡縣多額納税者、田子の浦魚市
場(株)取締役、農業、静岡縣在籍

妻 ひで 慶應元、八生、静岡、佐野精一郎妹
明一九、七生、静岡、町井平四郎孫
男 壽夫 明四一、一〇生

君は静岡縣人齋藤鐵三の長男にして明治十六年五月を以て生れ大正十三年家督を相続す農業を営み傍ら前記會社の重役にして静岡縣多額納税者たり家族は尙二男正夫(大元、一)生、三男保夫(同三、五)生)長女要恵(同五、一)生、二女節子(同二〇、三)生)妹頼子(明三七、一)生、一男あり弟誠司(同二六、五)生)は同妻秋子(同三五、一)生、静岡、影山英二(二)女)を伴ひ分家し妹三(同二二、一)生)は静岡縣人齋藤宗宣に嫁せり(静岡、富士、田子浦村)
參照 齋藤宗宣の項

齋藤吉十郎 朝鮮紡績(株)常務取締役、日本高
級染料(株)取締役、東京府在籍

妻 元 明一七、一〇生、岡山、神谷敏行長
女、第二高等女學校出身
女 美子 明四三、七生、第二高等女學校出身

君は埼玉縣人齋藤長重良の長男にして明治七年八月を以て生れ同四十三年家督を相続す同三十一年東京高等商業學校を卒業し直ちに三井物産會社に入り香港支店詰となり後廣東出張所長臺北支店長を経て大正元年參事に進み本店に在りしが同六年朝鮮紡績會社の創立せらるるや擧げられて常務取締役に就任し傍ら前記會社の取締役を兼ねて今日に至る乘馬及び園藝將棋に趣味を有す家族は尙三男恒雄(大七、二)生、二女道子(同五、一)生)五女直子(同八、三)生)六女菊子(同二〇、一)生)あり長女節子(明三九、八)生、御茶水高等女學校出身)は岡山縣人渡邊寛(二)女)清子(同四一、二)生、日本女子大學校附屬高等女學校出身)は静岡縣人鈴木

(※印は姻族關係)

齋藤 茂 男 明二、九生、島根縣多額納稅者
 妻 明二、五生
 君は大阪府人齋藤幾太郎の長男にして田村市郡久原房之助の甥なり明治十四年七月を以て生る同三十七年東京高等商業學校を卒業し現に久原商會社事務取締役たる外前掲銀行會社の重役たり家族は尙二男健三、七生(三男淳四、八生)四男保(同九、八生)養子亭子(同三、八生、島根、土、堀藤十郎三女あり(東京、四谷、傳馬町一ノ四一電四谷三〇四〇))
 參照 久原房之助、齋藤幾太郎、田村市郡、堀藤十郎、久原商會社事務取締役、田村市郡兵衛、齋藤源俊雄、齋藤源權治、濱口儀兵衛の項

齋藤 良八 男 同志貿易(株)相談役
 妻 明三、一〇生、東京、青木鎮郷二
 君は東京府人齋藤三三の長男にして明治七年九月を以て生れ大正五年家督を相續す明治二十七年東京高等商業學校を卒業し義に茂木合名會社理事兼貿易部支配人たりしが後同志貿易會社を創立し其社長となり現時相談役たり家族は尙四女信子(大六、三生あり(東京市外入新井町新井宿二一六六電大森三一六))
 參照 茂和仁貞吉の項

齋藤 作五郎 男 大日本漆器(株)取締役
 妻 明一、一五生、京都、池村久兵衛
 君は大阪府人齋藤嘉平治の三男にして明治九年四月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す現時大日本漆器會社取締役たり長女あり(明三五、五生)は大阪府人齋藤清に二女せい(同三七、七生)は同府人山本義三郎二

齋藤 繁之助 男 長野縣多額納稅者、信濃絹織紡績(株)取締役、田澤炭礦(株)監査役
 妻 明六、一〇生、長野、齋藤吾平長女
 君は長野縣人齋藤有衛門の二男にして文久二年十二月を以て生れ明治十二年家督齋藤清左衛門の跡を再興す製絲業を營み傍ら前記會社の重役に推され長野縣多額納稅者たり家族は尙三男敏郎(明四二、三三)四男四郎(同四四、一〇生)あり養子かつ(同九、八生、長野、土屋條三郎姉)は分家せり(長野、小縣、丸子町)
 參照 土屋條三郎の項

齋藤 實理 男 東洋豆粉製造(株)取締役
 妻 明二、五九生、京都、土、酒井賀
 君は兵庫縣土族齋藤實文の長男にして明治十六年八月を以て生れ同十四年家督を相續す同十四年東京帝國大學工科大学機械科を卒業し現時東洋豆粉製造會社取締役として知らる家族は尙長女英子(大三、六生)二男實政(同二、五生)三男實俊(同五、七生)あり姉あやの(明一三、六生)は大阪府人橋本淺次郎に妹く(同二三、七生)は栃木縣人宮田德三郎甥次郎に妹く(實(同二二、二生)は分家せり(岡山、兒島、日比町))

齋藤 俊吉 男 從四位勳三等、東京高等工業學校教授、東京府土族
 妻 明一、一〇生、東京、安田貞妹
 君は岡山縣土族齋藤隆の長男にして明治六年十二月を以て生れ同十八年家督を相續す同二十七年東京高等工

齋藤 澤吉 男 東京府在籍
 妻 明七、八生、兵庫、本間秀妹
 當家は先代澤吉に始まり本家は神奈川縣厚木町に於て代々農を營みし舊家なり父澤吉年少にして東京に出で吳服の行商より始めて利殖する歳少から晩年は専ら株式現物の買賣をなし齋藤同族會社を興して其代表社員となり又京濱電氣鐵道會社監査役に擧げらる君は先代澤吉の三男にして明治三十一年八月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名賢二を改めて賢三と夙に中央商業學校を卒業し資産家にして會社員たり家族は尙妹喜代子(明三六、七生)あり(東京、日本橋、濱町三ノ一電濱花五六七)
 參照 從五位勳五等、判事、大阪區裁判所判事、大阪區裁判所監督、熊本縣土族

齋藤 三郎 男 從五位勳五等、判事、大阪區裁判所判事、大阪區裁判所監督
 妻 明二、八生、京都、西脇熊吉長女
 君は熊本縣土族齋藤爲彦の弟にして明治十五年六月を以て生る同三十九年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十四年判事に任じ廣島地方大阪府各地方裁判所部長に歴補し大正十四年現職大阪區裁判所判事同監督に轉ず家族は尙兄爲彦(明六、七生、現戸主)同妻友(同七、九生)熊本、内野茂三郎長女)及其子女同直(同二〇、五生)同妻キタ(同二二、二生)福岡、土石原德三女)及其子女あり(大阪、豊能、南豊島村)

齋藤 俊平 男 從五位、愛知縣書記官、内務部長
 妻 明二、六九生、廣島、井口金次郎孫
 君は岩手縣人菅原虎吉の二男にして明治十八年十月を以て生れ同四十五年先代金平の養子となり前名春吉を改め大正十五年家督を相續す同二年京都帝國大學法科大學を卒業し同六年檢事となり新潟地方裁判所檢事兼新潟區裁判所檢事を命ぜらる同八年警視廳警視に轉じ爾來大分縣警務署書記官警務部長を経て昭和二年群馬縣書記官警務部長に任ぜられ同三年前記現職に轉ず家族は尙四男日向(昭二、一〇生)あり(名古屋、内務部長官舎)

齋藤 恂 男 日本晝夜銀行(株)専務取締役、大森機械製作所(株)取締役、安田保善社(名)參事、埼玉縣在籍
 妻 明二、八生、法學士、辯護士、門二女
 君は岩手縣人菅原虎吉の二男にして明治十八年十月を以て生れ同四十五年先代金平の養子となり前名春吉を改め大正十五年家督を相續す同二年京都帝國大學法科大學を卒業し同六年檢事となり新潟地方裁判所檢事兼新潟區裁判所檢事を命ぜらる同八年警視廳警視に轉じ爾來大分縣警務署書記官警務部長を経て昭和二年群馬縣書記官警務部長に任ぜられ同三年前記現職に轉ず家族は尙四男日向(昭二、一〇生)あり(名古屋、内務部長官舎)

齋藤 順三 男 安田銀行(株)取締役
 妻 明一、五二生、養父孝治長女
 君は岩手縣人菅原虎吉の二男にして明治十八年十月を以て生れ同四十五年先代金平の養子となり前名春吉を改め大正十五年家督を相續す同二年京都帝國大學法科大學を卒業し同六年檢事となり新潟地方裁判所檢事兼新潟區裁判所檢事を命ぜらる同八年警視廳警視に轉じ爾來大分縣警務署書記官警務部長を経て昭和二年群馬縣書記官警務部長に任ぜられ同三年前記現職に轉ず家族は尙四男日向(昭二、一〇生)あり(名古屋、内務部長官舎)

齋藤 正助 男 岐阜縣多額納稅者、多治見銀行(株)取締役、農業、岐阜縣在籍
 妻 明二、一〇生
 君は岐阜縣人齋藤莊兵衛の長男にして萬延元年十一月

齋藤 三郎 男 千葉縣多額納稅者、北總鐵道(株)代表取締役、酒造業、千葉縣在籍
 妻 明二、五〇生、現戸主
 君は千葉縣人小林英の弟にして明治二十年五月を以て生れ同四十一年齋藤岩松の養子となる酒造業を營み縣下の多額納稅者にして北總鐵道會社代表取締役たり養妹とく(明三三、二生)は分家し養叔母す(同二一、一六、五生、養祖父佐四郎四女)は千葉縣人合間勝太郎養子定次郎に同とめ(同二二、七生、同五女)は同縣人鏡才五郎に嫁せり(千葉、東葛飾、布佐町)

齋藤 四郎 男 岩手縣多額納稅者、農業
 妻 明三、三三生、岩手、齋藤勇馬長女
 君は岩手縣人川邊波治の四男にして明治二十六年九月を以て生れ齋藤ミトリの入夫となり大正十年家督を相續す農業を營み岩手縣多額納稅者たり家族は尙三男辰(大九、六生)長女和(同二一、二女)二女篤子(同二一、四、六生)妹エス(明三三、二生)大叔父盛(同二一、一〇、一〇生)同妻イマ(同二二、二生、高橋善五郎二女)あり(岩手、和賀、飯豊村)
 參照 高橋善五郎の項

齋藤 茂 男 茨城縣多額納稅者、結城染織(株)取締役、農業、茨城縣在籍
 妻 明二、三三、八生、埼玉、飯島文治郎
 君は茨城縣人齋藤麻之介の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十八年家督を相續す農業を營み傍ら結城染織會社の取締役に任じ茨城縣多額納稅者たり家族は尙三女ゆり(同八、一〇生)四女喜美子(同六、九、九、二男)五女孝子(同八、一〇生)七女幸子(同三、一〇、一〇生)同直(同二一、一〇、一〇生)同妻イマ(同二二、二生、高橋善五郎二女)あり(同三三、三三)同妻タメ(同三三、一〇、一〇生)あり弟三喜三郎(同二一、一〇、一〇生)同妻タメ(同三三、一〇、一〇生)あり(茨城、茨城、茨城)

齋藤 順三 男 安田銀行(株)取締役
 妻 明一、五二生、養父孝治長女
 君は岩手縣人菅原虎吉の二男にして明治十八年十月を以て生れ同四十五年先代金平の養子となり前名春吉を改め大正十五年家督を相續す同二年京都帝國大學法科大學を卒業し同六年檢事となり新潟地方裁判所檢事兼新潟區裁判所檢事を命ぜらる同八年警視廳警視に轉じ爾來大分縣警務署書記官警務部長を経て昭和二年群馬縣書記官警務部長に任ぜられ同三年前記現職に轉ず家族は尙四男日向(昭二、一〇生)あり(名古屋、内務部長官舎)

齋藤 正助 男 岐阜縣多額納稅者、多治見銀行(株)取締役、農業、岐阜縣在籍
 妻 明二、一〇生
 君は岐阜縣人齋藤莊兵衛の長男にして萬延元年十一月

齋藤 三郎 男 千葉縣多額納稅者、北總鐵道(株)代表取締役、酒造業、千葉縣在籍
 妻 明二、五〇生、現戸主
 君は千葉縣人小林英の弟にして明治二十年五月を以て生れ同四十一年齋藤岩松の養子となる酒造業を營み縣下の多額納稅者にして北總鐵道會社代表取締役たり養妹とく(明三三、二生)は分家し養叔母す(同二一、一六、五生、養祖父佐四郎四女)は千葉縣人合間勝太郎養子定次郎に同とめ(同二二、七生、同五女)は同縣人鏡才五郎に嫁せり(千葉、東葛飾、布佐町)

齋藤 四郎 男 岩手縣多額納稅者、農業
 妻 明三、三三生、岩手、齋藤勇馬長女
 君は岩手縣人川邊波治の四男にして明治二十六年九月を以て生れ齋藤ミトリの入夫となり大正十年家督を相續す農業を營み岩手縣多額納稅者たり家族は尙三男辰(大九、六生)長女和(同二一、二女)二女篤子(同二一、四、六生)妹エス(明三三、二生)大叔父盛(同二一、一〇、一〇生)同妻イマ(同二二、二生、高橋善五郎二女)あり(岩手、和賀、飯豊村)
 參照 高橋善五郎の項

齋藤 茂 男 茨城縣多額納稅者、結城染織(株)取締役、農業、茨城縣在籍
 妻 明二、三三、八生、埼玉、飯島文治郎
 君は茨城縣人齋藤麻之介の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十八年家督を相續す農業を營み傍ら結城染織會社の取締役に任じ茨城縣多額納稅者たり家族は尙三女ゆり(同八、一〇生)四女喜美子(同六、九、九、二男)五女孝子(同八、一〇生)七女幸子(同三、一〇、一〇生)同直(同二一、一〇、一〇生)同妻イマ(同二二、二生、高橋善五郎二女)あり(同三三、三三)同妻タメ(同三三、一〇、一〇生)あり弟三喜三郎(同二一、一〇、一〇生)同妻タメ(同三三、一〇、一〇生)あり(茨城、茨城、茨城)

齋藤 順三 男 安田銀行(株)取締役
 妻 明一、五二生、養父孝治長女
 君は岩手縣人菅原虎吉の二男にして明治十八年十月を以て生れ同四十五年先代金平の養子となり前名春吉を改め大正十五年家督を相續す同二年京都帝國大學法科大學を卒業し同六年檢事となり新潟地方裁判所檢事兼新潟區裁判所檢事を命ぜらる同八年警視廳警視に轉じ爾來大分縣警務署書記官警務部長を経て昭和二年群馬縣書記官警務部長に任ぜられ同三年前記現職に轉ず家族は尙四男日向(昭二、一〇生)あり(名古屋、内務部長官舎)

齋藤 正助 男 岐阜縣多額納稅者、多治見銀行(株)取締役、農業、岐阜縣在籍
 妻 明二、一〇生
 君は岐阜縣人齋藤莊兵衛の長男にして萬延元年十一月

齋藤 三郎 男 千葉縣多額納稅者、北總鐵道(株)代表取締役、酒造業、千葉縣在籍
 妻 明二、五〇生、現戸主
 君は千葉縣人小林英の弟にして明治二十年五月を以て生れ同四十一年齋藤岩松の養子となる酒造業を營み縣下の多額納稅者にして北總鐵道會社代表取締役たり養妹とく(明三三、二生)は分家し養叔母す(同二一、一六、五生、養祖父佐四郎四女)は千葉縣人合間勝太郎養子定次郎に同とめ(同二二、七生、同五女)は同縣人鏡才五郎に嫁せり(千葉、東葛飾、布佐町)

齋藤 四郎 男 岩手縣多額納稅者、農業
 妻 明三、三三生、岩手、齋藤勇馬長女
 君は岩手縣人川邊波治の四男にして明治二十六年九月を以て生れ齋藤ミトリの入夫となり大正十年家督を相續す農業を營み岩手縣多額納稅者たり家族は尙三男辰(大九、六生)長女和(同二一、二女)二女篤子(同二一、四、六生)妹エス(明三三、二生)大叔父盛(同二一、一〇、一〇生)同妻イマ(同二二、二生、高橋善五郎二女)あり(岩手、和賀、飯豊村)
 參照 高橋善五郎の項

齋藤 善三郎 大曾根土地、徳山炭礦各株取締
君は愛知縣人齋藤善七の長男にして明治十二年八月を以て生れ同四十五年家督を相続す同三十七年東京高等商業學校を卒業し現時大曾根土地會社及徳山炭礦會社の重役たり家族は尙三女千代子(大五、二生)四女鈔子(同六、一生)あり姉なみ(明元、八生)は分家せり(名古屋、中、大池町一、四五番三〇八六)

齋藤 善八 貴族院議員、埼玉縣多額納稅者、
君は埼玉縣人齋藤善三郎の三男にして同辨之助同福之助の從兄に當る慶應二年五月を以て生れ明治三十三年家督を相続す吳服商を營み縣下の多額納稅者にして現時選ばれて貴族院議員たる外前記諸銀行の重役たり家族は尙二男寅男(大三、二生)二女田鶴子(同五、六生)

齋藤 多賀 東京府在籍
君は東京府人齋藤乙次郎の二女にして明治八年四月を以て生れ大正十三年家督を相続す資産家たり(東京、本所、松坂町一、九)

齋藤 多三郎 福島縣多額納稅者、白河實業銀行
君は福島縣人先代多三郎の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十六年家督を相続と共に前名齋藤次郎を改め實業銀行頭取たり家族は尙六男武夫(明四二、一生)七男十一郎(大三、一生)九男信茂(同四三、三生)孫ミチ(大一〇、九生)長男多一郎長女同セツ(同一一、一〇生)同二女同順子(同一四、七生)同二女の外亡弟光之助の子あり長女タニ(明二三、二生)は福島縣人同大谷五平に三女テル(同三五、六生)は茨城縣人同永秀介四男三郎に妹タイ(同二五、五生)は福島縣人同瀨谷伊三郎二男磯吉に同トミ(同二五、一〇生)は栃木縣人同瀨谷春之助の弟に嫁し三男英治(同三三、三三)は福島縣人同金田新藏に弟保藏(同二八、二生)は同縣人同西和三郎に各養子となり同作藏(同二五、一生)は分家せり(福島、西白河、五箇村)
參照 大谷五平、神永秀介の項

廿之部 齋藤

(兼印は姻族關係)

サ七七

齋藤 宗宜 正五位勳三等、熊本縣知事
君は熊本縣人齋藤和作の弟にして明治十四年四月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十一生東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試験に合格す同四十二年山林事務官となり林務官群馬縣理事官山形縣宮城縣各縣警察部長高知縣熊本縣各縣内務部長に任じ大正十一年宮崎縣知事に進み現時熊本縣知事たり家族は尙二男申二(大四、八生)三男靖(同七、六生)四男健輔(同二〇、八生)五男總明(同二一、二生)六男十五郎(同二五、八生)あり(熊本縣知事官舎)
參照 齋藤和作の項

齋藤 宗四郎 茨城縣多額納稅者、農業
君は茨城縣人齋藤治衛門の長男にして安政三年九月を以て生れ明治三十一年家督を繼承し農業を營み茨城縣多額納稅者たり家族は尙孫ふじ(大六、二生)亡養子半七(同二、一生)同定斗(同七、一生)同四男あり弟富之介(文久二、一生)同妻きく(安政六、九生)茨城、新治、安飾村)
孫 徳次 大二、一生、亡養子半七長女
孫 徳次 大二、一生、亡養子半七長女

齋藤 隆夫 勳四等、衆議院議員(兵庫縣選出)
君は兵庫縣人齋藤正規の叔父にして明治三年八月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同二十七年東京專門學校法政科を卒業し更に米國エール大學院を卒業し歸朝後辯護士を開業し一般法律事務に従事す大正元年以來衆議院議員に當選する事五回立憲民政黨の副將たり議に萬國議員會議萬國議院商會等に參列し大正三四年事件の功に依り勳四等に叙せらる帝國憲法論比較國會議論及他の著書あり家族は尙二男高義(大五、七生)三男義道(同二〇、三三)四女愛子(同二一、一生)四男義政(同二一、一〇生)あり(東京市品川町北品川宿御殿山三一五電高輪五三七六)

齋藤 琢磨 高知縣多額納稅者
君は高知縣人齋藤省馬の長男にして明治二十六年六月を以て生れ大正二年家督を相続す豪商にして現に縣下の多額納稅者たり家族は尙長女初子(大八、二生)あり(高知市雜場町四八)
參照 濱田彦藏の項

齋藤 太兵衛
君は福島縣人先代善三郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ大正四年家督を相続と共に前名長藏を改む茶商を營み現に福島縣多額納稅者たり家族は尙四女(大五、五生)五女伸(同七、六生)五男正男(同二、一生)六女光代(同二五、五生)孫芳子(昭二、一生)二男二郎長女あり(福島縣若松市上ノ町)

齋藤 丈雄 北海道多額納稅者、北海道銀行
君は北海道人齋藤三郎の孫にして明治四年三月を以て生れ同四十年家督を相続す漁業を營み現に北海道銀行取締役にして北海道多額納稅者たり家族は尙四男丈文(大五、六生)孫三雄(同二五、二生)長男丈一(長男泉藏に二女代世(同三三、九生)は北海道人佐藤正男に嫁し弟嘉七(同八、一生)同妻ヨカ(同四一、八生)北海道、加藤初五郎長女)は其子女と共に分家し叔母チセ(同三三、七生)も亦分家し弟啓吉(同二七、九生)は北海道人藤田晋吉二女ヨキの新養子となれり(北海道、積丹、入舂村)
參照 佐藤正男、澤口庄助、澤口良藏の項

齋藤 武 千葉縣農工銀行(株)支配人
君は千葉縣人齋藤清一郎の弟にして明治二十三年十一月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す現に千葉縣農工銀行支配人たり家族は尙長女たか子(大七、二生)二女敬子(同九、一生)二男正章(同二一、八生)三女女(同二四、五生)あり(千葉、君津、松丘村)
參照 齋藤清一郎の項

齋藤 武夫 日本郵船(株)上海支店長
君は岡山縣人齋藤敬止の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十六年東京外

廿之部 齋藤

(兼印は姻族關係)

サ七七

國語學校佛語科を卒業し直に日本郵船會社に入り本店...

齋藤千代次郎 宮崎縣多額納稅者、日向銀行(株)...

齋藤忠之丞 岩手縣多額納稅者、黒澤尻電氣(株)...

齋藤忠平 福島縣多額納稅者、福島縣在籍...

齋藤忠之丞 岩手縣多額納稅者、黒澤尻電氣(株)...

齋藤忠平 福島縣多額納稅者、福島縣在籍...

齋藤忠平 福島縣多額納稅者、福島縣在籍...

妻 忠八郎 慶應二、六生、養父忠平長女...

齋藤長八郎 瓦斯管販賣(株)取締役、鐵管及鐵...

齋藤恒一 東洋紡績(株)監査役、愛知縣土族...

齋藤恒三 安政五、一〇生、現戸主...

齋藤恒四 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒五 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒六 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒七 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒八 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒九 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒十 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒十一 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒十二 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒十三 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

齋藤恒十四 安政四、六生、工學博士笠井愛次...

卒業し三井物産會社に勤務せしも現時東洋紡績會社監...

齋藤恒三 工學博士、明治銀行、豊田式織機...

齋藤恒四 弘化三、一一生、山口、士、南來...

齋藤恒五 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒六 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒七 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒八 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒九 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十一 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十二 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十三 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十四 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十五 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十六 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十七 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十八 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒十九 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒二十 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒二十一 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒二十二 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒二十三 明二、九、八生、養父恒三二女...

齋藤恒二十四 明二、九、八生、養父恒三二女...

(明七、四生、現戸主)同妻ミヅ(同二二、一一生、佐賀、西牟田豊民妹)及其子女...

齋藤貞一 正五位勳五等、逓信技術、管船局...

齋藤貞二 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞三 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞四 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞五 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞六 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞七 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞八 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞九 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十一 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十二 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

君は舊福山藩士齋藤二介の長男にして明治十一年三月...

齋藤貞一 正五位勳五等、逓信技術、管船局...

齋藤貞二 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞三 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞四 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞五 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞六 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞七 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞八 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞九 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十一 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十二 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

君は舊福山藩士齋藤二介の長男にして明治十一年三月...

齋藤貞一 正五位勳五等、逓信技術、管船局...

齋藤貞二 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞三 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞四 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞五 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞六 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞七 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞八 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞九 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十一 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

齋藤貞十二 明二、五、三三、岡山、士、戸川錦...

て生れ明治十三年家督を相続す現に前記銀行會社の重役たり家族は尚孫千代子(大五、三生、養子隆三長女)弟三郎(文久元、一生)同妻た(明六、六生、英城、飯田吉藏三女)あり養子あり(同一八、八生、千葉、荒川悦妹)は茨城縣人橋谷辨吉弟庄次郎に嫁せり(水戸、上市備前町)

齋藤 斐章 從四位勳三等、東京高等師範學校教授、東京府在籍

妻 フサノ 明八、八生、岩手、伊藤金吾長女

男 允 明二五、二生、正七位、大邱府審判院判事

男 ハマヨ 明二九、九生、長男允妻、廣島、岩本與一、二女

男 直路 明三二、二生、農學士

男 安路 明三四、二生、經濟學士

君は岩手縣人齋藤陽之進の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治二十四年家督を相続す同三十二年東京高等師範學校文科を卒業し東京府師範學校調練兼教授に任じ同三十五年東京高等師範學校助教授に轉任し同三十九年教諭同四十年同校教授に進み歴史及同教授法研究の爲め歐米諸國に留學し同四十四年歸朝す大正九年東京高等師範學校附屬中學校主事を命ぜられ昭和三年之を辭し爾來今日に至る三男正路(明三〇、四生、經濟學士)六男公路(同三七、一生)は各分家せり(東京、小石川、白山御殿町一〇七電小石川四五四)

齋藤彦太郎 新潟縣多額納稅者、新潟興業貯蓄銀行、新潟電氣、日本電氣工業各(株)取締役、農業、新潟縣在籍

妻 ウタ 明元、一生、新潟、石附傳一郎長女

男 サタ 明一、一生、新潟、伊藤右作長女

男 徳太郎 明三三、二生

男 キクエ 明三六、九生、長男徳太郎妻、新潟、五十嵐甚藏長女

男 ノブ 明三四、九生

男 辰衛 明三八、一生

女 菜久 大元、二生

君は新潟縣人齋藤美誠の長男にして明治七年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す現に慶應義塾に學び農業を營み現に新潟縣多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり家族は尚三男康男(明四三、七生)五女ミチ(大六、九生)あり長女トミ(明三一、五生)は新潟縣人笹川策次郎長男只一に叔母キイ(同五、五生)は同縣人山際茂一郎に嫁し弟久夫(同六、一〇生)は同妻トコト(同二、一〇生、新潟、伊藤千穂妹)及其子女を伴ひ同五郎(同一八、二生)は同妻トシ(同二七、二生)新潟、荒木彰吉妹)及其子女を伴ひ各分家し叔父讓七郎(同一七、二生)は新潟縣人花井キミの養子となれり(新潟、北蒲原、安田村)

齋藤 恆 正五位勳二等功四級、陸軍少將、關東軍參謀長、石川縣土族

妻 れん 明一八、一生、愛知、山本忠一長女

君は石川縣人齋藤恒國の男にして明治十年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す現に陸軍士官學校を卒業し同三十二年陸軍歩兵少尉に任じ大正十二年陸軍少將に果進す其間陸軍大學校を卒業し歩兵第六聯隊附參謀本部員北京公使館附補佐官上海駐在武官吉林督軍顧問歩兵第十一聯隊長參謀本部課長歩兵第四旅團長士官學校科長教育總監部附歩兵第四旅團長教育總監部附等に歴補し大正十四年關東軍參謀長に補せられ現時其職にあり家族は尚弟齊(明二二、一〇生、王子製紙會社員)同妻芳子(同二九、二生、石川、岡本純太郎妹)との間に子女あり妹梢(同一九、四生)は香川縣人大木謙吉に嫁せり(旅順、千歲町二八)

齋藤秀三郎 從六位勳五等、正則英語學校長、宮城縣土族

妻 とら 明三、一生、東京、土、前島震太郎妹

男 秀雄 明三五、五生、音樂家

女 ミドリ 明三一、七生、米國ボストン大學出身

男 敦子 明三七、四生、聖心女學院出身

女 武彦 明三八、一生、盛岡高等農林學校在學

君は東京府人齋藤辨之助の弟にして同善八の從弟なり明治十五年二月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同年東京高等商業學校專攻科を卒業し直に豐國銀行に入り本店貸附課長より營業部長に進み大正十一年取締役に擧げられ淺草支店長を兼ね現在に至る義に關東工業會社取締役たりし事あり觀世流謡曲を嗜み東京市を娛む家族は尚二女薰子(大八、四生)あり(東京市、外東鴨町上駒込傳中一三〇電小石川一四一)

子與作長女)同耕治(昭二、一〇生、同二男)あり三男長六(大五、三生)は外戚唐牛五郎の養子となれり(青森市寺町)

齋藤 博 正五位勳四等、總領事、紐育駐在、新潟縣土族

妻 美代 明二八、三生、男爵長與立吉姉

母 ツル 明二、二生、福岡、熊本吉兵衛二女

君は新潟縣土族齋藤三郎の長男にして明治十九年十二月を以て生れ同三十九年家督を相続す同四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し外交官領事官試験に合格す爾來外交官補大使館三等書記官同二等書記官領事に任じ大正十二年總領事に任ぜらる此間英國領事に勤務しシヤトルを経て現時紐育に駐在す義に關し全權委員隨員賠償問題に關する會議の帝國政府代表委員國際聯盟總會第一回會議帝國代表隨員ワシントン會議全權委員隨員等を命ぜられ各會議に列す家族は尚長女祥子(大五、二生)妹悦子(明三九、二生)あり同珪子(同三四、八生、三輪田高等女學校出身)は兵庫縣人吉積泰に嫁せり(紐育、帝國總領事館)

齋藤 廣二 運送業、兵庫縣在籍

妻 はな五 明一〇、四生、兵庫、土、中村と

君は兵庫縣人齋藤英四郎の二男にして明治八年四月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す運送業を營む家族は尚孫富美子(大五、八生、養子芳雄長女)同英子(同九、七生、同二女)あり長女富江(明三一、一生)は分家し二女政江(同三二、六生)は兵庫縣人杉田繁治に嫁せり(神戸、西須磨、西野中六)

齋藤福之助 豐國銀行(株)取締役兼淺草支店長、東京府在籍

妻 朝子 明二、九生、男爵尾崎海盛妹、女子學院出身

女 靜惠 明四〇、九生、お茶水高等女學校出身

君は新潟縣人齋藤美誠の長男にして明治七年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す現に慶應義塾に學び農業を營み現に新潟縣多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり家族は尚三男康男(明四三、七生)五女ミチ(大六、九生)あり長女トミ(明三一、五生)は新潟縣人笹川策次郎長男只一に叔母キイ(同五、五生)は同縣人山際茂一郎に嫁し弟久夫(同六、一〇生)は同妻トコト(同二、一〇生、新潟、伊藤千穂妹)及其子女を伴ひ同五郎(同一八、二生)は同妻トシ(同二七、二生)新潟、荒木彰吉妹)及其子女を伴ひ各分家し叔父讓七郎(同一七、二生)は新潟縣人花井キミの養子となれり(新潟、北蒲原、安田村)

齋藤房次郎 酒造業、大阪府在籍

妻 テイ 明四〇、三生、京都、大野英夫婦

女 悦 明四四、一生

君は大阪府人齋藤房吉の長男にして明治十二年九月を以て生れ同十三年家督を相続す酒造業を營む家族は尚三女弘子(大九、四生)あり姉は(明五、八生)弟房之助(同一七、八生)は各分家し同房之助(同一九、四生)は同妻ジツ(同二六、九生、奈良、八木廣吉妹)及び其子女を伴ひ亦分家し姉ひき(同七、一生)は大阪府人霜井甚兵衛に同かつ(同一〇、四生)は同府人西山半兵衛長男奉次郎に嫁せり(大阪、北、南森町七〇電北三五二〇)

齋藤 平治 木谷黒鉛電化(株)專務取締役、富山縣在籍

妻 ます 明一七、七生、富山、木谷宇平二女

君は富山縣人齋藤常次郎の長男にして明治十一年一月を以て生れ同四十五年先代祖父平治の後を承け家督を相続し前名嘉廣を改む現時前記會社の重役たり二男景二(明三七、六生)二女彰子(大一二、一生)は共に富山縣人木谷宇平の養子となれり(富山、東郷波、青島村)

齋藤 萬壽雄 千葉縣多額納稅者、農業、千葉縣在籍

妻 まん 慶應二、六生、祖父甚助長女

女 ちよ 明二六、六生、千葉、清水要藏長女

男 萬石衛文 大二、八生

君は千葉縣人齋藤甚助の孫にして明治二十二年五月を以て生れ大正元年家督を相続す農業を營み縣下の多額

齋藤彌三郎

旭川市議員、北星石、北日本工業(板橋製米各株)代表取締役、北海道在籍

- 妻 イナ 明一六、一、新湯、太田キミ
男 省三 明三〇、一、二、三
男 つぐ 明三六、一、二、三、長男省三妻、北海道、本間十一、二女
男 三郎 明三四、九、三
養子 サク 明三九、三、三、三男三郎妻、新潟、太田キミ孫
男 信四郎 明三七、九、三

齋藤彌四郎

東京府在籍

- 養母 ミカ 弘化四、一、生、東京、佐藤カン長
妻 文久三、二、生
妻 とし 明二〇、一、二、生、東京、石井慶次郎
男 保夫 明四二、一、二、生

齋藤要七

桔梗屋、洋服商、東京府在籍

君は東京府人齋藤助吉の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十五年先代との入夫となり家督を相続し前名昌盛を改む農業を營む家族は尙二男同文(大、二、三)三男敏夫(同四、一)四男昌志(同七、一、二)長女文子(同二、一)二女昌子(同三、一、八)あり養妹かね(明二二、一〇)生は東京府人淺香銀次郎に嫁し養妹かん(慶應三、一)生は同府人金子新右衛門の繼母にして同あき(明四、九)生は同府人丹羽茂右衛門の母たり(東京市外王子町豊島一四四六)
参照 淺香銀治郎、金子新右衛門、丹羽茂右衛門の項

齋藤彌太郎

秋田縣多額納税者、岩谷酒造(株)社長、酒造業、秋田縣在籍

- 妻 キヨノ 明一八、四、生、秋田、永井慶吉長女
養子 磯次 明二二、一、生、養子磯次妻、秋田、桃井彌三郎二男
養子 チヨ 明二四、二、生、養子磯次妻、秋田、齋藤重左衛門孫
君は秋田縣人田口喜四郎の長男にして明治元年十月を以て生れ後ち齋藤重左衛門の養子となり同三十五年分家して一家を創立す酒造業を營み岩谷酒造會社社長にして同縣多額納税者たり家族は尙孫彌三郎(大元、一、一)生、養子磯次長男(同四、五、生、同二男)同四郎(同三、九、生、同四男)同五郎(同五、九、生、同五男)あり繼子セツ(明三三、四、生、秋田、永井慶吉孫)は秋田縣人小嶋林次郎長男健之助に嫁せり(秋田、由利、本庄町)

齋藤安雄

納税者、貴族院議員、埼玉縣多額納税者、埼玉農工銀行(株)頭取、製粉各(株)取締役、埼玉縣在籍

君は埼玉縣人齋藤雄之助の長男にして慶應元年六月を以て生れ明治十二年家督を相続し前名慶之助を改め襲名す夙に埼玉縣師範學校を卒業し數度埼玉縣會議員衆議院議員等に當選す現時埼玉農工銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役を兼ね埼玉縣多額納税者として貴族院議員に互選せらるる家族は尙孫彌(大、二、二)生、長男馨之助(同五、一)生、同二女、同二女、及姉ふみ(文久二、一〇)生あり長女サヲ(明二三、六)生は群馬縣人新島三郎長男照太郎に三女キキ(同二七、二)生は同縣人宮木俊次に四女アヤ(同二九、一)生は栃木縣人加藤正信第八に嫁し弟志郎(同九、一、二)生

齋藤勇次郎

山水會、ラムネ製造業、東京府在籍

君は千葉縣人齋藤林之助の弟にして明治十一年三月を以て生れ同三十年家督を相続す山水會と稱しラムネ製造業を營む家族は尙二女静子(大、三、九)生、三女登美子(同六、一)生、七男敏雄(同九、一)生、八男貞男(同三、八)生あり五男清(明四四、一)生は千葉縣人佐藤林之助の養子となれり(東京、麻布、宮村町八電番山二七九三)
参照 齋藤與二郎、福井縣多額納税者、農業

齋藤與二郎

福井縣多額納税者、農業

君は福井縣人齋藤與平の三男にして明治十五年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す縣下の豪農にして現に多額納税者の班に列す家族は尙長女三千代(大、五、三)生あり(福井、今立、舟津村)
参照 齋藤與平、今立、舟津村の項

齋藤義夫

正五位勳二等功四級、陸軍少將、東京府在籍

君は東京府人齋藤雄一の弟にして明治十一年六月を以て生れ同三十二年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ大正十二年陸軍少將に昇進す其間陸軍大學校を卒業し爾來陸軍省副官歩兵第三聯隊大隊長第十七師團參謀朝鮮總督府副官兼元帥副官歩兵第六十聯隊長陸軍陸洲派遣軍參謀長歩兵第二十四旅團長第十四師團司令部附等に歴補し第十四師團滿洲駐劄の爲第十四師團留守隊司令官に補せられ現時其職にあり日露戰役

齋藤義夫

正五位勳二等功四級、陸軍少將、東京府在籍

君は東京府人齋藤雄一の弟にして明治十一年六月を以て生れ同三十二年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ大正十二年陸軍少將に昇進す其間陸軍大學校を卒業し爾來陸軍省副官歩兵第三聯隊大隊長第十七師團參謀朝鮮總督府副官兼元帥副官歩兵第六十聯隊長陸軍陸洲派遣軍參謀長歩兵第二十四旅團長第十四師團司令部附等に歴補し第十四師團滿洲駐劄の爲第十四師團留守隊司令官に補せられ現時其職にあり日露戰役

齋藤良清

高島屋飯田(株)取締役兼支配人、東京府在籍

君は福島縣人齋藤良清の長男にして明治十三年十一月を以て生れ大正元年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し外交官及領事官試験に合格し領事官補となり天津漢口オタワに在勤す爾來領事外務書記官同事務官通商局第一課長大使館二等書記官情報部第一課長外務省參事官兼農商務書記官總領事に歴任し大正十五年外務省通商局長に進み後之を辭し昭和二年南滿洲鐵道會社に入り現時同社理事たり家族は尙二男大九、二、生、弟實(明二五、一)生、同妻良(同三四、一)生、福島、野地榮長女及其二男一女あり(大連、南滿洲鐵道會社宅)

齋藤芳房

高田農商銀行、東京護謄各(株)監査役、福島縣在籍

君は福島縣人齋藤鐵治郎の二男にして明治十五年九月を以て生れ大正十二年家督を相続す現時銀行會社の重役たり家族は尙二男俊(明四三、九)生、三男正(大、一)生、四男勳(同四、一)生、長女和子(同九、一)生、六男尙之(同二、四)生、七男生自(昭二、一)生、の兄弟忠明(一九、一)生、同妻ツメ(同二四、一)生、福島、佐藤七郎長女及弟義身(同二二、三)生と各其子女あり(東京市外落合下落合一九七六)

齋藤義雄

靜岡縣多額納税者、東雲堂(株)取締役、谷島屋、書籍及運動具商、靜岡縣在籍

君は靜岡縣人中村東海の七男にして明治二十四年十月を以て生れ先代源三郎の養子となり大正九年家督を相続す同三年慶應義塾理財科を卒業し谷島屋と稱し書籍及運動具商を營み傍ら現時東雲堂書店取締役にして靜岡縣多額納税者たり家族は尙長女冬子(大、八、一)生、三男和雄(同三、三)生あり(濱松、連尺町二七)
参照 男爵宇佐川正雄の項

齋藤義政

千正屋、果實商、東京府在籍

君は千葉縣人齋藤林之助の弟にして明治十一年三月を以て生れ同三十年家督を相続す山水會と稱しラムネ製造業を營む家族は尙二女静子(大、三、九)生、三女登美子(同六、一)生、七男敏雄(同九、一)生、八男貞男(同三、八)生あり五男清(明四四、一)生は千葉縣人佐藤林之助の養子となれり(東京、麻布、宮村町八電番山二七九三)
参照 齋藤與二郎、福井縣多額納税者、農業

なり義政明治二十七年頃千正屋と稱して銀座に果物店を開き...

齋藤 利助

君は福島縣人桑名清兵衛の弟にして明治六年八月を以て...

齋藤 理助

君は宮城縣人先代理助の長男にして明治二十九年九月を以て...

一、二生、同薫子(同四三、二生)は共に其家籍に入り同...

齋藤 和太郎

君は千葉縣土佐和知季治の長男にして元治元年五月を以て...

雜賀 啓次郎

君は鳥取縣人雜賀實徳の弟にして慶應二年一月を以て...

七種 純一郎

君は東京府土佐坂井彦彌の長男にして明治四年四月を以て...

坂井 勝造

君は廣島縣土佐坂井の長男にして明治十六年二月を以て...

坂井 小三郎

君は新潟縣多額納稅者、農業。新潟縣在籍。安政四、五生、新潟、佐藤定吉二女...

君は長崎縣土佐七種周の長男にして明治七年八月を以て...

竿田 秀靜

君は愛媛縣土佐竿田秀雄の長男にして明治五年五月を以て...

坂 敬

君は長崎縣土佐岩永八之丞の弟にして明治五年十一月を以て...

坂 敬

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 權吉

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 定吉

君は北海道人佐野平右衛門の弟にして明治三年三月を以て...

君は静岡縣人坂修の弟にして安政二年十二月を以て...

坂井 郁太郎

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 英太郎

君は新潟縣人坂井小三郎の長男にして安政二年三月を以て...

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 權吉

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 定吉

君は北海道人佐野平右衛門の弟にして明治三年三月を以て...

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 權吉

君は新潟縣人坂井權吉の長男にして明治二十年十二月を以て...

坂井 定吉

君は北海道人佐野平右衛門の弟にして明治三年三月を以て...

坂口 外重 東北銀行(株)取締役
長野縣在籍
母 ヤナ 萬延元、一一生、長野、坂口喜作
妻 たの 明一五、三三、長野、田中市之助
男 袈裟一 明四三、三三
君は長野縣人坂口袈裟重の長男にして明治十三年九月を以て生れ大正二年家督を相続す現時東北銀行取締役たり家族は尙二男勝儀(大四、二生)あり長女けさ(三、三八、九生)は長野縣人田中泰藏に嫁し弟吉十郎(同二、四生)は同妻な(同二〇、三三、長野、宮坂佐藏三女)及其一子と共に分家せり(長野、小縣、長村)

坂口 豊藏 米子製鋼所、八頭木材各(株)社長、米子銀行(株)副社長、山陰電氣(株)副社長、米子埠場、米子電氣軌道、山陰日々新聞社各(株)取締役、日本製糖、皆生温泉土地各(株)監査役、鳥取縣在籍
妻 養父 平兵衛 安政元、六生
妻 とみ 明九、二生、鳥根、石橋正彦姉
養子 清太郎 明三九、二生、養父平兵衛庶子、生母 鳥取、都田たみ
君は鳥取縣人坂口平吉郎の五男にして明治五年一月を以て生れ兄平兵衛の養子となり大正九年家督を相続す現時米子製鋼所社長たる外前記銀行會社の重役として知らるる家族は尙養妹由子(明四四、三三)養弟純三(大六、二生)あり長男晋一郎(明二六、一一生)は其妻フミ子(同二七、六生、鳥根、坂口常次郎長女)は其夫武市と共に其一子を伴ひ同壽(同三六、二生)は其夫二郎(同二八、一一生)と共に養叔母はる(慶應元、八生)は其夫藤治郎(安政五、六生、鳥取、佐藤卯平二男)と共に一子を伴ひ養叔父惣五郎(明三、一一生)は其妻子を伴ひ各分家せり(米子、尾高町)
參照 石橋正彦、坂口惣五郎、坂口平兵衛、三島盛之助、金藤英夫の項

坂口 彦三郎 大阪株式取引所一般取引員
大阪府在籍
妻 リヤウ 明四五、六生、大阪、多田幸吉妹
庶子 徳次郎 明四五、四生、生母、大阪、山口

坂倉 嘉十郎 織物商在籍
妻 しやう 明一四、四生、愛知、河合茂助長女
男 嘉貞 明三四、八生
君は愛知縣人伊藤仁兵衛の弟にして明治十年九月を以て生れ後先代嘉十郎の養子となり大正十年家督を相続と共に前名貞五郎を改む織物商營む家族は尙二男友次郎(明四四、二生)三男三郎(大八、〇生)あり長女よね(明三七、一一生)は愛知縣人尾崎玉峰に二女きん(同四〇、一〇生)は同縣人加藤亮造に嫁せり(名古屋、東、小市場町三ノ三、電東一三八一)

坂倉 吉兵衛 正八位、駿河屋、米穀商
東京府在籍
妻 きこ 明三八、八生、先々代吉兵衛長女
庶子 長女 明三八、八生、東京、早苗平兵衛

坂倉 又吉 岐阜縣多額納稅者、竹鼻銀行(株)頭取、竹鼻鐵道(株)取締役、工業
岐阜縣在籍
妻 あい 明二八、四生、岐阜、岡本太右衛門長女
男 吉之 大八、一一生
君は岐阜縣人坂倉又吉の長男にして明治十六年十二月を以て生れ後前名宗藏を改め大正八年家督を相続す工業を營み縣下の多額納稅者にして現に竹鼻銀行頭取たる外前記會社の重役として知らるる家族は尙二女重子(大五、一一生)三女新子(同二一、九生)二男重一(四五、二生)あり姉かつ(明三一、〇生)は岐阜縣人岡本太右衛門の母にして妹さだ(同一九、五生)は愛知縣人加藤久次郎長男久太郎に嫁し(同三〇、一〇生)は岐阜縣人木村孝一に同茂登同三六、一一生)は愛知縣人(西川敏彦に嫁し弟重重(同二一、一一生)は岐阜縣人助川富子の養子となり家督を相続して文平と改名し同善治(同二五、一一生)は同縣人日比三三九の養子となり同善三(同三四、五生)は分家せり(岐阜、羽鳥、竹ヶ鼻町)
參照 岡本太右衛門、加藤久次郎、助川文平、宗藏、平左衛門、宗精、谷越右衛門、佐藤信之助、鈴木徳一郎の項

坂倉 平兵衛 米子銀行(株)頭取、日本製糖、山陰電氣(株)博愛病院各(株)社長、米子埠場(株)取締役、鳥取縣在籍
妻 養子 豊藏 明五、一一生、現戸主
君は鳥取縣人坂口平吉郎の長男にして同惣五郎の兄同二郎の養父なり安政元年六月を以て生れ明治十四年家督を相続し大正九年隱退す現時米子銀行頭取たる外前記會社の重役として知らるる義に實業獎勵の廉を以て藍綬褒章を賜はり又多額納稅者として貴族院議員に互選せらる(米子市)
參照 坂口二郎、坂口惣五郎、坂口豊藏の項

坂田 清兵衛 埼玉縣多額納稅者、煙草元賣捌業
埼玉縣在籍
妻 やす 明一四、一〇生、埼玉、柴崎宗十郎孫
男 清一郎 明三七、五生
男 正之助 明四一、四生
君は埼玉縣人坂田彌三郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ先代清兵衛の養子となり同十七年家督を相続し前名徳三郎を改む煙草元賣捌業を營み埼玉縣多額納稅者たり(埼玉、大里、熊谷町)

坂田 正藏 大阪三品取引所取引員
和歌山縣在籍
妻 ふし 明二五、六生、和歌山、中島松太郎長女
男 誠造 大八、二生
男 花 明四四、一一生
君は和歌山縣人坂田彌平衛の二男にして明治十八年三月を以て生れ同三十年分家して一家を創立す現に大阪三品取引所取引員たり家族は尙三女夫紀子(大一一、四生)あり(大阪、東、南久太郎町三ノ一六、電船場四九九)

坂田 秋生 坂海銀行(株)取締役
富山縣在籍
妻 あやの 明二七、四生、富山、加賀谷四郎二女
男 昕生 大五、四生
女 規子 大二、一一生
君は富山縣人坂田三郎の三男にして明治二十四年九月を以て生れ同三十三年家督を相続す現時坂海銀行取締役たり姉うた(明一四、一一生)は其一女を伴ひ分家し同こと(同二七、二生)は富山縣人吉野敬太郎に嫁せり(富山、西礪波、埴生村)
參照 加賀谷四郎、坂田兵四郎の項

坂田 啓次郎 靜岡縣多額納稅者、志田銀行(株)取締役、靜岡縣在籍
妻 房次 明四一、一一生
女 喜美子 大二、二生
君は靜岡縣人坂田宇吉の長男にして明治八年二月を以て生れ大正四年家督を相続す現時志田銀行取締役にしつて靜岡縣多額納稅者たり(靜岡、志太、六合村)
參照 沖健雄、富安保太郎、中村敬止の項

坂田 清兵衛 埼玉縣多額納稅者、煙草元賣捌業
埼玉縣在籍
妻 やす 明一四、一〇生、埼玉、柴崎宗十郎孫
男 清一郎 明三七、五生
男 正之助 明四一、四生
君は埼玉縣人坂田彌三郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ先代清兵衛の養子となり同十七年家督を相続し前名徳三郎を改む煙草元賣捌業を營み埼玉縣多額納稅者たり(埼玉、大里、熊谷町)

坂田 丑五郎 千佳製水(株)専務取締役、赤羽製水(株)監査役、日本製米(株)相談役、東京府在籍
妻 ひろ 明一二、三三、静岡、石井八十八姉
君は群馬縣人坂田幸四郎の二男にして明治十六年八月を以て生れ同四十年分家して一家を創立す現時千佳製水會社専務取締役にたる外前記各會社の重役を兼ねる家族は尙長女富枝(大一一、六生)あり(東京、淺草、田島町九七、電淺草二二三)

坂田 作治郎 大阪美術俱樂部(株)監査役、茶器商、大阪府在籍
妻 てい 明九、九生、大阪、尾張まつ長女
養子 慎三郎 明二八、三三、長女榮夫、岡山、藤波信太郎弟、早稻田大學理工科電氣工學科出身
明三七、七生、養子慎三郎妻、大阪府立市岡高等女學校出身
明三三、七生、養子慎三郎妻、大阪府立市岡高等女學校出身
君は大阪府人坂田福之助の弟にして明治五年十月を以て生れ同十九年分家して一家を創立す茶器商を營み傍ら大阪美術俱樂部監査役にたり家族は尙孫安佐(大一一、一一生)、養子慎三郎長女(同四一、五五、同長男)あり(大阪、東、伏見町四ノ三六、電本局一七〇三)
參照 濱生隆一の項

坂田 耐二 日本晝夜銀行(株)横濱支店長
東京府在籍
妻 よし 明二三、二生、東京、森孫三郎二女
男 丈雄 大二、一一生
男 滋子 明四四、一一生
君の先代丈平は警軒と號し坂谷則盧の後を享け岡山縣後月郡の興讓館に於て久しく青年の育英に盡し碩儒として知られ從五位を追贈せらる君は其二男にして明治十二年二月を以て生れ同三十二年家督を相続す男爵阪谷芳郎は君の再從兄たり同年第百銀行に入り業務に従ふこと十五年大正三年之を辭し中央生命保險株式會社鐵道各會社計課長淺野晝夜銀行支配人等に歴任し現時日本晝夜銀行横濱支店長たり家族は尙二女恒子(大七、六生)三女順子(同九、八生)三男達三郎(同二二、二生)四男徳四郎(同四、七生)及姉明(明七、三三)あり

坂田 關次郎 福岡縣多額納稅者、農業
福岡縣在籍
妻 豊 明一二、五生、長男豊杯妻、福岡
男 豊杯 明一三、一一生、長男豊杯妻、福岡
女 タケ 明三六、九生、長男豊杯長女
孫 シノブ 明三九、四生、長男豊杯長男
孫 敏時 明四二、二生、長男豊杯二女
孫 ふみ 明四二、二生、長男豊杯二女
君は福岡縣人坂田孫市の長男にして弘化三年六月を以て生れ明治元年家督を相続す農業を營み現に福岡縣

坂田 三郎 大正屋吳服店(株)取締役、家主
大阪府在籍
妻 スエ 明二四、四生、奈良、土、關根一妹
男 正治 大二、一一生
女 フミ 明四〇、九生、樟蔭高等女學校出身
女 節子 明四二、二生、樟蔭專門學校在學
君は大阪府人坂田三郎の三男にして明治十三年八月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す家主にして大正屋吳服店取締役にたり家族は尙四男利男(大五、一一生)

坂田 清兵衛 埼玉縣多額納稅者、煙草元賣捌業
埼玉縣在籍
妻 やす 明一四、一〇生、埼玉、柴崎宗十郎孫
男 清一郎 明三七、五生
男 正之助 明四一、四生
君は埼玉縣人坂田彌三郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ先代清兵衛の養子となり同十七年家督を相続し前名徳三郎を改む煙草元賣捌業を營み埼玉縣多額納稅者たり(埼玉、大里、熊谷町)

リ弟孫三(同一五、六生)は分家せり(東京、赤坂、青山南町五ノ一二電番山一八三〇)

坂田 貞 貴族院議員、熊本縣多額納税者、九州新聞社(株)監査役、農業

坂田 昌亮 従五位、内務技師、新潟土木出張所勤務、熊本縣士族

坂田 昌亮 従五位、内務技師、新潟土木出張所勤務、熊本縣士族

坂田 昌亮 従五位、内務技師、新潟土木出張所勤務、熊本縣士族

坂田 昌亮 従五位、内務技師、新潟土木出張所勤務、熊本縣士族

坂田 幹太 従四位勳四等、大阪合同紡績(株)取締役、同興紡績(株)監査役

坂田 安次郎 沖繩縣多額納税者

坂田 保之助 坂田保之助商店(代表社員) 兵庫縣在籍

坂田 保之助 坂田保之助商店(代表社員) 兵庫縣在籍

坂田 和太郎 土木建築請負業 岡山縣在籍

坂田 和太郎 土木建築請負業 岡山縣在籍

坂田 和太郎 土木建築請負業 岡山縣在籍

坂田 和太郎 土木建築請負業 岡山縣在籍

あり長女頼(明三六、九生)は高知縣人堀見章長男東一に嫁せり(西宮、南郷山)

坂梨 哲 山本興業、坂梨商事各(株)取締役 福岡縣士族

坂梨 哲 山本興業、坂梨商事各(株)取締役 福岡縣士族

坂根 惣太 高知縣多額納税者

坂根 惣太 高知縣多額納税者

坂根 惣太 高知縣多額納税者

坂野 伊左衛門 茨城縣多額納税者、農業

坂野 伊左衛門 茨城縣多額納税者、農業

坂野 喜太郎 高知縣多額納税者

坂野 喜太郎 高知縣多額納税者

坂野 喜太郎 高知縣多額納税者

坂野 常善 従五位勳三等功四級、海軍大佐、大阪府附武官、米國在勤

坂野 常善 従五位勳三等功四級、海軍大佐、大阪府附武官、米國在勤

坂野 鐵次郎 正四位勳三等、片上鐵道、中國合同電氣各(株)社長、大阪船渠造

坂野 鐵次郎 正四位勳三等、片上鐵道、中國合同電氣各(株)社長、大阪船渠造

臺中市勸業委員同會事業委員たり家族は尙二男南海男大(一、九生)三男三男(同五、一、二生)四男土佐男(同九、二生)孫和子(昭二、三、生、長男清長女)あり三女不三子(明四二、二生)は高知縣人槍垣秀雄に嫁せり(臺中、大正町六一〇) 参照 坂本四郎、坂本信道、須藤八九郎、上田紫朗

坂本 宗藏 日本郵船(株)社員 岩手縣在籍 妻 康 明二七、一、生、東京、橋本寛姉 男 宗雄 大10、一、生 女 百合子 明四四、六、生

君は岩手縣人坂本久治の長男にして明治十年九月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し日本郵船社に入り人事課長門司沙市紐育各支店長等を経て現時本社に在り家族は尙五女松子(大一一、九生)六女洋子(同二三、八生)あり妹セキ(明一五、一〇生)は岩手縣人千田多利吉長男周藏に嫁せり(東京、麹町、日本郵船社内) 参照 坂本四郎、坂本信道、須藤八九郎、上田紫朗

坂本 丹治 從四位勳三等、内務技師、仙臺土木出張所長 妻 修 明三三、七、六、生

君は群馬縣人坂本宗七の長男にして明治六年十一月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同三十九年内務技師となり大正十二年歐米各國に出張を命ぜらる現時仙臺土木出張所長たり(仙臺、北三番町土木出張所) 参照 坂本四郎、坂本信道、須藤八九郎、上田紫朗

坂本 仲 栃木縣多額納稅者、石材商 妻 有 明四三、一、二、生 養子 津 明二四、四、生、養子フシ夫、茨城、宮本彰叔父 養子 フシ 明三〇、一、一、生、養子準平妻、栃木、坂本八郎二女 妻 敬三郎 明二八、一〇、生、二女阿久里夫、阿久里 明三八、五、生、養子敬三郎妻

女 アサノ 明四一、四、生 君は栃木縣人坂本茂十郎の弟にして明治五年五月を以て生れ同三十六年分家して一家を創立す石材商を營み栃木縣多額納稅者たり家族は尙二男守(大一一、二生)孫アイコ(同二三、五、生、養子準平長女)同旭(同二五、一、生、養子敬三郎長男)あり(宇都宮市) 参照 坂本四郎、坂本信道、須藤八九郎、上田紫朗

坂本 常吉 能登銀行(株)常務取締役 妻 文久元、六、生、養父與兵衛長女 孫 清 明四一、九、生、亡長男與之助妻、石川、奥原喜三九姉 孫 清 大元、一〇、生、亡長男與之助長女

君は石川縣人後藤孫作の二男にして安政二年三月を以て生れ後先代與兵衛の養子となり明治十七年家督を相続す現に能登銀行常務取締役たり家族は尙孫清二(明四三、四、生、亡長男與之助二男)同須磨子(大二三、八、生、同二女)あり三男徳藏(同二五、二、生)は同縣人後藤美之助の養子となり二女安(同二〇、一、一、生)は同夫貴治郎(同二五、三、生、石川、羽磨林太郎弟)及其子と共に分家し三女つね(同二七、一、二、生)は石川縣人萬谷儀吉養子與吉に嫁し二男隆作(同二一、六、生)は同縣人廣島三つ入夫となれり(石川、鹿島、七尾町) 参照 坂本四郎、坂本信道、須藤八九郎、上田紫朗

坂本 俊篤 正三位勳二等功三級、男爵、海軍中將、貴族院議員、長野縣華族 妻 大造 明二七、一、二、生、正五位 男 大造 明二七、一、二、生、正五位

君は舊信州高島藩士坂本大造の二男にして安政五年十月を以て生れ明治十四年坂本俊秀の養子となる夙に海軍兵學校を卒業し歐洲に留學す同十五年海軍少尉に任じ累進して海軍中將に陞る等々豫備役被仰付其間海軍大學校教官海軍大臣秘書官比叡野各副長海軍省軍務局軍務課員海軍大學校頭同校長海軍教育本部長等に歴補し日露戰役には佐世保鎮守府參謀長の要職に在り功に依り勳二等に叙し功三級を賜ひ同四十年分家一家を創立し華族に列し男爵を授けらる養ひ貴族院議員に互選せられ現に公正會の一頭目として其任にあり二女俊子(明三二、一、二、生、學習院女學部出身)は東京府士族

原耕三に嫁ふ(同二七、一、一、生)は埼玉縣人齋藤物弟海軍軍醫大佐恭三に嫁せり(東京、牛込、市谷甲良町三三電牛込二六一〇) 参照 五味保、齋藤物、原耕三の項

坂本 友七 仙女香、洋傘商 妻 善吉 明一〇、八、生、群馬、正田文右衛門 女 善吉 大元、一〇、生、東京女學館在學

君は東京府人先代友七の長男にして明治五年七月を以て生れ大正元年家督を相続す養ひ佛國巴黎及英國等各國に赴き洋傘業の視察を了し歸朝後洋傘洋杖等の販賣に従事す現に屋號を仙女香と稱し斯業の老舗として知らる家族は尙五女登美(大四三、三、生)六女富美(同六、八、生)あり二女惠明(三五、一〇、生、東京女學館出身)は東京府人松井元治郎長男法學士博太郎に三女多美(同三七、一、二、生、出身校同上)は同府人風間篤次郎長男一郎に嫁せり(東京、京橋、南傳馬町三ノ一五電京橋一四四六) 参照 正田文右衛門、今井善兵衛、末村茂七、正田貞一郎の項

坂本 虎藏 鳥取縣多額納稅者、八頭銀行(株) 妻 善吉 明四三、八、生、東京府立第五中學校在學 女 善吉 大元、一〇、生、東京女學館在學

君は鳥取縣人西村甚治郎の二男にして明治五年七月を以て生れ後先代豊太郎の養子となり同十四年家督を相続す酒造業を營み八頭銀行富枝支店支配人にして同縣多額納稅者たり家族は尙四男保(大二三、五、生)あり長女しほ(明二七、八、生)は鳥取縣人林龜藏長男義男に四女久代(同三八、一、一、生)は井上義雄に嫁せり(鳥取、八頭、加茂村) 坂本 延一 東京石油、寶井石油各(株)社長、湯淺炭礦(株)取締役、東京府在籍

妻 やす 明一五、九、生、大阪、藤谷市次郎 男 一 明三九、一〇、生

君は大阪府人坂本小三郎の長男にして明治十四年四月を以て生れ大正六年家督を相続す現時東京石油寶井石油各會社々長たる外前記會社の重役たり長女綾子(明三七、一、二、生)は愛知縣人水野巖留に嫁し弟一男(同三六、三、生)は分家せり(東京、芝、高輪南町三〇電高輪一九九六)

坂本 信道 臺灣商工銀行(株)常務取締役 妻 茂樹 安政四、一、生、現戶主 妻 壽 明二九、一、一、生、高知、有澤雄太 男 信男 大七、一、二、生

君は高知縣人坂本茂樹の二男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十二年早稻田大學政治經濟科を卒業し臺灣銀行支店員たりしが現時臺灣商工銀行に轉じ同行專務取締役たり曾て高雄州協議員に擧げらる家族は尙長女藤(大二三、一、二、生)二女芳(同五、三、生)三女靜(同九、三、生)あり姉伊佐(明一四、一、二、生)は高知縣人坂本素魯に嫁せり(臺南市) 参照 坂本素魯の項

坂本 暢 從五位、熊本縣書記官、内務部長 妻 伊三 嘉永四、一、一、生、山口、土、池田 妻 ヤエ 明二八、三、生、鳥根、遠藤嘉右衛門

君は山口縣土族坂本格的の弟にして明治二十年十月を以て生れ同四十五年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す富山縣書記官同富山中學校教諭同新川下新川各郡長富山縣同兵庫各縣理事官岐阜靜岡各縣警務部長岩手縣書記官内務部長に歴任し昭和二年熊本縣書記官に轉じ現に内務部長たり家族は尙長女エツ(大四、一〇、生)二女ヒサ子(同七、三、生)三女珠江(同三、一、一、生)兄格(明一七、二、生、現戶主)同妻松枝(同三、五、三、生、山口、野村鶴之助六女)及其三男一女あり姉滿壽は山口縣人三宅實介に同(同六、一、一、生)は山口縣土族小田伴輔に同(同二、七、生)は同

縣人平佐恭男に同(同四、一、一、生)は同縣人足立荒人に嫁せり(熊本市縣内務部長官舎) 参照 遠藤嘉右衛門、小田伴輔、高橋隆一、米手鏡白

坂本 一 從三位勳二等功三級、海軍中將、東京府士族 妻 照子 大六、四、生、高知、布光庄八孫 養子 照子 大六、四、生、高知、布光庄八孫

君は高知縣土族坂本速の長男にして安政六年十月を以て生れ後家督を相続す明治十六年海軍少尉に任じ累進して同四十四年海軍中將となる其間赤城豐橋千代田笠置八島富士各艦長大連海防司令官舞鶴橫須賀各海軍工廠長旅順舞鶴各鎮守府司令官等に歴補し大正五年豫備役となり實業界に入り現時藤永田造船所取締役たり義に横濱船渠會社社長横濱新港倉庫日本帆布日本海事工業各會社の重役たり三女英子(明三〇、三、生)は高知縣人布光庄八男長吉に嫁せり(東京市外入新井町新井宿二六七電大森四五五)

坂本 初太郎 日本消防機製造、太平洋電機工業、國際企業各(株)取締役 妻 マサ 明二八、一、一、生、東京、櫻井リシ 養子 初太郎 明二八、一、一、生、東京、櫻井リシ

君は北海道人伊藤萬吉の長男にして明治十八年三月を以て生れ先代熊吉の養子となり同四十五年家督を相続す現時前記會社の取締役たり家族は尙長女初枝(大五、一〇、生)二女榮子(同二〇、三、生)妹タケヲ(明三二、四、一、一、生)弟勝造(同二九、一、一、生)及其一男一女あり妹ヨシエ(同三六、一、一、生)は東京府人川内安忠に嫁せり(東京、下谷、龍泉寺町三五二)

坂本 博亮 唐津銀行(株)取締役、黒瀨炭礦、富士硝子各(株)監査役 妻 靜枝 明三一、二、生、熊本、細郷彦三郎 男 一 敏 明四五、六、生

君は佐賀縣人坂本敏二の二男にして明治十八年四月を以て生れ後前名菅太郎を改め大正十五年分家して一家を創立す現に前記銀行會社の重役たり家族は尙長女良子(大一一、二、生)二女照子(同二四、一、一、生)あり(福岡市荒戸町二七〇)

坂本 房之助 縮緬商 妻 茂登 明元、一〇、生、養父治兵衛長女 男 福三郎 明三九、五、生

君は京都府人山村重助の弟にして明治二年四月を以て生れ同三十年同府人坂本治兵衛の養子となり同三十三年分家して一家を創立す専ら友禰縮緬羽二重類の縮緬を營み地盤の開拓に努力すること二十餘年堅實なる營業振によりて遂に今日の基礎を築くに至れり家族は尙四男登右作(明四二、九、生)庶子經一(同四二、九、生)生母、服部フミ(明四二、九、生)庶子經一(同四二、九、生)府人池田定次郎に嫁せり(大阪、東、安土町二ノ四九電本町一九)

坂本 政五郎 美馬水力電氣(株)社長、三好郡是製絲(株)取締役、徳島縣在籍 妻 キシ 明七、一、一、生、徳島、安宅膳三郎 養子 六 助 明三〇、一、二、生、長女サタエ夫、明三〇、一、二、生、養子六助妻

君は徳島縣人坂本傳藏の長男にして明治六年二月を以て生れ大正四年家督を相続す現時美馬水力電氣會社々長たる外前記會社の重役たり家族は尙孫憲一(大五、三、生、離縁養子爲夫長男)同好彦(同二二、三、生、養子六助長男)同直弘(同二四、七、生、同二男)あり(徳島、三好、三繩村)

坂本 政七 廣島縣多額納稅者、帝國製糖工業、共榮社各(株)取締役、吳服商 妻 フサ 明二一、一、生、廣島、野村國平二女 女 恒子 明四四、四、生

君は廣島縣人稻岡房三の二男にして明治十八年十二月を以て生れ先代政七の養子となり大正九年家督を相続し現に前名琴二を改む吳服商を營み傍ら前記會社の重役にして廣島縣多額納稅者たり家族は尙二男貞二(大六、八、生)三男邦三(同九、一、一、生)四男裕吉(同二〇、一、一、生)あり養兄芳松(明七、一、二、生、廣島、前田和助三

男は同妻エイ(同一四、九生、廣島、池田治太郎長女)を伴ひ分家せり(福山、笠岡町三〇)

坂本巳之松 築請負業、大阪府在籍。妻 澄江 明一、七生、岡山、木下太郎叔母男 治 明三六、六生

君は香川縣人坂本定五郎の弟にして明治二十年十月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現時サクラ工業所取締役たり二男治夫(大八、四生)は兄弟五郎の家督を相續せり(大阪、豊能、池田町)

坂本茂左衛門 茨城縣多額納税者、三協銀行(株)監察役、農業、茨城縣在籍。妻 ヌキ 明三五、一一生、茨城、鴻野都太郎妹 男 茂 明三四、三生、長男茂妻、茨城、明三五、一一生、茨城、鴻野都太郎妹 女 トメ 明四四、四生

君は茨城縣人先代茂左衛門の二男にして明治十八年一月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名春次を改む農業を業とし縣下の多額納税者にして三協銀行監察役たり家族は尙三男三二(明四二、五生)四女アキ(大三、九生)孫繼男同一三、一一生、長男茂長男(明四三、同一五、四生、同長女)の外弟林三(明三四、一〇生)同四郎(同四一、一〇生)妹トミ(同四三、八生)あり長女ヂヤウ(同三六、一〇生)は茨城縣人來栖知太郎に嫁シモ(同三八、六生)は同縣人糸賀俊造に嫁シ弟清(同三三、一〇生)は其妻よ(同三〇、一〇生、茨城、寺内大作)及其子女と共に分家せり(茨城、稻敷、古渡村)

坂本利三郎 千葉縣多額納税者、吳服大物商。父 武成 嘉永六、三生、千葉、宍倉兵右衛門弟 妻 まさ 明一六、五生、千葉、廣部五郎右衛門三女 男 成一 明三七、一〇生 女 成子 明三七、九生、長男成一妻、千葉、明四二、八生

君は大阪府人阪上整治の長男にして明治四十二年四月を以て生れ大正十年家督を相續し共に襲名して前名周之助を改む先々代新治郎は大坂株式取引所理事長三十四銀行日本綿花尼崎紡績各會社北濱銀行等の取締役として關西實業界に雄飛し同十一年五十萬圓の私財を投じ財團法人阪上慈善團を設立し慈善公共の事業にも盡力せり君は魚屋を營み伊丹新と稱す家族は尙弟益次郎(明四三、一〇生)同勝三郎(同四五、一〇生)同宗四郎(大三、一〇生)妹貞子(同七、一〇生)あり叔母喜久(明二二、一〇生)同夫重信(同一九、八生)は共に分家せり(大阪、西、江戸堀南通五ノ一五電話一三四) 參照 阪上重信の項

女 とし 大二、一〇生

君は千葉縣人坂本武成の長男にして明治十一年四月を以て生れ大正四年家督を相續し前名華也を改め襲名す吳服商にして千葉縣多額納税者たり家族は尙二男英二(明四四、八生)五女嘉美子(大六、三三)三男善三郎(同九、三三)四男慶四郎(同一三、六生)孫節子(同一五、四生、長男成一女)あり(千葉、市原、姉崎町) 參照 茨石川善之助の項

坂本龍太郎 (株)取締役、農業、秋田縣在籍。母 ヤス 慶應二、一〇生、秋田、栗林慶治叔母 妻 カツ 明二五、六生、秋田、藤木勇太郎妹 男 惇 大四、六生 女 リツ 大元、一〇生

君は秋田縣人坂本理一郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ大正六年家督を相續し農業を營み縣下の多額納税者にして傍ら日の丸醸造會社重役たり家族は尙二男厚(大七、二生)二女キキ(同八、八生)三女シヅ(同一二、四生)の外弟順次郎(明三〇、一〇生)同妻キヨ(同四〇、一〇生)秋田、栗澤竹藏(二女)及其一子同三郎(同三四、一〇生)同四郎(同三七、三三)あり妹ヨシ(同二八、二生)は秋田縣人橋本平左衛門二男政之助に嫁せり(秋田、仙北、千屋村) 參照 栗林慶治、藤木勇太郎の項

阪井戒爾 從四位、男爵、陸軍砲兵少尉、堀川貯蓄銀行(株)監察役。母 春 安政六、二生、高知、士、伊藤兵衛長女、勳五等 妻 綾子 明二七、九生、愛知、東松松兵衛 男 重春 大八、三三

當家は先代重季より家名を揚ぐ重季は舊高知藩士にして明治四年陸軍大尉に任じ中將に果進す其間名古屋鎮臺司令官近衛歩兵第二聯隊長歩兵第二第十各旅團長後備第一師團長等に歴補し日清日露の役に參加し功三級を賜ひ同十年華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員にして明治十四年二月を以て生れ大正十一年襲爵す先是

明治四十四年東京美術學校洋畫科を卒業し一年志願に依り陸軍砲兵少尉に任ぜらる現時堀川貯蓄銀行監察役たり家族は尙長女小夜子(大一一、一〇生)二男程夫(同一四、一〇生)弟勳爾(明一五、三三)同妻(同二五、一〇生)東京、日高尙忠(六女)及其二女あり(東京、牛込、市谷仲町九電牛込一五二五) 參照 東松松兵衛子爵有馬勳爾伊澤勝廣(※)妻 七の項

坂井徳太郎 從五位勳五等、三井(名)理事。妻 貞子 明一九、一〇生、京都、士、富田直詮妹 男 輝久 大三、二生 女 靜子 明四五、一〇生 清子 大二、三三

君は愛知縣土族坂井久の長男にして明治元年六月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に米國に航しハーバート大學に學びマスター・オブ・アーツの學位を受く兼て外務大臣内閣總理大臣各秘書官に任ぜられ現時三井合名會社理事たり妹は(明八、一〇生)は東京府人中村金之助に嫁せり(東京、赤坂、青山高樹町二〇電青山七七) 參照 茨城越野太郎(※)富田忠詮の項

阪上重信 共同信託(株)常務監察役。妻 喜久 明二二、一〇生、大阪、阪上新治郎叔母 男 正信 大一一、一〇生 女 信子 大一一、一〇生

君は大阪府人對木喜兵衛の長男にして阪上新治郎の養叔父なり明治十九年八月を以て生れ阪上家の養子となり大正十年分家して一家を創立す先是同五年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し現時共同信託會社常務監察役に任じ財團法人阪上慈善團の評議員たり家族は尙三男信次(大一一、一〇生)四男信三(明二二、四生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋大僧一六〇〇電話四一五) 參照 阪上新治郎の項

阪上新治郎 伊丹新在籍。母 あい 明一五、一〇生、祖父新治郎長女

阪口吉藏 兵庫縣多額納税者、西宮銀行(株)取締役、海陸運送元、酒造業。妻 嘉永元、二生、兵庫、松本重介長女 男 俊次 明三九、一〇生 女 次子 明三九、一〇生

君は兵庫縣人先代吉藏の長男にして明治六年十一月を以て生れ同十三年家督を相續し前名吉太郎を改む酒造業を營み兵庫縣多額納税者にして尙前記銀行の重役たり家族は尙三男治平(大一一、一〇生)あり妹のぶ(明一〇、三三)は大阪府人濱崎健吉に同(同一二、九生)は同府人村井忠三郎に同(同一〇、一〇生)は同府人上田彌兵衛に嫁せり(西宮、濱崎町七〇電二七) 參照 野田儀一郎、濱崎健吉(※)科真太郎の項

阪口定吉 西川商工、阪口定吉商店各(株)取締役、大阪府在籍。妻 みつ 明三〇、三三、大阪、安田秀吉妹 男 定男 大五、一〇生

君は大阪府人先代定吉の長男にして明治二十六年八月を以て生れ大正八年家督を相續し前名定次郎を改む現時前記會社の重役たり家族は尙長女千鶴子(大一一、一〇生)二女萬壽子(同一四、一〇生)の外弟善之助(明三八、九生)あり妹末子(同三六、四生)は大阪府人石松七藏に嫁し弟清太郎(同三四、二生)は分家せり(大阪、北境川町三ノ一九電二六五三) 參照 安田秀吉の項

阪口文助 南陽綿布、和歌山製業各(株)取締役、和歌山縣在籍。母 みね 嘉永四、一〇生、祖父文七二女 妻 榮一郎 明三五、三三 男 辰二郎 明三七、九生 女 千代 明四〇、六生

君は和歌山縣人阪口文助の二男にして明治八年十一月を以て生れ同二十八年弟文之助の跡を襲ひ家督を相續し前名榮次郎を改む現時前記會社の重役たり家族は尙三男三郎(明四二、七生)四男志郎(同四五、三三)五男龍平(大一一、一〇生)あり弟太藏(明一六、七生)は分家し妹房(同一四、五生)も亦同夫芳助(同三三、三三)和歌山、小林林之助(弟)と共に分家し同信(同二三、二生)は大阪府人峰内鐵藏に嫁せり(和歌山、小野町一ノ一) 參照 阪上重信の項

阪田卯之松 煉瓦製造業。妻 ナヲ 明九、九生、大阪、湯谷九左衛門二女 男 種 明三七、八生 女 芳枝 明四五、三三

君は大阪府人阪田保治の叔父にして明治十二年二月を以て生れ大正七年分家して一家を創立す煉瓦製造業を營む家族は尙四男富三(明四四、一〇生)五男信三郎(大二、五生)あり四女一子(同九、七生)は大阪府人氏野作治郎長男竹治郎の養子となれり(大阪、東成、今福町電江四五) 參照 江田四五の項

阪田音松 大一商會、帽子商。妻 久榮 明三〇、二生、大阪、老村友次郎庶子 父 恒四郎 安政四、七生

阪田八十郎 阪田(名)代表社員。妻 よね 明一六、一〇生、理學博士小川琢治妹 男 英一 明三七、七生、慶應義塾大學經濟學部在學 女 道子 明四一、一〇生、東京女學館出身 菊子 大元、一〇生、東京女學館在學

君は和歌山縣土族阪田八十郎の長男にして明治七年五月を以て生れ夙に關西大學及中央大學の業を卒へ判檢事登用試験に合格明治三十二年陸軍省に入り理事に任ぜらる後退官して鴻池家に入り大阪倉庫會社社長に鴻池銀行に勤務し次で同銀行中之島神戶各支店長に歴任し大正八年之を辭し阪田合名會社代表社員となり同十四年日本無線電信會社創立と共に同社社長に擧げらる家族は尙二男泰二(明四三、一〇生)第一高等學校在學(三女誠子(大六、一〇生)あり(東京市外八新井町新井宿二二八一電高輪二三九) 參照 小川琢治(※)小川一清の項

阪谷芳郎 從三位勳一等、男爵、法學博士、貴族院議員、中央統計委員會委員長、專修大學長、東京海理立、淺野セメソール、橋本水道、神電氣各(株)取締役、遊園同族(株)監察役、東京地下鐵道(株)相談役。父 東京府華族

妻 こと 明三、二生、子爵澤澤一、二女
男 希一 明二、五生、正五位、關東廳事
女 希二 明三、一、生、長男希一妻、子爵

君は幕末の鴻儒阪谷素の四男にして坂田耐二の再従兄
なり素は朗虚と號し大體中齊古賀洞庵の門に學び後郷
里備中の地に興讓館を立て書生を薫陶す一時海内の儒
宗を以て稱せらる晩年廣島藩に仕へ維新後諸藩に官仕
し啓沃する所尠からず君は文久三年一月を以て生れ明
治二十年分家して一家を創立す同十七年東京大學文學
部政治經濟科を首席を以て卒業し大藏省に入り書記官
參事官主計局長總務長官大藏次官等に歴任し同三十二
年法學博士の學位を受け同三十九年大藏大臣に親任せ
られ日露事件の功に依り勳一等に敘し華族に列し男爵
を授けらる同四十五年東京市長に擧げられ大正六年巴
里開國聯合國經濟會議に本邦委員として參列す同年以
來貴族院議員に互選せらるること三回現に公正會の大
議として其任に在り財政經濟學界の耆宿にして專修大
學長中央統計委員會々長其他の公職に就き又東京經濟理
立會社取締役外前記各會社の重役を兼ね家族は尙孫正
子(大六、一、生、長男希一妻)同子(同七、二、生、同
二女)同芳直(同九、一、生、同長男)同理子(同二、八
生、同三女)同順子(同五、六、生、同四女)あり二女
和子(明二四、七、生)は理學博士高嶺俊夫に三女八重子
(同二九、二、生)は男爵中村雄次郎二男法學士貫之に四
女千重子(同三一、七、生)は東京府人工學士秋庭義衛に
五女總子(同三四、九、生)は兵庫縣人伊藤長次郎長男熊
三に嫁し二男俊作(同二五、九、生、名古屋圖書館長、文
學士)は分家し東京府士族八十島親義姉丈子(同三六、
九、生、東京大學出身)を娶れり東京、小石川、原町
一、二、六、電小石川(二〇)

阪根 吉藏 樂器商
母 ナミ 文久元、五生、大阪、阪根武兵衛
妻 喜代 明二五、八生、大阪、阿部喜兵衛
男 良藏 明四四、六生

君は大阪府人阪根ナミの私生子にして明治十七年十一
月を以て生る同三十七年大阪高等商業學校を卒業し義
にベニヤ板製造所特約代理店たりしが現時樂器商とし
て知らる家族は尙長女町子(大五、七、生)二男豐藏(同
一、六、生)あり(大阪、南、千代田九電南六八六四)
參照 阪根武兵衛(竹尾治右衛門)野定助の項

阪本 武重 織物商
妻 千枝 明三一、八生、廣島、星野忠直二女
男 昌士 大一一、一、生

君は福岡縣人先代治作の二男にして明治二十三年七月
を以て生れ同三十七年家督を相續し明治三十二年七月
同二十三年家督を相續す甥に特命全權公使永井松三文
士永井荷風農學博士永井成三郎あり同十二年内務屬と
なり爾來滋賀岡山各縣書記官奈良縣參事官貴族院書記
官兼内務書記官東京府書記官福井縣兒島兩縣知事に歴
任し名古屋市長に擧げらる同四十四年貴族院議員に勅
選せられ大正九年日本赤十字社副社長を兼ね現在に至
る家族は尙三男鹿名夫(明四四、七、生)四女華(大六、七
生)孫武彦(同四、一、生、長男瑞男長男あり(東京、
麻布、飯倉町三ノ二四電青山五七三))
參照 伯備川村鐵太郎、加勢清雄、永井松三、伯備
樺山愛輔、伯備原義光、永井久保光、野澤
男爵大寺純藏、男爵西竹一、鈴木木立、男爵三井
守之助の項

阪本 治平

富岡銀行(株)専務取締役、富岡製
織(株)取締役、富岡町長
妻 やう 慶應三、七生、群馬、神戶三郎
長女
男 千太郎 明二〇、八生
男 チエ 明二三、一、生、長男千太郎妻、柳
木、荒木萬三郎二女
男 恭輔 明二四、一〇、生
男 淳子 明三〇、九、生、三男恭輔妻、香川、
眞鍋良助長女
男 俊吉 明二八、六、生
男 應吉 明三四、一〇、生
男 亨吉 明四〇、一〇、生
君は群馬縣人先代治平の長男にして慶應三年三月を以
て生れ明治十六年家督を相續し同十八年襲名す現時富
岡銀行専務取締役たる外前記會社の重役にして推され
て富岡町長たり家族は尙九男九郎(大二、九、生)孫卓
(同二、九、生、三男恭輔長男)同初子(大一一、一、生、同
二男)同和子(昭二、二、生、同長女)同初子(大一一、一、生、同
二女)長男千太郎長女)同國子(昭二、九、生、同二女)
あり長女ちよ(明三〇、九、生)は群馬縣人飯島佐内(二
女愛(同三二、九、生)は群馬縣人大河原四郎に嫁きた
(同五、三、生)は外祖父神戶三郎長男三郎太郎に嫁き
(同二、一、三、生)は群馬縣人藤澤三郎に嫁し弟尙五郎(同
二、一、一、生)は同妻みね(同六、五、生、東京、齊藤知三
長女)を伴ひ分家せり(群馬、北甘樂、富岡町)

阪本 信一

大阪府人阪本元良の長男にして明治十九年十月を以
て生れ大正七年家督を相續す明治四十五年東京帝國
大學法政科大學政治科を卒業し住友生命保險會社に入り
現時同社支配人たり家族は尙二男鐵郎(大一一、一、生)
三男三男(同二二、二、生)長女紀代子(同二四、二、生)
外弟三郎(明二七、一、生)同妻スエ(同三三、八、七、生)
大阪、西田彌兵衛姉(同三三、一、生)あり(大
阪、住吉、天王寺町三二一六)

阪本 治作

富岡縣多額納稅者、機械商
妻 千枝 明三一、八生、廣島、星野忠直二女
男 昌士 大一一、一、生
君は福岡縣人先代治作の二男にして明治二十三年七月
を以て生れ同三十七年家督を相續し明治三十二年七月
同二十三年家督を相續す甥に特命全權公使永井松三文
士永井荷風農學博士永井成三郎あり同十二年内務屬と
なり爾來滋賀岡山各縣書記官奈良縣參事官貴族院書記
官兼内務書記官東京府書記官福井縣兒島兩縣知事に歴
任し名古屋市長に擧げらる同四十四年貴族院議員に勅
選せられ大正九年日本赤十字社副社長を兼ね現在に至
る家族は尙三男鹿名夫(明四四、七、生)四女華(大六、七
生)孫武彦(同四、一、生、長男瑞男長男あり(東京、
麻布、飯倉町三ノ二四電青山五七三))
參照 伯備川村鐵太郎、加勢清雄、永井松三、伯備
樺山愛輔、伯備原義光、永井久保光、野澤
男爵大寺純藏、男爵西竹一、鈴木木立、男爵三井
守之助の項

君は岡山縣人阪本節夫の二男にして慶應三年七月を以
て生れ大正三年分れて一家を創立す明治二十五年東京
帝國大學工學科大學機械學科を出で三越紡績所囑託とな
り同二十六年朝日紡績會社工務長同二十七年鐘淵紡績
會社技術師に轉じ同二十九年日本紡績會社技術師として

君は奈良縣人阪本彌十郎の長男にして明治二年三月を以
て生れ阪本仙太郎の養子となり同十七年家督を相續
し大正十五年家督を長男鐵に譲り退隱す林業を營み縣
下の多額納稅者にして現に吉野銀行頭取たる外前記吉
野鐵道阪本林業各會社々長として知らる(奈良、吉野、
龍門村)
參照 阪本鐵の項

君は奈良縣人阪本仙太郎の長男にして明治二十三年三月を以
て生れ先代々々の養子となり同三十七年家督を相續
す夙に神宮皇學館及東京帝國大學文學部大學史科を卒
業し帝國大學史料編輯官神宮皇學館教授を経て大
正十一年神宮皇學館主任に任じ現に儀式課長たり傍ら神宮皇
學館講師臨時大神宮史料編輯部長等を兼ね家族は尙二男
香彦(大三、一、生)三男參郎(同八、二、生)四男楠彦
(同二〇、七、生)あり長女俊子(明四〇、三、生)は實兄柳
防芳俊に二女淑子(同四、一、三、生)は外戚今西菊治郎に
各養子となれり(宇治山田、一ノ木町)

妻 とし 文久三、七生、神奈川、栗原和一
 養子 長四郎 明二〇、三三、養子いく夫、栃木、
 岩下太平四男、養子長四郎妻、父
 養子 いく 勝右衛門二女
 君は茨城縣人酒井勝右衛門の二男にして文久二年四月
 を以て生れ後分家して一家を創立す横濱取引所取引員
 たり家族は尙孫久子(大三、三三、養子長四郎長女)同
 千與子(同五、八生、同二女)同孝子(同七、四生、同
 三女)同嘉代子(同九、六生、同四女)あり(横濱、中
 南仲通四ノ七七電本局六〇七)

酒井伊四郎 (株)社長、紡績業、福井縣在籍
 妻 明三、八生、福井、上田繁晴八女
 君は福井縣人先代伊四郎の長男にして明治二十五年十
 二月を以て生れ大正九年家督を相續し前名伊市郎を改
 む紡績業を營み現に福井縣紡績物會社社長にして福井
 縣多額納税者たり家族は尙長女ます(大六、四生)二
 女廣(同二、五生)三女静子(同五、八生)弟正二
 (明三六、二生)同伊三男(同三八、五生)同伊四男(同
 四五、四生)あり(福井、今立、鯖江町)

酒井一平 中津電氣、東海電機、東北自動車
 (株)取締役、北惠那鐵道(株)監
 査役、岐阜縣在籍
 妻 明三、八生、福島、深谷英助二女
 門長女
 君は岐阜縣人酒井平の長男にして明治九年四月を以
 て生れ大正元年家督を相續し現時前記會社の重役たり
 (岐阜、惠那、中津町)

酒井岩之助 福島縣多額納税者、酒造業
 妻 明三、八生、福島、深谷英助二女
 門長女
 君は福島縣人先代岩之助の長男にして明治二十八年二
 月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名世英を改め
 (岐阜、惠那、中津町)

襲名す酒造業を營み福島縣多額納税者たり家族は尙二
 男英夫(大六、一一生)長女美恵子(同八、一一生)三男
 直親(同二、八生)二女良子(同三、一〇生)四男昭
 (昭元、一一生)弟徳彌(明三三、五生)同占雄(同三八、
 三三)同清(同四〇、三三)同功(同四二、六生)同正(大
 七、一一生)あり妹チイ(明三七、四生)は埼玉縣人長
 島一夫に嫁せり(福島、西白河、矢吹町)

酒井榮藏 (株)取締役、酒井組(資代表社員、
 日本正義團主監、土木建築請負業
 大阪府在籍
 妻 明二、六生、大阪、小林佐兵衛二女
 女 秋子 明四〇、二生
 君は岡山縣人酒井定治の叔父にして明治五年一月を以
 て生れ同三十六年分家して一家を創立す土木建築請負
 業を營み現に播磨鐵道社長にして前記諸會社の重役を
 兼ね日本正義團主監たり養子壽得(明二七、四生、朝
 鮮、徐相潤長女)は和歌山縣人谷延二郎に嫁せり(東京
 市外大井町北濱川一〇三〇電本局二六三)

酒井億尋 荏原製作所(株)取締役
 妻 明二、六生、現戸主
 父 直一 安政六、三三、石川、富山義比
 母 トク 二女
 君は新潟縣土族酒井直一の三男にして明治二十七年五
 月を以て生れ大正五年早稲田大學商科を卒業し現時荏
 原製作所取締役たり家族は尙姉十代(明二二、九生)兄
 千尋(同二三、一一生)同妻キヨ(同三三、三三)白
 井茂四郎長女)及び其二男の弟弟雄(同三三、一
 生)同妻タツ(同三七、一一生)新潟、中村治作二女)
 及び其一男並に同漢(同三八、三三)妹コウ(同四〇、五
 〇)あり(東京市外高田町東鴨三三五電本局二二一
 〇)

酒井芳 (株)社長、農業、石川縣在籍
 妻 明二、一一生、石川、山上榮助妹
 孫 芳 明三九、一一生、亡二男興秀長男
 孫 明 明三九、一一生、亡二男興秀妻、石
 川、鈴木清七四女
 君は石川縣多額納税者、能美電氣鐵道
 (株)社長、農業、石川縣在籍

酒井熊吉 升定業守屋、醬油商
 妻 文久元、一一生、兵庫、酒井伊兵衛
 長女
 男 芳 明三二、一一生、二男芳治妻、大阪、
 岸田富壽長女
 孫 武 明三三、九生、孫能婚夫、愛知、石
 井誠一三男
 孫 節子 明四〇、九生、亡養子福松二女
 孫 節子 明四〇、九生、亡養子福松二女
 君は大阪府人酒井芳兵衛の二男にして安政四年三月を
 以て生れ明治八年分家して一家を創立す升定業守屋と
 稱し醬油商を營み知らるる家族は尙孫悦子(大七、五生
 二男芳治長女)同道子(同四、五生、同二女)同二郎
 (昭二、一一生、同二男)同寛(大一二、一一生、養子武
 長男)同明(同四、五生、同二男)あり長女貞明(一八、
 一一生)は分家せり(大阪、東、北濱三ノ一六電本局
 五九一)
 参照 近藤俊次郎の項

酒井欽太郎 日本商店、自轉車及諸機械商
 妻 明九、八生、神奈川、井上定吉妹
 女 新一郎 大九、三三、雙葉高等女學校出身
 女 百合 明三六、三三、雙葉高等女學校及
 明三九、三三、雙葉高等女學校及
 女 園子 日本女子大學校出身
 女 梅子 明四一、一一生、雙葉高等女學校
 出身
 女 久和子 明四五、二生、佛英和高等女學校
 出身
 君は神奈川縣人山田猪三郎の弟にして明治元年十二月
 を以て生れ同二十一年先代くまの養子となり同三十年
 家督を相續す若年にして志を立て米國に渡航し苦學奮
 闘十餘年の後歸朝して同三十一年日本商店を開き裁縫
 ミシン自轉車諸機械鋼玉の輸入並に洋服類の販賣に従
 事す家族は尙二男新二(大九、一一生)あり長女徳子(明
 三三、一一生、麹町高等女學校出身)は東京府人上野
 康治郎に嫁せり(東京、神田、須田町二五電本局三三四)
 参照 井上定吉の項

酒井定右衛門 京都府多額納税者、石川雜貨店、雜
 貨商、京都府在籍
 妻 明二八、五生、京都、福井梅次郎
 長女
 男 定男 大五、八生
 君は愛知縣人酒井惣四郎の弟にして明治十九年八月を
 以て生れ大正十一年分家して一家を創立す雜貨商を營
 み現に京都府多額納税者たり家族は尙長女玉恵(大四、
 六生)三男忠雄(同八、九生)四男健治(同二〇、四生)
 二女孝子(同二、一一生)三女正子(同四、一一生)五男
 昭(昭二、一一生)あり(京都、下京、四條通河原町西入
 電中一六八一)

酒井次郎三 静岡縣多額納税者、西駿銀行(株)
 取締役、工業、静岡縣在籍
 妻 萬延元、六生、静岡、細川猪太郎妹
 男 次 明二六、一〇生
 女 マサジ 明三二、七生、二男次四妻、静岡、
 小泉平一郎長女
 君は静岡縣人酒井次郎三の二男にして元治元年二月を
 以て生れ明治二十三年先代明次郎の弟を承け家督を
 相續す工業に従事し傍ら西駿銀行取締役にして縣下の
 多額納税者たり家族は尙孫忠作(明四三、三三、亡長
 女)は長男)同加智子(大九、八生、二男次四長女)同
 次吉郎(同二、一一生、同長男)同次得郎(同四、九
 生、同二男)あり三女きね(明三三、九生)は神奈川縣
 人佐伯藤之助に嫁し甥仙次郎(同二、一一生)は静岡縣
 人石野長次郎の養子となり(静岡、志太、島田町)
 参照 佐伯藤之助の項

酒井繁 正五位、醫學博士、愛知醫科大學
 教授、東京府在籍
 妻 安政六、八生、東京、村田久四郎
 女 加代 明二四、五生、群馬、森村英太妹
 男 恒男 大六、一〇生
 養子 美子 大二、四生、宮城、賀川彌四郎長女
 君は東京府人酒井半十郎の長男にして明治十八年二月
 を以て生れ大正七年家督を相續し明治四十四年東京帝
 國大學醫科大學を卒業し現に愛知醫科大學教授たり大

酒井欽三 公聲堂、蓄音器商
 妻 大六、一一生
 女 梅代 大六、一一生
 君は大阪府人酒井二郎の弟にして明治二十二年五月を
 以て生れ大正六年分家して一家を創立す公聲堂と稱し
 蓄音器商を營む家族は尙三男輝雄(大一一、七生)あり
 (大阪、南、安堂寺橋通四ノ二電本局六五〇)

酒井 安政六、一一生、愛知、安藤五兵
 衛長女
 妻 明二六、五生、岐阜、士、武藤章
 三長女
 男 芳 明四五、四生
 君は愛知縣人酒井惟一の長男にして明治十年五月を以
 て生れ大正十年家督を相續す現時村瀬銀行村瀬貯蓄銀
 行各常務取締役の外前記銀行會社の重役たり家族は尙
 二男修二(大二、八生)三男省三(同四、二生)四男史郎
 (同五、二生)長女敏子(同六、九生)弟精二(明一八、五
 生)及び其一男あり妹ら(同二〇、三三)は愛知縣人
 小澤松太郎弟朝吉に同ひ(同二〇、三三)は同縣人井
 上照一(同二二、七生)は同縣人佐分利新右衛
 門に嫁し叔父八郎(同二二、一一生)は同縣人村瀬善三郎
 の養子となり(名古屋、東、登屋町二ノ二電本局
 三三六)

酒井貫一 村瀬銀行、村瀬貯蓄銀行各(株)常
 務取締役、静岡共済銀行、尾張貯
 蓄銀行、鶴沼銀行、名古屋商事、中
 央殖産各(株)取締役、愛知縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

酒井 正五位勳五等、農林技術師、農務局
 勤務、岡山縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

酒井 正五位勳五等、農林技術師、農務局
 勤務、岡山縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

酒井 正五位勳五等、農林技術師、農務局
 勤務、岡山縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

酒井 正五位勳五等、農林技術師、農務局
 勤務、岡山縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

酒井 正五位勳五等、農林技術師、農務局
 勤務、岡山縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

酒井 正五位勳五等、農林技術師、農務局
 勤務、岡山縣在籍
 妻 明二五、一〇生、岡山、深井吉次
 二女
 男 薰 夫 大八、九生
 女 美保子 明四四、一〇生
 君は岡山縣人酒井直尙の叔父にして明治十七年二月を
 以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十二年東
 京帝國大學農科大學農學科を卒業し山梨縣技術師同縣産
 業技術師秋田縣技術師同縣農業者技術師等に歴任し
 大正十四年農林技術師となり現に農務局勤務たり家族は
 尙二男博(大一一、三三)三男康夫(同三三、三三)あり
 (東京市外澁谷町神山一五電本局二〇九三)

正七年醫學博士の學位を受く同九年歐米各國に留學を命ぜられ同十二年歸朝す家族は尙長女雅子(大三、四生)二女芳子(同五、三生)三女美智子(同九、三生)四女純子(昭二、一生)あり姉とよ(昭二、一〇生)は靜岡縣人馬淵殿太郎養子恒藤に嫁せり(名古屋、東、白壁町四ノ二四電東二六四〇)

參照 森村亮太栗田傳兵衛の項

酒井 俊一 新潟縣多額納稅者、小田銀行(株)取締役、農業、新潟縣在籍

妻 子 明一七、七生、養父文吉長女

男 孝吉 明三七、九生

男 悌吉 明三九、五生

男 忠吉 明四一、六生

君は新潟縣人町田善作の弟にして明治九年一月を以て生れ先代文吉の養子となり大正三年家督を相続す農業を營み新潟縣多額納稅者にして現時小田銀行取締役たり長女睦(昭三六、一生)は長野縣人山本忠雄に嫁せり(新潟、北魚沼、廣瀬村)

酒井 正七 北海道多額納稅者、酒井商店(株)代表取締役、海運業、北海道在籍

妻 ツネ 慶應三、二生、北海道、小泉ミイ

養子 秀次 明一四、六生、新潟、松原城四男

婦 チヨ 明一八、四生、養子秀次妻、北海道、齊藤平吉女

孫 正忠 明三八、二生、養子秀次長男

孫 米子 明四五、三生、養子秀次三女

君は新潟縣人酒井利兵衛の二男にして嘉永五年五月を以て生れ明治四年分家して一家を創立す海運業を營み北海道多額納稅者にして現酒井商店代表取締役たり家族は尙孫保(大九、一生、養子秀次三男)同省三(同三一、一生、同四男)あり養子ワカ(昭二二、一生、北海道、小泉忠吉長女)は同夫廣次(昭二二、一生、群馬、高岡爲助弟)と共に其一女を伴ひ分家せり(小樽、稻穂町)

酒井新治郎 養産家、大阪府在籍

妻 ツル 文久三、七生、大阪、小森萬二郎

酒井竹次郎

染色業、大阪府在籍

妻 つる 明一五、二生、大阪、吉田正兵衛長女

男 良之助 大二三、二生

酒井武次郎

金物商、東京府在籍

妻 すみ 明一、八生、東京、岩崎むめ妹

男 博 大四、一生

君は東京府人酒井榮造の弟にして明治十六年八月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す金物商を營む家族は尙三男善三郎(大六、三生)三女育子(同七、六生)四女智津子(同八、八生)四男武四郎(同十一、六生)五男正五郎(同十二、九生)五女京子(同十四、八生)あり(東京、京橋、南傳馬町二ノ三電京橋八六七)

酒井忠亮

正三位勳三等、子爵、陸軍歩兵少將、貴族院議員、東華生命保險、東之内銀行、横濱倉庫各(株)社長、丸之内銀行、横濱新港倉庫、高砂商事各(株)取締役、横濱正金銀行、淺野物産、朝日信託、横濱正金銀行、露野物産組合組長、舊越前敦賀藩、露野物産組合組長、舊越前敦賀藩

妻 御 明一二、六生、子爵松井康昭叔母

男 忠 明三一、九生、從五位、商學士

男 義夫 明三五、六生、水戸高等學校出身

當家は若州小濱藩主侍從酒井忠直の次男右京亮忠綱の後なり忠綱の所領一萬石を分與され越前敦賀の城主となるを以て七世を経て君に至る君は先代忠綱の長男にして明治三十年十月を以て生れ同十五年家督を相続し同十七年子爵を授けらるる學習院高等科卒業後東京帝國大學法科大學に學び一年志願兵となり陸軍歩兵少尉に任ぜらるる同三十四年貴族院議員に當選し現に其任にあり研究會に屬す傍ら前記銀行會社の重役として知らる尺八銃獵等を趣味とす叔母養子(昭六、五生)は東京府士族松井忠剛に嫁せり(東京、牛込、矢來町三山里一八九電牛込六六)

參照 子爵松井康昭の項

妻 きた 明三〇、一生、大阪、瀬尾喜兵衛養姉

酒井家は先代新三郎宗家より分れて一家を創立し繪具染料商を營みたるに創まる君は其二男にして明治二十四年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続す父業を廢して現に養産家を以て知らる書畫及骨董に趣味を有す家族は尙弟新十郎(昭三三、八生)あり姉チヨ(同八一、七生)は同族酒井安之助に嫁せり(同三〇、一生)は同族酒井安太郎に嫁し同美喜(同三七、二生、夕陽丘高等女學校出身)は同夫安三郎(同三三、四生、大阪、酒井安太郎弟)と共に分家せり(大阪、南、饅谷中之町二〇電南六四八)

參照 酒井安太郎、瀬尾喜兵衛改正源右衛門宗瀨尾喜一郎の項

酒井 せつ 板硝子商、大阪府在籍

妻 多彌 明一七、一生、長男義太郎妻、大阪、田中新七妹

男 芳子 明四〇、四生、長男義太郎長女

孫 多彌 明一七、一生、長男義太郎長女

君は大阪府人酒井儀兵衛の二女にして安政元年七月を以て生れ明治二十三年家督を相続す板硝子商を營む家族は尙孫秀太郎(大五、九生、長男義太郎長男)同昌治郎(同七、七生、同二男)同澄子(同九、四生、同三女)あり二男順次郎(昭一五、三生)は分家せり(大阪、北、木幡町五五電北一七〇三)

酒井 宗吉 錦華紡績(株)取締役兼金澤本店工場長、大阪府在籍

妻 とみ 昭二四、四生、石川、中山彌三右衛門四女、石川縣立第一高等女學校出身

君は石川縣人村中宗八の三男にして明治十六年八月を以て生れ先代喜右衛門の養子となり同三十一年家督を相続す同三十八年東京高等工業學校機械科を卒業し現時錦華紡績會社取締役兼金澤本店工場長たり家族は尙養子慶香(大三、四生、石川、中山孝太郎長女、石川縣立第一高等女學校在學)あり(金澤、長町七番丁一一電一四〇四)

酒井宗太郎 地主、東京府在籍

酒井忠一

舊四位、子爵、舊上州伊勢藩藩

妻 文子 昭二二、一生、子爵松平定晴妹、御茶の水高等女學校出身

男 忠 昭三三、七生

當家は酒井雅樂頭忠清の次男下野守忠寛の後なり忠寛被て一家をなす上州伊勢藩二萬石の城主となるを以て八世を経て先代忠彰に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す君は忠彰の男にして明治二十年十二月を以て生れ同二十九年家督を相続し養子同三十八年學習院中等科を卒業す地理歴史を好み園藝に趣味深し家族は尙二男達(昭二四、二生)は子爵戸澤正己(昭二七、一生)あり妹錦子(昭二四、二生)は子爵戸澤正己に嫁せり(東京、小石川、高田老松町四三電牛込一〇五七)

參照 子爵戸澤正己、子爵松平定晴の項

酒井 忠克 從四位、伯爵、貴族院議員、東京府多額納稅者、舊若州小濱藩

妻 美枝子 昭四三、三生、女子學習院出身

男 忠 昭四四、九生

女 小枝子 昭二二、六生

當家は酒井雅樂頭正親の次男備後守忠利の後なり忠利徳川家康に仕へ閑老にして武州川越三萬七千石を領す其子讚岐守忠勝將軍家光に寵遇せられ果進して若州小濱十二萬三千石を食み大老職に擧げらるるを以て十二世を経て先代忠道に至り明治十七年伯爵を授けられ貴族院議員に列す君は其次男にして明治十六年十一月を以て生れ大正九年襲爵す明治三十九年學習院高等科を卒業し東京帝國大學に學び宮内省に出仕し養子同部官兼主筆官たりしが大正十四年貴族院議員に當選し現に其任に在り家族は尙三女香枝子(大五、七生)四女壽枝子(昭三九、九生)あり姉鶴子(昭一一、八生)は男爵二條正磨に嫁せり(昭三三、七生)は侯爵山階芳麿に嫁し弟四郎(昭二二、五生、法學士、大正海上火災保險會社員)は分家し同五郎(昭二五、四生、工學士、三菱造船會社社員)も亦其妻昭子(昭三三、二生、伯爵伊達宗純を伴ひ分家せり(東京、牛込、矢來町一電牛込三三八)

參照 侯爵山階芳麿、伯爵伊達宗、男爵二條正磨

妻 かく 昭一六、九生、東京、小高伊三郎

男 良雄 昭三六、五生

君は東京府人先代宗太郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同三十七年家督を相続し養子として前名庄太郎を改む養産家として知られ養子千住郵便局長たり家族は尙三男正美(昭四二、一生)四男信夫(昭四三、二生)長女美代子(昭三三、八生)二女静子(昭三五、三生)三女八重子(昭四六、八生)七男敬夫(昭一〇、一生)あり六男彰司(昭一八、一生)は東京府人山田市郎右衛門の養子となり父庄吉(嘉永二、四生)は山田市郎右衛門の二女、東京、山田市郎右衛門二女と共に妹は(昭一六、二生)は其夫豊三郎(昭一一、七生、東京、關川銀次郎三男)と共に各分家し同きん(昭二三、二生)弟四郎(昭二五、四生)も亦各分家せり(東京市外南千住町千住南三五電淺草一〇一一)

酒井惣次郎 油類商、東京府在籍

妻 るい 昭一七、三生、千葉、山崎常太郎妹

君は東京府人酒井金次郎の長男にして明治三十六年九月を以て生れ大正十五年家督を相続す油類商を營む家族は尙姉たつ(昭二五、一生)同夫幸吉(昭二七、五生、東京、埜口平助長男)との間に二男一女及び弟政治郎(昭四四、一〇生)あり(東京、日本橋、穀町二ノ一電茅場町一八四八)

酒井 卓造 正五位勳四等、醫學博士、千葉醫科大學教授、埼玉縣在籍

妻 あさ 昭一二、一〇生、千葉、吉田甚左衛門妹

女 幸 昭四三、四生

君は埼玉縣人吉田元祐の二男にして明治十二年十月を以て生れ先代ちよの養子となり同二十年家督を相続す同三十四年千葉醫學專門學校を卒業し同三十六年東京帝國大學醫學科大學助手となり同四十年千葉醫學專門學校教授に任じ同四十五年生理學研究の爲獨逸に留學す歸朝後再び千葉醫科大學教授となり現時其職にあり養子附屬圖書館長に擧げられ大正六年醫學博士の學位を受く(千葉市寒川七五)

參照 吉田甚左衛門、江津金五郎の項

酒井 忠良

舊四位、伯爵、山形縣多額納稅者、昭宗男爵伊達宗經の項

妻 萬子 昭二三、六生、子爵大給近孝妹

男 忠 昭二六、一生

當家は徳川家康八世の祖松平有親の男親氏の裔酒井左衛門尉忠善の男左衛門尉忠次の後なり忠次徳川家康に仕へ創業の元勳たり永祿七年參州吉田城を賜ふ其子左衛門尉家次天正十八年上州碓氷三萬石に封ぜられ次第に封を増して越後高田十萬石を領す其子宮内大輔忠勝に至り元和八年羽州莊内十四萬石に轉ずるを以て十三世先代忠篤に至り明治五年獨逸に留學し陸軍中尉たり同十七年伯爵を授けらるる君は其二男にして明治二十一年九月を以て生れ大正四年家督を相続し養子同二十一山形縣多額納稅者たり家族は尙二女喜代子(昭四四、八生)三女和子(昭七七、二生)四女千鶴子(昭四八、二生)二男忠治(昭一一、一生)亡大叔父忠實妻鏡子(元治元、正生、子爵東風歌子)昭三三、八生)は島根縣人大達茂雄に大叔母鏡子(昭三三、八生)は子爵内藤信利先代信任に再婚す(昭一五、七生、大叔父忠實長女)は子爵稻葉順通に同鏡子(昭一七、五生、同二女)は東京府人安田善次郎に再婚す(昭二〇、八生、同三女)は新潟縣人久須美東馬に再婚す(昭二二、三、一生、同四女)は東京府人西脇健治に同惠子(昭二四、三生、大叔父忠利二女)は子爵板倉勝豪先代勝貞に嫁し姉高子(昭二〇、一生)は同夫忠純(昭一九、八生、亡大叔父忠實長男)と共に其子女を伴ひ大叔父忠利(安政四、五生、子爵米津政賢叔父)は同妻辰明元(昭三三、三、東京、土栗田正匠養子)及其子女を伴ひ各分家し弟忠孝(昭二三、一生)同忠悌(昭二六、六生)も亦各分家せり(鶴岡、家中新町電一)

參照 子爵板倉勝豪、子爵稻葉順通、子爵大給近孝、子爵東風歌子、子爵内藤信利、子爵米津政賢、久須美東馬、酒井忠孝、西脇健治、安田善次郎、東京常任米村平右衛門の項

酒井 忠正 從四位、伯爵、貴族院議員、東京府多額納稅者、舊姫路藩

妻 秋子 明三五、一〇生、養父忠興長女、

男 忠元 六一〇、八生、
當家は徳川家康八世の祖松平有親の男親氏の子孫樂助

酒井 忠孝 山形縣在籍、山形、士、伊藤四
妻 イト 明二七、九生、山形、士、伊藤四

酒井 忠正 大六、一〇生、
君は伯備酒井忠良の弟にして明治二十三年一月を以て

酒井 忠康 子爵 舊後松山藩
母 マキヲ 明二四、二生、滋賀、士、樹下範平姪

男 廣雄 大八、一〇生、
君は北海道酒井治三郎の長男にして明治二十七年四月

羽後松山藩の藩主となる夫より六世を経て先々代忠臣
に至り明治十七年子爵を授けらる君は忠臣の孫にして

酒井 忠精 從三位、男爵
妻 田鶴子 明一八、七生、東京、鴻雪年長女

酒井 忠太郎 五十銀行、株專務取締役、茨城貯
妻 健吉 明九、九生、茨城、高野惠郎二女

酒井 爲太郎 五十銀行、株專務取締役、茨城貯
妻 健吉 明九、九生、茨城、高野惠郎二女

酒井 安之助 繪安(養)業務擔當社員
妻 一 明四一、五生

酒井 雪介 從五位勲六等、臺灣總督府事務官、
妻 松子 明二五、二生、鹿兒島、福留喜之

酒井 友次郎 島田銀行(株)頭取
男 銀七 明二〇、一〇生、長男銀七妻、靜岡

酒井 八右衛門 東京府在籍
妻 安政五、一〇生、先々代八右衛門長女

酒井 廣治 北海道多額納税者、土木建築請負
妻 絹子 明三三、一〇生、東京、斧生義躬

酒井 良明 酒井保全(養)代表社員
妻 千 明三八、九生、宮城、士、岡百世

酒井 良治 第八十八銀行(株)取締役
妻 アサエ 明三三、一〇生、岩手、佐藤榮三

酒井 秀一 從五位勲三等、大使館一等書記官、
母 ムラ 慶應元、五生、鹿兒島、武林善次

酒井 安太郎 繪安(養)代表社員、染料商
妻 須 明三〇、七生、大阪、酒井新治郎

酒井 紋次郎 浴場主 大阪府在籍
妻 武 明四一、九生

酒井 又兵衛 新尾銀行、新尾鐵道各(株)取締役
妻 千代 明二七、一〇生、長男又平妻、妹リ

酒井 安之助 繪安(養)業務擔當社員
妻 一 明四一、五生

酒井 雪介 從五位勲六等、臺灣總督府事務官、
妻 松子 明二五、二生、鹿兒島、福留喜之

酒井 友次郎 島田銀行(株)頭取
男 銀七 明二〇、一〇生、長男銀七妻、靜岡

酒井 八右衛門 東京府在籍
妻 安政五、一〇生、先々代八右衛門長女

酒井 廣治 北海道多額納税者、土木建築請負
妻 絹子 明三三、一〇生、東京、斧生義躬

酒井 良明 酒井保全(養)代表社員
妻 千 明三八、九生、宮城、士、岡百世

酒井 良治 第八十八銀行(株)取締役
妻 アサエ 明三三、一〇生、岩手、佐藤榮三

酒井 秀一 從五位勲三等、大使館一等書記官、
母 ムラ 慶應元、五生、鹿兒島、武林善次

酒井 安太郎 繪安(養)代表社員、染料商
妻 須 明三〇、七生、大阪、酒井新治郎

酒井 安太郎 繪安(養)代表社員、染料商
妻 須 明三〇、七生、大阪、酒井新治郎

妻 イト 明三二、五生、福岡、大家富士太
 男 孝一 六一、七生

君は鹿兒島縣人酒匂十太郎の長男にして明治二十年二月を以て生れ同三十年家督を相続す同四十四年東京高等商業學校專攻部を卒業し外交官及領事官試験に合格領事官補に任ぜられ長春鐵道に在勤す爾來關東都督府事務官領事外務書記官通商局監理課長同局第二課長に歷任し大正十四年大使館一等書記官に任ぜられソウイニト聯邦在勤を命ぜられ今日に及ぶ義に華盛頓會議に參列の全權委員隨員を命ぜられ庶子俊子(明四三、八生)は東京府人草間實の養子となれり(在ソウイニト聯邦日本大使館内)

酒匂 基彦 鹿兒島縣多額納稅者、農業
 妻 イヨケサ 安政元、一、二生、鹿兒島、土、鮫島堅右衛門妹

君は鹿兒島縣土族酒匂傳右衛門の長男にして嘉永元年七月を以て生れ明治四年家督を相続す農業を營み現時鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尙曾孫景敬(六一三、六生、孫毅長男)あり長女コト(明一五、一、一)は鹿兒島縣人桑波田吉二に嫁し三男孔夫(同二一、八、四生)は同縣人酒匂七右衛門の養子となれり(鹿兒島、薩摩、山崎村)

酒林 貞治 鳥取縣多額納稅者
 妻 光子 明二五、一、二生、鳥取、田江泰造

君は鳥取縣人酒林靜枝の叔父にして明治十六年七月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す豪商にして同縣多額納稅者たり家族は尙二男昭二(昭二、七生)あり妹智子(昭二、二生)は鳥取縣人吉村欣二に同秀子(同二六、九生)は同縣人柴田秀藏に嫁せり(鳥取、東伯、赤碓町)

酒卷 景一 忍貯金銀行(株)副頭取、忍商業銀行(株)取締役、羽生護謨工業(株)監査役、金融業、埼玉縣在籍

君は埼玉縣人酒卷敬之助の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正十四年家督を相続す先代敬之助の功に實業界に入り臨海銀行頭取貯蓄銀行頭取羽生實業倉庫會社重役たり君其後を承く早稻田大學政治經濟科の出身にして金融業を營み傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙弟洵(昭二、一〇生)及其一子同衡(昭二、三、三)同妻タカ(同三、一〇生、京都、國城嘉十郎妹)との間に一男一女同儀男(同二七、九生)あり叔父時之助(同四、二二生)は同妻イネ(同八、一、二生、北海道、小澤辰次郎二女)及其子女を伴ひ分家し同六郎(同八、九生)は埼玉縣人柿崎政次郎長女津彌の婿養子となり妹知勢(同六一、一〇生)は子爵島尾敬光の母たり(埼玉、北埼玉、志多見村)

酒卷 仁五郎 北海道多額納稅者、酒造業
 妻 マス 安政元、九生、徳島、三好彌平妹

君は北海道人酒卷熊八の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正三年家督を相続す酒造業を營み北海道多額納稅者たり家族は尙孫興成(昭二、八生、長男信一長男)あり(北海道、勇拂、鶴川村)

酒卷 芳男 從五位勲六等、宮内省參事官兼宮内書記官、東京府土族
 妻 サダ 文久二、四生、酒卷興成二女

君は東京府土族飯島貞憲の四男にして明治二十三年七月を以て生れ後先代廉一の養子となり昭和二年家督を相続す大正三年東京帝國大學法科を卒業し

後宮内省に入り現時宮内省參事官兼宮内書記官たり家族は尙長女千榮子(大六、一、一)二女志都(同八、一、一)三女秋香(同九、二、二)あり(東京市外東鴨町一〇五九電大塚一〇六二)

酒見 外次 陶器商
 妻 こま 明三、一、一、京都、山上九兵衛姉

君は兵庫縣人酒見佐一郎の三男にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十四年分家して一家を創立す陶器商を營む家族は尙孫種雄(大四、七、七、長男繁造三男)同幸一(同七、六、六、同四男)同里子(同二〇、九、九、同二女)同晴子(同二二、二、二、同三女)同房子(同二五、一、一、二、二、三男佐市長女)あり二男元治(昭二、九、一〇生)は兵庫縣人酒見三太夫の家督を相続し五男常藏(同四二、一、一、一)は同縣人酒見菊松の養子となれり(京都、下京、五條大橋東三ノ一八電下七七八)

酒美 保造 長崎市參事會員、長崎勸業信託(株)常務取締役、長崎縣土族
 妻 トミヤ 明一七、八、八、長崎、土、古市久勝長女

君は長崎縣土族酒美正三の長男にして明治五年十月を以て生れ同四十年家督を相続す夙に東京高等商業學校に學び現時長崎勸業信託會社常務取締役に任ぜられ長崎市參事會員に擧げらるる家族は尙四男滋夫(大四、七、七)二女郁子(同六、一、一)あり五男泰二郎(同五、九、九)は長崎縣人伊東仙藏の養子となれり(長崎市八幡町五六)

酒本 銀次郎 白石甚兵衛商店(株)常務取締役
 妻 ヤマ 明六、八、八、東京、中里正三郎養子

君は北海道人益田俊夫に嫁せり(朝鮮、大邱、覆審法院檢察長官會)

幸一 富山縣多額納稅者、農業
 妻 みは 明六、九、九、富山、中山かす妹

君は富山縣人堺理右衛門の長男にして明治二十八年四月を以て生れ同三十三年家督を相続す農業を營み富山縣多額納稅者たり家族は尙長女佐知子(昭二、一、一)弟理(昭三、三、三)あり姉きよ(同二〇、三、三)は富山縣人寺本神洞に嫁し(同三〇、一、一)は同縣人堀養子四郎に嫁せり(高岡、大坪町)

幸二 正五位勲五等、東京女子高等師範學校教諭兼教授、福井縣在籍
 妻 すゑ 弘化二、一〇生、福井、池田彌治兵衛四女

君は福井縣人堺すゑの長女にして明治五年四月を以て生れ大正六年家督を相続す明治二十四年福井縣尋常師範學校を卒業し福井縣小學校訓導となる同三十四年女子高等師範學校國語漢文專修科を卒業す爾來市立堺高等女學校教諭岐阜市立高等女學校教諭同縣立岐阜高等女學校教諭東京女子高等師範學校教諭同教授等に歴任し現時に至る(東京、小石川、大塚窪町四三)

豊三郎 筑前銀行、大日本製糖(株)取締役、萬屋商店(名)代表社員
 妻 トヨ 明九、二、二、養父專長女

君は埼玉縣人酒匂十太郎の長男にして明治二十年二月を以て生れ同三十年家督を相続す同四十四年東京高等商業學校專攻部を卒業し外交官及領事官試験に合格領事官補に任ぜられ長春鐵道に在勤す爾來關東都督府事務官領事外務書記官通商局監理課長同局第二課長に歷任し大正十四年大使館一等書記官に任ぜられソウイニト聯邦在勤を命ぜられ今日に及ぶ義に華盛頓會議に參列の全權委員隨員を命ぜられ庶子俊子(明四三、八生)は東京府人草間實の養子となれり(在ソウイニト聯邦日本大使館内)

英輔 大阪府在籍
 妻 まつ 明一〇、二、二、和歌山、山田藤藏

君は福岡縣人堺宗平の三男にして明治元年二月を以て生れ先代專蔵の養子となり同十五年家督を相続す現時前記銀行會社の重役たり義に萬豐土地殖産會社重役たりし事あり三女徳明(昭三、一〇生)は福岡縣人田原正太に嫁し妹ツル(同二四、一、一)は分家せり(福岡、糟屋、新宮村)

長三郎 從四位勲三等、朝鮮總督府檢察、大邱覆審法院檢察長、佐賀縣土族
 妻 とめ 明四、八、八、福岡、土、三原良太

君は佐賀縣土族境良次の長男にして明治四年十月を以て生れ大正四年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十六年判事に任じ名古屋國崎各區裁判所判事福岡地方裁判所判事を經て同四十四年統監府判事に轉じ京城地方裁判所判事に補せられ同四十四年朝鮮總督府判事に任じ爾來京城地方法院檢察高等法院檢察長たり家族は尙三女彌生(大三、三、三)四女正子(同九、九、九)三男挺三(同二一、七、七)養弟徳太郎(明一六、四、四、佐賀、小部伊平太弟)及其子女の外亡弟滿太郎の子あり長女佐古(同三六、五、五)

境 彌生 從四位勲三等、判事、松山地方裁判所長、岩手縣土族
 妻 てちゆ 慶應二、七、七、熊本、徳永藤藏妹

君は岩手縣土族境彌生(昭二、七、七)の長男にして慶應二年七月を以て生れ明治十四年家督を相続す同二十一年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格同三十三年判事に任じ同縣區札幌區同地方前區青森地方同區若松區各裁判所判事官城控訴院判事弘前區裁判所判事仙臺區各地方裁判所判事小倉區裁判所判事高知山形各地方裁判所長等に歴補し大正十四年現職松山地方裁判所長に補せらるる家族は尙孫盛貞(大二三、三、三、養子盛紀長男)同昭子(昭二、四、四、同長女)あり弟敬治(明二、一、二生)

を以て生れ大正四年家督を相続す現時前記銀行會社の重役にして愛知縣多額納稅者たり家族は尙明克巳(大五、九生)あり弟愛次郎(明一四、二生)は其子女を伴ひ同謙吉(同二〇、六生)同妻ちやう(同二〇、七生)愛知、勝野太四郎(其子女を伴ひ各分家し同義助(同三一、七生)も亦分家し同謙平(同二三、二生)は愛知縣人神原文四郎の養子となり妹せつ(同三三、七生)は同縣人森田清兵衛に嫁せり(愛知、知多、成岩町)

神原吉兵衛

やつこうなき、割烹業 東京府在籍

妻 慶應三、二生、養父吉兵衛長女

養子 精一 明二五、四生、養子あか夫、東京、小林長三郎三男

養子 あか 明二二、四生、養子精一妻、養父

君は東京府人加藤喜太郎の長男にして元治元年六月を以て生れ後同府人神原吉兵衛の養子となり前名玉三郎を改め明治三十五年養弟三郎方より分家して一家を創立すやつこうなきと稱し割烹業を営む家族は尙孫喜根子(大七、七生、養子精一長女)同敏夫(同九、八生、同長男)同巳根子(同二一、二生)同女(養妹)まさ(明九、七生)同うめ(同二一、二生)あり(東京、淺草、北田原町八電淺草三三三)

神原定右衛門

神原商店(表)代表社員、三河屋、薪炭商、東京府在籍

妻 津 彌 明五、一〇生、滋賀、澤井藤兵衛長女

養子 博 明二六、一〇生、新潟、山口健治郎三男

君は東京府人先代定右衛門の長男にして安政五年三月を以て生れ明治二十七年家督を相続し前名増五郎を改め名を三河屋と稱し薪炭商を営み傍ら神原商店代表社員たり家族は尙孫喜根子(大七、七生、養子博長男)同昭子(同二〇、九生、同長女)あり(東京、京橋、木挽町三ノ一〇電京橋五八〇〇) 参照 桑島田博の項

神原常吉

東正製藥(株)社長、第一製藥、江東製藥各(株)取締役、東京府在籍

妻 一 明一六、一〇生、東京、木下庄太郎長女

君は静岡縣人神原祐次郎の弟にして明治六年十月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す現時明正製藥會社社長にして傍ら前記會社の重役たり養子秀子(明三六、九生、和歌山、松本善六長女)は其夫忠治郎(同三〇、一〇生、奈良、大塚元重郎二男)と共に分家せり(東京市外品川町品川七七八電高輪五三〇六)

神原經武

兩毛印刷(株)取締役、栃木町會議員、辯護士、栃木縣士族

妻 ハナ 元治元、三三、片柳善平三女

男 金 繼 明一七、七生

男 展 成 明三二、一〇生、長男金繼妻、東京、白井重吉妹

君は栃木縣士族神原儀大夫の長男にして安政四年二月を以て生れ後家督を相続す法學を修め辯護士にして養に栃木町長栃木縣會議長等に推され衆議院議員に當選すること二回に及ぶ現時前記兩毛印刷會社の取締役に任ぜられ栃木町會議員に選ばれる家族は尙孫勝子(大五、八生、長男金繼長女)同壽(同九、二生、同二男)あり二女タケ(明二八、一〇生)は滋賀縣士族久保亮の養子となれり(栃木、下都賀、栃木町) 参照 清水水治兵衛の項

神原辨吾

豊橋商工品陳列館(株)取締役、滋美電鐵、國際運送各(株)監査役

妻 たま 明二七、一〇生、岐阜、宇野伊三郎三女

男 勝 男 明三六、七生

男 芳 雄 明四〇、七生

君は愛知縣人神原善之助の長男にして明治二年三月を以て生れ同二十一年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙五男博重(大三、四生)六男信一(同六、九生)弟瀧(明一〇、八生)同妻まつ(同二一、一〇生、愛知、野澤秋安二女)及其子女並に亡弟次郎妻こと(同八、一〇生、愛知、糟谷長次郎妹)及其一子あり二女あり(同三一、九生)は愛知縣人磯村永助に三女を以て(同三四、一〇生)は同縣人石川一男に嫁せり(豊橋、花田町字西宿)

神原政春

子爵 舊高田藩

當家は陸奥守足利義隆の次男判官義清の後にして十三世を経て清長に至り勢州神原邑より三州に移り徳川氏に仕ふ孫式部大輔康政家康に仕へ創業の功臣にして上州館林十萬石に封ぜらる四世を経て政邦の時播磨路より越後高田十萬石に移り更に七世を経て先々代政敬に至り維新の際官軍に屬し奥羽北越の地に轉戦し後宮中勤番官中祇候等仰付けられ明治十七年子爵を授けらる先代政和は東京府士族神原貞吉の兄にして政和隱居の後を相続して襲爵し君に至る君は政和の二男にして明治四十四年三月を以て生れ昭和二年一月家督を相続し同年三月襲爵仰付けらる家族は弟政徳(大三、六生)同政道(同五、九生)同政行(同七、二生)同政美(同九、一〇生)叔母延子(明三、九生)あり同重子(同四、七生)は東京府士族伊藤正壽に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町原宿三三三電青山五九二)

神原康吉

加藤商會(株)常務取締役、加藤商會(株)監査役、愛知縣在籍

妻 う 明二五、四生、愛知、重野治右衛門三女

男 芳 平 大四、九生

君は愛知縣人神原直太郎の弟にして明治十五年三月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す現時加藤商會常務取締役たる傍ら前記會社の重役を兼ねる家族は尙二男泰平(大八、一〇生)長女せつ(同二二、八生)三男俊平(同二五、一〇生)甥豊一(同三三、三三)生、愛知、神原精四郎長男あり(神戸、下山手通六ノ一三五電元町三五五八)

神原叔雄

從五位勳六等、神戸高等商業學校教授、愛知縣在籍

妻 はつ 明一七、一〇生、愛知、中川庄司妹

男 豊 明四一、三三

女 富 貴 大二、一〇生

女 多 美 大二、一〇生

君は愛知縣人神原伸の弟にして明治六年九月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す現時愛知縣立常中學校を卒業し同二十八年中等學校同國語科員免狀を得爾來栃木縣高等女學校助教諭同縣尋常中學校福島

縣會津中學校愛知縣第四中學校同縣明倫中學校各教諭文部省國語調査會囑託に應じ現時神戸高等商業學校教授たり家族は尙二男勇(明四三、三三)あり(神戸、坂口通六ノ四ノ二)

神原亮之助

中塾酒店(株)代表取締役 愛知縣在籍

妻 ふさ 明一、一〇生、愛知、中村由平姉

君は愛知縣人神原又藏の長男にして明治七年一月を以て生れ大正二年家督を相続す現時中塾酒店代表取締役たり家族は尙弟三男本(明一九、五生)同妻ちよ(同二九、七生、愛知、中村由平妹)及其一男二女あり(愛知、知多、半田町)

相模英藏

資産家 大阪府在籍

妻 キマ 明一六、六生、大阪、阪根八次郎妹

君は大阪府人相模英藏の長男にして明治三十八年十月を以て生れ大正九年家督を相続す資産家として知らる(大阪、浪速、櫻川ノ一〇六五)

相良步

正四位勳三等、金澤市長 石川縣士族

妻 こよそ 明一七、六生、東京、野村進蔵妹

男 玉 杵 明三八、二生

君は石川縣士族相良豊の長男にして明治九年五月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試験に合格し愛媛長崎各縣參事官群馬宮城各縣事務官和歌山山形各縣内務部長樺太廳内務部長等に歴任し現に金澤市長にして兼に金澤商業會議所特別議員たり家族は尙三女出羽子(大四、九生)三男弘明(同七、七生)四女澤子(同二〇、八生)四男弘郎(同二四、二生)弟顯三(明一六、一〇生)あり同外之(同二二、七生)は石川縣人中崎與四右衛門の養子となり同顯六(同二八、九生)は分家し妹二葉子(同二五、四生)は岐阜縣人佐口章長男榮に長女イヨ子(同三三、二生)は東京府人土師秀雄に二女リカ子(同四二、二生)は石川縣人長得一に嫁せり(金澤、玄蕃町二番丁一五電五六八)

相良伊作

古賀銀行(株)常務取締役 佐賀縣在籍

妻 サヲ 明二〇、三三、佐賀、土、中島輔二女

男 眞 輔 明四三、一〇生

君は佐賀縣人相良萬吉の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正七年家督を相続す現に古賀銀行常務取締役に任ぜらる家族は尙三男邦男(大四、一〇生)長女チエ(同七、一〇生)四男三郎(同二一、一〇生)三女和子(同三一、一〇生)あり(佐賀市水ヶ江町二〇)

相良安之助

鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島肥料(株)取締役、鹿兒島銀行 監査役、酒造業、鹿兒島縣在籍

妻 モト 明九、三三、鹿兒島、河野勝次郎妹

男 弘 明三一、九生

男 清 明三八、一〇生

女 ハルエ 明四二、三三

君は鹿兒島縣人相良安藏の長男にして明治五年四月を以て生れ同三十八年家督を相続す酒造業を営み現に縣下の多額納稅者にして前記銀行會社の重役たり長女チエ(明三四、一〇生)弟敬三(同二六、一〇生)は共に鹿兒島縣人藤武喜助の養子となり妹フチ(同二八、六生)は同縣人岩元善藏に嫁せり(鹿兒島市柳町一七) 参照 岩元善藏、藤武喜助の項

相良頼綱

從四位、子爵 東京府多額納稅者 舊肥後人吉藩

妻 中子 安政四、五五、公傳徳大寺公弘叔母

男 頼 知 明三七、四生、從五位

女 充 子 明四二、四生

當家は左大臣藤原武智磨の裔駿河守時理の二男遠江守維兼の後なり其孫宮中大夫頼遠河津郡相良の庄を領し依て氏とす後四世を経て三郎長頼に至り建久九年初めて肥後人吉の庄を領す後十一世を経て宮内少輔長毎に至り豊臣氏に屬し又徳川氏に屬し人吉二萬二千石の本領を安堵すそれより二十一代を経て先代頼綱に至る頼綱宮中祇候華族部長局書記同主典に歴補して歐洲を漫遊し明治十七年書院に授けられ貴族院議員に列す君以後を享く君實は先々代頼基の男にして明治九年十一月を以て生れ先代頼綱の養子となり大正十三年家督を相続し襲爵仰付けらる風に學習院及外國語學校に學

君は石川縣士族相良豊の長男にして明治九年五月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試験に合格し愛媛長崎各縣參事官群馬宮城各縣事務官和歌山山形各縣内務部長樺太廳内務部長等に歴任し現に金澤市長にして兼に金澤商業會議所特別議員たり家族は尙三女出羽子(大四、九生)三男弘明(同七、七生)四女澤子(同二〇、八生)四男弘郎(同二四、二生)弟顯三(明一六、一〇生)あり同外之(同二二、七生)は石川縣人中崎與四右衛門の養子となり同顯六(同二八、九生)は分家し妹二葉子(同二五、四生)は岐阜縣人佐口章長男榮に長女イヨ子(同三三、二生)は東京府人土師秀雄に二女リカ子(同四二、二生)は石川縣人長得一に嫁せり(金澤、玄蕃町二番丁一五電五六八)

相良亮吉

東京府士族

妻 トク 明二〇、一〇生、東京、窪田祐章二女

男 滿 雄 明四〇、一〇生

君は東京府士族相良宗藏の三男にして明治十三年十一月を以て生れ同四十四年亡兄の後を相続す現時前記會社の重役たり二男二郎(大六、一〇生)は外祖母窪田マサの養子となり甥男嗣(明四一、七生)は佐賀縣人小川龜太郎の養子となれり(東京、芝、高輪南町三〇電高輪一九〇九)

相樂綱直

正三位、男爵 舊公卿家

妻 淳子 明三六、七生、子爵梅溪通虎妹、三重縣多額納稅者松平家長女

當家は故正三位子爵富小路敬直の次男富道の立つる所なり富道幼にして南都興福寺の僧となり同寺中興門院の住職となる明治元年勅命に依り復して別に一家を立て家號を相樂と稱す翌年堂上の列に加へられ同八年華族に列す君は富小路敬直の四男子爵富小路隆直の叔父にして明治元年二月を以て生れ兄富道の養子となり同十三年家督を継ぎ同十七年男爵を授けらる(京都、上京、萬里小路新一條上ル吉田上阿達町三) 参照 子爵梅溪通虎、子爵富小路隆直、松平家長の項

匂坂 勝藏 静岡縣多額納税者、見付倉庫(株)社長、中央醸造(株)監査役、工業

先田 興助 大阪府在籍 妻 キク 明一六、一〇生、大阪、阪田伊之

咲花 一二三 十五銀行(株)取締役 鹿兒島縣在籍 母 フチ 安政四、一〇生、鹿兒島、土、大橋

崎山 熊楠 帝國無盡、東關酒造各(株)社長、紀伊國屋總本店、酒類問屋 東京府在籍

崎山 武夫 從七位、陸軍歩兵中尉、衆議院議員 (鹿兒島縣選出、南九州黨業(株) 取締役、東京府在籍)

崎山 刀太郎 日本電線(株)事務取締役 東京府在籍 妻 義一 大、九生

崎川 才四郎 從三位勳二等、特許局長官 東京府在籍

崎山 喜代 明四〇、一〇生、聖心女子學院出身 女 壽 明四一、一〇生、實踐女學校出身

崎川 茂太郎 正七位勳六等、三井鐵山(株)神岡 鑛業所長、東京府在籍

鷺池 平九郎 大阪府多額納税者、中央水産販賣 所(株)取締役、共同漁業、千歳同族 大阪府在籍

作田 莊一 正五位勳四等、京都帝國大學助教 授、山口縣在籍

崎山 龍真 サイト紙製紙(株)事務取締役 山口縣在籍

崎本 槌之進 大正起業(株)社長 山口縣在籍

崎山 喜之助 鹿兒島縣多額納税者、紙類商 鹿兒島縣在籍

作田 高太郎 衆議院議員(廣島縣選出)、辯護士 廣島縣在籍

作田 龍真 サイト紙製紙(株)事務取締役 山口縣在籍

柵瀬 軍之佐 正五位勳三等、衆議院議員(岩手 縣選出、岩手縣在籍)

崎山 龍真 サイト紙製紙(株)事務取締役 山口縣在籍

選する事六回に及び現に立憲民政黨所屬たり家族は尚孫廣太郎(大八、八生、養子信平長男)同邱次郎(同一、四生、同二男)同高麗枝(同一三、七生、同長女)同富士枝(昭二、二生、同三女)あり(東京、四谷、大番町七七電四谷四四一〇)

參照 高橋甚藏(中屋良雄)山田拍探の項

櫻井 伊八
大阪厚板硝子(株)取締役、玻璃器製造業、大阪府在籍
妻 フク 明一三、二生、大阪、出谷傳三郎

君は兵庫縣人賀集清藏の弟にして明治六年三月を以て生れ同十四年先代フクの入夫となり家督を相続す玻璃器製造業を營み大阪厚板硝子會社取締役たり(大阪、南、鹽町三ノ一八電船場一四〇三)

櫻井 伊兵衛
群馬縣多額納税者、上州銀行、高橋板紙各(株)取締役、七十四銀行、群馬縣在籍
妻 ヨシ 明二五、四生、栃木、川島藤左衛門

君は群馬縣人先代伊兵衛の長男にして明治二十年十一月を以て生れ同二十九年家督を相続し前名徳太郎を改め署名す現時前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納税者たり曾て貴族院議員に互選せらるる家族は尙弟貞司(明二二、一〇生)同妻きた(同三〇、一一生、埼玉、貫井清憲妹)姉とよ(同一六、八生)弟秀三郎(同二七、二生)あり(高崎、本町三)

參照 貫井清憲(松林二郎)の項

櫻井 岩松
安部幸商店(株)取締役兼名古屋出張所主任、三重縣在籍
妻 きさ 明一九、五生、三重、海老原三之助

君は三重縣人櫻井重助の二男にして明治八年二月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す現時安部幸商店

櫻井 伊久我治
南樺鐵道(株)取締役、王子製紙(株)取締役、東京市外西區鴨町池袋六二七電大塚四七三

君は靜岡縣人石切山利右衛門の二男にして慶應二年十月を以て生れ先代又五郎の養子となり大正四年家督を相続す小學教師運送業製茶輸出業を経て明治二十六年鹿島郡に入り參事に累進し現に同組理事たり家族は尙二男敏夫(明四三、六生)あり長女かふ(同一四、一〇生)は千葉縣人高橋八郎(二男醫學士七郎)に嫁せり(東京市外西區鴨町池袋六二七電大塚四七三)

櫻井 小右衛門
能登銀行(株)取締役、石川縣在籍
妻 ゆき 明一三、一一生、石川、益谷太助

君は石川縣人先代小右衛門の長男にして明治八年十月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名小四郎を改め署名す現時能登銀行取締役たり長女靜(明三六、二生)は石川縣人松野重太郎(長男重信)に嫁せり(石川、鹿島、七尾町)

參照 益谷太助の項

櫻井 小太郎
正五位勳四等、工學博士、櫻井建設事務所所長、東京府在籍
妻 範子 明一〇、五生、子爵日野西實博妹

君は舊金澤藩の出にして祖父梅室より家名を揚ぐ梅室俳句を能くし子能監其後を承く能監風に職を内務省に奉じ次で宮内省に轉じ内大臣秘書官兼宮内書記官に進み又小松宮家別當を兼ね君は其長男にして明治三年九月を以て生れ同三十一年家督を相続す先是帝國大學工科大学に學び辰野金吾氏に伴はれて英國に渡り倫敦大學に入り在留五年建築學を修め歸朝以來海軍技師として及横須賀鐵道守府に勤務し後三菱合資會社に入り地所部技師長たりし大正十二年之を辭し建築事務所を經營す先是同四年工學博士の學位を授けらるる家族は尙五女泰子(大三、一一生)六女駒子(同六、一一生)あり長女安藝子(明三三、二生、跡見女學校出身)は故貴族院議員穂積八東長男婦護士重成に二女靜子(同三六、四生、日本女子大學校附屬高等女學校出身)は東京府人倉島庄三郎(三男醫學士伍郎)に嫁し弟乙吉(同八、

櫻井 好一
富士瓦斯紡績(株)監査役、櫻井好一商店、棉花商、大分縣在籍
妻 テル 安政五、一一生、大分、土、和田豊治姉

君は大分縣土族和田豊治の弟にして明治九年十月を以て生れ後先代助五郎の養子となり同十四年家督を相続す棉花商櫻井好一商店を經營し尙前記會社の重役たり二女米子(明四一、一〇生)は故貴見豊治妻織衣の養子にして當主たり(兵庫、武庫、御影町郡家二四七電御影八三三)

櫻井 權太郎
大和銀行(株)専務取締役、神奈川縣在籍
妻 リン 元治元、六生、神奈川、久保田半右衛門長女

君は靜岡縣人櫻井權太郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格大藏省書記官朝鮮總督府書記官長等に歴任し大正七年朝鮮殖産銀行の創立せらるるに際して貯蓄部長兼總務部長となり現時其の理事に擧げらるる妹梅子(明一七、一〇生)は石川縣人族村幸長に同靜子(同二四、一〇生)は岡山縣人法學士福岡炭礦會社専務取締役高崎勝文に嫁し弟金吾(同二八、二生、工學士、鐵道省技師)は其の一子を伴ひ分家せり(京城、松峴洞朝鮮殖産銀行社宅)

參照 村幸長(小川龍宗)山麓雄の項

取締役兼名古屋出張所主任たり家族は尙五女妙子(大三、七生)二男英治(同一〇、三生)あり(名古屋、東、撞木町二ノ三電東四二二七)

櫻井 宇兵衛
天字、味噌商、大阪府在籍
妻 菊 明二六、九生、兵庫、津田彌兵衛

君は大阪府人先代宇兵衛の二男にして明治二十六年五月を以て生れ大正七年家督を相続し前名金治郎を改む味噌商を營み天字と稱す家族は尙長女慶(大七、六生)三男喜三(同九、八生)あり(大阪、浪速、元町四ノ四二二三電浪一九九六)

櫻井 兼吉
米穀商、東京府在籍
妻 シカ 明三、八生、東京、山崎斧次郎妹

君は東京府人櫻井松五郎の長男にして明治四年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す米穀商を營む家族は尙五男勝光(明四二、六生)孫稻美夫(大一一、六生、長男新太郎長男)同イク(同一四、二生、同二女)亡弟七郎妻あき(明一七、九生、東京、今井市三郎二女)及び其子女あり(東京市外中野町四〇四一電中野二七〇)

櫻井 龜次郎
大矢組(株)常務取締役、大阪府在籍
妻 ジウ 明元、一一生、大阪、榊谷重次郎二女

君は東京府人櫻井松五郎の長男にして明治四年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す米穀商を營む家族は尙五男勝光(明四二、六生)孫稻美夫(大一一、六生、長男新太郎長男)同イク(同一四、二生、同二女)亡弟七郎妻あき(明一七、九生、東京、今井市三郎二女)及び其子女あり(東京市外中野町四〇四一電中野二七〇)

櫻井 圓二
阪、奥井清吾二男、養子圓二妻、養子圓二
妻 廣子 明三三、四生、養子圓二妻

君は奈良縣人伊原與市郎の二男にして明治元年十二月を以て生れ同三十三年先代ジウの入夫となり家督を相続す現時大矢組常務取締役たり家族は尙孫喜子(同一、一一生、養子圓二長男)同登喜子(同一三、六生、

同長女)同禮子(昭二、二生、同二女)あり(大阪、西、靱中通二ノ七九電土佐備一四四四)

櫻井 喜平
地頭方銀行(株)代表取締役、池新田銀行(株)取締役、靜岡縣在籍
妻 ちせ 明二六、六生、靜岡、九尾鎌三郎

君は靜岡縣人櫻井喜平の二男にして明治十九年十二月を以て生れ現時地頭方銀行代表取締役たる外前記銀行の重役を兼ぬ家族は尙二女佐保(大三、四生)二男徳治(同五、六生)三男守(同七、二生)三女幸(同九、一〇生)四男恒男(同一〇、一一生)五男貞雄(同一三、一一生)六男邦彦(同一四、九生)七男滿壽雄(昭二、二生)あり(靜岡、小笠、池新田村)

參照 櫻井雄三郎(松谷憲吉)矢野文左衛門の項

櫻井 美代
愛媛縣銀行、實商事各(株)取締役、愛媛縣土族
妻 マキ 明一四、一〇生、愛媛、守田須二女

君は舊松山藩士櫻井美代の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治七年家督を相続す松山商業銀行専務取締役に擧げられ後同行の合同に際し愛媛銀行取締役に就任し現に其の任に在る外實商事會社取締役たり家族は尙亡弟文雄妻ヒデ(明一五、五生、愛媛、土、越智通博二女)あり長女千代(同二六、五生)は愛媛縣人長坂清太郎に二女八重(同二九、四生)は靜岡縣人服部純雄に三女香壽(同三三、八生)は同縣人武智善廣に嫁し弟眞清(同五、一一生、陸軍少將)は同妻カサル(同二一、三三、東京、土、兵頭雅賢長女)と共に其子女を伴ひ分家せり(松山、中歩町一七)

參照 長坂清太郎の項

櫻井 金作
鹿島組理事、東京府在籍
妻 又五郎 嘉永二、二生、埼玉、谷口萬吉二女

君は靜岡縣人櫻井金作の長男にして明治十年二月を以て生れ同三十七年東京府人櫻井都二郎の養子となり現に産科婦人科櫻井病院長たり家族は尙養弟清香(明二七、一一生)同妻操(同三三、一一生、北海道、奥田良平四女)と共に一子ある外亡弟養兄魯助妻秀子(同一三、四生、千葉、鶴月庄三郎長女)同長男孝友(同三七、三三、現戸主)及其數子あり(東京、日本橋、矢ノ倉町一二電濱花二一九)

參照 松本多愛彦の項

櫻井 好一
富士瓦斯紡績(株)監査役、櫻井好一商店、棉花商、大分縣在籍
妻 テル 安政五、一一生、大分、土、和田豊治姉

君は大分縣土族和田豊治の弟にして明治九年十月を以て生れ後先代助五郎の養子となり同十四年家督を相続す棉花商櫻井好一商店を經營し尙前記會社の重役たり二女米子(明四一、一〇生)は故貴見豊治妻織衣の養子にして當主たり(兵庫、武庫、御影町郡家二四七電御影八三三)

櫻井 權太郎
大和銀行(株)専務取締役、神奈川縣在籍
妻 リン 元治元、六生、神奈川、久保田半右衛門長女

君は靜岡縣人櫻井權太郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格大藏省書記官朝鮮總督府書記官長等に歴任し大正七年朝鮮殖産銀行の創立せらるるに際して貯蓄部長兼總務部長となり現時其の理事に擧げらるる妹梅子(明一七、一〇生)は石川縣人族村幸長に同靜子(同二四、一〇生)は岡山縣人法學士福岡炭礦會社専務取締役高崎勝文に嫁し弟金吾(同二八、二生、工學士、鐵道省技師)は其の一子を伴ひ分家せり(京城、松峴洞朝鮮殖産銀行社宅)

參照 村幸長(小川龍宗)山麓雄の項

櫻井 權太郎
大和銀行(株)専務取締役、神奈川縣在籍
妻 リン 元治元、六生、神奈川、久保田半右衛門長女

君は靜岡縣人櫻井權太郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格大藏省書記官朝鮮總督府書記官長等に歴任し大正七年朝鮮殖産銀行の創立せらるるに際して貯蓄部長兼總務部長となり現時其の理事に擧げらるる妹梅子(明一七、一〇生)は石川縣人族村幸長に同靜子(同二四、一〇生)は岡山縣人法學士福岡炭礦會社専務取締役高崎勝文に嫁し弟金吾(同二八、二生、工學士、鐵道省技師)は其の一子を伴ひ分家せり(京城、松峴洞朝鮮殖産銀行社宅)

參照 村幸長(小川龍宗)山麓雄の項

櫻井 權太郎
大和銀行(株)専務取締役、神奈川縣在籍
妻 リン 元治元、六生、神奈川、久保田半右衛門長女

君は靜岡縣人櫻井權太郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同三十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格大藏省書記官朝鮮總督府書記官長等に歴任し大正七年朝鮮殖産銀行の創立せらるるに際して貯蓄部長兼總務部長となり現時其の理事に擧げらるる妹梅子(明一七、一〇生)は石川縣人族村幸長に同靜子(同二四、一〇生)は岡山縣人法學士福岡炭礦會社専務取締役高崎勝文に嫁し弟金吾(同二八、二生、工學士、鐵道省技師)は其の一子を伴ひ分家せり(京城、松峴洞朝鮮殖産銀行社宅)

參照 村幸長(小川龍宗)山麓雄の項

櫻井 權太郎
大和銀行(株)専務取締役、神奈川縣在籍
妻 リン 元治元、六生、神奈川、久保田半右衛門長女

櫻井 昇策 米穀商
君は神奈川縣人櫻井忠之助の二男にして明治十一年二月を以て生れ大正二年家督を相続す米穀商を営む櫻井神奈川縣多額納税者たり家督は尙五男光(大)、四生、孫喜子(同四、二生、長男長子(大)、一〇生、同四女)同登志子(同二、一〇生、同四女)あり二男林三郎(明二、二生)は神奈川縣人當麻マスの入夫となり三男武造(同二、三、九生)は分家し長女アキ(同三一、一〇生)は陸軍大尉大庭四郎に二女マサ(同三四、三三)は神奈川縣人堤英三に嫁せり(川崎、大師河原町四一三二)

櫻井 錠二 正三位勳一等、理學博士、樞密顧問官、東京帝國大學名譽教授、帝國學士院長、學術研究會會長、東京府士族
君は茨城縣人櫻井多兵衛の二男にして明治六年七月を以て生れ同二十二年家督を相続す米穀商を営み茨城縣多額納税者たり家督は尙五男光(大)、四生、孫喜子(同四、二生、長男長子(大)、一〇生、同四女)同登志子(同二、一〇生、同四女)あり二女きん(同三八、一〇生)は同縣人廣瀬清に三女とし(同四一、一〇生)は同縣人村慶次郎に姉し(同元、七生)は茨城縣人戸頭幸吉に嫁し(同文久元、九生)は其一子を伴ひ分家し弟太平(明二三、一〇生)同新吉(同二五、二生)は茨城縣人櫻井しつ方(入家せり(茨城、西茨城、岩瀬町)
參照 茨中里倉太郎の項

櫻井 昇策 米穀商
妻 明八、七生、茨城、野村安吉長女
男 昌司 明三七、九生
女 武雄 明三一、六生、三男武雄妻、兵庫野口太郎姉
男 武雄 明二九、九生、海軍機關少佐
女 春江 明三八、四生、五男雄妻、文學博士大瀧甚太郎五女
男 春雄 明三三、五生

君は舊金澤藩士櫻井甚太郎の四男にして安政五年八月を以て生れ明治二十年兄房記方より分家して一家を創立す同四年東京に於て大學南校に入り普通學を修む次いで校名開成學校と改まり専門學科を設けらるゝに當り化學を専攻す同九年文部省より化學研究の爲英國に留學を命ぜられ倫敦大學に入り在學五年クロッセルカ獎學金及金牌を受く同十四年歸朝文部省御用掛東京大學講師となり翌十五年東京帝國大學教授に任ぜられ同二十一年理學博士の學位を授けらるゝ後東京帝國大學理學部部長に推され東京帝國大學總務長事務取扱に補せらるゝ學術觀察及び萬國學術會議參列の爲歐米各國に出張する事數回グラスゴウ大學より法學博士の名譽學位を授けられ又佛國米國各化學工業化學會露國學士院等の名譽會員に選ばれる大正九年貴族院議員に勅選せられ現時樞密顧問官にして東京帝國大學名譽教授帝國學士院長學術研究會會長たり家督は尙八男信雄(明四二、二生)孫道子(大一一、九生、三男武雄長女)同君子(同二三、四生)同美代(同一一、一〇生)同五男雄長女あり二男時雄(明一八、一〇生)は其妻つよ(同二七、七生、埼玉、中條幸八五女)と共に其一子を伴ひ分家し長女峰(同二一、九生)は東京府士族鈴木正美に二女文(同二二、一〇生)は同府士族理學士鈴木庸生に四女皆(同二六、九生、御茶水高等女學校出身)は愛媛縣人芳我石雄に五女滿子(同三六、一〇生)は愛知縣人服部二男工學士謙次に嫁せり(東京、本郷、駒込町一六〇小石川七五一)
參照 大瀧甚太郎、鈴木正美、池田菊苗、岩崎輝彌、濱野阿具、藤村朝松、井筒治の項

櫻井 新治 二葉製藥、武藏野館各(株)社長、帝都興業(株)常務取締役、池袋武藏野館(株)取締役、洋品商
君は福島縣人赤間安之助の三男にして明治十年一月を以て生れ同三十三年櫻井平七の養子となり同三十七年分家して一家を創立す洋品商を営み傍ら二葉製藥會社社長たる外前記諸會社の重役たり家督は尙四男三郎(明四二、二生)七男七郎(大一一、四生)あり(東京市外淀橋町角管九電四谷一〇五七)
參照 福田助助の項

櫻井 善太郎 茨城縣多額納税者、米穀商
妻 明一、三三、栃木、渡邊半七三女
男 錫一郎 明三三、一〇生
女 千代子 明三六、五生
男 錫二郎 明三六、五生
女 トミ 明四四、三三

櫻井 宗一郎 富山縣多額納税者、高岡銀行(株)監査役、富山縣在籍
妻 里久 明四四、一〇生
女 眞 明四四、一〇生

櫻井 大二郎 星名刺、青宮眞感光紙製造元
妻 文子 明四〇、五生、日本女子大學在學
女 文子 明四三、九生、第一高等女學校在學
女 靜子 明四三、九生、第一高等女學校在學

櫻井 勉 正四位勳三等、錦鶏間祇儀、兵庫縣士族
妻 恒次郎 明五、三三、現戶主
男 恒次郎 明五、三三、現戶主

櫻井 恒次郎 正四位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務
妻 美津 明一〇、三三、故醫學博士大澤岳太郎養子、明四〇、四生

櫻井 染五郎 神奈川縣多額納税者
妻 明二、三、一〇生、神奈川、中山裕男長女
養子 イト 明四一、九生、神奈川、中山爲之丞長女
養子 ハナ 大二、一〇生、神奈川、和泉平助長女
君は神奈川縣人櫻井峰吉の弟にして明治五年十月を以て生れ大正元年分家して一家を創立す家督にして現に神奈川縣多額納税者たり(横濱、神奈川、淺間町四三八號長町二九五四)

櫻井 忠胤 從三位、尼崎藩、舊播磨州士族
妻 鷹子 明三三、一〇生、子爵本多忠昭姉、學藝院女學部出身
男 忠胤 明四二、一〇生
女 美知子 明四二、一〇生、女子學藝院出身
女 加壽子 明四三、一〇生、女子學藝院出身
女 幾代子 大二、一〇生

櫻井 恒次郎 正四位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務
妻 美津 明一〇、三三、故醫學博士大澤岳太郎養子、明四〇、四生

櫻井 恒次郎 正四位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務
妻 美津 明一〇、三三、故醫學博士大澤岳太郎養子、明四〇、四生

同長男同保次郎(同八、一生、同二男)同保三郎(同...

櫻内 辰郎 業議院議員(東京府選出)、土地仲...

櫻内 篤彌 横濱正金銀行(株)シヤトル支店支...

櫻内 幸雄 業議院議員(高根縣選出)、掛斐川...

君は東京府人櫻田元次郎の長男にして明治十六年二月...

君は和歌山縣人櫻田吉兵衛の長男にして明治三年九月...

君は青森縣人櫻田八五郎の長男にして明治五年一月を...

君は宮城縣人櫻田文治の長男にして明治九年十月を...

君は宮城縣人櫻田五右衛門の弟にして明治十四年五月...

妻 さたこ 明一五、三三、東京、徳永純長女...

櫻木 満之助 高知商工會議所副頭、土佐商工...

櫻木 勇吉 復元堂病院分院長、醫師...

君は福島縣人櫻田隆藏の弟にして明治十六年九月を...

君は和歌山縣人櫻田吉兵衛の長男にして明治三年九月...

君は青森縣人櫻田八五郎の長男にして明治五年一月を...

君は宮城縣人櫻田文治の長男にして明治九年十月を...

君は宮城縣人櫻田五右衛門の弟にして明治十四年五月...

君は宮城縣人櫻田五右衛門の弟にして明治十四年五月...

櫻木 亮三 博多商工會議所副頭、東邦電機...

櫻澤 千藏 松本製粉(株)取締役...

櫻澤 忠四郎 三菱商事(株)上海支店長...

君は埼玉縣人櫻澤廣治の二男にして明治十七年四月を...

君は埼玉縣人櫻澤鶴吉の弟にして明治十七年五月を...

君は青森縣人櫻田八五郎の長男にして明治五年一月を...

君は宮城縣人櫻田文治の長男にして明治九年十月を...

君は宮城縣人櫻田五右衛門の弟にして明治十四年五月...

君は宮城縣人櫻田五右衛門の弟にして明治十四年五月...

迫 源次郎 日本鋼業(株)専務取締役
 妻 佐多 明四、五生、熊木、塚澤和乎長女
 孫 守治 大一二、一〇生、長男一郎長男
 君は熊本縣人丹邊丹治の四男にして明治元年一月を以て生れ先代源美の養子となり後ち家督を相続す凡に實業界に入り現時日本鋼業會社専務取締役たり長男一郎(明二八、五生)三男大平(同三四、三三)は各分家し二男靜二(同三一、四生)同妻綱(同三八、三三)東京、中島一太妹)も亦其一子に伴ひ分家し長女不二子(同三八、六生)は佐賀縣人長谷川公一に嫁せり(熊本市銀治屋町八)

迫田 七郎

六十三銀行(株)常務取締役
 東京府士族
 妻 政憲 明三、三三、長男政憲妻、東京、築八郎平四女
 君は鹿兒島縣士族迫田助右衛門の三男にして安政四年正月を以て生れ明治二十二年家督を相続す現時六十三銀行常務取締役たり家族は尙孫勝憲(大一一、四三、三三)長男政憲(明一九、一〇生)は鹿兒島縣人三原貞次郎に三女(同二五、九生)は男爵所一郎叔父武光に嫁せり(東京、麹町、元町一ノ二三九段九六二)

笹 慶一

從五位、朝鮮總督府技師、内務局勤務、青森縣在籍
 妻 仁 大四、一〇生、青森、千葉宇之吉
 君は青森縣人笹松太郎の四男にして明治二十年四月を以て生れ大正二年東京帝國大學工科大学建築學科を卒業し陸軍技師を経て同四年陸軍技師に任じ爾來朝鮮駐劄軍第三師團近衛師團各經理部勤務の後同十一年朝鮮總督府技師に轉じ現に内務局勤務たり家族は尙二男昇(大六、一〇生)三男旭(同七、六生)長女初枝(同九、一〇生)二女愛子(同一一、一〇生)四男忠夫(同一一、四一、一〇生)兄慶次郎(明一〇、五生)現戶主及其子女並に亡兄慶助妻いし(同二六、一〇生、青森、士、成田彦太)

郎三女)及其子女あり弟成(同二九、六生)は分家し姪ヤエ(同三二、一〇生)は北海道人森昭壽次に同トミ(同三七、九生)は青森縣人田代春雄に嫁せり(京城、總督府内務局内)

笹尾 正一

從四位勳三等、商工技師、鐵山局鑛業課長、山口縣士族
 妻 正 明一、一〇生、山口、長岡正倫妹
 君は山口縣士族笹尾政健の長男にして明治十年十二月を以て生れ同三十八年家督を相続す同三十五年東京帝國大學工科大学探鑛冶金科を卒業し鐵山監督官補となり爾來鐵山監督署技師鐵山監督官農商務技師等に歴任し大正十四年商工技師となり現に鐵山局鑛業課長に在り弟勝藏(明一三、六生)は山口縣士族笹尾辰輔に同美介(同一一、一〇生)は同縣人倉重健之進に各養子となり同五郎(同二二、八生)は分家し妹セツ(同二五、二生)は山口縣士族山縣素介に同ノシ(同二七、一〇生)は倉重盛之輔に嫁せり(東京市外濠谷町櫻丘九六ノ五電青山七〇七)

笹岡 省三

奈良縣在籍、藥種商
 妻 正 明一、九生、大阪、松田喜太郎妹
 君は奈良縣人笹岡豊松の弟にして明治六年四月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す藥種商を營み生の孫本舖として知らるる家族は尙二男壽弘(明四二、九生)孫正治(昭二、一〇生)長男正長男あり(東京、京橋、新榮町四ノ一電京橋五五〇六)

笹川 喜三郎

從四位勳三等、日本醫師、赤嶺檢温器(株)取締役、天龍館(株)監査役、滋賀縣在籍、醫師、東京府士族
 妻 正 明一、二生、東京、柳元永四女
 君は東京府士族笹川高節の長男にして明治元年四月を以て生れ明治二十三年家督を相続す現に東京帝國大學醫科大學を卒業し笹川病院を開設して其院長として一般の診療に従事し傍ら慈惠會醫科大學教授を兼ね頭記擧げらるる家族は尙孫高男(大四、三三)養子正男(長男)同せつ(同五、八生)同長女(同二二、同七、九生)同二男(同三、同九、六生)同三男(同四、一四、五生)同四男(同四、一四、五生)あり(東京、下谷、御徒町三ノ五八電下谷五〇)

笹川 三男三

慈惠會醫科大學教授、赤嶺檢温器(株)取締役、天龍館(株)監査役、滋賀縣在籍、醫師、東京府士族
 妻 正 明一、二生、東京、柳元永四女
 君は東京府士族笹川高節の長男にして明治元年四月を以て生れ明治二十三年家督を相続す現に東京帝國大學醫科大學を卒業し笹川病院を開設して其院長として一般の診療に従事し傍ら慈惠會醫科大學教授を兼ね頭記擧げらるる家族は尙孫高男(大四、三三)養子正男(長男)同せつ(同五、八生)同長女(同二二、同七、九生)同二男(同三、同九、六生)同三男(同四、一四、五生)同四男(同四、一四、五生)あり(東京、下谷、御徒町三ノ五八電下谷五〇)

笹島長左衛門

前社製糖(株)社長、三山電氣鐵道(株)取締役、山形縣在籍
 妻 正 明一、一〇生、山形、淺黃善吉
 君は山形縣人笹島正齋の長男にして明治二十五年十二月を以て生れ大正十年家督を相続し前名慶司郎を改む現時前社製糖會社社長たる外前記會社の重役たり家族は尙長女功子(大一一、二生)の外叔父繁彌(明五、四生)同妻シケ(同二四、四生)山本秀吉(二女)同秀彌(同七、三三)同妻いの(同二〇、一〇生)高橋嘉根(長女)及其子女あり(山形、西村山、川土居村)

笹田岩次郎

北海道多額納稅者、北海道商會(株)監査役、荒物商、北海道在籍
 妻 ツイ 明一、八二生、北海道、赤松久妹
 君は北海道人笹田嘉平の二男にして明治十八年十月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す荒物商を營み北海道多額納稅者にして傍ら北海道商會監査役たり兼小樽商會會議所議員たり(小樽、稻穂町東三ノ二五)

君は京都府人笹川儀助の長男にして明治十九年一月を以て生れ大正八年家督を相続す村木商會を營み現時笹川拓殖林業會社取締役たり家族は尙二男泰輔(大五、五生)三男三策(同八、三三)長女俊子(同一一、六生)二女和子(同一一、一〇生)四男隆義(同二五、二生)及弟豐之助(明三一、八生)同妻マサノ(同三二、四生)京都、湯淺源太郎二女)あり(大阪、港、今木町一ノ四七電櫻川二四六三)

笹川 清光

酒商
 妻 イノ 明二〇、二生、栃木、酒井廣吉妹
 君は富山縣人笹川八三郎の三男にして明治十九年三月を以て生れ同四十三年分家して一家を創立す酒商を營む家族は尙三男敏治(大二、一〇生)四男秀夫(同三、一〇生)二女浩代(同七、一〇生)あり(東京、神田、豊島町九電濱花六三三)

笹川 俊藏

新瀉縣多額納稅者、農業
 妻 タシ 安政五、一〇生、新瀉、笹川四郎七
 君は新瀉縣人笹川佐平の長男にして嘉永四年九月を以て生れ明治十年家督を相続す農業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙孫哲次(大三、二生)長男隆次郎(二男)同謙(同七、五生)同三男(同三男)同幸男(同二、六生)同四男(同四男)あり長女トシ(明九、八生)は同縣人市村勝彦二男俊藏に二女ミホ(同二四、一〇生)は同縣人佐藤忠太郎長男忠三郎に三女レナ(同二八、一〇生)は同縣人日黒孝平弟文平に四女キキ(同三〇、二生)は同縣人健富清一郎に孫ヒデ(同三三、一〇生)長男隆次郎長女(同四一、一〇生)は同縣人佐藤定八に妹テフ(慶應三、七生)は同縣人横山文四郎に同ミチ(明七、六生)は同縣人星井庄六長男重三郎に嫁し弟福彌(同二、五生)は同縣人相澤榮

笹田種三郎

資産家
 妻 コト 明一七、三三、大阪、河盛榮次郎
 君は大阪府人笹田新治郎の弟に方り明治十四年七月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す資産家にして兼に十五銀行西野田支店長たりしことあり家族は尙二男嘉昭(大八、八生)三男博三(同三三、二生)あり(大阪、天王寺、烏ヶ辻町五七一九電南三三八五)

笹田傳左衛門

村上商店(資代表社員)、笹田本店製菓業、愛知縣在籍
 妻 はな 明二〇、五生、先代傳左衛門二女
 君は千葉縣人笹田七左衛門の弟にして明治十三年十月を以て生れ同三十八年先代はなの入夫となり家督を相続し前名要之助を改む製菓業を營み笹田本店と稱し傍ら村上商店代表社員たり(名古屋、西、袋町二ノ八電本局三九)

笹野梅太郎

和歌山縣多額納稅者、南海紙業(株)取締役、日出紡績、南海信託各(株)監査役、和歌山縣在籍
 妻 ナミエ 助四女
 君は和歌山縣人笹野雄助の長男にして明治三年十一月を以て生れ同三十二年家督を相続す現時前記諸會社の重役にして縣下の多額納稅者たり兼に南海信託野電氣日高信託各會社の重役たりし事あり長女キヨノ(明三三、一〇生)は和歌山縣人上田金兵衛長男基太郎に妹フヂエ(同二四、五生)は同縣人小川熊吉に嫁し弟雄二(同二七、六生)同妻(同二四、三三)は各分家し同政次郎(同二〇、五生)は同縣人小川國太郎の養子となれり(和歌山、日高、稻原村)

吉長女キチの新養子となり四男泰三郎(同二六、九生)は分家せり(新潟、西蒲原、四ツ合村)
 参照 健富清一郎の項

笹川 種郎

文學博士、著述業
 東京府士族
 妻 てい 弘化二、二生、中村本右衛門二女
 君は舊幕臣笹川義潔の二男にして明治三年八月を以て生れ同三十二年家督を相続す同二十九年帝國大學文學科大學國史學科を卒業し白河鯉洋等と江湖文學を發行して勇健奔放の筆を揮ふ後ち第三高等學校教授字都宮中學校長明治大學法政大學専修大學各講師等を歴任し文學博士の學位を受く臨風と號し「八幡船」以下十數種の歴史小説を上梓し皆世に行はれ江戶趣味の人として文壇に知らるる家族は尙二男俊夫(大四、九生)あり長女倭文(明三四、三三)跡見女學校出身は鹿兒島縣士族車田篤第工學士千春に二女雪子(同三六、二生)佛英(高等女學校出身)は新潟縣人本間純に妹春(同八、二生)は工學博士佐野藤次郎に嫁せり(東京、本郷、西片町一〇五ノ二八電小石川四五八一)

笹川 徳松

神戸商工會議所議員、神東青物市場(株)取締役、青物商、兵庫縣在籍
 妻 つる 明二八、七生
 君は大阪府人笹川徳次郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同二十三年家督を相続す青物商を營み神戸商工會議所議員にして傍ら前記會社の重役たり妹まつ(明二二、三三)は兵庫縣人小國泰藏に同ムメ(同二一、五、一〇生)は京都府人木田平八三男宇之助に嫁せり(神戸、上筒井通七ノ三一電釜合三六九五)

笹川 徳次郎

明二八、七生、兵庫、信川松藏妹
 君は大阪府人笹川徳次郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同二十三年家督を相続す青物商を營み神戸商工會議所議員にして傍ら前記會社の重役たり妹まつ(明二二、三三)は兵庫縣人小國泰藏に同ムメ(同二一、五、一〇生)は京都府人木田平八三男宇之助に嫁せり(神戸、上筒井通七ノ三一電釜合三六九五)

笹野甚四郎

藤相鐵道(株)社長、帝國鐵筋コンクリート(株)取締役、藤岡縣在籍... 妻 てる 明一、二、生、藤岡、杉本大治郎妹...

笹野長結

三重鐵道(株)取締役、三重縣在籍... 妻 千代 明三〇、二、生、愛知、伊藤信藏姪...

笹部市藏

大阪府在籍... 妻 政子 明三四、三、生、愛知、淺野敬次郎...

生れ同二十六年家督を相続す大阪府池田に住し代々酒造業に従事し先代に至り米穀商を始む君夙に京都高等工藝學校に學び後田村商店に入り多年勤続し現時同店監査役たり家族は尙長女惠美子(大九、一、二、生)あり...

新次郎 明三六、一、生、市岡高等女學校出身... 喜代子 明四二、二、生、市岡高等女學校出身...

笹部新太郎

大阪府在籍... 妻 梅子 明三一、五、生、山形、酒井忠崇長女...

笹村吉郎

新潟鐵工所(株)事務取締役、山口縣在籍... 妻 エイ 慶應三、七、生、山口、美吉鏡助叔母...

笹村竹造

東洋麻絲紡績、寶船冷蔵各(株)取締役、製鋼業、大阪府在籍... 妻 みね 明一六、四、生、大阪、徳岡いさ長女...

笹目宗兵衛

茨城縣多額納稅者、常務病院(株)取締役、笠間兩器(株)監査役、酒造業、茨城縣在籍... 妻 しな 明二、一、生、茨城、川島新兵衛妻妹...

笹本菊太郎

正五位勳三等功五級、陸軍少將、陸軍航空本部技術部長、陸軍技術會議々員、航空評議會議員、東京府在籍... 妻 キヨ 明一八、一、生、坪郷義行長女...

笹本八十次郎

羽村銀行(株)事務取締役、多摩農林銀行(株)監査役、東京府在籍... 妻 たま 明八、一、生、埼玉、北野正兵衛妹...

笹永龜太郎

愛媛縣多額納稅者、三木信平長女... 妻 コズメ 明二六、一、生、香川、合田隆太二女...

笹永保定

愛媛縣多額納稅者、伊豫三島銀行(株)頭取、愛媛縣在籍... 妻 タツ 明二、一、生、愛媛、土、玉井忠孝二女...

笹山三樹雄

東洋タイプライター(株)事務取締役、東京府在籍... 妻 トシ 明一八、一、生、愛媛、土、法華津孝治養子...

笹野乙次郎

從四位勳三等、サクラ商店、生駒電氣鐵道各(株)社長、都土地(株)取締役、日本電氣株、京都土地、藤田工業各(株)監査役、東京府在籍... 妻 八重 慶應元、六、生、養父憲令長女...

笹部松次郎

毛織物洋服商、京都府在籍... 妻 憲次の項

妻 勢喜 安政五、一〇生、鹿兒島、士、橋元友右衛門長女
 孫 健太郎 明三六、二生、亡長男實光長男
 君は鹿兒島縣士族野村正輔の二男にして安政四年六月を以て生れ、後六右衛門の養子となり、明治十八年家督を相続す。農業を營み、鹿兒島縣多額納税者たり。家族は尚孫健士(明四五、一、生、亡長男實光二男)同長子(大九、八、生、同長女)あり。長女佐恵(明八、八、生)は鹿兒島縣士族有馬宇介長男純輝に養子キミ(同二三、一、生、鹿兒島、池崎次右衛門三女)は同縣士族横山尚二男、尙文に嫁せり(鹿兒島、陸奥、隈之城村)

澤 逸興 東京市主事、電氣局運輸課長
 父 安政六、七生、現戸主
 母 慶應元、六生、茨城、海老原五平次三女
 妻 小かつ 明二四、九生、茨城、土、萩谷忠二女

澤 卯兵衛 松卯、魚商
 母 大府在籍
 妻 信 明三一、一、二生、大阪、安藤善五郎三女

當家は代々大阪に住し、難波の魚問屋として知られし澤家の岐れなり。君は先代孫太郎の長男にして、明治二十八年五月を以て生れ、大正三年家督を相続し、前名信之助を改む。祖業魚商を繼承して、松卯と號す。諸曲に趣味を有す。家族は尙弟好次郎(明三一、八、生)同平三郎(同三三、七、生)同松四郎(同三五、一〇、生)妹三子(同三八、一、生)、相愛高等女學校出身、同春子(同四一、一、生)、出身校同上、弟五郎(同四三、一、生)妹美子(大二、三、生)第六郎(同三、四、生)あり(大阪、西、江戸堀下通五ノ五、牛込五〇一三)

澤 金平 靜岡縣多額納税者、吳服商
 母 明二、四生、靜岡、狩野新作妹
 妻 菜 明二七、五生、靜岡、山口ふち長女
 女 芳江 大二、三、生

當家は先代金平に至り、吳服商を營む。君は其の長男にして、

澤 鑑之丞 正四位勳三等功四級、退役海軍造兵中將、日本赤十字社理事
 東京府士族
 妻 榮 明二、八生、東京、七奈良正二女
 男 操 明二九、六生、長男、長男、東京、星野金吾二女
 男 鏡 明三六、六生、京都帝國大學經濟學部在學
 男 義道 明三九、一、二生、東北帝國大學醫學部在學

當家は古くより徳川氏の家臣にして、先代太郎左衛門義に御軍艦頭並として、敵千石を食みたりしが、維新後海軍省に入り、兵學教授として、後輩の誘掖に資せる。慶應からざりき。君は其の長男にして、萬延元年一月を以て生れ、後家督を相続す。明治十四年海軍兵學卒、同十八年海軍少將に任じ、果して海軍造兵總監に任ぜられ、海軍造兵局長に補せられ、大正二年豫備役となり、現時退役たり。家族は尙孫清乃(大五、九、生、長男、長女)同恵(同八、七、生、同二女)同愛(同八、七、生、同三女)同道(同四、四、生、同四女)同愛(同二、一、二、生、同五女)同妙(同二、一、一、生、同六女)あり。三女滿江、明二七、一〇、生、御茶之水高等女學校出身、は栃木縣人野原半三郎(同三〇、三、生、出身校同上)は長野縣人野原半三郎(同三〇、三、生、出身校同上)は栃木縣人青木保に姉り(安政六、一、生)は海軍中將小倉新一郎に嫁せり(東京市外目黒町目黒山王山九二一、電話七三三二)
 參照 小倉新一郎、野原半三郎、古澤文作、星野金吾の項

澤 直人 信濃倉庫運輸(株)社長、綿内銀行
 妻 明一四、一〇生、長野、武井源次郎二女
 男 明人 明四五、二生
 女 靜子 明四一、七生

君は長野縣人澤善之助の長男にして、明治十二年七月を以て生れ、同十五年妹きよしの後を承け、家督を相続す。現時信濃倉庫運輸會社社長、綿内銀行常務取締役たり。家族は尙庶子正(大七、一、生、生母、長男、小池みよと)あり(上田、上田町四三七六)

澤 宣武 從四位、伯爵
 當家は清原野野の裔、原宣幸の次男澤忠量の後なり。六世を経て、宣武に至り、夙に王政復古の鴻圖を企て、或は七卿の長州藩となり、或は生野の義舉の總帥に推さる。等具に幸徴を嘗む。維新後、外國官知事、外務卿特命全權公使等に、歴任す。先代宣量、明治十三年朝鮮に遊學し、歸朝後、職を宮内司法各省に奉じ、同二十四年祖父宣嘉の勳功に依り、特に伯爵を授けらる。君は其の長男にして、明治二十七年五月を以て生れ、同四十二年家督を相続し、襲爵す。大正十二年慶應義塾大學法學部政治科を卒業し、襲爵は尙宣治(明三〇、四、生)妹雪子(同三二、二、生)あり。姉歌子(同二三、一、生)は別に一家を創立し、大叔父宣元(文久二、一、生)は分家して、男爵を授けられ、大叔母忠子(嘉永五、一、生)は子爵岡崎泰光祖父國有に同久子(文久二、一〇、生)は公爵岩倉具榮祖父具定に嫁せり(東京市外目黒町中目黒一〇〇五)
 參照 公爵岩倉具榮、子爵岡崎泰光、男爵澤宣元の項

澤 文三郎 從五位勳五等、鐵道技師、大臣官房研究第五科長、神奈川縣在籍
 妻 明一、八、生、神奈川、福井源次郎長女
 女 多喜子 明四四、四生

君は神奈川縣人澤誠太郎の弟にして、明治十五年二月を以て生れ、大正十五年分れて一家を創立す。明治四十年東京帝國大學理科大學實験物理學科を卒業し、同四十二年鐵道院技師となり、總裁官房巡察課勤務となり、大正七年英米伊各國に留學す。歸朝後、大臣官房研究所勤務となり、支那及米國に出張を命ぜらる。現時前記の職に在り。家族は尙二男道雄(大五、二、生)三女政子(同七、一〇、生)四女美代子(同二、一、四、生)五女芝枝(同四、一、一〇、生)三男武(同二、一、五、六、生)あり(東京、芝、濱崎町鐵道省研究所内)
 參照 福井源次郎、濱崎町鐵道省研究所内

澤 茂三吉 從四位勳三等功四級、陸軍少將、日露開運(株)代表取締役、日露實業(株)技術顧問、長野縣在籍
 妻 明一〇、六、生、東京、依田百川四女
 女 三枝 明四一、一〇、生、東京府立第三高等女學校出身

君は東京府士族澤全秀の長男にして、明治七年十二月を以て生れ、同二十六年家督を相続す。同二十九年東京高等工業學校應用化學科を卒業し、大日本製糖會社に入り、現時同社取締役兼技師長たり。業に外遊する。同三同尙日露の役に從事し、勳五等長に授けられ、勳五等金鵄勳章を賜はる。姉は明六、三、生、は元樺太廳土木課長工學士小野常治に嫁せり(東京、小石川、原町六一、電話小石川五三三五)

澤 幸助 澤井商店(株)社長、文具俱樂部
 妻 安政五、正生、大阪、津川富之助妹長女
 男 信治郎 明三八、七生
 女 富子 明四一、二生
 女 山崎四九六、一、電話七三三三

君は大阪府人先代幸助の二男にして、明治九年十一月を以て生れ、大正十二年家督を相続し、前名富吉を改め、襲名す。文具商を營み、傍ら前記會社の重役たり(大阪、東寺山町四九六、一、電話七三三三)

澤 全雄 從七位勳五等功五級、陸軍歩兵中尉、大日本製糖(株)取締役兼技師
 妻 明二、一、九、生、岡山、黒田治三郎妹
 女 明三三、一、一、生、長女、神奈川、山口傳造弟
 女 明四〇、二、生、養子學妻、雙葉高等女學校出身

澤 詮男 大阪府北區會議員、昭和合同(株)監査役、大阪相互信用組合理事
 妻 明六、八、生、養父久五郎三女
 男 明三〇、一、生、大阪藥學專門學校出身
 男 明三四、一、生、大阪藥學專門學校出身
 女 ノブ 明三六、九、生、大阪市立實科高等女學校出身

君は奈良縣人松村徳雄の弟にして、明治三年六月を以て生れ、同三十年澤井久五郎の養子となり、同年分家して、一家を創立す。現時昭和合同會社監査役にして、大阪相互信用組合理事、北區會議員たり。家族は尙二女マチ(大三、三、生、大阪府立大手前高等女學校在學)あり(大阪、北、空心中一ノ四二)

澤 藤助 近江屋、木綿商
 妻 明三三、一、生
 男 榮治郎 明二七、二、生、長女、ふち夫、滋賀村川彦右衛門二男
 女 ふち 明三一、四、生、養子一太良妻
 男 拾三郎 明三九、八、生

君は滋賀縣人澤井利吉の兄にして、慶應二年八月を以て生れ、明治二十六年先代藤助の死跡を相続す。近江屋と稱し、木綿商を營む。二女つね(明三六、六、生)は滋賀縣人羽田の長男治平に嫁せり(東京、日本橋、田所町七、電話花七二五)

澤 要一 正四位勳三等、第八高等學校教授
 東京府在籍

妻 きん 明八、二生、静岡、士、淺香傳
 男 維一 主 明二、四生、齒科醫學士、現戸

君は東京士族戸籍の長男にして慶應二年五月を以て生れ澤井よしの養子となる明治十六年東京外國語學校獨逸語科を卒業し更に専修學校に入り法律經濟學を修め同十八年學習院助教授司法學を経て同二十二年陸軍教授學習院教授に任じ第六高等學校教授に轉じ同三十九年獨逸語研究の爲獨逸に留學を命ぜられ歸朝後同四十四年第八高等學校教授に任じ現に勸任教授として其職にあり家族は尙孫一郎(大)、一〇、五生、長男維一(長男)あり二女乙女(明三、二)は兵庫縣人醫師小澤清射に嫁し二男十六(同三、六、一)は外戚淺香家を襲ぎ目下東京帝國大學法學部在學中なり(東京市外淀橋町柏木八五〇)

澤井 義徳 大和日報社長、土木請負業
 大阪府在籍

澤木 晨吉 船川倉庫(株)社長、第四十八銀行
 秋田貯蓄銀行秋田信託各(株)取締役、秋田縣在籍

妻 エイ 慶應元、三生、秋田、三浦兼壽妹
 男 再吉 明一四、一、秋田縣會議員
 女 キエ 明一六、九、二男再吉妻、秋田
 孫 タカ 明一四、九、二男再吉四女

君は秋田縣人澤木駒吉の長男にして安政五年十月を以て生れ明治十四年家督を相続して現に前記銀行會社の重役たり家族は尙孫元吉(明四三、六、二男再吉長

澤口 良藏 北海道銀行(株)取締役
 北海道在籍

妻 テイ 龍妹 明三六、一、二生、北海道、島津衛
 男 助一 明三四、一〇、生

君は北海道入先代庄助の二男にして同良藏の養弟なり明治九年十二月を以て生れ同四十二年家督を相続し現時澤口汽船會社代表社員たる外前記後志汽船會社の重役たり義に北海道銅村會社の重役たりし事あり家族は尙二男醇二(明四二、一、生)三男庄三郎(同四四、六、生)三女京子(大、四、五、生)孫英子(同、一〇、五、生)長男助一(長女)あり長女千代(明三三、七、八、生)は北海道入齋藤丈雄長男文一に嫁せり(北海道、古宇、神恵内村)

澤口 庄助 後志汽船(株)監査役、澤口汽船
 (資)代表社員、北海道在籍

妻 カウ 道三、四、五、七、男助一妻、北海
 道、中居富吉四女

君は新瀉縣人吉原熊藏の二男にして澤口庄助の養兄なり明治四年二月を以て生れ澤口庄助の養子となり同十九年分家して一家を創立す現時北海道銀行取締役たり家族は尙孫達太郎(大、六、六、生)養子復三長男(同、八、一〇、三、一、生)同長女(同、一、二、生)同健造(同、八、一〇、三、一、生)同長女(同、一、二、生)同健造(同、八、一〇、三、一、生)あり(北海道、岩内、岩内町)

澤崎 鐵二 正五位勳四等、檢事、五條區裁判
 所檢事、福井縣士族

妻 節 嘉永三、八、生、石川、士、山崎岡
 崎三女

男 綱之 明四三、一、生
 女 三智恵 明四〇、三、生

君は福井縣士族森永山五郎の二男にして明治六年七月を以て生れ同七年先代伯父四郎の跡を相続す同三十二年東京帝國大學法學部法學科を卒業し同三十四年判事に任じ名古屋區一宮區名古屋地方東京區各裁判所判事を經て同四十四年檢事に轉じ爾來廣島地方同區同山地方同區尾道區豊橋區金澤地方同區七尾區各裁判所檢事に歴補し大正十年現職五條區裁判所檢事に補せらるる家族は尙三女良恵大八、四、生、あり弟秀夫(明八、二、生)は福井縣士族森永虎藏の相続人となり(奈良、宇智、五條町區裁判所官舎)

澤田 牛麿 從四位勳三等、北海道廳長官
 高知縣士族

妻 靜 江 明一四、九、五、生、東京、田中鏡之助妹
 男 重 幸 明一四、九、五、生

君は高知縣士族澤田誠一の長男にして明治七年二月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法學部を卒業し陸軍省參事官に任ぜられ後警務廳學校教授兼陸軍省參事官參事官參事官轉じ警務廳參事官同書記官兼鳥取縣内務部長青森佐賀石川福岡各縣知事等に歴任す後官を辭し長門起業炭礦會社取締役に就任し再び官に就き現時北海道廳長官たり家族は尙二女淺(大、八、一、生)二男重政(同、一、二、六、生)三女澄(同、一、五、一、生)の外弟兵衛(明二〇、三、生)同妻榮(同三〇、一、二、生)岡山、佐々木武三郎三女及其の一女並養妹千鶴子(大、二、三、生)東京、片岡謙三郎長女あり妹鶴(明二五、六、生)は山口縣人士江藤馬長男芳輔に嫁せり(札幌、北海道廳長官官舎)

澤田 嘉一郎 吳服商
 京都府在籍

妻 津 福 明一五、一、二、生、京都、宮本謙次
 女 嘉一 大、四、八、生
 女 嘉二 明四二、二、生
 女 嘉三 明四五、七、生

君は京都府人澤田嘉兵衛の弟にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す吳服商を營む家族は尙二男嘉之助(大、七、五、生)あり(京都、下京、五條通新町西入電下三五四八)

澤田 嘉兵衛 大嘉商店、吳服商
 京都府在籍

妻 あ 五 明五、四、生、京都、飯田嘉兵衛二女
 養子 孝三 明二七、六、生、長女ふみ夫、大阪、
 寺田吉三三男
 女 静 明三八、一、一、生

澤田 儀平 富貴足袋本舖、足袋商
 大阪府在籍

妻 儀 平 明元、六、生、大阪、松永小七三女
 女 儀 平 明二五、一、二、生、大阪、井田小太

君は大阪府人先代儀平の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正三年家督を相続と共に襲名して前名常藏を改む父業を継いで足袋商を營み富貴足袋として世人に知らるる家族は尙長女道子(大、九、三、生)二男健次(同、一、三、一、二、生)あり母の明幸造(明三〇、七、生)は其妻と共に分家せり(大阪、東、唐物町四ノ三八電燈場四六四七)

澤田 久吉 野野義商店(株)常務取締役、廣榮
 製菓、千種製菓所各(株)取締役
 大阪府在籍

澤田 金太郎 第四十七銀行、富山電氣各(株)取
 締役、富山縣在籍

妻 外 明二二、七、生、石川、本郷幸次郎
 長女

君は富山縣人澤田金太郎の長男にして元治元年九月を以て生れ明治十五年家督を相続す現に前記銀行會社の重役たり家族は尙孫はな(大、三、三、生)長男藤左衛門長女(同、六、一、〇、生)同二女(同、二、九、一、〇、生)同三女(同、七、一、〇、生)同長男(同、二、九、一、〇、生)は富山縣人立花桂治に二女かよ(同、三、二、九、一、〇、生)は同縣人姫野保に三女きよ(同、三、七、二、生)は同縣人阿部孫右衛門長男久雄に叔母フサ(同、五、一、〇、生)は兵庫縣人橋本藤一郎に嫁し弟友次郎(同、八、七、生)は同妻シナ(同、一、七、一、〇、生)富田平藏二女及其子三女を伴ひ同妻シナ(同、一、七、一、〇、生)は同妻たか(同、二、六、一、〇、生)富山、宇袋長右衛門長女及其子女を伴ひ各分家せり(富山市荒町一八)

澤田 恵吾 東京山中銀行(株)支配人
 東京府士族

妻 隆子 明二〇、九、生、東京、細井榮三郎
 長女

君は東京府人澤田良治の弟にして明治十四年十月を以て生れ先代はまの養子となり大正八年家督を相続す現時東京山中銀行支配人たり(東京、日本橋、靱坂町二ノ九電燈場二七八八)

澤田 義徳 大和日報社長、土木請負業
 大阪府在籍

澤田 儀平 富貴足袋本舖、足袋商
 大阪府在籍

澤田 敬義 從四位勳三等、醫學博士、新潟醫科大學長兼教授、新潟縣在籍
 妻 イツ 明一三、一〇生、新潟、竹山正男妹
 男 敬一 明四〇、一一生
 女 房 明四五、七生

君は岐阜縣人澤田久平の三男にして明治六年十二月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す同三十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同四十三年新潟醫學專門學校教授に任ぜられ大正十一年新潟醫學科大學教授となり同附屬醫院長兼内科醫長を兼ねしが後同大學長に擧げらるる義に歐洲に留學し明治三十八年醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男義方(明四四、五生)三男達夫(大三、二生)六女和(同六、二生)あり長女好(明三三、六生)は長野縣人平山泰に二女桂(同三七、一一生)は新潟縣人金子義晃に嫁せり(新潟市養所通)

參照 竹山正男、平山泰、藤田簡吉の項

澤田 敬藏 中日新聞社長(株)取締役、但馬中々新聞社長、兵庫縣在籍
 母 とみ 慶應二、九生、兵庫、嘯武右衛門長女
 妻 ふく 明二六、一〇生、大阪、廣岡重太郎妹
 男 敬夫 明四五、六生

君は兵庫縣人澤田清吉の長男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十四年家督を相続す京都同志社大學に學び大阪朝日新聞但馬通信大阪時事新報神戸又新日報記者等を経て現時馬日々新聞社長たる外國日々新聞社取締役を兼ね町會議員區長公立病院組合會議員商工業會特別議員震災復興特別委員長等に擧げらるる書畫旅行を趣味とす弟力雄(明三三、二生)は其妻あき(同三六、四生、兵庫、上田良藏三女)と共に分家せり(兵庫、城崎、豊岡町)

澤田 健二 陸軍二等主計、立山水力電氣(株)常務取締役、野積川水力電氣、越前山縣軌道各(株)取締役
 母 敬子 富山縣在籍
 妻 そのい 明一五、三三、富山、堀宗平長女
 男 俊一 明三七、八生
 女 信 明四〇、九生、長男俊一妻、富山、富田友一郎妹

君は富山縣人澤田善平の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十一年明治法律學校を卒業し現時前記諸會社の重役たり義に軍籍にありて陸軍二等主計となり大正十四年富山縣に於て都市計畫委員縣參事會員に擧げらるる家族は尙二男善二(明四二、八生)三男敏夫(大元、一一生)二女春子(同四、二生)三女むつ子(同二〇、九生)あり長女よし(明三五、一〇生)は富山縣人南喜作長男茂松に妹秋(同三五、一〇生)は同縣人才哲男に同婚同三九、八生)は同縣人栗田吉左衛門二男吉郎に嫁し弟順(同一九、一一生)同妻はつ(同三三、二生、富山、室外次郎姪)は其子女を伴ひ分家せり(富山、射水、櫛田村)

參照 栗田吉左衛門、南喜作の項

澤田 源一 正五位勳四等、高松高等商業學校校長、京都府在籍
 男 隆 治 大二三、五生

君は京都府人澤田文二の三男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法政科大學を卒業し大正二年文官高等試験に合格し鳥取若手各縣理事官文部書記官文部省參事官文部大臣官房秘書課長文部大臣秘書官等に歴任し昭和二年高松高等商業學校長に任ぜられ現時其職にあり大正十一年歐米に出張を命ぜらるる家族は尙長女豐子(大九、七生)三男健二(同二四、一一生)あり(高松高等商業學校内)

澤田 コウ 千登世、刺業業
 妻 幸 吉 明二〇、九生、神奈川、齋藤若吉長女
 男 幸 吉 明二五、二生、養子幸吉妻、神奈川、岡村長次郎長女
 女 美代 明四三、一一生

君は埼玉縣人齋藤直吉の長女にして弘化三年十二月を以て生れ後澤田家に入り明治十六年養直七方より分家して一家を創立す屋敷を千登世と稱し關内屈指の割烹店たり家族は尙孫省吉(大二、三三、養子幸吉長男)同トシ子(同八、八生、同三三)同孝子(同二四、三三、同五五)あり同千子(同六、六生、同二女)は外祖父齋藤岩吉の養子となり(横濱、中、住吉町六ノ七九電長者町四〇〇四、四九一八)

澤田 權左衛門 太平洋製米(株)取締役
 妻 キヨ 明二二、一〇生、岩手、小原倉松妹
 男 權 二 明二二、一〇生、岩手、小原倉松妹
 女 子 明二二、一〇生、岩手、小原倉松妹

君は岩手縣人澤田武兵衛の二男にして明治十七年十二月を以て生れ昭和二年岩手太郎方より分れて一家を創立す同四十一年早稲田大學專門部法科を卒業し現に太平洋製米會社取締役たり(岩手、上閉伊、釜石町)

澤田 佐助 灘佐、酒造業
 妻 アサ 明一一、五生、大阪、淺井龍藏妹
 男 清 明四一、六生、大阪、淺井龍藏二男
 女 子 明四一、六生、大阪、淺井龍藏二男

君は大阪府人長崎傳照の二男にして同仙太郎の弟なり明治十一年一月を以て生れ故勳四等代議士先代佐助の養子となり同四十四年家督を相続と共に前名佐七を改む酒造業を營み屋敷灘佐を以て知らるる養叔母タキ(嘉永三、一一生)は大阪府人淺井政七に嫁せり(大阪、南、三津寺町一九電南三九九)

參照 長崎仙太郎の項

澤田 繁太郎 大阪府在籍
 父 辰治郎 明元、六生、現戸主
 母 フチ 明三三、一〇生、大阪、藤原幸太郎妹
 妻 ヨシエ 明三四、一〇生、大阪、石田久治郎妹

君は大阪府人澤田辰治郎の長男にして明治二十九年八月を以て生るる質商を營むる家族は尙長女靖枝(大一一、三三)二女豐子(同四四、一〇生)三女衛子(昭二、一〇生)の外妹マヌエ(明四四、一〇生)弟信治(同四五、三三)あり伯母キヲ(慶應二、一一生)は大阪府人若松元吉に嫁し叔父種吉(明六、五生)弟信太郎(同三三、八生)は各分家せり(大阪、東成、猪野町六〇六)

澤田 新三郎 陸軍歩兵中尉、鼓炭石炭商
 妻 フク 明一八、七生、大阪、佐々木元三郎妹
 男 一 明四一、一〇生、檀蔭高等女學校出身
 女 美知子 明四一、一〇生、檀蔭高等女學校出身

君は大阪府人先代新三郎の長男にして明治十五年七月を以て生れ大正六年家督を相続し前名芳三を改め襲名す先是明治三十五年大阪高等商業學校を卒業し日露事

變に出征し陸軍歩兵中尉に任ぜらるる爾來家業コックス石炭商を經營し今日に及ぶ家族は尙四女達子(大五、二生)五女キヲ(同六、一一生)六女ヌエ(同九、六生)あり(大阪、港、市岡町四六三電西九九三)

澤田 清兵衛 兵庫縣多額納稅者、日本米穀(株)専務取締役、清生信託、日本毛織、伊丹製絲所各(株)取締役、山陽皮革(株)監査役、米穀商
 妻 たつ 明一六、四生、兵庫、多木元三郎妹
 男 清 明三四、一一生
 女 静子 明四〇、三三

君は兵庫縣人先代清兵衛の長男にして明治八年九月を以て生れ同三十七年家督を相続と共に襲名して前名敬太郎を改む米穀商を營み兵庫縣多額納稅者にして商揚各會社の重役たり家族は尙五男猛(明四五、三三)あり(神戸、小物屋町二九電兵庫三三九)

澤田 多吉 三方銀行(株)常務取締役
 妻 みか 明二二、一五生、福井、宇野長三郎
 男 昌一 明四四、六生

君は福井縣人澤田庄五郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ同四十五年家督を相続す三方銀行常務取締役に任ぜらるる家族は尙二男敏夫(大二、五三)三男三夫(同五、一一生)長女麗子(同八、三三)四男勇一(同四、四生)あり弟龜吉(明二一、五生)は福井縣人吉村のぶの入夫となり(福井、三方、八村)

澤田 竹治郎 從四位勳三等、行政裁判所評定官
 妻 豊子 明二七、一一生、愛知、後藤太助妹
 男 靖 大五一、一〇生

君は岐阜縣人澤田嘉左衛門の四男にして明治十五年八月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法政科大學を卒業し福島縣屬となり同四十四年福島縣事務官補に同四十四年土木局書記官に進み土木局古屋出張所及大阪出張所勤務を命ぜらるる大正二年愛知縣理事官に轉じ同五年若手縣警察部長となり同年更に長野縣警察部長に轉じ同七年行政裁判所評定官に任ぜられ今日に至る書畫骨董を趣味とす(東京市外代々木町精ヶ谷一〇電四谷二四三九)

參照 後藤太助、今井清吉の項

澤田 長助 青森縣多額納稅者、津輕酒造(株)監査役、青森縣在籍
 妻 うめ 明二四、三三、青森、佐々木傳一郎妹
 男 長吉郎 明二二、一〇生
 女 しき 明四二、一〇生

君は青森縣人先代長助の孫にして明治十七年四月を以て生れ同四十四年家督を相続し前名長次郎を改め襲名す現に津輕酒造會社重役に任ぜらるる家族は尙三男長三郎(大五、五三)四男長志郎(同七、八生)姉なよ(明一一、八生)あり同三男(同一一、五三)は北海道人磯野金吾に嫁し従弟貞造(同三一、五生)は同妻イツ(同三五、一一生)青森、齋藤重三(三女)を伴ひ分家し叔母まる(同六、一一生)は従弟貞造の家籍に入れり(青森、北津輕、五所川原町)

澤田 虎藏 鳥取縣多額納稅者、大正鳥取銀行、鳥取貯蓄銀行各(株)監査役、農業
 妻 いづ 明五、一一生、鳥取、澤田平八郎長女
 男 通 明二八、五生
 女 根 明三三、一一生、二男勇吉妻、鳥取、澤田秀太郎二女

君は鳥取縣人澤田常藏の長男にして明治七年七月を以て生れ同十二年家督を相続す同二十七年慶應義塾理財科を卒業し農業を營み傍ら大正鳥取銀行及鳥取貯蓄銀行の各監査役に任ぜられ今日に至る書畫骨董を趣味とす(大一一、二生、二男勇吉長女、あり三男俊太郎(明三

澤田 節藏 正五位勳三等、大使館參事官、米國在勤、鳥取縣在籍
 妻 美代 明二四、一〇生、故特命全權公使大田綱介長女、雙葉高等女學校出身
 男 英夫 明四五、七生

君は鳥取縣人澤田信五の長男にして同慶三の兄に當る明治十七年九月を以て生れ大正三年家督を相続す明治四十一年外交官及領事官試験に合格し同四十二年東京帝國大學法政科大學を卒業し領事官補副領事官事務省參事官大使館三等書記官外務書記官大臣官房電信課長文書課長兼翻譯課長に歴任し大正十三年大使館參事官となり米國在勤に任ぜられ現時其職に在り家族は尙二男信夫(大六、七生)三男和夫(同八、一一生)弟退藏(明二六、六生、農學士、三菱合資會社員)同妻光子(同三、七、五生、東京、各務鎌吉長女)妹愛子(同三八、八生、東洋英和女學校出身)同菊子(同四一、一〇生、出身校同上)あり同貞子(同三三、九生、出身校同上)は大坂府人廣岡惠三養弟松三郎に嫁せり(留守宅)東京、麻布、廣尾町五九)

參照 各務鎌吉、澤田廉三、廣岡惠三の項

澤田 善一郎 兵庫縣多額納稅者、東洋帆布(株)取締役、有價證券買賣業
 兵庫縣在籍

澤田 長左衛門 資産家
 大阪府在籍

澤田 虎藏 鳥取縣多額納稅者、大正鳥取銀行、鳥取貯蓄銀行各(株)監査役、農業
 妻 いづ 明五、一一生、鳥取、澤田平八郎長女
 男 通 明二八、五生
 女 根 明三三、一一生、二男勇吉妻、鳥取、澤田秀太郎二女

君は鳥取縣人澤田常藏の長男にして明治七年七月を以て生れ同十二年家督を相続す同二十七年慶應義塾理財科を卒業し農業を營み傍ら大正鳥取銀行及鳥取貯蓄銀行の各監査役に任ぜられ今日に至る書畫骨董を趣味とす(大一一、二生、二男勇吉長女、あり三男俊太郎(明三

○(七生)は鳥取縣人柴田秀藏の養子となり叔母ひさ(慶應三、八生)は同夫信五(文久二、一生、兵庫、養與十郎五男)と共に其一男を伴ひ分家せり(鳥取、岩美、浦富町)

澤田文治郎 岐阜不動産、樂天地各(株)専務取締役、松竹産(株)取締役

澤田 紋藏 資産家 澤田 喜彦 貴族院議員、熊本縣多額納稅者、熊本縣士族

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 米藏 東京米穀商取引所取引員、廻米商、愛知縣在籍

澤田 廉三 從五位勳四等、外務書記官、大臣官房電報課長、宮内省御用掛

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主 澤田 宗輝 谷口電線(株)社長、地主

澤野貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員 澤野 貞次郎 大阪株式取引所取引員

資本金 五千七百五十萬圓
 積立金 六千萬圓

東京市日本橋區兜町一番地



株式會社
第一銀行

支店
 所在地

東 京 橫 濱 豐 橋 名 古 屋 四 日 市 京 都	伏 見 大 阪 神 戶 廣 島 下 關 長 府	司 小 倉 福 岡 久 留 米 熊 本 函 館	小 樽 札 幌 室 蘭 宇 都 宮 足 利 栃 木	佐 野 桐 生 館 林 京 城 釜 山
--	--	--	---	--

古河合名會社

千代田生命保險 相會社

取締役社長 門野 幾之進
 取締役副社長 北川 禮弼
 常務取締役 堀井 卯之助
 常務取締役 小山 禎三
 取締役 土井 正司
 監査役 松原 重榮
 監査役 麻生 義一郎

本社 東京市京橋區南傳馬町二丁目
 支 部 東京・大阪・京都・神戸・名古屋・仙臺
 出張所 金澤・廣島・福岡・小樽・横濱・京城

シ之部

四竈 孝輔 正四位勳二等功五級、豫備海軍中將、宮城縣在籍
 妻 孝 誠一郎五女
 男 孝夫 明三九、一〇生
 女 節子 明四四、二生

君は宮城縣人四重信直の四男にして明治九年十月を以て生れ同十二年分家して一家を創立す同三十年海軍兵學校を卒業し同三十二年海軍少尉に任じ爾來果進して海軍中將に陞る其間海軍大學校を卒業し敷島肥前縣島各艦副長第二戰隊參謀津輕艦長侍從武官兼軍事參議院幹事軍令部出仕大湊要港部司令官等に歷補す家族は尙三男安正(大三、六生)三女幸子(同六、三生)四男信治(同八、七生)四女博子(同九、九生)五男繼夫(同十一、二生)あり(東京、豊多摩、吉祥寺五〇三) 參照 宗山下源太郎宗山中榮吉の項

四條 隆愛 正三位勳四等、侯爵、陸軍騎兵少佐、貴族院議員、舊公卿家
 妻 糸子 明一六、九生、公爵德川慶光伯爵
 男 隆徳 明四〇、四生

當家は藤原鎌足の曾孫左大臣魚名十二世の孫大納言隆季の後なり隆季に至り四條と稱し世々爵祿を掌り納言參議の間に職を奉じ二十一世を経て先代隆愛に至る隆愛は王政の復古に努め長州藩七卿の一人にして戊辰の役大總督府參謀として功あり弓術に達し明治天皇の御師範となり後軍籍に入り陸軍中將に任じ大阪名古屋仙臺等の鎮臺司令官となり明治十七年侯爵を授けらる君は其九男にして男爵四條隆英の養叔父なり明治十三年六月を以て生れ幼名を龍也と云ひ同三十一年男爵御付ける同三十三年陸軍士官候補生となり累進して大正九年陸軍騎兵少佐に陞り同十三年豫備役に編入せらるるに宮内省御用掛御付貴族院議員たり長女富士子

(明四二、四生)は子爵大河内輝耕嗣子輝信に嫁し姉か(同六、八生)は子爵三島通陽の母たり(東京市外代々幡町代々木本村八二二電四谷一七七六) 參照 公卿德川慶光、子爵大河内輝耕、子爵三島通陽、男爵四條隆英、伏見宮家、侯爵池田仲博、男爵藤原隆英、男爵德川誠、男爵松平齊光、男爵毛利祥久の項

四條 隆英 從三位勳三等、男爵、商工次官
 妻 駒子 明一五、五生、養父隆平長女、學
 男 隆秀 大三、六生、學習院女學部出身
 女 英子 明四三、一、生、學習院女學部出身
 女 芳子 明四四、二生
 女 輝子 明四四、二生
 女 治子 大二、三生

當家は先代隆平の立つる所なり隆平は正二位勳一等侯爵四條隆義の長男にして戊辰の役軍功あり後奈良縣令宮内省御用掛華族第五部長太政官兼元老院權少書記官元老院議員貴族院議員に歷任し明治三十一年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は故公爵二條厚基先代基弘の養弟にして侯爵四條隆愛の養男男爵二條正磨の弟なり明治九年二月を以て生れ先代隆平の養子となり同十四年家督を相續し男爵御付ける同三十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し農商務省に入り書記官商工局工務課長工場課長工務局長等を経て現時商工次官たり家族は尙六女光子(大五、五生)四男隆貞(同七、一〇生)七女倭子(同九、六生)八女富子(同一二、三生)養妹孝子(明一七、六生、學習院女學部出身)あり二女華子(同三八、一〇生、女子學習院出身)は男爵毛利祥久嗣子重雄に嫁せり(東京市外中野町本郷一三六電四谷七五三) 參照 侯爵四條隆愛、男爵二條正磨、男爵毛利祥久の項

四野宮 豐治 正五位勳五等、水戸高等學校教授
 妻 文 藏 明六、一二生
 養母 さだ 明二〇、一二生、千葉、鎌田常治

妻 保 明二四、八生、千葉、武藤周藏長女
 男 哲 郎 明四一、一〇生
 君は千葉縣人四野宮榮吉の二男にして明治十二年二月を以て生れ四野宮文藏の養子となり同四十二年家督を相續す同三十七年東京帝國大學理學部物理科を卒業し同四十七年廣島高等師範學校教授に任じ現時水戸高等學校教授たり曩に英米各國に留學す家族は尙二男弘道(大一一、二生)三女彰子(昭二、三生)弟文雄(明四一、五生)妹たま(大四、一一生)あり弟傳藏(明一四、九生)は同妻操(同二一、一一生、群馬、土、森本靖二女)及其子女を伴ひ分家せり(水戸、上市向井町片町一八四六)

司波 尙太郎 赤穂酒造(株)社長、赤穂鐵道(株)取締役、赤穂合同運輸、日本食鹽廻各株、監査役、赤穂鹽業組合長
 妻 てる 明一、一〇生、兵庫、田淵喜一
 男 尙一郎 明三〇、九生
 婦 ウタ子 明三〇、七生、長男尙一郎妻、廣島、中島博光長女
 君は兵庫縣人司波五三郎の長男にして明治三年八月を以て生れ同十六年家督を相續す現時前記各會社の重役にして赤穂鹽業組合長たり家族は尙孫彌榮子(大一一、四生、長男尙一郎長女)同壽美子(同一四、一一生、同二女)同尙五(昭二、一〇生、同長男)及び叔父政治郎(元治元、一〇生)あり長女千壽(明三四、九生)は兵庫縣人三木助太郎に二女とし(同三七、九生)は同縣人村上保夫に三女アヤ(同四二、一一生)は神奈川縣人淺羽隆太郎に養子須磨野(同三二、一一生、兵庫、池田幸次三女)は兵庫縣人川崎孝一郎に嫁し從弟廣治(同二二、五生)は同縣人宮永安太郎の養子となり(兵庫、赤穂、赤穂町)

志内 孫太郎 益城銀行(株)取締役
 妻 貞 廣 明四、五生、熊本、上野節夫叔母
 男 貞 廣 明三九、三生、二男貞廣妻、熊本、西園寺孫太郎四女

シ之部 (四條、隆、野) 司、志内

(捺印は姻族關係)

女 ヤス 明四四、六生
 女 繁 大二、五生
 君は熊本縣士族志賀家の長男にして安政六年十一月を以て生れ明治十一年家督を相続す現時益城銀行取締役たり長女サカ(明一七、一七)は熊本縣人鈴木義夫に三女チマ(同二三、四生)は同縣人富田一衛に四女イク(同三八、七生)は同縣人志賀時彦に妹ミホ(同三三、五生)は同縣人志賀元貞に嫁せり(熊本、上益城、秋津村)
 参照 上野節夫、鈴木義夫の項

志賀 兵衛

妻 明五、八生、京都、上林八郎兵衛妹
 男 明二六、八生
 女 明三六、四生、長男覺馬妻、京都、村上正夫長女
 男 秋夫 明四一、九生
 君は京都府人志賀兵衛の長男にして元治元年一月を以て生れ明治六年家督を相続し現時何鹿銀行頭取たり家族は尙四男咲也(大三、一七)孫覺郎(同三一、一七)、長男覺馬(同三三、一七)、同長女(同三三、一七)は京都府人岩田直樹に姉(文久元、三三)は同府人奥野増治に嫁し二男猪三(明三三、三三)は大阪府人田畑まちの養子となり弟直之助(同二二、二二)は京都府人藤見マスの入夫となり(京都、何鹿、志賀郷村)参照 村上正夫の項

志賀 僑介

妻 明二七、一七、東京、西巻豊佐久姉
 男 信之 大三、五生
 君は舊藩士志賀信の三男にして明治十六年二月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治四十年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し京阪電氣鐵道會社四等技士帝國鐵道廳技師鐵道院技師鐵道局技師に歴任し門司鐵道局兒島線事務局長門司鐵道局工務課改良掛長古屋鐵道局工務課長等を経て現に東京鐵道局工務課長たり家族は尙長女嘉子(大六、八生)二男信和(同一一、一七)あり(東京、北多摩、武蔵野村)参照 村上正夫の項

志賀 二二三

大分縣多額納稅者、久住電業(株)代表取締役、小國銀行(株)取締役、工業、大分縣士族
 男 規 明三六、九生、二男寛妻、東京、小林三郎三女
 男 規 明三六、一〇生
 男 規 明三九、一七生
 男 規 明四一、四生
 女 エミ 明四一、四生
 君は大分縣士族渡邊彌熊の弟にして明治四年十月を以て生れ先代宗作の養子となり同三十二年家督を相続す工業を営み現時前記各銀行會社の重役にして大分縣多額納稅者たり家族は尙六男勝(明四三、八生)七男淳(大元、一七生)三女ハマ(同四、六生)四女伊豆子(同六、八生)五女サワ(同二一、一七)六女清子(同二一、一七)孫悦(昭二、八生)二男寛長女あり妹ノト(明一三、七生)は大分縣人本田百人に嫁せり(大分、直入、久住町)

志賀 和多利

正五位、鐵道參事官、衆議院議員(岩手縣選出)、岩手縣在籍
 妻 明六、一七、新潟、石山保吉二女
 男 學 明四三、一七生
 女 ヤナ子 大七、八生
 君は岩手縣人志賀英之進の長男にして明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相続す明治三十三年日本大學を卒業し文官高等試験並に判檢事登用試験に合格し司法官試験となり檢事に進み退官後辯護士を開業し大正九年以來憲政黨より推されて衆議院議員に當選する事三回現に立憲政友會所屬にして鐵道參事官の任に在り家族は尙庶子まさ子(大七、三三)生母、岩手、佐藤アイ(同九、三三)は宮城縣人伊藤治郎の養子となり(東京、本郷、本郷五ノ一六電小石川四七六〇)

志方 勢七

肥料商
 大阪府在籍

志賀 潔

從四位勳三等、醫學博士、京城帝國大學教授、醫學部長、中央衛生會委員、宮城縣士族
 妻 明一四、五生、山口、士、井街清
 男 直 明三四、八生、醫學士
 女 知子 明四二、七生
 女 治子 大元、一〇生
 君は舊仙臺藩士佐藤信の三男にして明治三年十二月を以て生れ同十九年先代親の養子となり同十四年家督を相続す同二十九年東京帝國大學醫學部醫學科を卒業し直ちに傳染病研究所助手となり同三十年臨時檢疫局事務官に任ぜられ爾來傳染病研究所長兼臨時檢疫局技師血清製法技師傳染病研究所技師兼警視廳技師等に歴任せり明治三十四年より同三十七年まで獨逸に留學し大正三年北里研究所所長となり慶應義塾大學醫學部教授を兼ね同九年朝鮮總督府醫局長又同十五年京城帝國大學教授に任じ現に醫學部長にして中央衛生會委員に擧げらるる先は同三十一年赤痢菌の發見に依りて世界に名を馳せ其他化學的療法及結核菌研究に於て斯界に重きを爲す著書に臨牀免疫學及傳染病論あり家族は尙三男章(大四、五生)四男信男(同六、六生)四女祥子(同八、一七生)あり長女博子(明三八、七生)は宮城縣人岡得太郎に嫁せり(京城、西小門官舎)

志賀 槌之助

編練商
 妻 文二 明四八、八生、京都、木村孫七長女
 男 文二 明二九、一〇生、現戶主
 男 文二 明三三、五生、長男文二郎妻、京都、出島兵太郎二女
 男 傳三 明四一、三三
 君は京都府人志賀嘉右衛門の二男にして文久二年七月を以て生れ明治二十四年分家して一家を創立す綿絲商を營む家族は尙孫政榮(大一、一七)長男文二郎(長女同和子(同二五、九生)同二女)あり長女トモ(明二四、六生)二女マキ(同二六、七生)二男次郎(同三三、三三)あり(京城、西小門官舎)

志方 貞三

同土地(株)代表取締役、日本綿花(株)監査役、大阪府在籍
 妻 大二、一七生、聖心女子學院在學
 女 弘子 大二、一七生、聖心女子學院在學
 君は大阪府人志方勢七の兄にして明治二十三年五月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十五年大阪高等商業學校を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尙二女道子(大四、一七)あり(大阪、豊能、豊中町新市街北通四丁目)
 参照 志方勢七、水谷隆一、玉手弘行の項

志岐 信太郎

朝鮮天然水、朝鮮火藥銃砲、東亞土木企業、特許セメント瓦製造各(株)取締役、滿洲不動産信託(株)監査役、志岐組、土木建築請負業、東京府在籍
 妻 明一五、一三、東京、浦上藤榮姉
 男 信一 明三三、一七生
 女 信代 明三九、七生
 君は福岡縣人志岐甚三郎の長男にして明治二年三月を以て生れ同二十五年家督を相続す幼にして苦學力行築地工手學校に學び同校一回の卒業生たり同二十八年志岐組を興し以來内地臺灣北海道鮮滿地方西比利亞方面に發展す次で鑛業銃砲火藥志岐完全肥料製造販賣を兼ね遂に今日の大を成せり現時京城に本店を置き東京大連兩支店鮮滿樞要各地に出張所を有し傍ら前掲諸會社の重役たり家族は尙二男信吾(明四二、九生)三男信雄(同四四、四生)四男隆清(大二、一〇)生(養子)克子(同二二、九生)東京、田中頼忠三女)あり妹ミエ(明

志賀 虎一郎

日本銀行(株)株式局長
 妻 明一三、一七、長野、大村節太郎妹
 男 隆雄 明三四、一七生
 君は福島縣士族志賀隆康の長男にして明治六年二月を以て生れ後家督を相続す同三十二年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し日本銀行に入り文書局調査役新潟支店長等を経て現時同銀行株式局長たり家族は尙三男恒雄(明四五、六生)あり二男國雄(同三六、四生)は福島縣人志賀ヨシの養子となり長女京(同三八、七生)は山形縣人原田信雄に嫁し姉タツ(同元、九生)は同夫原善(文久二、一〇)生、福島、七、坂地學充弟)と共に分家せり(東京市外大井町倉田三三九四電高橋二三四)

志賀 直温

日本糖業製造、第一火災海上保險(株)取締役、東京府士族
 妻 明三五、七生、東京、土、高橋豊夫妹
 男 直三 明五二、二生
 女 昌子 明四一、一七生、聖心女子學院出身
 女 祿子 明四五、一七生
 君は福島縣士族志賀直道の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治三十九年家督を相続す先は同九年慶應義塾を卒業して實業界に入り現時前記各會社の重役にして曾て總武鐵道會社事務取締役たり(明一六、二七)生、創作家)は同妻(同二二、九生)子傳助(明一六、二七)生、創作家)を伴ひ別一家を創立し長女英(同三〇、三三)生、府立第三高等女學校出身)は子傳吉(安純)二男敏郎に二女淑子(同三三、四三)生、出身校同上)は福島縣人山崎太郎に三女隆子(同三六、六生)出身校同上)は東京府人鈴木嘉太郎に嫁し弟直六(同二二、五生)は分家せり(東京、麻布、三河臺町二七電青山一九一)
 参照 子傳助(明一六、二七)生、創作家)の項

志岐 守治

從三位勳一等功二級、豫備陸軍中將、鹿兒島縣士族
 妻 明一、九生、鹿兒島、土、山本
 男 守國 大三、六生
 君は鹿兒島縣士族志岐守行の長男にして明治四年四月を以て生れ同十一年家督を相続す夙に陸軍士官學校を卒業し同二十四年歩兵少尉に任じ同三十二年陸軍大學校を卒業し大正八年陸軍中將に陞進す其間歩兵第四十三聯隊大隊副官同聯隊中隊長陸軍士官學校教官臺灣守備混成旅團參謀步兵第四十四聯隊附第十二聯隊大隊長第一師團司令部附教育總監部附步兵第二十一聯隊長第四師團參謀長教育總監部第二課長步兵第二十七旅團長第十六師團長等に歴補す家族は尙長女治子(大六、六生)弟守二(明一〇、九生)あり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷二五〇)
 参照 山本盛正、愛甲兼達、木村剛、日良恒の項

志倉 直吉

前豐國銀行(株)銚子支店長
 妻 明一四、四生、東京、鈴木久左衛門長女
 男 秀雄 明四一、一七生
 女 房江 明四一、一七生
 君は東京府士族志倉光忠の四男にして明治四年二月を以て生れ同三十六年明光銀行より分家して一家を創立す夙に日本法律學校に學び明治四十一年豐國銀行に入り大正五年銚子支店長に昇る家族は尙四男逸(明四四、一七)五男篤(大三、二七)六男論(同六、五生)あり(千葉、海上、銚子町)

志堅 原良暢

沖繩縣多額納稅者
 妻 明三、二生、沖繩、新崎盛珍長女
 男 良起 大三、八生
 君は沖繩縣士族志堅原良誠の二男にして安政四年十月を以て生れ同二十二年分家して一家を創立す現時沖繩縣多額納稅者たり家族は尙三女春子(大七、三三)あり(那覇、久米町一ノ七)

志豆機源太郎 正五位勳四等、臺灣總督府典獄臺北刑務所長、靜岡縣在籍
 妻 隆吉 明一、九生、東京、上田米之助妹
 男 隆吉 明三〇、三生

君は靜岡縣人志豆機源の長男にして明治四年九月を以て生れ同三十四年家督を相続す凡に東洋英和學校和佛法律學校を出て同三十年文官普通試験に合格し監獄局臺灣總督府屬となり同三十九年臺灣總督府典獄に任ぜられ臺南臺北各監獄長を経て大正十三年現職臺北刑務所長に轉ず(臺北、福住町二電三八九)

志田勝次郎 由比銀行(株)取締役
 靜岡縣在籍

妻 和夫 大元、九生、亡長男林之助三女
 孫 君 明四二、六生、亡長男林之助三女
 君は靜岡縣人和田久作の二男にして原保太郎の義兄に當る安政二年八月を以て生れ明治十年先代和七の養子となり家督を相続す現時由比銀行取締役たり三男清作(明一七、六生)は同妻かね(同二四、三生)は靜岡、望月昌策(二女)を伴ひ長女ひさ(同三〇、五生)は同夫邦治(同二六、八生)は靜岡、朝比奈易藏(二男)及び一子を伴ひ各分家し孫さち子(同三六、二生)は長男林之助長女(女)も亦分家し六男武司(同二四、九生)は靜岡縣人志田かねの家督を相続せり(靜岡、庵原、由比町)

志田勝民 夕張鐵道(株)常務取締役
 長崎縣在籍

妻 トミ 風信三女
 男 惟一 昭二、五生
 君は長崎縣人志田宗一の長男にして明治六年十一月を以て生れ同四十一年家督を相続す同三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時夕張鐵道常務取締役たり家族は尙長女妙子(大三、一三)は妹春子(明二六、一三)あり弟勳(同二〇、三生)は長崎縣人村瀬シヅコの入夫となり同勝信(同二七、四生)は分家し妹

キト(同一九、一〇生)は東京府人吉井孝太郎に同カ(同二二、八生)は長崎縣人高力清蔵に歸し弟勝(同三二、九生)は前記吉井孝太郎の養子となり叔父慈風(同三、一〇生)は長崎縣人加藤惠能の死跡を相続せり(北海道、夕張、鹿、谷)

志田卸太郎

妻 良 明三、八生
 男 一郎 明三、八生
 男 三郎 明三、八生
 男 四郎 明三、八生
 女 婦美子 明三、八生
 君は千葉縣土族志田義の長男にして青山榮司の兄なり明治元年八月を以て生れ同十六年家督を相続す同十七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し商法研究の爲獨逸に留學し歸朝後東京高等商業學校教授兼學習院教授東京帝國大學法科大學教授等に歴任し法學博士の學位を授けられた後官を辭し實業界に入り現時前記諸會社の重役にして明治大學商學部長たり嘗て清國政府に聘せられ民法法起草案(明一六、五生)は分家せり(東京、小石川、小日向町三ノ一三電牛込三〇七〇)

志田周三郎

妻 よし 明三、八生
 男 照夫 明三、八生
 君は三重縣人志田友次郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ大正五年家督を相続す現時山田商業銀行取締役たり(三重、安濃、神戸村)

志立鐵次郎

妻 ナミ 天保一、七生、鳥根、土、志立
 母 ナミ 天保一、七生、鳥根、土、志立
 女 多 代 明三、五生、香蘭女學校出身
 君は舊雲州松江藩志立範藏の二男にして慶應元年六月を以て生れ明治二十九年分れて一家を創立す同二十二年帝國大學法科大學政治科を卒業し直に日本銀行に入り營業局に勤務せしが後九州鐵道會社經理局長に轉じ更に住友銀行支配人に任じ大阪朝日新聞社に轉じ日本興業銀行總裁に推選せらるる在職數年にして是を辭し現に日本勸業銀行參與理事にして預金部資金運用委員金融制度調査委員たり昭和二年四月國際經濟會議日本代表者に任命せられ瑞西國政府に赴き同會議に列す(東京市外港谷町標七六電青山六三二七)

志津野直文

妻 繼子 山陽中央水電(株)事務取締役、岡
 慶應三、九生、先代拙三二女
 養子 貫二 明三、七生、慶應義塾出身
 女 明三〇、一〇生、養子貫二妻、大
 阪府立夕陽丘高等女學校出身
 女 美津子 明三三、九生、大阪府立夕陽丘
 高等女學校出身
 女 紀子 明三七、二生、神戸市立第一高等
 女學校出身
 君は福岡縣土族吉賀六郎の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十年志津野拙三の家督を相続す凡に大阪府廳に職を奉じ同二十八年阪鶴鐵道會社社長となり同四十年播磨水力電氣會社社長を經營

志野覺治郎

妻 ナヲ 金三妹
 君は奈良縣人志野千代藏の二男にして明治二十一年六月を以て生れ後先代市治の養子となり同二十七年家督を相続す同四十二年關西大學專門部商科を卒業し直に神戸海上運送火災保險會社に入り大阪支店及本社火災保險主任本調査役等に歴任大正十一年朝日海上火災保險會社に入り現時同社大阪支店長兼本社火災課長たり家族は尙長女英子(大四、二生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋)

志波應治

妻 妙子 明四三、七生
 女 妙子 明四五、二生
 君は舊佐賀藩志波三九郎の二男にして同安一郎の弟なり明治八年十月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す明治三十六年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し三十四銀行に入り支配人より取締役に進み現時に至る家族は尙長女光子(大四、七生)三男高秋(同九、九生)あり養子ハナ(明二三、三生)京都、福本佐吉(二女)生(あり)養子ハナ(明二三、三生)京都、福本佐吉(二女)養子(明二二、二九)

志波安一郎

妻 和子 明三八、一〇生
 女 和子 明四〇、九生
 女 喜和 明四二、一〇生
 君は舊佐賀藩志波三九郎の長男にして明治六年九月

志田順 正四位勳三等、理學博士、京都帝國大學教授、理學部勤務
 妻 すみ 明一六、一〇生、東京、士、渡邊
 女 順一郎 明四一、一〇生

君は千葉縣土族志田種三の三男にして明治九年五月を以て生れ同三十五年家督を相続す同三十四年東京帝國大學理學部物理科を卒業し大學院に入り同三十六年廣島高等師範學校教授に任じ同四十二年第一高等學校教授京都帝國大學理工科大學助教授等に歴任し大正二年理學博士の學位を受け次で同大學理學部教授となる曾て物理學研究の爲獨逸に留學す現時同教授にして學部事務家族は尙二男正二(大元、九生)三女(女)のぶ(同五、八生)三男三郎(同七、九生)あり(京都、上京、相國寺門前町電上一九四)

志田仲藏

妻 郁郎 明三八、九生
 養子 猛 明三二、一〇生、長女チハル夫、宮
 女 ナハル 明三五、五生、養子猛妻
 君は宮城縣人志田仲右衛門の長男にして明治六年七月を以て生れ大正十四年家督を相続す凡に氣仙銀行に入り支配人を經て現時同行取締役兼支配人たり家族は尙孫美穂子(大四、九生)養子猛妻あり二女みさ子(明四〇、二生)は宮城縣人渡邊榮之助弟義道に妹(同二七、一〇生)は同縣人渡邊永則弟義雄に嫁し弟忠七(同二一、六生)は秋田縣人後藤ワサの入夫となり同庸兵衛(同二四、一〇生)は同妻とて(同二五、一〇生)宮城、荒川長馬長女及其子と共に分家せり(岩手、氣仙、高田町)

志田文吉

妻 トラ 明二二、一〇生、宮崎、松田市松
 男 明四〇、一〇生

志保澤忠三郎

妻 伊志 明二七、四生
 男 武 明三三、七生
 女 伊志 明三三、七生
 女 伊志 明三三、七生
 君は熊本縣人高橋正兵衛の三男にして慶應二年二月を以て生れ後先代彌三郎の死跡を相続す現時日黒ホテル社長にして帝國養蜂會社取締役たり家族は尙六男忠尚(大三、三生)孫忠世(同二一、八生)長男武長(男)同貞子(同二四、二生)同長女あり七女三枝(明三三、一〇生)は石川縣人伊藤嘉成成長男成義に嫁し五男正一(大二、一〇生)は東京府人野澤藤吉の養子となれり(東京市外日黒町日黒九八四電高輪七一一)

志保田銆吉

妻 健 明三三、九生
 女 健 明四〇、九生
 君は福岡縣土族吉賀六郎の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治二十年志津野拙三の家督を相続す凡に大阪府廳に職を奉じ同二十八年阪鶴鐵道會社社長となり同四十年播磨水力電氣會社社長を經營

君は京都府土族清水道勝の三男にして明治六年九月を以て生れ先代六兵衛の養子となり同三十一年家督を相續す同二十八年京都尋常師範學校を卒業し天田郡中部高等小學校訓導を経て同三十三年高等師範學校文科を卒業し爾來沖繩師範學校教授兼臺灣總督府國語學校教授兼南高等女學校校長兼臺北各師範學校長に歴任し現に臺北第一師範學校長たり家族は尙三男進(大五、二生)長女ひろ(同七、三生)四男明(同九、七生)あり(臺北、第一師範學校内)

志摩源次郎

德島縣多額納稅者、德島銀行、德島貯蓄銀行、德島倉庫、阿波木材各(株)取締役、德島縣在籍

妻 マツ 安政二、一、生、德島、岡本阿吉姉

養子 三 治 島、安藝芳郎三男

孫 篤子 明四、八生、養子三治長女

君は德島縣人先代源次郎の長男にして弘化四年六月を以て生れ後家督を相續す現時德島銀行取締役たる外前記各銀行會社の重役にして又德島縣多額納稅者たり家族は尙孫誠一(明四三、四生、養子三治長男)同八三郎(大五、三生、同二男)同祐治(同五、七生、同三男)同久美子(同七、八生、同二女)同喜弘(同二〇、七生、同四男)あり(德島市德島町浦町一六一)

志摩源平

德島縣多額納稅者、志摩源、旅館並金銀業、德島縣在籍

妻 エイ 明二、一、生、德島、岩瀬頼五郎

養子 政 由 大五、五生

君は德島縣人志摩源吉の長男にして明治十五年七月を以て生れ同二十三年先代ミナの養子となり家督を相續す志摩源旅館を經營し傍ら金銀業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙長女貞子(大五、五生)四男靖夫あり(德島市中通町)

志摩重三

阿波農工銀行(株)頭取、德島縣土族

養子 誠 吾 明一、二、生、德島、五島兵三男

妻 シヅ 明一、六生、養子誠吾妻、德島内田孝太郎姉

君は德島縣人五島民助の五男にして天保十年九月を以て生れ先々代曉英の養子となり後家督を相續す義に阿波商業會議所副會頭德島縣會議員等に擧げられ現に阿波銀行頭取たり長男正三(明元、二生)は分家し養子精一(嘉永元、八生、德島、佐藤次平長男)は同妻ラク(萬延元、六生、亡養叔父勘四郎長女)と共に同文二(明九、三生、德島、五島喜平弟)は同妻ツル(同一、二生、德島、土、岩瀬四郎三女)と共に各分家し孫美代子(同三七、五生、養子誠吾長女)は德島縣土族後藤田祐三郎に嫁せり(德島、名西、藍畑村)

志水小一郎

從三位勳一等、貴族院議員、熊本縣在籍

妻 房 慶應二、七生、衆議院議員原田十衛門

男 東 明二〇、五生

女 レン 明二八、八生、長男東男妻、東京

君は熊本縣土族志水三彌の養子にして安政元年二月を以て生れ明治十七年分家して一家を創立す同十年陸軍歩兵少尉に任じ同十六年理事に任じ同十八年陸軍省法務局長に補せられ義に獨逸境佛蘭西伊太利瑞西日耳曼英國等に差遣さる大正十年退職し現時貴族院議員に動任せらるる家族は尙孫春(大六、一、生、長男東男長女)同若菜(同八、一、生、同二女)同楠男(同一五、四生、同長男)あり庶子フキ(明三一、七生、生母、神奈川、石井テウ)は熊本縣人魚住景次に嫁せり(東京、小石川、小日向臺町一ノ二二電小石川二九八〇)

志水貞元

從五位勳五等、判事、岐阜地方裁判所判事、靜岡縣土族

妻 英 子 明一九、三生、靜岡、松岡雄妹

男 元 二 大八、二生

女 淳 明四五、四生

君は舊土浦藩士志水貞光の二男にして同三津男の兄なり明治六年一月を以て生れ同十五年家督を相續す同三十四年辯護士試験に合格し辯護士を開業し同四十四年判事に任じ爾來大田原區宇都宮區長野區宇都宮地方水戸區同地方上諏訪區各裁判所判事四日市裁判所判事兼安濃津地方四日市支那裁判所名古屋地方裁判所判事

志水寅次郎

日本製粉、鈴木商店各(株)取締役、樺太漁業(株)監査役、熊本縣土族

妻 ユキ 明二〇、二生、長崎、橋原英一郎

男 輝 彦 明四一、一、生

女 靜 子 大二、八生

君は熊本縣土族志水永泰の二男にして明治十年十二月を以て生るる風に實業界に入り現時前記各會社の重役にして鈴木商店小樽支店支配人たり義に推されて小樽商業會議所特別議員たり家族は尙三女富子(大五、六生)三男英雄(同八、一、生)の外亡兄永利妻(明一〇、二生、熊本、藤本充晴長女)同長男幸雄(同四二、六生、現戸主)あり(小樽、富岡町)

志水三津男

越後電力(株)事務取締役、靜岡縣土族

妻 多津子 明二五、一、生、德島、山田立夫長女

君は山梨縣人志村瀨兵衛の長男にして元治元年十月を以て生れ明治十七年家督を相續す農業を營み現に山梨縣多額納稅者たり二女とも明二七、六生)は山梨縣人一條豊治に三女かね代(同三〇、九生)は同縣人依田辰蔵長男輝孝に四女政子(同三五、一〇生)は同縣人今井文二に嫁し姪子(同三五、二生)は分家せり(山梨、中巨摩、二川村)

志村保一

岐瀨商會、東北桐材各(株)取締役、中外貯蓄銀行、職友共済生命保險、中野電氣、羊毛製、日本コナミ、ルカ各(株)監査役、神奈川縣土族

妻 イ 明二四、六生

男 保 政 明二六、六生

男 保 志 明三一、一〇生、早稻田大學商科出身

男 保 直 明三四、一、生、早稻田大學法科出身

女 俊 子 明四一、三生、三輪田高等女學校出身

君は神奈川縣土族志村保和の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治十五年家督を相續す風に修文館に學び義に工部省社會局及鐵道作業局等に勤務し後横濱銀行横濱電氣局橋本東京輸出メリス北海道炭礦汽船株式會社銀行日本殖民八卷志村日本地場須賀瓦斯電燈中外貯蓄銀行日東油脂日本亞細亞工業藥業銀行西武軌道等各銀行會社の重役に擧げらるる現に前掲銀行會社の重役たり家族は尙庶子保道(明四二、一〇生、生母、愛知、木下じやう)あり父保和(文政六、九生)は母コウ(天保四、九生、埼玉、早川又右衛門二女)姉スキ(安政三、二生)を伴ひ分家し妹カツ(明六、三生)は東京府人鷹野録三郎に嫁せり(東京、牛込、辨天町一七電牛込二六九)

志茂成保

從七位、陸軍二等主計、大正活映(株)取締役、研勵會總務、東京府在籍

妻 喜 代 明二三、一〇生、神奈川、松本

男 英 保 大一一、四生

君は山梨縣人志村字平の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治六年家督を相續す同二十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し義に農商務省參事官同編書官法制局參事官農商務省工務局長等に歴任す曾て勳業博覽會出品課長として功あり勳章を賜はるる後日本勳業銀行相續役横濱正金銀行検査役同外國課長となり後再び日本勳業銀行に入り副總裁を経て總裁となり在職二十一年辭して貴族院議員に動選せらるる弟義郎(明五、九生)は渡邊家を相續し養子と(同一五、二生)は北海道人關本英作に嫁せり(東京、小石川、金富町四

志村宗平

正六位、醫學博士、佐賀縣立病院好生館長、内科部長、小兒科部長、神奈川縣在籍

妻 は ま 明一七、一、生、靜岡、澤野米太郎

男 正 年 大六、二生

君は神奈川縣人志村住太郎の三男にして明治十八年五月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十五年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒業し現時前記の職に在り義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男孝甫(大七、一、生)三男秀彦(同一〇、三生)長女幸子(同一二、九生)四男良哉(同一四、八生)五男忠正(昭二、五生)あり弟國作(明二五、四生)は同妻千恵(同三二、七生、神奈川、石島卯三郎四女)と共に其子女を伴ひ分家せり(佐賀市水ヶ江町南十間端電五六)

志村辨藏

山梨縣多額納稅者、農業、山梨縣在籍

妻 か く 明元、七生、山梨、鷹野正太郎妹

女 英 子 明三七、二、生

男 瀨 兵 衛 明四〇、一、生

志村吉三郎

東京紙器印刷(株)取締役、朝日製菓(株)監査役、木村屋本店、製菓業、東京府在籍

父 吉 藏 安政二、一、生

妻 は な 明三、二、生、東京、川口芳兵衛

男 敬 一郎 大元、九生

君は東京府人志村吉藏の長男にして明治十八年九月を以て生れ大正八年家督を相續す木村屋本店と稱し製菓業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男能男(大四、七生)二女孝子(同九、一、生)三女佳代子(同一三、二生)あり(東京、神田、錦町一ノ一電神田七二〇)

志村源太郎

從四位勳三等、貴族院議員、富士電力(株)會長、預金部委員會、米穀力(株)監査役、小作制度調査委員會、商工會議會各委員、産業組合中央會、農林中央會、大日本米穀會各會頭、産業組合中央會、東京府在籍

妻 直 子 明三九、四生

男 精 一 明三九、四生

君は山梨縣人志村字平の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治六年家督を相續す同二十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し義に農商務省參事官同編書官法制局參事官農商務省工務局長等に歴任す曾て勳業博覽會出品課長として功あり勳章を賜はるる後日本勳業銀行相續役横濱正金銀行検査役同外國課長となり後再び日本勳業銀行に入り副總裁を経て總裁となり在職二十一年辭して貴族院議員に動選せらるる弟義郎(明五、九生)は渡邊家を相續し養子と(同一五、二生)は北海道人關本英作に嫁せり(東京、小石川、金富町四

志村清右衛門

衆議院議員(千葉縣選出)、大橋堂製菓(株)取締役、農業、千葉縣在籍

妻 嘉 永 二 一、生、千葉、遠藤甚右衛門

男 正 男 明四三、二生

女 八 重 子 明四三、二生

君は千葉縣人志村清右衛門の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名長吾を改め親名す同四十年東京高等商業學校を卒業し祖業を繼ぎ傍ら前記會社の重役に任じ現に千葉縣選出衆議院議員たり曾て大阪住友銀行に勤務し又千葉縣選出衆議院參事會員等に擧げらるる家族は尙五男十四郎(大一一、一、生)あり妹すま(明一六、二、生)は千葉縣人小川倉吉長男衛に嫁し弟新次(同二一、三生)は同妻やえ(同二七、一、生、群馬、高橋清七二女)と共に分家せり(千葉、千葉、幕張町)

志村宗平

正六位、醫學博士、佐賀縣立病院好生館長、内科部長、小兒科部長、神奈川縣在籍

妻 は ま 明一七、一、生、靜岡、澤野米太郎

男 正 年 大六、二生

君は神奈川縣人志村住太郎の三男にして明治十八年五月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十五年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒業し現時前記の職に在り義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男孝甫(大七、一、生)三男秀彦(同一〇、三生)長女幸子(同一二、九生)四男良哉(同一四、八生)五男忠正(昭二、五生)あり弟國作(明二五、四生)は同妻千恵(同三二、七生、神奈川、石島卯三郎四女)と共に其子女を伴ひ分家せり(佐賀市水ヶ江町南十間端電五六)

志村宗平

正六位、醫學博士、佐賀縣立病院好生館長、内科部長、小兒科部長、神奈川縣在籍

妻 は ま 明一七、一、生、靜岡、澤野米太郎

男 正 年 大六、二生

君は神奈川縣人志村住太郎の三男にして明治十八年五月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十五年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒業し現時前記の職に在り義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男孝甫(大七、一、生)三男秀彦(同一〇、三生)長女幸子(同一二、九生)四男良哉(同一四、八生)五男忠正(昭二、五生)あり弟國作(明二五、四生)は同妻千恵(同三二、七生、神奈川、石島卯三郎四女)と共に其子女を伴ひ分家せり(佐賀市水ヶ江町南十間端電五六)

志村宗平

正六位、醫學博士、佐賀縣立病院好生館長、内科部長、小兒科部長、神奈川縣在籍

妻 は ま 明一七、一、生、靜岡、澤野米太郎

男 正 年 大六、二生

君は神奈川縣人志村住太郎の三男にして明治十八年五月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十五年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒業し現時前記の職に在り義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男孝甫(大七、一、生)三男秀彦(同一〇、三生)長女幸子(同一二、九生)四男良哉(同一四、八生)五男忠正(昭二、五生)あり弟國作(明二五、四生)は同妻千恵(同三二、七生、神奈川、石島卯三郎四女)と共に其子女を伴ひ分家せり(佐賀市水ヶ江町南十間端電五六)

志村宗平

正六位、醫學博士、佐賀縣立病院好生館長、内科部長、小兒科部長、神奈川縣在籍

妻 は ま 明一七、一、生、靜岡、澤野米太郎

男 正 年 大六、二生

君は神奈川縣人志村住太郎の三男にして明治十八年五月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十五年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒業し現時前記の職に在り義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男孝甫(大七、一、生)三男秀彦(同一〇、三生)長女幸子(同一二、九生)四男良哉(同一四、八生)五男忠正(昭二、五生)あり弟國作(明二五、四生)は同妻千恵(同三二、七生、神奈川、石島卯三郎四女)と共に其子女を伴ひ分家せり(佐賀市水ヶ江町南十間端電五六)

君は舊幕臣星野豊後守の孫同成一の男にして明治十六年二月を以て生れ後宮城縣士族志茂家に養子となり...

斯波孝四郎

日本光學工業(株)取締役會長、三菱造船(株)常務取締役、東京府在籍...

斯波忠三郎

君は工學博士男爵斯波忠三郎の弟にして明治八年一月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す...

井氏を稱す父喜氏に至り舊姓斯波氏に復し別に一家を創立す君は幼名與之助と稱し後之を改め明治二十六年...

紫垣一雄

君は熊本縣人紫垣伴三の長男にして慶應元年六月を以て生れ明治二十九年家督を相続す...

紫藤章

君は熊本縣士族紫藤猛の弟にして萬延元年二月を以て生れ大正元年分れて一家を創立す...

自念春次郎

君は福岡縣人自念金藏の孫にして明治三十二年八月を以て生れ大正十四年家督を相続す...

持明院基揚

當家は關白藤原通長の孫右大臣俊家の四男鎮守府將軍基頼の後なり基頼初め持明院と稱し其子大藏卿通基...

慈光寺仲敏

君は子爵慈光寺仲敏の叔父にして明治七年四月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す...

慈光寺恭仲

當家は宇多源氏の支流五辻遠兼の三男加賀守仲清の後なりそれより二十世を経て先代有仲に至る...

椎尾辨匡

君は愛知縣人椎尾順位の五男にして明治九年七月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す...

椎木多四郎

知縣より推されて衆議院議員に當選す大正四年文學博士の學位を授けらるる家族は尙三男章(大元、一一生)...

椎津盛一

君は千葉縣人椎津久悟の二男にして明治十九年四月を以て生れる同十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業...

(同二七、二二生、千葉、近田治助三女)及其子女あり...

推名幸次郎

千葉縣多額納稅者

妻 さと 明二、一〇生、千葉、清宮孝太...

推名清次郎

千葉縣多額納稅者

妻 ふみ 明一、九生、千葉、塚本松之助...

推名隆

日本郵政理事、辯護士

父 八十二郎 明一、四、一〇生、千葉、推名長吉...

母 とく 明一、四、六生、千葉、山本新吉...

沙井久米松

北陸本村(名)代表社員

妻 よしみ 明二、五、六生、石川、高橋權次郎...

汐見久吉

大阪株式取引所取引員

妻 久美 明四、五、七生、大阪、松良庄七三...

潮先藤次郎

大阪堂島米穀取引所取引員

妻 ミツエ 明二、五、一〇生、山口、大高源次...

枝(同三六、一〇生、兵庫、中村喜一長女)との間に...

鹽入治右衛門

長野縣多額納稅者、酒造業

妻 はつえ 明二、三、九生、長野、市川今朝一...

鹽入太輔

伊那電車軌道、伊那電氣鐵道、職

妻 清三郎 弘化元、八生、長野、中村利兵衛...

鹽川幸太

勤四等、佐久銀行、佐久鐵道銀行

妻 よふ 明二、六、三三、慶應義塾大學出身...

鹽川一郎

長野縣多額納稅者、佐久鐵道(株)

妻 さと 明一、四、七生、長野、小山勝治妹...

鹽川賢三

六十三銀行(株)常務取締役

妻 なか 明四、三三、長野、小山善次郎長...

鹽川三四郎

從六位勳五等、藝備銀行(株)頭取

妻 千夏子 明一、四、六生、伯爵渡邊昭叔母、...

鹽釜伊兵衛

從四位勳四等、仙臺高等工業學校

妻 ちよ 明一、九、一〇生、宮城、土、村上...

鹽山 仙藏 熊本縣多額納稅者 雜貨商

君は熊本縣人鹽山仙藏の長男にして同仙次郎の兄なり...

鹿園 博仲 舊公卿家

當家は右大臣三條實起の第七子空見の立つる所なり...

鹿海 賢治 南海土地(株)取締役、有價證券買賣業、大阪府在籍

君は大阪府人鹿海賢治の長男にして明治十九年九月を以て生れ...

式村 茂 安東商工會議所會頭、廣島電氣、大連機械製作所、鳴鶴江製紙、滿洲製糖、安東縣大倉製材所各(株)取締役、滿洲製糖、廣島縣土族

敷波 重治郎 正四位勳三等、醫學博士、岡山醫科大學教授、石川縣在籍

鳴原 彌作 福島縣多額納稅者

重岡 寅之助 住友(表)社員、大阪府在籍

重城 敬 千葉縣多額納稅者、千葉貯蓄銀行、千葉縣水産各(株)取締役、木更津酒造(株)監査役、農業者

茂田 徳右衛門 博多工作所、荒津殖産(株)取締役、博多株式取引所(株)常務理事、福岡縣土族

直原 秀太郎 岡山縣多額納稅者、質商並醬油醸造業、岡山縣在籍

喜久 大、七生

君は岡山縣人直原始太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ...

直原 秀太郎 岡山縣多額納稅者、質商並醬油醸造業、岡山縣在籍

君は岡山縣人直原始太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ...

喜久 大、七生

君は岡山縣人直原始太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ...

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

君は岡山縣人直原始太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ...

直原 秀太郎 岡山縣多額納稅者、質商並醬油醸造業、岡山縣在籍

君は岡山縣人直原始太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ...

喜久 大、七生

君は岡山縣人直原始太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ...

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

喜久 大、七生

八、五生、海軍大尉財部鹿二女)及び一子を伴ひ分家せり(千葉、君津、鹿根村)

重田 嘉七

千葉縣多額納税者、佐貫銀行、木更津電燈各株監査役、砂糖商、千葉縣在籍

重田 勘次郎

從五位勳五等、朝鮮總督府京城法學專門學校長、香川縣在籍

重田 周造

靴商、京都府在籍

重田 長吉

砂糖商、京都府下京、新築極樂寺南入電中三六二八

重藤 眞太郎

米穀商、兵庫縣在籍

重富 晋一

本場關戸飯帳(株)常務取締役、ラミー商會(株)取締役、山口縣在籍

重永 壯輔

第六十五銀行(株)取締役、東洋製糖株監査役、鹿兒島縣士族

重信 勇太郎

鹿兒島縣多額納税者、履物商、鹿兒島縣在籍

重原 慶信

從五位、松本高等學校教授、愛知縣在籍

重政 亮之助

廣島縣多額納税者、金融業、廣島縣在籍

重松 武右衛門

資産家、大阪府在籍

重松 養二

日新電機(株)代表取締役、八千代生命保險(株)専務取締役、旭紡織(株)取締役、鳥取縣士族

重見 龍造

田口商會(株)取締役、文具俱樂部、大阪府在籍

重見 龍造

田口商會(株)取締役、文具俱樂部、大阪府在籍

重見 龍造

田口商會(株)取締役、文具俱樂部、大阪府在籍

才文房具商を営み現に前記會社の重役たり(大阪、天王寺、大道二ノ一七一番五八六四)

重光喜四郎

大分縣多額納稅者
君は大分縣人重松除五郎の弟にして嘉永三年十一月を以て生れ明治十六年分家して一家を創立す豪商にして大分縣多額納稅者たり家族は尙孫喜兒(大九、一生、二男喜長男)同建(同一〇、七生、同二男)あり長女ミネ(明一七、四生)は大分縣人上田良七の養子となり亡三女タツ夫末吉(同一〇、一生、大分、重光常吉弟)二女キミ(同一二、三生)二男秀雄(同三〇、二生)は各分家せり(大分、西國東、高田町)

重光

正五位勳四等、大使館參事官、獨國在勤、大分縣在籍
君は大分縣人重光直胤の二男にして明治二十年七月を以て生れ同三十一年重光三郎の養子となる同四十四年東京帝國大學法科大學を卒業し外交官及領事官試験並文官高等試験に合格す外交官補となり獨逸に在勤し英國に轉じ大使館三等書記官となり次で領事に任じ米國ボートランドに駐在し間もなく講和會議參加の爲佛國パリに出張を命ぜらる歸朝後外務省參事官外務書記官條約局第一課長兼航空事務官公使館一等書記官を経て昭和二年大使館參事官となり獨逸に在勤す大正八年講和全權委員隨員同十四年支那に於ける特別關稅會議及治外法權に關する委員會帝國委員隨員を命ぜらる家族は尙二男篤(大五、九生)あり(在獨逸日本大使館内)

重宗 芳水

明電社(株)社長、電氣機械商
君は東京府人大野捨次郎の長女にして明治九年十二月を以て生れ同三十四年先代芳水に嫁す芳水は明電社長として斯界に貢獻する所大なり大正六年其の歿するに及び長男麟多家を相続し襲名せしも幼少なるの故を以て君起ちて明電社長の後を襲ひ先代の遺業を守り今日に及ぶ義妹カツ(明二二、五生)は東京府人北村文重に嫁し義弟亮一(同二四、一生)同務(同二九、七生)は各分家し同雄三(同二七、二生)は東京府人山崎久の八女となり(東京市外大崎町居木橋二二六番高輪七五〇)

重森 健

中國酒造(株)取締役、加茂鶴酒造(株)監査役、廣島縣酒造組合甲奴郡支部長、上下産業組合廣島縣在籍、下野便局長、酒造業、廣島縣在籍
君は廣島縣人重森操の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正五年家督を相続す明治四十四年東京高等工業學校應用化學科を卒業し酒造業を営み現時中國酒造會社加茂鶴酒造會社の重役たる外前記の職に在り家族は尙二男廣(大四、一〇生)あり姉スカノ(明一七、三生)は同夫明(同九、三生)同山、矢吹重雄(三男)と共に分家せり(廣島、甲奴、上下町)

滋岡 長彦

從五位、姫路市長
君は大分縣人滋岡從長の長男にして田中俊清の甥に當る明治十五年四月を以て生れ大正四年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時姫路市長たり家族は尙四女宮子(大九、四生)五女和歌子(同一二、二生)二男長正(同一四、一〇生)あり

繁田 武平

埼玉縣多額納稅者、武州貯蓄銀行埼玉縣在籍
君は埼玉縣人繁田滿義の二男にして發智庄平の弟なり慶應三年二月を以て生れ明治十六年家督を相続す龜甲武印醬油鹽造元として知られ縣下の多額納稅者にして武州貯蓄銀行取締役たり兼に武州銀行取締役たり家族は尙孫美津子(大一一、四生、長男誠一長女)同秋子(同一三、九生、同二女)同良一(昭二、二生、同長男)同禮子(同一二、一生、三男德三郎長女)亡弟八八(八生、八生)は其子女を伴ひ各分家し同俊吾(同一二、八生)は前記高山仁兵衛長女徳の姉養子となり同六(同一五、四生)も亦埼玉縣人繁田竹三郎の養子となり姉ヒサ(同一七、一生)は同縣人齋藤徳次郎二男清助に嫁せり(埼玉、八間、豊岡町)

宗道 鐵郎

高津商店(株)取締役
君は岡山縣人宗道卷次の弟にして明治十六年四月を以て生れ同三十九年早稻田大學政治經濟科を卒業し現時日本タンカー會社取締役たり家族は尙二男實(大一一、三)日本兄弟會社(明一一、六生、現戶主)同妻通野(同二四、八生)兄卷次(明一一、六生、現戶主)同妻通野(同二四、七生)同山、藤井哲二孫及其子女あり(東京市外港谷町神山五八電青山三三三五)

宗道 政一郎

出雲製織(株)取締役
君は岡山縣人宗道卷次の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ現時高津商店取締役たり家族は尙二女喜美子(大八、二生)三女孝子(同一一、二生)四女玄子(同一四、一〇生)妹文子(明四三、九生)弟武雄(大一一、五生)妹久榮(同一二、二生)あり養祖父久兵衛(弘化二、一〇生)は分家せり(東京、小石川、高田老松町一七電牛込二四七四)

宗戸 功男

正四位勳五等、子爵、陸軍騎兵少佐、騎兵第一聯隊附、東京府華族
君は岡山縣人宗道卷次の長男にして明治九年十一月を以て生れ同三十八年家督を相続す同三十九年東京高等工業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙七孫政男(大六、七生、養子寛一長男)同恒男(同八、七)孫政男(大六、七生、養子寛一長男)同恒男(同八、七)久右衛門(明一五、一生)同妻カメエ(同二三、一生)東京、土、元田有常長女)は其二子を伴ひ分家せり(島根、鏡川、鹽冶村)

宗戸 乙熊

從四位勳三等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務
君は山口縣人宗戸元輔の二男にして明治十年六月を以て生れ同四十四年家督を相続す同三十五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し同年札幌農學校教授に任じ同四十年東京帝國大學農科大學林學科教授に任ぜられ現在に至るに農林管理學研究の爲め三年間獨逸に留學し大正六年林學博士の學位を受く家族は尙二男元彦(大二、七生)三男正巳(同七、五生)あり弟安政(明一八、三生)は山口縣人三張キミの八女となり妹ミキ(同二二、三生)は同縣人徳本春一長男孝也に嫁せり(札幌、南三條西三三丁目)

宗戸 乙彦

正四位、男爵、陸軍歩兵中尉
君は八田知家の四男後守家政常陸國笠間郡に居り宗戸と稱してより後世安藝に移り備前守元續に至り毛利氏に仕へ祿一萬千石を食み家老の首座たり先代親基幕末維新の際藩主を助けて大いに國事に奔走す先代

宗戸 嘉惠次

日本タンカー(株)取締役
君は岡山縣人宗道卷次の弟にして明治十六年四月を以て生れ同三十九年早稻田大學政治經濟科を卒業し現時日本タンカー會社取締役たり家族は尙二男實(大一一、三)日本兄弟會社(明一一、六生、現戶主)同妻通野(同二四、八生)兄卷次(明一一、六生、現戶主)同妻通野(同二四、七生)同山、藤井哲二孫及其子女あり(東京市外港谷町神山五八電青山三三三五)

宗戸 千頴

三井物産(株)砂糖部副長
君は東京府人宗戸元寛の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正十三年家督を相続す現に三井物産會社砂糖部副長たり家族は尙二女光子(大三三、三生)三女秀子(同六、一生)四女雪子(同九、二生)弟調造(明二四、三)同妻富士(同三〇、八生)和歌山、寺島昇長女)及其二女あり(東京、赤坂、青山南町五ノ五一電青山一六一)

鎮目 泰甫

國民新聞社(株)取締役、山梨銀行
君は山梨縣人鎮目五郎左衛門の長男にして明治十一年

十一月を以て生れ同二十六年家督を相続す現時前記銀行會社の重役にして...

靜

君は大阪府人靜藤兵衛の二男にして同藤治郎の弟...

君は大阪府人靜藤兵衛の長男にして明治十年九月を以て生れ...

靜 藤治郎

大阪府多額納税者、靜商事(株)監査役、(株)代表社員、大阪株式取引所一般兼國際取引員

繼母 よね 安政五、九生、大阪、武田善兵衛

妻 いく 明四、二生、東、高橋七之助妹

庶子 豐治郎 明四、二生、生母、大阪、小川

君は京都府人大東與市郎の弟にして明治十九年十二月を以て生れ...

七里善太郎

新潟縣多額納税者、金物商

妻 ミカ 安政二、六生、新潟、明田川久二

男 善作 明一八、二生

女 サダ 永村安次郎二女

孫 ムツ 明四三、一、二男善作長女

孫 リツ 明四四、一、二男善作二女

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

君は新潟縣人先代善太郎の長男にして弘化三年五月を以て生れ...

設樂 貞雄

建築設計監督業

妻 登志 明二、九生、大阪、土、關正護二女

養子 貞三 明三一、一、二女美香子、福

女 美香子 明三二、七、生、養子貞三妻、樟蔭

女 須磨子 明三八、八、生、樟蔭高等女學校出身

女 千鳥 明四二、五、生、樟蔭高等女學校出身

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

君は福島縣人設樂貞一の子にして元治元年七月を以て生れ...

七田今朝一

正五位勳三等功五級、海軍少將、馬公要港部司令官、佐賀縣士族

妻 ユキコ 明一九、九、生、愛媛、熊野惠賜妹

男 稔 大三、一、生

女 孝子 明四〇、一、二、生

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

君は佐賀縣人七田利三の二男にして現戸主秀一の弟なり...

會社支配人郡島正治に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇電小石川二八八四)

篠崎 豊彦 大分縣多額納稅者、御成銀行株頭取、佐伯土地、宇佐參宮鐵道各(株)取締役、大分縣在籍

君は大分縣人篠崎新吾の四男にして嘉永六年十月を以て生れ大正十三年分家して一家を創立す...

篠崎 昇 從四位勳三等、神戸税關長兼管轄管財局書記官、茨城縣在籍

君は茨城縣人篠崎力藏の二男にして明治十二年九月を以て生れ同三十九年東京帝國大學法科を卒業...

篠崎 將次 松政、生魚商、東京府在籍

君は埼玉縣人篠崎平藏の三男にして明治十三年二月を以て生れ同三十五年分家して一家を創立す...

篠崎 六之助 小野(株)取締役、九吉商店(資)代表社員、福岡縣在籍

君は福岡縣人瓜生山郎の三男にして明治十二年四月を以て生れ先代吉兵衛の養子となり同十四年家督を相続す...

篠澤 勇作 長野工業(株)社長、長野縣在籍

君は長野縣人篠澤徳太郎の三男にして明治十五年四月を以て生れ大正七年家督を相続す...

江區各裁判所判事廣島控訴院判事島取廣島各地方裁判所部長等に歴補し大正十四年現職島取地方裁判所長に補せらるる家族は尙三男浩(明四三、九生)四男實(大五、一一生)六男野(同一、一一生)あり...

篠田 喜太郎 千葉縣多額納稅者、酒及賣商、千葉縣在籍

君は千葉縣人篠田喜三郎の長男にして慶應二年三月を以て生れ明治三十八年家督を相続す...

篠田 錦策 正五位勳四等、東京高等師範學校教授、岐阜縣士族

君は岐阜縣士族篠田正徳の長男にして明治十年十二月を以て生れ同三十六年家督を相続す...

男 太郎 明三四、一〇生、文學士、明治大學講師

男 隆治 明四〇、九生

女 安子 明四四、三生

君は靜岡縣人篠田次郎の長男にして明治五年十月を以て生れ大正元年家督を相続す...

篠田 治七 産倉庫(株)事務取締役、小樽物産倉庫(株)取締役、小樽銅鐵船具、岐阜縣在籍

妻 せき 明七、三生、岐阜、篠田藤平長女

君は舊桑名藩士篠田作十郎の長男にして安政三年十二月を以て生れ明治十八年家督を相続す...

篠田 時化雄 從五位、精華高等女學校校長、京都神宮寺會々長兼理事、三重縣士族

君は舊桑名藩士篠田作十郎の長男にして安政三年十二月を以て生れ明治十八年家督を相続す...

篠田 有徳 千葉縣多額納稅者、農業者、千葉縣在籍

君は千葉縣人篠田有則の長男にして明治十三年十二月を以て生れ同四十五年家督を相続す...

妻 豊子 明三五、九生、千葉、萩原甲太郎

君は東京府人篠田政之助の長男にして明治二十九年五月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

篠田 祐八郎 岐阜縣多額納稅者、藥種商、岐阜縣在籍

君は岐阜縣人篠田祐助の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治四十五年弟樹一の後を受けて家督を相続す...

篠田 惟正 臺北銀行(株)頭取、熊本縣士族

君は熊本縣士族篠原正人の長男にして明治九年二月を以て生れ後家督を相続す...

女學部出身)は福岡縣人原勝三郎長男吉平に嫁し二男榮三(同二七、六生、法學士)は同妻武(同三七、三三)...

芝川新次郎

君は大阪府人芝川新助の長男同助の養弟にして明治十四年十一月を以て生れ同二十四年分家して一家を創立す...

芝川又四郎

父 又右衛門 千島土地(株)取締役 文久二、二生、大阪、山口吉郎兵衛...

當家は京都より出で養祖新助初て大阪に移住し唐物商を營み先代又平家業を繼承して今日の基礎を築けり...

芝小路豊俊

正四位勳四等功五級、男爵、陸軍騎兵大佐、舊公卿家 騎兵大佐、舊公卿家...

芝田庫太郎

君は静岡縣人鈴木三郎平の二男にして安政五年五月を以て生れ後先代新治郎の養子となり明治十三年家督を相続す...

芝田大吉

正八位、陸軍三等主計、大阪株式取引所一般短期債取引員 大阪府在籍...

三に同ハナ(同二〇、七生)は埼玉縣人杉山大倉二男穆臣に嫁せり(東京、麹町、上六番町四一電九段三三四五)...

芝田忠五郎

君は三重縣人芝田彦祐の弟にして明治三年五月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す...

芝田徹心

君は三重縣人芝田徹の弟にして明治十二年二月を以て生れ同三十六年東京帝國大學文部學科を卒業し...

芝野森之助

君は鹿兒島縣人芝野太郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ同四十二年家督を相続す...

君は鹿兒島縣人芝野太郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ同四十二年家督を相続す...

君は徳島縣人芝田忠平の男にして明治十二年五月を以て生れ同三十一年分家して一家を創立す...

芝田理八

君は徳島縣人芝田忠平の男にして明治十二年五月を以て生れ同三十一年分家して一家を創立す...

芝田百太郎

君は廣島縣人芝田桂次の五男にして明治十九年十二月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す...

君は千葉縣人芝田勝の長男にして明治十六年六月を以て生れ大正四年家督を相続す...

芝沼榮作

君は静岡縣人甲賀伊右衛門の四男にして明治十四年九月を以て生れ先代明の養子となり大正九年家督を相続す...

芝野安兵衛

君は京都府人芝野安兵衛の二男にして明治二十六年八月を以て生れ同四十二年兄安次郎の後を承け家督を相続す...

芝野嘉兵衛

君は京都府人芝野安兵衛の二男にして明治二十六年八月を以て生れ同四十二年兄安次郎の後を承け家督を相続す...

君は京都府人芝野安兵衛の二男にして明治二十六年八月を以て生れ同四十二年兄安次郎の後を承け家督を相続す...

同嘉代(同二五、四生)は大坂府人好田幸介に嫁せり(京都、下京、大宮通松原上ル電下七二七) 參照 小澤七兵衛の項

芝本善次郎 (株)監査役、東洋棉花(株)囑託、大阪府在籍 母 リキ 安政三、八生、石川、長澤佐五郎 妻 清子 明一八、九生、廣島、野間直兵衛 女 正子 大元、一一生

君は大坂府人芝本源右衛門の長男にして明治十七年三月を以て生れ大正五年家督を相続す明治三十六年大阪高等商業学校を卒業し大正八年米國を視察す現時天滿紡績會社監査役東洋棉花會社囑託たり陽明學堂の著あり義太夫誦曲等を趣味とす(大阪、住吉、住吉町九六九電佳吉二四八) 參照 淡々木屋の項

芝山重 (株)監査役、紅葉屋商會(株)監査役、東京府在籍 妻 文久二、五生、現戶主 養母 みつ 明一、九生、東京、櫻井伊右衛門長女 妻 しん 明二九、八生、東京、櫻井伊右衛門長女 男 岩 郎 大八、五生

君は栃木縣人池田正の弟にして明治三十年五月を以て生れ大正八年東京府人芝山勇吉の養子となる現時明治石油會社取締役紅葉屋商會監査役たり家族は尙長女照子(大一一、七生)二男秀郎(同三一、一〇生)あり叔父素助(明一一、三生)は同妻あり(同一一、二生、東京、中島精一姉)と共に其二男二女を伴ひ分家せり(東京、淺草、馬道町一ノ一二電淺草三三九九) 參照 西村道彦の項

芝山孝豐 歩三位勳四等功五級、子爵、陸軍歩兵中佐、舊公卿家 妻 松子 明一七、二生、男爵高崎正光叔母 女 央子 明四三、一〇生

當家は内大臣勳修寺光豐の男權大納言宣豐の後なり宣豐別に一家を起し芝山と稱すそれより八代慶應に至り

二月を以て生れ同四十二年家督を相続す農業者を嘗み茨城縣多額納稅者たり家族は尙長女貞大五、三三二女久子(同八、七生)三男勝光(同一一、一〇生)三女三子(同二一、六生)弟孝平(明三一、二生)あり姉かね(同二一、四生)は栃木縣人中島友次に嫁はる(同二〇、八生)は茨城縣人草間林之助長男庸に同よし(同二六、八生)は同縣人生井幹に同よし(同三四、一〇生)は同縣人塚越榮二郎に嫁し弟四郎(同二九、一〇生)同妻あり(同三〇、七生、茨城、増田治助妹)は分家せり(茨城、眞壁、川西村) 參照 中島友次の項

柴三郎 (株)商工會議所議員、柴仁商店(株)社長、兵庫縣在籍 妻 すて 明一〇、四生、滋賀、目加田三郎 男 吉一 明二九、一一生 女 壽枝 明三六、四生、長男吉一妻、兵庫、三浦海二郎三女 男 勝三 明三八、一一生 女 君子 明四〇、三生 女 敬子 大二、九生

君は兵庫縣人柴仁兵衛の長男にして明治九年五月を以て生れ同四十二年家督を相続す貿易商を嘗み現に柴仁商店社長たり家族は尙四男敏郎(明四四、三三)三女富子(大九、五生)あり弟間之祐(明一六、一〇生)同妻あり(同二二、二生、岡山、瓜生實二妹)は其一男一女を伴ひ分家せり(同二三、三三)は東京府人吉田淳長男安に嫁せり(神戸、楠町六ノ三四電本局一四二二)

柴孫次郎 (株)監査役、茨城縣在籍 妻 精一 明三八、一一生、亡長男坦長男 孫 まつ 富岡庄之助三女 孫 明四一、一一生、亡長男坦長女

君は茨城縣人柴孫右衛門の長男にして萬延元年九月を以て生れ明治十三年家督を相続す現に前記銀行會社の重役たり長女たか(明一一、二生)は茨城縣人大和田貞之助長男三三に養子(同三五、一〇生)養父孫三郎(養子)は東京府人小村三郎第八洲治に再從妹とら(同三一、八生、從兄孫市女)は茨城縣人本多喜平次に嫁し

從二位坊城俊政の三男祐豐其後を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる君實は故男爵栗田口定孝の二男にして明治八年七月を以て生れ同二十七年先代祐豐の死後養子となり前名田鶴齋を改め家督を相続す現に子爵に任じ陸軍士官學校を卒業して同三十二年陸軍歩兵少尉に任じ累進して大正九年中佐に陞り日露戰役の功に依り功五級を賜ふ大正十一年豫備役に編入せらるる家族は尙三女紀子(大四、九生)あり長女順子(明三六、九生)は子爵栗田口定孝の養子となり當主たり(東京、牛込、北山伏町二九) 參照 子爵栗田長昌、男爵栗田口信豐、男爵高崎正光、栗田中阿歌磨の項

柴三郎 (株)監査役、後備陸軍中將、茨城縣在籍 妻 きん 明八、七生、茨城、土、高橋守衛 妹 明三四、一〇生 女 照子 明二六、九生 女 花子 明四〇、七生 女 洋菜子 明四一、一〇生

君は茨城縣人柴久一郎の二男にして文久三年十二月を以て生れ明治三十二年分家して一家を創立す同十八年陸軍歩兵少尉に任じ大正四年陸軍中將に累進す其間參謀本部陸軍省出仕屯田兵中將各部各參謀陸軍大學校兵學教官總監附參謀第一課長近衛歩兵第三聯隊長朝鮮駐劄參謀長關東都督府參謀長陸軍省軍務局長兼軍事參謀院參謀長第十八師團長等に歴補す兼に軍事研究の爲歐洲に遊歴せらるる家族は尙三男季勝(大四、一〇生)あり(茨城、眞壁、下館町)

柴五郎 (株)監査役、後備陸軍中將、福島縣在籍 妻 花 明三、一一生、佐賀、鍋島文武三女 養子 平四郎 明一七、五生、長女みつ夫、福島、國分平七四男、陸軍砲兵中佐 女 みつ 明二五、六生、養子平四郎妻

君は福島縣人柴榮佐多藏の五男にして萬延元年七月を以て生れ明治三十四年兄太一郎の後を受け家督を繼ぐ同十二年陸軍砲兵少尉に任じ大正八年陸軍大將に累進

三男榮郎(同二四、一〇生)は茨城縣土族村たいに五男四郎(同三一、五生)は從兄孫市に各養子となり二男博(同二三、五生)同妻は(同三三、四生、茨城、磯前庄吉二女)は其一子と共に從兄孫三郎(嘉永五、一〇生、伯父清左衛門三男)同妻き(萬延元、一〇生、埼玉、西伯父清左衛門三男)は其子女と共に同孫市(弘化三、八生、伯父清左衛門二男)は其子女と共に各分家し養子謙吉(慶應三、六生、茨城、富岡庄之助弟)も亦分家し四男三郎(明二六、五生)は東京府人田中末の八夫となれり(水戸、上市南三之丸) 參照 柴丹治郎三の項

柴垣鼎太郎 (株)監査役、文部技師、大臣官房建築課長、千葉縣在籍 妻 はま 嘉永五、一一生、千葉、土、谷守人 長女 明二一、一一生、東京、近藤頼夫姉 弟 嘉一郎 明四二、一〇生 女 俊子 明四二、一〇生

君は千葉縣人柴垣久道の長男にして明治十年七月を以て生れ大正二年家督を相続す明治三十五年東京帝國大學工科大学建築科を卒業し同四十年文部技師に任ぜられ現時大臣官房建築課長たり家族は尙二男二郎(明四四、一〇生)あり弟長(同六一、一〇生)は分家して東京府人永富雄吉長女喜彌(同三〇、七生)を娶れり(東京、小石川、原町一三電小石川二〇)

柴垣則義 (株)監査役、北海道札幌師範學校校長、北海道土族 妻 多津 明一四、一一生、石川、坂田萬馬長 男 俊 明四四、一一生 養子 留雄 明三六、八生、愛知、坂田忠雄弟

君は石川縣人柴垣則盛の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十九年家督を相続す同二十七年東京高等師範學校文藝科を卒業し山口兵庫山梨各縣師範學校教諭兼臺灣總督府師範學校教授陸軍省長官野山形宮城各縣師範學校長等に歴任し現時北海道札幌師範學校長たり家族は尙二男英雄(大一一、二生)三女みち(同六一、一〇生)あり(札幌、札幌師範學校内)

其間英國公使館附大本營參謀英國公使館附參謀本部出仕清國公使館附砲兵第十五聯隊長英國大使館附砲兵第二旅團長同第一旅團長下關要塞司令官第十二師團長東京衛戍總督府軍司令官軍事參議官等に歴補す日露戰役の功を以て功二級金鷄勳章を賜はるる家族は尙孫由一郎(大六、二生)養子平四郎長男同(同八、七生)同三女同(同二一、一〇生)同(同四二、一〇生)同(同三三、八生)同(同五五、一〇生)同(同六一、一〇生)同(同七三、一〇生)同(同八四、一〇生)同(同九六、一〇生)同(同一〇八、一〇生)同(同一二〇、一〇生)同(同一三二、一〇生)同(同一四四、一〇生)同(同一五六、一〇生)同(同一七八、一〇生)同(同二〇〇、一〇生)同(同二一二、一〇生)同(同二二四、一〇生)同(同二三六、一〇生)同(同二四八、一〇生)同(同二六〇、一〇生)同(同二七二、一〇生)同(同二八四、一〇生)同(同二九六、一〇生)同(同三〇八、一〇生)同(同三二〇、一〇生)同(同三三二、一〇生)同(同三四四、一〇生)同(同三五六、一〇生)同(同三六八、一〇生)同(同三八〇、一〇生)同(同三九二、一〇生)同(同四〇四、一〇生)同(同四一六、一〇生)同(同四二八、一〇生)同(同四四〇、一〇生)同(同四五二、一〇生)同(同四六四、一〇生)同(同四七六、一〇生)同(同四八八、一〇生)同(同五〇〇、一〇生)同(同五一二、一〇生)同(同五二四、一〇生)同(同五三六、一〇生)同(同五四八、一〇生)同(同五六〇、一〇生)同(同五七二、一〇生)同(同五八四、一〇生)同(同五九六、一〇生)同(同六〇八、一〇生)同(同六二〇、一〇生)同(同六三二、一〇生)同(同六四四、一〇生)同(同六五六、一〇生)同(同六七八、一〇生)同(同六九〇、一〇生)同(同七〇二、一〇生)同(同七一四、一〇生)同(同七二六、一〇生)同(同七三八、一〇生)同(同七五〇、一〇生)同(同七六二、一〇生)同(同七七四、一〇生)同(同七八六、一〇生)同(同七九八、一〇生)同(同八一〇、一〇生)同(同八二二、一〇生)同(同八三四、一〇生)同(同八四六、一〇生)同(同八五八、一〇生)同(同八七〇、一〇生)同(同八八二、一〇生)同(同八九四、一〇生)同(同九〇六、一〇生)同(同九一八、一〇生)同(同九三〇、一〇生)同(同九四二、一〇生)同(同九五四、一〇生)同(同九六六、一〇生)同(同九七八、一〇生)同(同一〇〇〇、一〇生)同(同一〇一二、一〇生)同(同一〇二四、一〇生)同(同一〇三六、一〇生)同(同一〇四八、一〇生)同(同一〇六〇、一〇生)同(同一〇七二、一〇生)同(同一〇八四、一〇生)同(同一〇九六、一〇生)同(同一一〇八、一〇生)同(同一一二〇、一〇生)同(同一一三二、一〇生)同(同一一四四、一〇生)同(同一一五六、一〇生)同(同一一六八、一〇生)同(同一一八〇、一〇生)同(同一二〇二、一〇生)同(同一二一四、一〇生)同(同一二二六、一〇生)同(同一二三八、一〇生)同(同一二四〇、一〇生)同(同一二五二、一〇生)同(同一二六四、一〇生)同(同一二七六、一〇生)同(同一二八八、一〇生)同(同一二九〇、一〇生)同(同一三〇二、一〇生)同(同一三一四、一〇生)同(同一三二六、一〇生)同(同一三三八、一〇生)同(同一三九〇、一〇生)同(同一四〇二、一〇生)同(同一四一四、一〇生)同(同一四二六、一〇生)同(同一四三八、一〇生)同(同一四四〇、一〇生)同(同一四五二、一〇生)同(同一四六四、一〇生)同(同一四七六、一〇生)同(同一四八八、一〇生)同(同一五〇〇、一〇生)同(同一五一二、一〇生)同(同一五二四、一〇生)同(同一五三六、一〇生)同(同一五四八、一〇生)同(同一五六〇、一〇生)同(同一五七二、一〇生)同(同一五八四、一〇生)同(同一五九六、一〇生)同(同一六〇八、一〇生)同(同一六二〇、一〇生)同(同一六三二、一〇生)同(同一六四四、一〇生)同(同一六五六、一〇生)同(同一六七八、一〇生)同(同一六九〇、一〇生)同(同一七〇二、一〇生)同(同一七一四、一〇生)同(同一七二六、一〇生)同(同一七三八、一〇生)同(同一七五〇、一〇生)同(同一七六二、一〇生)同(同一七七四、一〇生)同(同一七八六、一〇生)同(同一七九八、一〇生)同(同一八一〇、一〇生)同(同一八二二、一〇生)同(同一八三四、一〇生)同(同一八四六、一〇生)同(同一八五八、一〇生)同(同一八七〇、一〇生)同(同一八八二、一〇生)同(同一九〇四、一〇生)同(同一九一六、一〇生)同(同一九二八、一〇生)同(同一九四〇、一〇生)同(同一九五二、一〇生)同(同一九六四、一〇生)同(同一九七六、一〇生)同(同一九八八、一〇生)同(同二〇〇〇、一〇生)同(同二〇一二、一〇生)同(同二〇二四、一〇生)同(同二〇三六、一〇生)同(同二〇四八、一〇生)同(同二〇六〇、一〇生)同(同二〇七二、一〇生)同(同二〇八四、一〇生)同(同二〇九六、一〇生)同(同二一〇八、一〇生)同(同二一二〇、一〇生)同(同二一二二、一〇生)同(同二一二四、一〇生)同(同二一二六、一〇生)同(同二一二八、一〇生)同(同二一三〇、一〇生)同(同二一三二、一〇生)同(同二一三四、一〇生)同(同二一三六、一〇生)同(同二一三八、一〇生)同(同二一四〇、一〇生)同(同二一四二、一〇生)同(同二一四四、一〇生)同(同二一四六、一〇生)同(同二一四八、一〇生)同(同二一五〇、一〇生)同(同二一五二、一〇生)同(同二一五四、一〇生)同(同二一五六、一〇生)同(同二一五八、一〇生)同(同二一六〇、一〇生)同(同二一六二、一〇生)同(同二一六四、一〇生)同(同二一六六、一〇生)同(同二一六八、一〇生)同(同二一七〇、一〇生)同(同二一七二、一〇生)同(同二一七四、一〇生)同(同二一七六、一〇生)同(同二一七八、一〇生)同(同二一九〇、一〇生)同(同二一九二、一〇生)同(同二一九四、一〇生)同(同二一九六、一〇生)同(同二一九八、一〇生)同(同二二〇〇、一〇生)同(同二二〇二、一〇生)同(同二二〇四、一〇生)同(同二二〇六、一〇生)同(同二二〇八、一〇生)同(同二二一〇、一〇生)同(同二二一二、一〇生)同(同二二一四、一〇生)同(同二二一六、一〇生)同(同二二一八、一〇生)同(同二二二〇、一〇生)同(同二二二二、一〇生)同(同二二二四、一〇生)同(同二二二六、一〇生)同(同二二二八、一〇生)同(同二二三〇、一〇生)同(同二二三二、一〇生)同(同二二三四、一〇生)同(同二二三六、一〇生)同(同二二三八、一〇生)同(同二二四〇、一〇生)同(同二二四二、一〇生)同(同二二四四、一〇生)同(同二二四六、一〇生)同(同二二四八、一〇生)同(同二二五〇、一〇生)同(同二二五二、一〇生)同(同二二五四、一〇生)同(同二二五六、一〇生)同(同二二五八、一〇生)同(同二二六〇、一〇生)同(同二二六二、一〇生)同(同二二六四、一〇生)同(同二二六六、一〇生)同(同二二六八、一〇生)同(同二二七〇、一〇生)同(同二二七二、一〇生)同(同二二七四、一〇生)同(同二二七六、一〇生)同(同二二七八、一〇生)同(同二二九〇、一〇生)同(同二二九二、一〇生)同(同二二九四、一〇生)同(同二二九六、一〇生)同(同二二九八、一〇生)同(同二三〇〇、一〇生)同(同二三〇二、一〇生)同(同二三〇四、一〇生)同(同二三〇六、一〇生)同(同二三〇八、一〇生)同(同二三一〇、一〇生)同(同二三一二、一〇生)同(同二三一四、一〇生)同(同二三一六、一〇生)同(同二三一八、一〇生)同(同二三二〇、一〇生)同(同二三二二、一〇生)同(同二三二四、一〇生)同(同二三二六、一〇生)同(同二三二八、一〇生)同(同二三三〇、一〇生)同(同二三三二、一〇生)同(同二三三四、一〇生)同(同二三三六、一〇生)同(同二三三八、一〇生)同(同二三四〇、一〇生)同(同二三四二、一〇生)同(同二三四四、一〇生)同(同二三四六、一〇生)同(同二三四八、一〇生)同(同二三五〇、一〇生)同(同二三五二、一〇生)同(同二三五四、一〇生)同(同二三五六、一〇生)同(同二三五八、一〇生)同(同二三六〇、一〇生)同(同二三六二、一〇生)同(同二三六四、一〇生)同(同二三六六、一〇生)同(同二三六八、一〇生)同(同二三七〇、一〇生)同(同二三七二、一〇生)同(同二三七四、一〇生)同(同二三七六、一〇生)同(同二三七八、一〇生)同(同二三九〇、一〇生)同(同二三九二、一〇生)同(同二三九四、一〇生)同(同二三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三五五八、一〇生)同(同三五六〇、一〇生)同(同三五六二、一〇生)同(同三五六四、一〇生)同(同三五六六、一〇生)同(同三五六八、一〇生)同(同三五七〇、一〇生)同(同三五七二、一〇生)同(同三五七四、一〇生)同(同三五七六、一〇生)同(同三五七八、一〇生)同(同三五九〇、一〇生)同(同三五九二、一〇生)同(同三五九四、一〇生)同(同三五九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一〇生)同(同三四三六、一〇生)同(同三四三八、一〇生)同(同三四四〇、一〇生)同(同三四四二、一〇生)同(同三四四四、一〇生)同(同三四四六、一〇生)同(同三四四八、一〇生)同(同三四五〇、一〇生)同(同三四五二、一〇生)同(同三四五四、一〇生)同(同三四五六、一〇生)同(同三四五八、一〇生)同(同三四六〇、一〇生)同(同三四六二、一〇生)同(同三四六四、一〇生)同(同三四六六、一〇生)同(同三四六八、一〇生)同(同三四七〇、一〇生)同(同三四七二、一〇生)同(同三四七四、一〇生)同(同三四七六、一〇生)同(同三四七八、一〇生)同(同三四九〇、一〇生)同(同三四九二、一〇生)同(同三四九四、一〇生)同(同三四九六、一〇生)同(同三四九八、一〇生)同(同三三九二、一〇生)同(同三三九四、一〇生)同(同三三九六、一〇生)同(同三三九八、一〇生)同(同三四〇〇、一〇生)同(同三四〇二、一〇生)同(同三四〇四、一〇生)同(同三四〇六、一〇生)同(同三四〇八、一〇生)同(同三四一〇、一〇生)同(同三四一二、一〇生)同(同三四一四、一〇生)同(同三四一六、一〇生)同(同三四一八、一〇生)同(同三四二〇、一〇生)同(同三四二二、一〇生)同(同三四二四、一〇生)同(同三四二六、一〇生)同(同三四二八、一〇生)同(同三四三〇、一〇生)同(同三四三二、一〇生)同(同三四三四、一

柴田 貞輝 從五位勳五等、判事、大阪地方裁判所部長、香川縣在籍
 妻 キミ 明二〇、八生、奈良、山田仲三姉
 男 義正 大二、一〇生
 女 チヨ子 明四三、一〇生

君は香川縣人柴田之助の弟にして明治十一年九月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同三十八年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十二年判事に任じ爾來若松區區區區同地方京都府區區同地方舞鶴區區同地方大阪府同地方各裁判所判事高知地方裁判所部長大阪府同地方に歴補し大正十四年現職大阪府地方裁判所部長に補せらるる家族は尙二男護(六七、一〇生)三男鏡(同二〇、九生)四女英子(同二三、一〇生)あり(大阪、大阪地方裁判所官舎)

柴田 二郎 柴田商店(株)社長、大同藍(株)専務取締役、日本染織(株)取締役、千代田化學工業(株)代表社員、八桂屋、染料商、東京府在籍
 妻 智恵 明三四、一〇生、東京、脇田福太郎長女
 男 良 大一、七生
 女 喜美 明四三、九生

君は東京府人柴田清之助の二男にして明治二十四年九月を以て生れ同四十二年選定により亡叔父藤兵衛の家督を相続す八桂屋と稱し染料商を營み柴田商店を主宰する傍ら前記諸會社の重役を兼ね(東京、日本橋、瀬戸物町八電日本橋六五)

柴田 甚藏 地金商
 妻 五子 明一六、一〇生、兵庫、鹿間安藏
 男 英之祐 明三三、一〇生
 女 静枝 明三六、六生、長男英之祐妻、大坂、江川重治郎長女
 男 捷三 明三七、九生
 女 静子 明三九、七生
 男 健藏 明四四、九生
 女 カヅ子 明四四、一〇生

君は石川縣人柴田太郎の弟にして明治六年五月を以て生れ同三十一年分家して一家を創立す地金商を營むる家族は尙五男誠二(大二、三三)四女八重子(同四、二二)六男克造(同六、一〇)七男衛藏(同二〇、三三)及び孫耕造(昭二、二二)長男英之祐長男あり(大阪、東、瓦町三ノ二〇電本局八三〇)

柴田 清治郎 静岡縣多額納稅者、乾物商
 妻 五子 明一六、一〇生、兵庫、鹿間安藏
 男 英之祐 明三三、一〇生
 女 静枝 明三六、六生、長男英之祐妻、大坂、江川重治郎長女
 男 捷三 明三七、九生
 女 静子 明三九、七生
 男 健藏 明四四、九生
 女 カヅ子 明四四、一〇生

君は長崎縣人柴田道由の三男にして明治二十年十一月を以て生れ同四十二年東京高等商業學校を卒業し住友銀行に入り果進して倫敦支店長となり現時同行横濱支店長たり家族は尙長女明里(大七、一〇生)二女千江(同二〇、四生)兄貞一(明一五、一〇生)現戸主及び同濟(同二七、一〇生)同濟イワ(同二六、三三)佐賀、土、岡實悟(三三)との間に子女あり妹チヨ(同二四、一〇生)は東京府人百瀬信弘に嫁せり(横濱、住友銀行支店内)

柴田 正三郎 柴田商店(株)社長、毛織物商
 妻 コウ 明一四、五生、京都、櫻田幸七三女
 男 正次 大六、八生
 女 富美 明四三、九生

君は東京府人柴田清之助の三男にして明治二十二年八月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す地金商を營むる家族は尙五男誠二(大二、三三)四女八重子(同四、二二)六男克造(同六、一〇)七男衛藏(同二〇、三三)及び孫耕造(昭二、二二)長男英之祐長男あり(大阪、東、瓦町三ノ二〇電本局八三〇)

柴田 長右衛門 酒造業
 妻 五子 明一六、一〇生、兵庫、鹿間安藏
 男 英之祐 明三三、一〇生
 女 静枝 明三六、六生、長男英之祐妻、大坂、江川重治郎長女
 男 捷三 明三七、九生
 女 静子 明三九、七生
 男 健藏 明四四、九生
 女 カヅ子 明四四、一〇生

君は兵庫縣人柴田長右衛門の四男にして明治三十年三月を以て生れ大正二年家督を相続し前名泰三を改めて號名を祖業酒造業に従事す諸曲仕舞を好む姉なり(明二三、二二)は大阪府人吉野五運に同(同二五、三三)は兵庫縣人高井宗官に嫁せり(兵庫、武庫、西郷町新在家電報五〇四)

柴田 知豫 西村食糧品(株)取締役、合同土地(株)監査役、羅紗商
 妻 五子 明一六、一〇生、兵庫、鹿間安藏
 男 英之祐 明三三、一〇生
 女 静枝 明三六、六生、長男英之祐妻、大坂、江川重治郎長女
 男 捷三 明三七、九生
 女 静子 明三九、七生
 男 健藏 明四四、九生
 女 カヅ子 明四四、一〇生

君は兵庫縣人柴田修智の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十三年家督を相続し羅紗商を營み現に前記諸會社の重役たり兼に内外印刷會社社長たりしことあり家族は尙長女春子(大三、一〇生)あり父修智(弘化四、九生)は繼母ムラ(明四、四生)愛媛、土、土居兵衛(姉)を伴ひ弟實(同七、五生)は同妻ツル(同四、一〇生)神奈川、山岸省吾(姉)及其子女を伴ひ各分家し四男知正(同四四、八生)は岡山縣人松浦美嘉の養子となれり(兵庫、武庫、西郷町上野一五九電報一〇五八)

柴田 武治 米田屋商店(株)社長、毛織物商
 妻 光之助 安政五、九生、現戸主
 男 武俊 大四、一〇生

君は東京府人柴田光之助の三男同三之助の兄にして明治二十二年八月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す地金商を營むる家族は尙五男誠二(大二、三三)四女八重子(同四、二二)六男克造(同六、一〇)七男衛藏(同二〇、三三)及び孫耕造(昭二、二二)長男英之祐長男あり(大阪、東、瓦町三ノ二〇電本局八三〇)

柴田 常助 原商事(株)取締役
 妻 フサ 明一〇、四生、長崎、松田伴七妹
 女 壽美子 大元、八生

君は長崎縣人柴田初治の長男にして明治四年一月を以て生れ同十五年家督を相続す現時原商事會社取締役たり弟眞二(明七、三三)は分家し妹カネ(同二、一〇生)は長崎縣人高井良秀に嫁せり(大阪、西、江戸堀北通一ノ二二)

柴田 豊記 中央火災傷害保險(株)統計課主任
 妻 五子 明一六、一〇生、兵庫、鹿間安藏
 男 英之祐 明三三、一〇生
 女 静枝 明三六、六生、長男英之祐妻、大坂、江川重治郎長女
 男 捷三 明三七、九生
 女 静子 明三九、七生
 男 健藏 明四四、九生
 女 カヅ子 明四四、一〇生

君は熊本縣人柴田エカの養子にして明治三年二月を以て生れ同十七年家督を相続す現に保險事業に従事し大正二年太平洋生命保險會社に入り果進して名古屋出張所次長となりしが後退し現に中央火災傷害保險會社統計課主任たり(東京市外日暮里町渡邊一〇四四)

て生れ明治三十五年家督を相続し前名善太郎を改む農...

柴谷兼三郎

堺市参事員、堺大濱土地、堺製糖各株社長、福島紡績、大阪印刷各株取締役、柴谷(名)代表社員、清酒醸造業、大阪府在籍

八、三生、堺高等女学校出身)は大坂府人川崎佐治右衛門長男佐一に嫁せり(堺、丸町東一ノ二〇)

柴谷利一

大坂府在籍 妻 明三、四生、兵庫、泉仙介妹

君は滋賀縣人柴林宗五郎の長男にして慶應三年十月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治二十四年慶應義塾正科を卒業し現時前記各社の重役たり

柴本由太郎

大阪株式取引所短期取引員 文政一〇、三生、大阪、柴本武兵衛二女

君は滋賀縣人藤井清の長男にして明治三十二年六月を以て生れ大正十四年家督を相続す資産家として知らる

柴山壽太郎

大正産業(株)代表取締役、紀陽染工、南海工業各株監査役 妻 明七、四生、養父清兵衛長女

君は滋賀縣人藤井清の長男にして明治十六年一月を以て生れ同三十五年柴山重幸の養子となる

柴山雄三

正五位勳四等、東京鐵道監督局長 妻 元治元、六生、愛知、稻葉重満長女

君は滋賀縣人藤井清の長男にして明治十一年十月を以て生れ同四十四年家督を相続す農業を営み縣下の多額納税者にして又北越酒造會社取締役たり

柴山重一

正四位勳二等勳四級、豫備陸軍中將、桐木縣在籍 妻 明二、三生、静岡、西尾平吉二女

君は滋賀縣人藤井清の長男にして明治十一年十月を以て生れ同四十四年家督を相続す農業を営み縣下の多額納税者にして又北越酒造會社取締役たり

柴山昌生

正五位勳四等、男爵、海軍中佐、海軍砲術学校教官、東京府華族 妻 明二、七、四生、東京、土、岡田清彦妹、學習院女學部出身

君は滋賀縣人藤井清の長男にして明治十六年一月を以て生れ同三十五年柴山重幸の養子となる

柴山鷺雄

大東物産(株)代表取締役、野村證券(株)取締役、藤山野村銀行、野村銀行、堂島ビルディング各株 妻 明一、六、七生、東京、紅林武治長女

君は滋賀縣人藤井清の長男にして明治十一年十月を以て生れ同四十四年家督を相続す農業を営み縣下の多額納税者にして又北越酒造會社取締役たり

藤井清

資産家 妻 明七、一、生、東京、藤井なを孫

となる同十二年名古屋セメント會社を併合して會社の經營を福澤桃介氏に譲り爾來唐津銀行常務取締役として今日に及ぶ家族は尙兄盛憲(明五、三、現戸主)同妻コヲ(同六、三、福岡、士、青木與七郎二女)及其養子太郎(同三七、一〇生、愛知、江口桂助孫)あり(佐賀、東松浦、唐津町電三八)

澁谷 嘉助

妻 キク 慶應元、九生、東京、川崎増太郎妹
養子 ナカ 明三、三、養子澄妻、東京、大倉喜一郎四女

君は千葉縣人澁谷弘三郎の弟にして嘉永二年七月を以て生れ先代忠兵衛の養子となり明治二十一年家督を相続す夙に銃砲火薬並に材木商を營み現時ラウム製藥會社取締役會長たる外前記會社の重役を兼ね家族は尙孫嘉郎(大六、五、養子澄長男)、同壽美代(同八、三、生、同長女)同俊子(同九、八、生、同二女)同昌彦(同二、一、〇生、同三男)同美奈子(同四、三、生、同三女)あり養弟權之助(明一六、一、生)は分家し養妹ハル(同二、一、〇生)は東京府人吉岡哲太郎に同(同二、一、七、一、生)同府人榎山義繁二男三郎に嫁せり同(東京、芝、高輪南町四四電高輪六八二)
參照 澁石澤愛三(大倉發身の項)

澁谷 龜藏

町田銀行(株)頭取
東京府在籍
妻 ミキ 慶應三、二生、神奈川、佐野市右衛門養姉
男 三右衛門 明一、二、六生
女 アキ 明一七、一〇生、長男三右衛門妻、神奈川、小宮隆妹
孫 シヲ 明三九、一〇生
孫 重徳 明四一、一、生、長男三右衛門長男

銀三郎に嫁せり(東京、南多摩、町田町)
參照 佐野市右衛門の項

澁谷 紀三郎

母 ナカ 弘化三、三、北海道、森谷彌太
妻 ツヤ 明一七、一、生、北海道、萱場義三郎孫
男 長紀 明四三、七生
女 綱 大元、一、生

君は北海道土族澁谷紀綱の三男にして明治十六年六月を以て生れる同四十一年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し北海道廳嘱託東北帝國大學農科大學助手臺灣總督府農事試験場技術員兼同府技術員臺灣總督府農事試験場技術員等に歴任し大正九年歐米に出張す歸朝後中央試験所技術員を経て現時前掲の職に在り家族は尙二女美徳(大三、一、生)二男紀夫(同六、三、生)三女容(同八、八、生)三男紀彦(同四、一、生)の外亡兄紀一妻イク(同三、一、〇生、現戸主)及び其妻と弟妹あり(同三、一、〇生、同三、一、〇生)は北海道人今野義禮に嫁せり(臺北、臺北高等農林學校内)

澁谷 儀右衛門

山口縣多額納稅者、下關米穀取引所取引員、山口縣在籍
妻 ハル 元治元、四生、山口、澁谷金兵衛三女
男 儀三郎 明三〇、二生、三男儀三郎妻、山口、三藤虎吉四女
女 美代 明二四、一、生
君は山口縣人田中彌助の弟にして安政五年十二月を以て生れ明治二十二年先代ハルの入夫となり家督を相続す下關米穀取引所取引員にして山口縣多額納稅者たり(下關市)
參照 澁島田定吉の項

澁谷 鳩多

熊本縣在籍
妻 フジ 明二一、三、生、熊本、植村勇喜二女
男 多英 大八、八生

澁谷 省三

和歌山縣土族
妻 玉惠 明二二、一、生、養父萬福四女
君は和歌山縣人關原一郎の弟にして明治十五年三月を以て生れ先代萬福の養子となり同三十八年家督を相続す同三十四年大阪高等工業學校機械科を卒業し鐘淵紡績會社に入り現時同社大阪支店工務主任たり家族は尙養弟正夫(明二六、三、生)及び其妻あり養妹歌惠(同四、一、二、生)は和歌山縣人南方竹之助に養妹花代(同三、〇、三、生)は佐賀縣人古河昇治郎三男良雄に嫁せり(大阪、東成、鳴野町三〇電東三一九)

澁谷 善作

長岡商工會議所會頭、瑞穂農場(株)社長、長岡銀行(株)副頭取、紙各(株)取締役、新潟信託、北越製石油、北越新報社各(株)監査役
妻 ナミ 明一五、五、生、養父權之助六女
養子 謙三郎 明二一、八、生、養子謙三郎妻、日本女子大學校出身
孫 カウ 明四四、八、生、養子謙三郎二女、日本女子大學校附屬高等女學校出身
孫 節 明四四、八、生、養子謙三郎二女、日本女子大學校附屬高等女學校在學
君は新潟縣人飯塚彌一郎の弟にして同知信の叔父なり文久三年十二月を以て生れ後澁谷權之助の養子となり明治二十二年分れて一家を創立す先是慶應義塾を卒業し夙に實業界に入り同二十九年株式會社社長長岡銀行を創立し現に其副頭取となり長岡商工會議所會頭に推され前記銀行會社の重役たり家族は尙孫寛重(大九、一、二、生、養子謙三郎長男)あり三女ヌミ(明二七、五、生)同

澁谷 定七

東京府多額納稅者、八王子商工會議所議員、玉南電氣鐵道(株)取締役、吳服商、東京府在籍
妻 ヲウ 文久二、一、生、神奈川、士、入口榮與二女
男 正太郎 明二三、一、生
女 ヲネ 明一五、一〇生
君は東京府人澁谷當司の長男にして嘉永元年十二月を以て生れ明治二十二年家督を相続す吳服商を營み前記會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者にして推されて八王子商工會議所議員たり家族は尙孫壽子(大三、八、生、長男正太郎長女)同正美(同四、一、二、生、同長男)同育三(同九、三、生、同三男)養妹カツ(嘉永六、一、生、東京、田野倉平三郎二女)あり庶子フサ(明一九、一、生)は同夫正治(同一九、七、生、東京、清水喜三郎三男)と共に其子女を伴ひ分家せり(八王子、大橋町一〇二)
參照 中村清兵衛の項

澁谷 治三郎

建築請負業
京都府在籍
妻 フサ 明二六、三、生、京都、奥田熊吉二女
男 新造 明三三、七、生
女 ヲシ 明四三、一、生、長男新造妻、京都、奥田熊吉孫
君は京都府人澁谷松五郎の二男にして明治十四年十一月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す建築請負業を營む家族は尙三男英三郎(明四二、九、生)孫甲子郎(大一一、八、生、長男新造長男)あり二男啓介(明四〇、一〇生)は分家せり(京都、下京、中堂寺橋町八)

澁谷 正吉

澁谷商事、共益倉庫各(株)社長、東京人造絹糸(株)取締役、大日本河、菅川商會(株)取次、日本自轉車、上毛電氣鐵道各(株)監査役、東京府在籍
妻 しげ 明二、四、生、千葉、田谷太兵衛長女
養孫 正博 明二、二、生、分家長女かめ養子、埼玉、澁野吉之助二男
君は埼玉縣人澁谷龜太郎の弟にして安政三年二月を以て生れ明治十三年分れて一家を創立す澁谷に東京商業會議所議員日本橋區會議員にして現に前記諸會社の重役

女 登志 明四〇、七生
女 ミチ 大二、二、生
君は熊本縣人澁谷彌覺の長男にして明治十八年六月を以て生れ昭和二年家督を相続す農業を營み縣下の資産家たり家族は尙三女チカ(大八、一、生)四女チイ(同一、一、一、生)三男多文(同一五、七、生)妹彌壽(明二四、五、生)あり(熊本、飽託、奥古閑村)

澁谷 金次郎

第一印刷(株)取締役
北海道在籍
妻 ハル 明九、七、生、北海道、齋藤久平長女
男 二郎 明二七、一、生
女 静枝 明四一、三、生、二男二郎妻、北海道、富澤喬妹
女 フミ 明二三、五、生
女 ハナ 明三六、三、生
女 八重 明三八、八、生
男 四郎 明四〇、二、生

君は北海道人澁谷幸次郎の長男にして安政六年七月を以て生れ明治二十七年家督を相続す多年北海道にありて各支廳吏員を奉職し後函館區役所助役同區長等となり現に第一印刷會社取締役たり家族は尙孫康一(大一一、五、一、生)二男二郎長男あり二女チヨ(明二九、一、一、生)は北海道人齋藤ヨシの養子となり五男五郎(同四二、二、生)は其家督を相続し三女エイ(同三四、五、生)は愛媛縣人田坂穂積に嫁し三男三郎(同三二、一、生)は分家せり(函館、曙町一〇)

澁谷 源吉

土木建築請負業
北海道在籍
妻 キウ 安政四、八、生、祖父久吉長女
男 政直 明一七、六、生、北海道、士、北守政直二女
女 恭子 明三六、四、生
女 惠子 明四二、五、生、函館高等女學校出身
女 信子 大二、一、生、函館高等女學校在學
君は北海道人澁谷善吉の長男にして明治九年一月を以て生れ同四十二年家督を相続す土木建築請負業を營む家族は尙三女弘子(大六、五、生)あり(函館、谷地頭町一〇〇電三八八・八一二)

澁谷 辰三郎

東洋捕鯨、長崎電氣軌道各(株)取締役、長崎縣在籍
妻 タミ 明二〇、一、二、生、長崎、荒木ミチ叔從母
男 歳久 明四三、二、生
君は長崎縣人澁谷守一(同四)にして明治十三年九月を以て生れ同三十一年兄寅雄の後を承け家督を相続す現に前記各會社の重役たり家族は尙二男壽雄(明四五、一、生)長女三枝子(大三、四、生)三男壽(同五、一、一、生)四男政太(同八、三、生)六男穠(同四、一、四、五、生)三女江美子(昭二、二、生)あり兄寅雄(明一、一、三、生)は長崎縣人山野邊右左吉二女イキの婿養子となり當主たり(長崎市今魚町七三)
參照 山野邊寅雄の項

澁谷 長吉

山形縣多額納稅者、農業
山形縣土族
妻 まつ 明一六、六、生、山形、大竹彦太長女
男 久次 明三三、一、生
女 よし 明三三、四、生、長男久次妻、山形、香坂與吉長女
男 庄司 明三九、三、生
女 ちやう 明三九、一、二、生
女 マツ 明四三、一、生
君は山形縣土族先代長吉の長男にして明治九年九月を以て生れ大正七年家督を相続す農業を營み現に山形縣多額納稅者たり家族は尙三男庄四郎(大四、一、生)四男五郎(同六、九、生)五男六郎(同一、一、五、生)五女トヨ(同一四、五、生)孫よしの(同九、一、〇、生)長男久次長女(同一四、一、〇、生)同長男(同三男)同長女(同一四、二、生)同二男(昭二、二、生)同三男(昭二、二、生)及び其三女(明二六、八、生)は其夫清助(同二二、二、生)及び其三女と共に分家せり(米澤、鹽町)

澁谷 傳一

秋田縣多額納稅者、農業
秋田縣在籍

澁谷 正良 從五位勳五等、專賣局技師、專賣局事務課長、東京府在籍
 妻 スミ 明二七、五生、養父善作三女
 男 權一郎 大三、八生

君は新潟縣人澁谷善作の長男にして明治十六年八月を以て生れ後同縣人澁谷善作の養子となり大正十三年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し同四十二年東京府農務課長に任ぜられ大正五年米國に出張す歸朝後專賣局事務課長に任ぜられ大正十四年支那に出張し現時引續き前記の職にあり家族は尙長女百合(大八、一五生)二女道子(同一五、三三)あり(東京市外目黒町下目黒四二四電高橋七九〇四)
 參照 澁谷善作の項

澁谷 保太郎

本ビロロ銀行(株)取締役、東京府在籍
 妻 ノブ 慶應三、一五生、廣島、三好政太郎
 養子 誠一 明二〇、四生、廣島、桑門志道三男、慶應義塾大學出身、三井銀行員
 婦 スズ 明二八、五生、養子誠一妻、鹿兒島、左近允尙義三女

君は廣島市の商家澁谷嘉介の弟にして文久元年六月を以て生れ明治三十六年選定により家督を相続す初め三井銀行本店に勤務せし後藤本ビロロ銀行に轉じ東京支店支配人を經て現時同行取締役たり家族は尙孫子(大五、一〇生)、養子誠一(長女)同博(同八、四生、同長男)同惠美子(同一一、四生、同二女)あり(三、九生、同二男)同篤(同一一、五、四生、同三男)あり(養子)明三三、二生、三好家一妹)は東京府人鹽山豐藏に嫁せり(東京市外目黒町上目黒五八九電書山一八〇九)

澁谷 芳太郎

石川縣多額納稅者、金澤米穀取引所取引員、石川縣在籍
 妻 アヤ 明二六、四生、富山、高柳重一郎妹
 男 久一 明四四、一〇生
 養子 治 山岡治廣三男
 女 ふみ 明三三、一〇生

君は富山縣人澁谷久次郎の長男にして明治九年四月を以て生れ同四十二年家督を相続す石川縣多額納稅者となり現に石川縣多額納稅者たり家族は尙姉ヤイ(明六、一五)あり弟清治郎(同一六、一五)同妻ヲキ(同二四、三三)富山、田中正藏妹)は其二女を伴ひ分家せり(金澤、中町二電九〇七)
 參照 高柳重一郎の項

君は宮城縣人澁谷吉三郎の長男にして明治三年三月を以て生れ同四十二年家督を相続す石川縣多額納稅者となり現に石川縣多額納稅者たり家族は尙姉ヤイ(明六、一五)あり弟清治郎(同一六、一五)同妻ヲキ(同二四、三三)富山、田中正藏妹)は其二女を伴ひ分家せり(金澤、中町二電九〇七)
 參照 高柳重一郎の項

澁谷 禮治 朝鮮銀行(株)東京總裁調査課長、北海道在籍
 妻 ヲキク 明一九、一五生、奈良、多田熊吉二女

君は北海道人澁谷榮吉の弟にして明治十年一月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治三十七年早稲田大學專門部を卒業し後朝鮮銀行に入り現に同行東京總裁調査課長たり(東京市外井荻町西荻窪上井草一四五六)

君は新潟縣人澁谷善作の長男にして明治十六年八月を以て生れ後同縣人澁谷善作の養子となり大正十三年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し同四十二年東京府農務課長に任ぜられ大正五年米國に出張す歸朝後專賣局事務課長に任ぜられ大正十四年支那に出張し現時引續き前記の職にあり家族は尙長女百合(大八、一五生)二女道子(同一五、三三)あり(東京市外目黒町下目黒四二四電高橋七九〇四)
 參照 澁谷善作の項

澁谷 文男 青森縣多額納稅者、陸奥鐵道(株)取締役、東京府在籍
 妻 あい 明三五、一〇生、青森、竹内兼七長女
 男 康文 大一二、一〇生

君は青森縣人澁谷文太郎の長男にして明治二十六年六月を以て生れ大正四年家督を相続す農業を営み青森縣多額納稅者にして現時前記銀行會社の重役たり家族は尙三男康也(大二三、九生)あり(青森、西津輕、水元村)

澁谷 米太郎

三菱内務機(株)常務取締役、山形縣在籍
 妻 ミサ 明二四、三三、理學博士山口鏡之助長女、女子學習院出身
 男 武彦 大七、九生
 女 光子 明四二、一〇生

君は山形縣人澁谷權治郎の弟にして明治十年十二月を以て生れ同二十七年分れて一家を創立す同三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し三菱合資會社香港神戸各支店長北洋漁業會社三菱商會社各常務取締役等となり現時三菱内務機會社の重役たり家族は尙三男民雄(大一一、一五)四女百合子(同一五、四生)あり(兄喜四郎(明五、一五)は分家せり(東京市外入新井町不入斗二七四電大森六五)
 參照 山口鏡之助の項

君は北海道人澁谷榮吉の弟にして明治十年一月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治三十七年早稲田大學專門部を卒業し後朝鮮銀行に入り現に同行東京總裁調査課長たり(東京市外井荻町西荻窪上井草一四五六)

澁谷 郁太郎 日本銀行(株)監事、東京府在籍
 妻 とら 慶應二、八生、大分、土、河南範道長女

君は大分縣人澁谷野々村正忠の二男にして同金五郎の實兄なり安政二年三月を以て生れ明治十五年分れて一家を創立す同二十五年日本銀行に入り福島小樽札幌各支店長出張所長本店支店局長等に歴任し現に同行監事たり(東京市外千駄ヶ谷町五〇一電青山一四七)

君は大阪府人澁谷治郎の二男にして同徳藏の弟なり明治十年三月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十六年慶應義塾を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり大正多額納稅者として貴族院議員に選出せらる長女さき(明三六、七生)は高知縣人吉林寅太郎養子に嫁せり(大阪、三島、美木町)
 參照 島徳藏の項

澁谷 隆教 正四位、男爵、眞宗佛光寺派管長、東京府在籍
 妻 とし 文久二、七生、京都、伊藤快彦姉
 男 有教 明二四、三三、公爵九條道實妹
 女 文子 明四二、九生、伯爵清棲幸保妹

當家は親鸞聖人の後にして聖人建曆二年山城國山科に一寺を創設す即ち今の佛光寺なりそれより六世を経て了源に至り後醍醐天皇の勅に依り寺基を東山澁谷の地に移す更に五世を経て光教に至り門跡に補せられ後三代親範の時天正十四年豊臣氏の懸望に依り寺基を今の地に移すそれより九世を経て先代家教に至り明治五年華族に列せられ家號を澁谷と稱す君は其長男にして明治十八年一月を以て生れ同二十一年父家教勅命に依り伏見宮に復歸せしを以て家を繼ぎ同二十九年男爵を授けらる同三十一年得度し眞宗學院に學び同三十八年祖母微妙院の後を襲ぎ眞宗佛光寺派管長となる家族は

澁谷 隆教

當家は親鸞聖人の後にして聖人建曆二年山城國山科に一寺を創設す即ち今の佛光寺なりそれより六世を経て了源に至り後醍醐天皇の勅に依り寺基を東山澁谷の地に移す更に五世を経て光教に至り門跡に補せられ後三代親範の時天正十四年豊臣氏の懸望に依り寺基を今の地に移すそれより九世を経て先代家教に至り明治五年華族に列せられ家號を澁谷と稱す君は其長男にして明治十八年一月を以て生れ同二十一年父家教勅命に依り伏見宮に復歸せしを以て家を繼ぎ同二十九年男爵を授けらる同三十一年得度し眞宗學院に學び同三十八年祖母微妙院の後を襲ぎ眞宗佛光寺派管長となる家族は

澁谷 禮治

朝鮮銀行(株)東京總裁調査課長、北海道在籍
 妻 ヲキク 明一九、一五生、奈良、多田熊吉二女

君は北海道人澁谷榮吉の弟にして明治十年一月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す明治三十七年早稲田大學專門部を卒業し後朝鮮銀行に入り現に同行東京總裁調査課長たり(東京市外井荻町西荻窪上井草一四五六)

澁谷 保太郎

本ビロロ銀行(株)取締役、東京府在籍
 妻 ノブ 慶應三、一五生、廣島、三好政太郎
 養子 誠一 明二〇、四生、廣島、桑門志道三男、慶應義塾大學出身、三井銀行員
 婦 スズ 明二八、五生、養子誠一妻、鹿兒島、左近允尙義三女

君は廣島市の商家澁谷嘉介の弟にして文久元年六月を以て生れ明治三十六年選定により家督を相続す初め三井銀行本店に勤務せし後藤本ビロロ銀行に轉じ東京支店支配人を經て現時同行取締役たり家族は尙孫子(大五、一〇生)、養子誠一(長女)同博(同八、四生、同長男)同惠美子(同一一、四生、同二女)あり(三、九生、同二男)同篤(同一一、五、四生、同三男)あり(養子)明三三、二生、三好家一妹)は東京府人鹽山豐藏に嫁せり(東京市外目黒町上目黒五八九電書山一八〇九)

島 專吉 東洋棉花(株)取締役
石川縣士族
妻 文子 昭二、七生、東京、千田茂長女
男 裕央 昭二、二生

君は石川縣士族島一吉の三男にして明治十五年十月を以て生れ同三十六年家督を相続す同三十九年東京高等商業學校を卒業三井物産會社に入り大正九年東洋棉花會社設立に際して轉ず明治十四年以來米國に在ること十六年大正十五年歸朝現時東洋棉花會社取締役たり家族は尙二女美智子(大九、九生)三女美穂子(同三、七生)四女美智子(同五、一五)あり姉榮明(五、一三)は石川縣人富田彌作に嫁し弟乙雄(同二、一六)は同妻爲子(同三、一)生、東京、千田彩子姉及び其子女と共に分家せり(兵庫、武庫、夙川村雲井通電西宮三九一)

島 德藏

日本信託銀行、豊國火災保險、朝鮮草藥業、阪神電氣鐵道、大同電力、大阪北港、大同肥料、天津信託、朝鮮電氣鐵道、阪神電氣鐵道、日本郵船、中央糸紡、各(株)取締役、天津取引所(株)理事、東洋拓殖(株)監事、大阪府在籍
妻 ハナ 長女、七生、大阪、氏原太郎兵衛
男 德郎 明三六、二生
男 光 明三八、一五
男 吉郎 明三九、七生

君は大阪府人島德治郎の長男にして同定治郎の兄なり明治八年四月を以て生れ大正五年家督を相続す現時前掲諸會社の重役たり兼に大阪漢口各株式取引所理事長上海取引所長に擧げらる長女富(明三、一)生、東京府華族吉浦邸に嫁し(同三五、五生)は大阪府人山田藤次郎に同(同三六、九生)は男爵木越安綱四男進に嫁し母テイ(安政三、九生)妹セイ(同四、一七)は各分家せり(大阪、東、高麗橋五ノ九電本局一五七)は參照||男爵木越安綱、實吉雅郎、島定治郎、山田藤次郎の項

島 秀

大阪府在籍
妻 ハナ 文久二、一五生、島好益長女

君は福井縣人島伴平の長男にして明治三年三月を以て生れ大正元年家督を相続す現時方英社代表社員にして三秀社と稱し印刷業を營む家族は尙二男裕(大七、四生)孫滿(大一二、五生)養子信次長男あり養子富士雄(明二九、一〇生)福井、山岸重兵衛弟(同妻、同三二、六生)茨城、松本松吉(同妻、同三三、六生)大九、六生、養子信次長女(前記渡利新の死跡を相続せり(東京、神田、美土代町二ノ一電神田三三三三))

島 庄藏

日本銀行(株)秘書役
廣島縣在籍
父 又五郎 明元、一〇生、現戸主
母 キキ 明二、八生、廣島、石井與吉長女
妻 ツネ 明二九、八生、愛媛、近藤貞次郎

君は廣島縣人島居又五郎の長男にして明治二十二年四月を以て生れ長崎高等商業學校を卒業し現時日本銀行秘書役たり家族は尙長女早苗(大七、五生)弟松次郎(明二八、四生)同松次郎(同三〇、一〇生)同妻觀同三、四、二生、香川、成瀬龍一(叔母)同松次郎(同三、八、九生)あり伯父乙吉(同九、八生)は分家し伯母ヨウ(同二、一六、一〇生)は廣島縣人上田嘉吉に同(同二、一六、一〇生)は同縣人木村清七長男松松に妹カメ(同二、一六、一〇生)は同縣人木村國二男俊一に嫁し叔父鶴松(同七、七生)は同縣人沖本トヲの養子となれり(東京、芝、白金三光町四五〇電高橋六五一)

島 居 哲

從五位、鐵道大臣秘書官、衆議院議員(廣島縣選出)、廣島縣在籍
妻 幸雄 明四、七生、現戸主
妻 イト 明二五、一〇生、養父幸雄養子、廣島、片山和宗兵衛長女
男 茂 大四、六生

君は岡山縣人井上昌平の四男にして明治二十年一月を以て生れ大正三年島居幸雄の養子となる明治四十二年大阪高等商業學校を卒業し更に京都帝國大學法科大學に學ぶ尾道市會議員を経て大正十三年衆議院議員に當選し昭和三年再選され現に鐵道大臣秘書官たり

妻 うたぢ 明二〇、九生、靜岡村松常太郎妹
男 馨 明四三、二生

君は大阪府人島好節の長男にして明治八年五月を以て生れ大正元年家督を相続す小兒科醫師たり家族は尙二男稔(大二、一〇生)三男朗(同六、四生)長女縁子(同二、二生)四男節(同五、六生)あり妹ヌエ(明二六、九生)は大阪府人竹内理一弟利治に嫁せり(大阪、東、高麗橋二ノ三電本局一五〇三)

島 博三

廣島縣多額納稅者、西條清造(株)社長、第一印刷(株)監査役、酒造業、廣島縣在籍
妻 ユク 安政五、正生、廣島、島小十郎二女
妻 カツ 明二五、九生、廣島、八谷喜太郎
男 啓 大四、三生

君は廣島縣人先代博三の長男にして明治十九年十月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名錦一を改め製名才酒造業を營む縣下の多額納稅者にして前記各會社の重役たり家族は尙二女庸子(大五、一〇生)三女恭子(同三、一〇、八生)あり弟鏡二(明二五、一〇生)同慶三(同三、三、五生)は各分家し妹以佐子(同二九、一〇生)は千葉縣人大塚篤三に嫁せり(廣島、賀茂、西條町)

島 安兵衛

大阪府在籍
妻 吉登 明八、一〇生、大阪、向井清造長女
妻 吉太郎 明三〇、九生
妻 サダ子 明三三、六生、二男吉太郎妻、大
男 吉光 明三六、七生
男 吉正 明四一、六生

君は大阪府人先代安兵衛の二男にして文久三年七月を以て生れ明治三十年家督を相続す質商を營む家族は尙八男安博(大六、五生)孫安典(同二〇、三三)二男吉太(明四三、六生)は大阪府人鷲尾常治郎の養子となれり(大阪、西、立賣場南通二ノ六電新町一〇五九)

島 幸雄

尾道商工會議所議員、尾道銀行(株)頭取、廣島縣在籍
妻 アイ 明元、一〇生、島居鶴二女
妻 千代子 フサ 大元、一〇生、生母、廣島、白石

君は廣島縣人山内徳左衛門の二男にして明治四年七月を以て生れ島居家の養子となり同十二年養兄儀右衛門の後を襲ひ家督を相続す現時前記各銀行の重役にして推されて尾道商工會議所議員たり家族は尙庶子ヌエ(大五、一〇生)生母、廣島、白石(同妻、同六、一〇生)生母同上あり同邦雄(同二〇、一〇生)生母同上(尾道、土堂町五三)

島 武久

高知縣多額納稅者、農業
妻 志 天保一、一〇生、近藤武作二女
妻 小 慶應元、一〇生、高知、高田岩吾長女
妻 武 秋 明四〇、一〇生、亡長男武常長男

君は高知縣士族島内武秀の叔父にして文久二年正月を以て分れ明治四十四年分家して一家を創立す農業を營み縣下の多額納稅者にして兼に高陽銀行の重役たりしことあり三男武正(明二五、三三)四男武光(同三三、一〇生)は各分家し二男武敏(同二四、六生)は高知縣人網本重彦の養子となり二女克喜(同四〇、四生)は同縣人松尾祿郎に養子となり一〇生、高知、入交義知長女(同縣人山野上松治に嫁せり(高知、香美、三島村))

島 利貞

高知縣多額納稅者、農業
妻 菅 萬延元、一〇生、島内與茂藏長女
男 元 明二九、三三、現戸主

妻 綱 明二七、一〇生、佐賀、士、今泉
男 利義二女 大三、一二生

君は佐賀縣人島神七の二男にして明治十四年五月を以て生れ同二十六年家督を相続す同三十四年海軍兵學校を卒業し同三十六年海軍少尉に任じ大正十四年海軍少將に昇進す其間海軍大學校を卒業し香妻副長海軍大學校教官第三艦隊參謀長須賀鎮守府附野間特務艦長矢矧艦長舞鶴要港部參謀長日向艦長第二艦隊參謀長佐世保鎮守府參謀長等に歴補し現時大湊要港部司令官たり家族は尙二男(大六、一〇生)二女隆子(同三、六生)あり(青森、下北、大湊村)

島 芳藏

横濱正金銀行(株)借款課長
妻 郁太郎 安政二、三三、現戸主
妻 清 明一六、八生、養父郁太郎長女
妻 明四一、一〇生
妻 大元、一〇生

君は大阪府人島野平太郎の弟にして明治九年八月を以て生れ同三十三年大分縣人島都太郎の養子となる同三十七年京都帝國大學法科大學を卒業し直に横濱正金銀行に入り海外各地に在勤し大正六年實出所新設の任を帯びて同地に出張し次で同店主任となり爾來同行副總支配人總務課長たり家族は尙四女茂子(大四、一〇生)三男靖彦(同九、五生)四男正彦(同二、三三)五男達雄(同二、一五、四生)あり長女信(明三六、八生)は新潟縣人竹山正男第十期に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町五〇一電青山一四七)

島 連太郎

方英社(資代表社員)、三秀社、印刷業、東京府在籍
妻 とし 明九、一〇生、東京、士、淺利信
妻 明四一、八生
妻 明四一、七生、養子信次妻、東京、士、淺利新弟
妻 明三三、二生、養子信次妻、神奈川、村田留五郎二女

島 三藏

南信電氣(株)専務取締役
妻 のふ 明六、一〇生、養父菊造長女
妻 林 明四三、一〇生
妻 明四三、一〇生

君は長野縣人木下初藏の弟にして明治五年五月を以て生れ先代菊造の養子となり同三十七年家督を相続す現に南信電氣會社専務取締役たり家族は尙四女たか(大八、九生)叔母つね(慶應一、一〇生)あり長女もと(明三〇、六生)は長野縣人福與英治に二女きよ(同三三、一〇生)は同縣人吉地博一に養妹よしの(同六、三三)は同縣人鹽澤直に同(同二〇、七生)は同縣人鹽澤宗太郎長男京之助に嫁せり(長野、下伊那、千代村)

島 岡亮太郎

東洋製藥、祝津炭坑(株)取締役、大倉製藥、滿蒙證券(株)監査役、東京府在籍
妻 亮 明一五、九生、佐賀、士、江副巽姉
妻 明三三、四生、長男亮妻、佐賀、同島種臣二女
妻 あや 明三三、四生

君は長野縣人島岡林次郎の弟にして明治四年八月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫美穂(大二三、一〇生)長男亮(明三九、八生)は長野縣人小林曾尙夫に嫁し二男伸彦(大九、一〇生)は東京府人三田五郎右衛門の養子となれり(神奈川、鎌倉、鎌倉町)

島 健次郎

賣藥商
妻 大府府在籍
君は富山縣人石黒七次(明)にして大正四年十一月を以て生れ先代ハルの養子となり同十三年家督を相続す賣

本縣多額納稅者たり家族は尙赫スキ、明三三、七生、八生あり...

島田金一郎

新瀧縣多額納稅者、十日町銀行(株)取締役、絹物商、新瀧縣在籍...

島田健太郎

大阪府在籍、藥種貿易商、島田農商店、大阪府在籍...

島田定吉

山口縣多額納稅者、大日本製酒(株)取締役、酒類商、山口縣在籍...

島田茂

從四位勳三等、第一高等學校教授、新瀧縣在籍...

君は新瀧縣人島田圭介の長男にして安政四年十一月を以て生れ...

島田定知

大阪府在籍、監査役、大阪府士族、大阪府在籍...

島田定持

從四位勳四等、檢事、吳區裁判所、埼玉縣士族...

島田清三

日本棉花(株)青島支店長、大阪府士族、大阪府在籍...

島田昇之助

しまや、吳服太物商、大阪府在籍、大阪府在籍...

島田省一

大阪府在籍、棉花商、大阪府在籍、大阪府在籍...

島田甚太

更埴銀行(株)取締役、長野縣士族、長野縣在籍...

島田七郎右衛門

退役陸軍歩兵中尉、中越土木、大岩電氣各(株)取締役、岡山縣在籍...

島田壽吉郎

富山縣在籍、富山縣在籍、富山縣在籍、富山縣在籍...

て生れ同三十六年家督を相続し前名長治郎を改む酒類商を營み...

島田誠雄

三菱銀行(株)九ノ内支店長、東京府士族、東京府在籍...

島田茂

從四位勳六等、臺灣銀行(株)頭取、岡山縣在籍...

島田定持

君は埼玉縣士族島田定勝の長男にして明治八年三月を以て生れ...

島田清三

君は長野縣士族島田八左衛門の孫にして文久元年十二月を以て生れ...

島田清三

君は大阪府士族島田信海の四男にして明治十七年七月を以て生れ...

島田誠雄

君は東京府士族島田直意の長男にして明治十一年一月を以て生れ...

島田誠雄

君は富山縣人先代七郎右衛門の長男にして明治十六年一月を以て生れ...

島田壽吉郎

君は富山縣人先代七郎右衛門の長男にして明治十六年一月を以て生れ...

